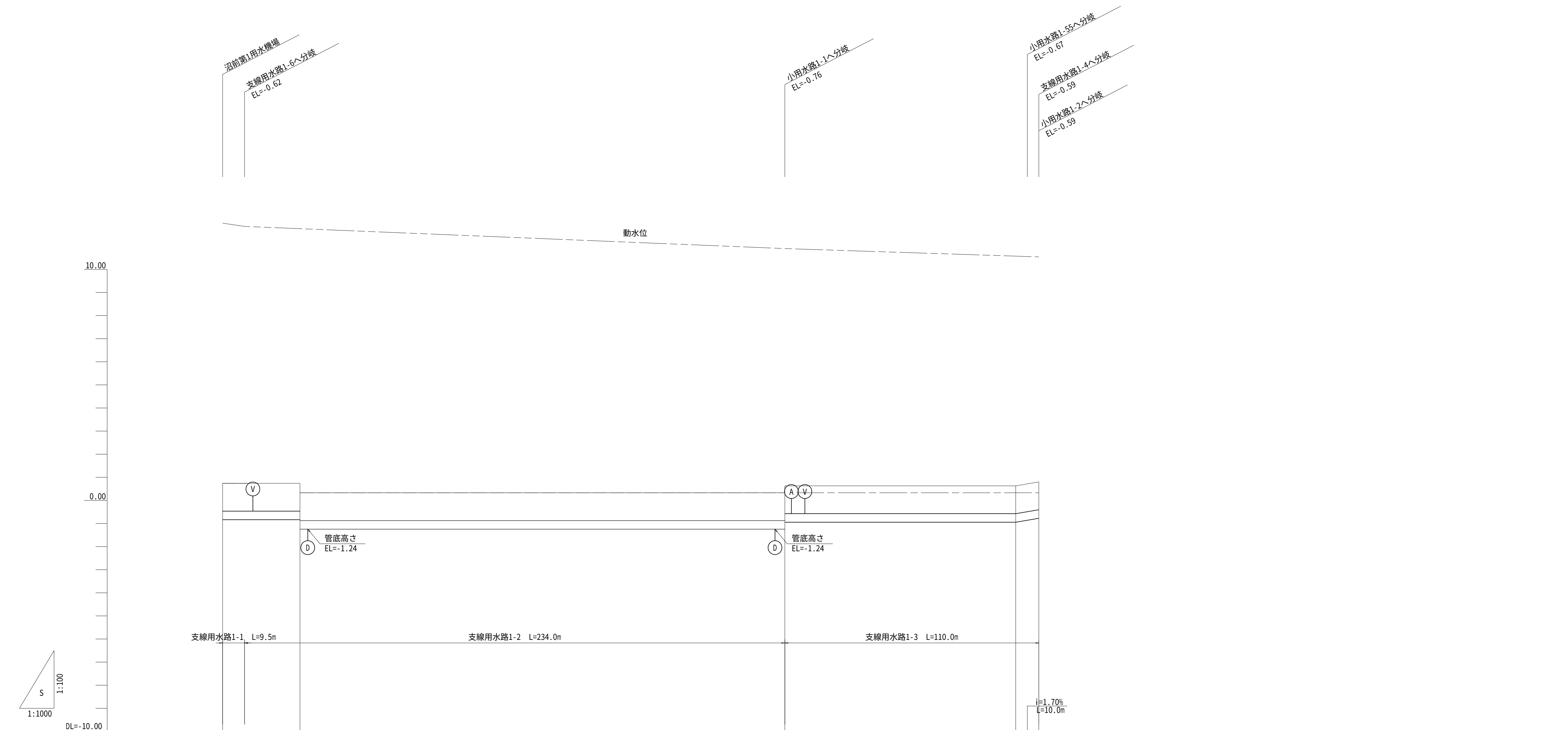


用水路工 計画縦断図(1/6)

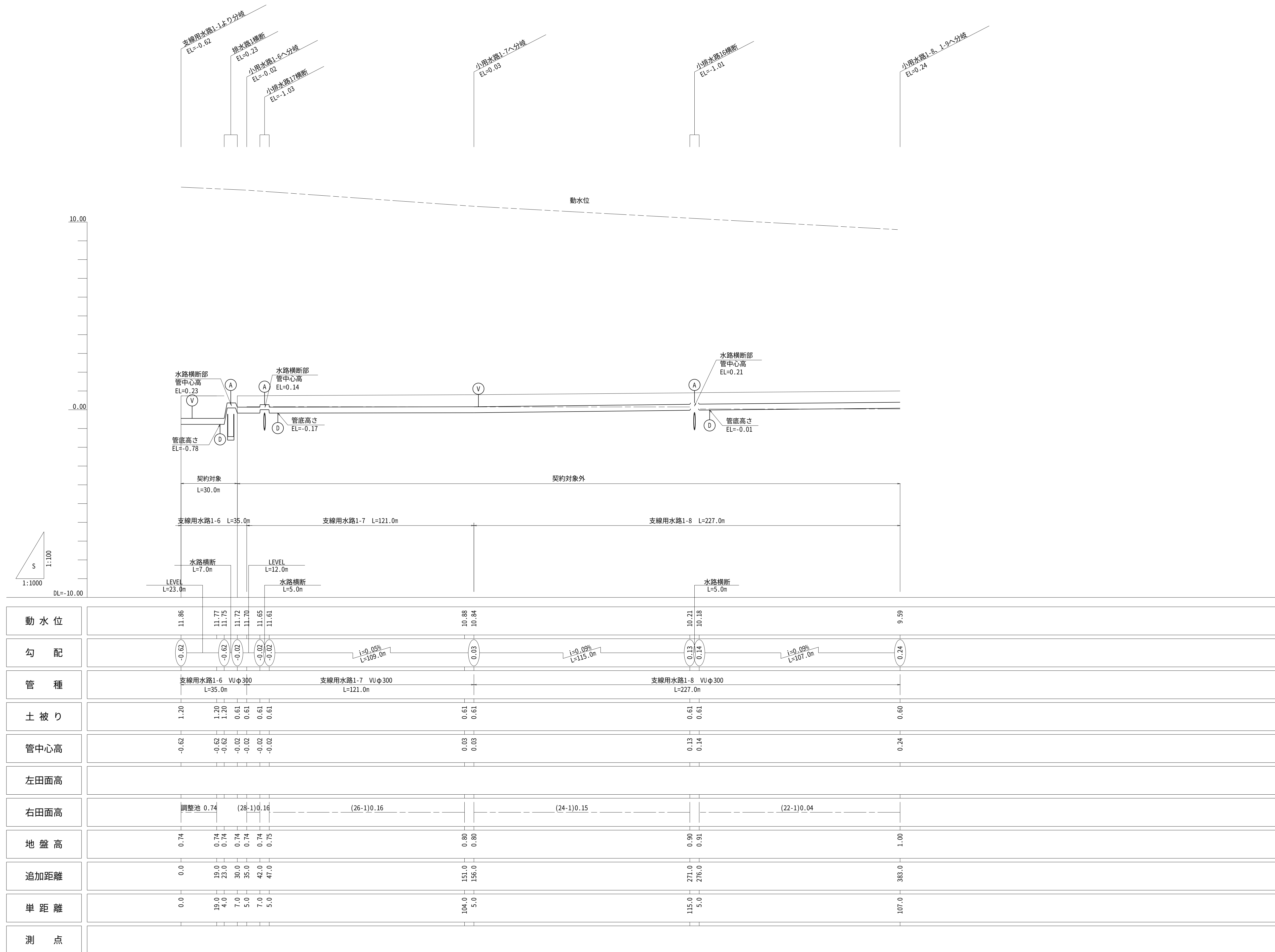
[illegible]

凡 例	
現況地盤高	—————
左面田高	—— ———
右面田高	———— ———
計畫水路高	—————
動水位	———— ———

※管中心高の段差は前後の管で調整する。

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沿前馬郡千拓団地海老沢工区區画整理その1工事		
図 面 名	用水路工 計画縦断面図(1/6)		
作成年月			
縮 尺	図示	図面番号	8 - 1/6
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

用水路工 計画縦断図(2/6)



用水路工 計画縦断面図(3/6)

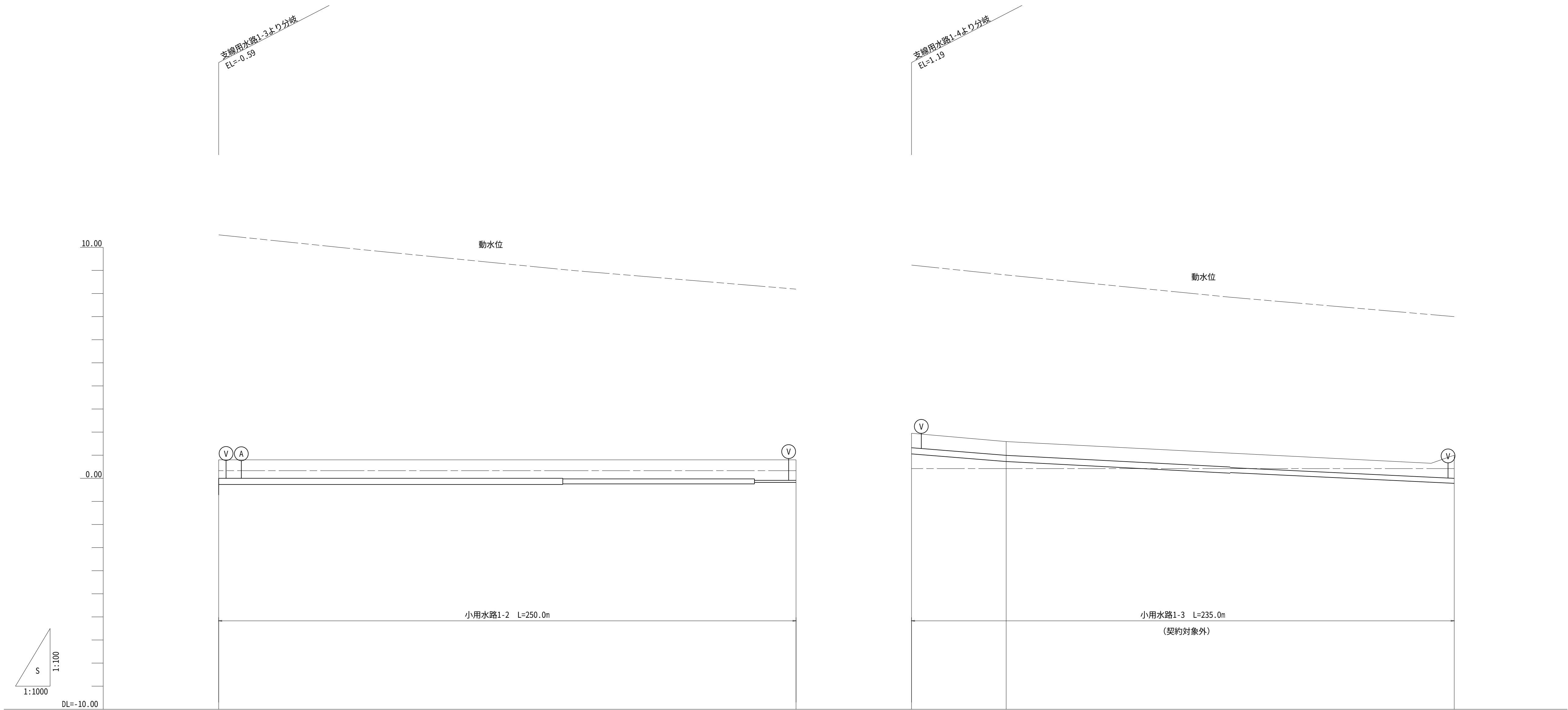
動 水 位										
勾 配										
管 種										
土 被 り										
管中心高										
左田面高										
右田面高										
地 盤 高										
追加距離										
単 距 離										
測 点										

凡 例	
現況地盤高	—————
左田面高	—— ———
右田面高	———— — —
計畫水路高	—————
動水位	———— — —

※管中心高の段差は前後の管で調整する。

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沿前馬割干拓団地海老沢工区區畫整理その1工事		
図 面 名	用水路工 計画縦断図(3/6)		
作成年月			
縮 尺	図示	図面番号	8 - 3/6
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

用水路工 計画縦断面図(4/6)



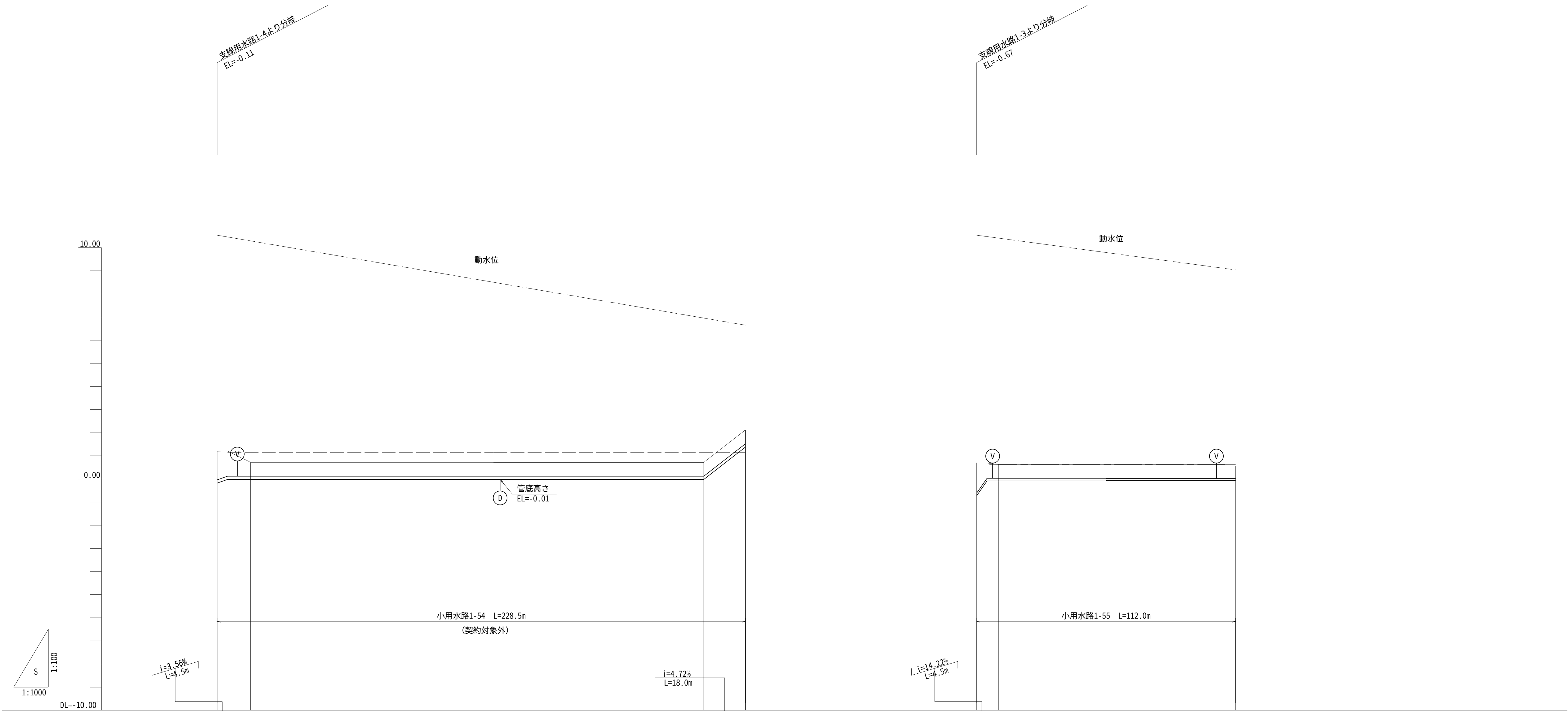
動水位	10.54	9.96	9.04	8.36	8.19	9.23	8.80	7.84	7.09	7.00
勾配	-0.59 -0.13	LEVEL L=56.0m	-0.13	LEVEL L=93.0m	-0.13	LEVEL L=83.0m	-0.13 LEVEL L=18.0m -0.13	1.19 $i=0.80\%$ L=41.0m 0.86	$i=0.52\%$ L=97.0m 0.36	$i=0.48\%$ L=97.0m -0.11
管種	小用水路1-2 VUφ250 L=149.0m			小用水路1-2(2) VUφ200 L=83.0m		小用水路1-2(3) VUφ75 L=18.0m	小用水路1-3 VUφ250 L=41.0m	小用水路1-3(2) VUφ250 L=97.0m		小用水路1-3(3) VUφ200 L=97.0m
土被り	1.26 0.80	0.80	0.80 0.83	0.80 0.86	0.80	0.63	0.60	0.60 0.63	0.60	1.00
管中心高	-0.59 -0.13	-0.13	-0.13	-0.13	-0.13	1.19	0.86	0.36	-0.06	-0.11
左田面高										
右田面高	(25-1)0.33		(25-2)0.33			(25-3)0.33		(21-1)0.42		(21-2)0.42
地盤高	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	1.95	1.59	1.09	0.65	1.00
追加距離	0.0	56.0	149.0	232.0	250.0	0.0	41.0	138.0	225.0	235.0
単距離	0.0	56.0	93.0	83.0	18.0	0.0	41.0	97.0	87.0	10.0
測点										

凡 例	
現況地盤高	—————
左田面高	—— ———
右田面高	—— — — —
計画水路高	—————
動水位	—— — — —

※管中心高の段差は前後の管で調整する。

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	用水路工 計画縦断面図(4/6)		
作成年月			
縮 尺	図示	図面番号	8 - 4/5
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

用水路工 計画縦断図(5/6)



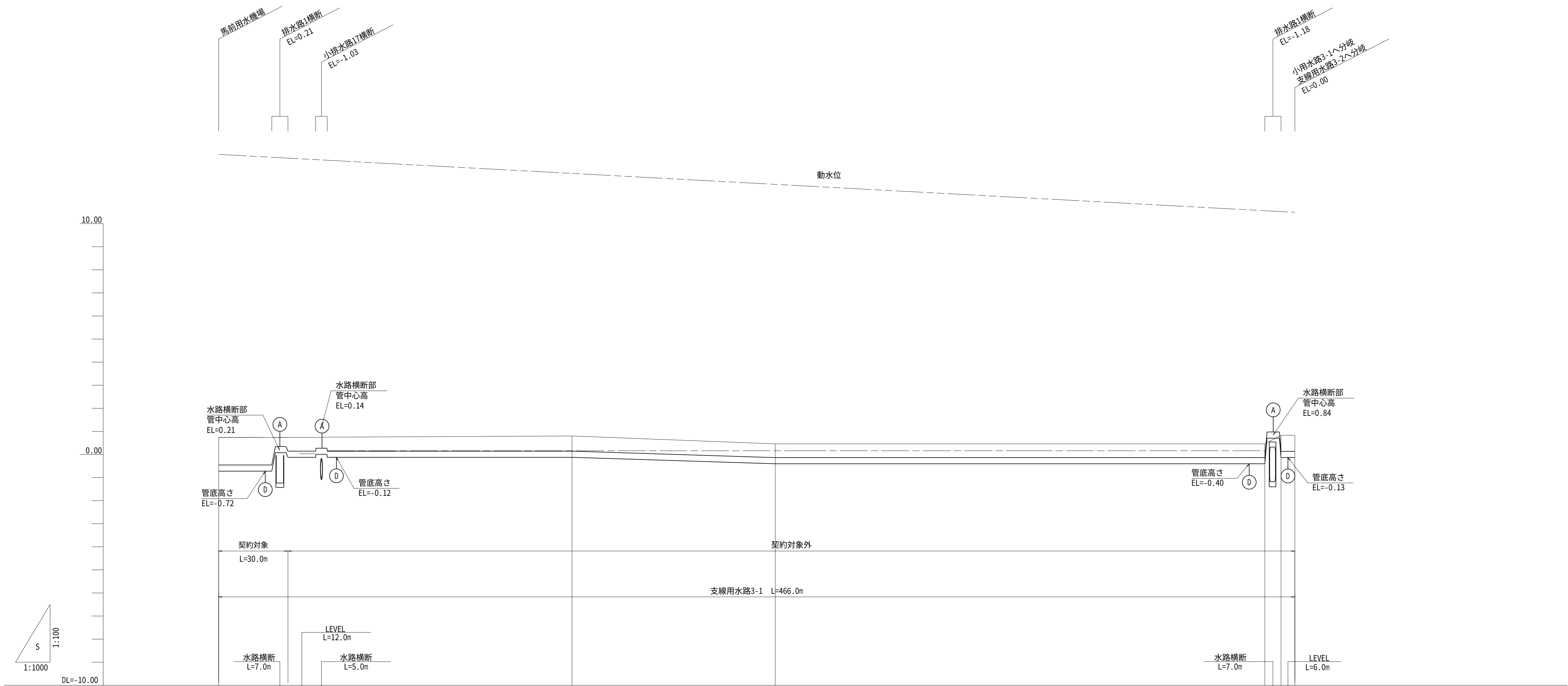
動水位	10.54	10.46	10.29	8.51	8.42	6.96	6.65	10.54	10.54	10.48	10.41	9.79	9.10	9.04
勾配	0.11	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	1.45	0.67	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
管種	小用水路1-54 VUφ125 L=228.5m							小用水路1-55 VUφ100 L=56.0m						
土被り	1.24	1.09	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60	1.33	0.69	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60
管中心高	-0.11	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	1.45	-0.67	-0.03	-0.03	-0.03	-0.03	-0.03	-0.03
左田面高	(54)1.15							(55)0.63						
右田面高														
地盤高	1.20	1.21	0.72	0.72	0.72	0.72	2.12	0.72	0.72	0.63	0.63	0.63	0.63	0.63
追加距離	0.0	4.5	14.5	119.5	124.5	210.5	228.5	0.0	4.5	9.5	56.0	107.5	112.0	
単距離	0.0	4.5	10.0	105.0	5.0	86.0	18.0	0.0	4.5	5.0	46.5	51.5	4.5	
測点														

凡 例	
現況地盤高	—————
左田面高	—— — — —
右田面高	—— — — —
計画水路高	—————
動水位	—— — — —

※管中心高の段差は前後の管で調整する。

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区區画整理その1工事		
図 面 名	用水路工 計画縦断図(5/6)		
作成年月			
縮 尺	図示	図面番号	8 - 5/6
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

用水路工 計画縦断面図(6/6)



動水位	13.00	12.90	12.84	12.81	12.75	11.99	11.70	11.65	11.12	10.61	10.56	10.52	10.49
勾配	LEVEL L=23.0m	LEVEL L=106.0m	LEVEL L=88.0m	LEVEL L=12.0m	LEVEL L=5.0m	LEVEL L=106.0m	LEVEL L=212.0m	LEVEL L=212.0m	LEVEL L=212.0m	LEVEL L=212.0m	LEVEL L=212.0m	LEVEL L=212.0m	LEVEL L=212.0m
管種	支線用水路3-1 VUφ250 L=466.0m												
土被り	1.20	1.20	1.20	0.61	0.61	0.61	0.61	0.60	0.60	0.60	0.60	0.70	0.70
管中心高	-0.59	-0.59	-0.59	0.01	0.01	0.01	0.01	-0.27	-0.27	-0.27	-0.27	0.00	0.00
左田面高	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74
右田面高	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74	(調整池)0.74
地盤高	0.74	0.74	0.74	0.74	0.74	0.74	0.74	0.46	0.46	0.46	0.46	0.83	0.83
追加距離	0.0	19.0	23.0	4.0	7.0	35.0	42.0	47.0	153.0	241.0	251.0	349.0	443.0
単距離	0.0	19.0	4.0	7.0	5.0	7.0	5.0	5.0	106.0	88.0	10.0	98.0	94.0
測点													

凡 例	
現況地盤高	—————
左田面高	—— — — —
右田面高	—— — — —
計画水路高	—————
動水位	—— — — —

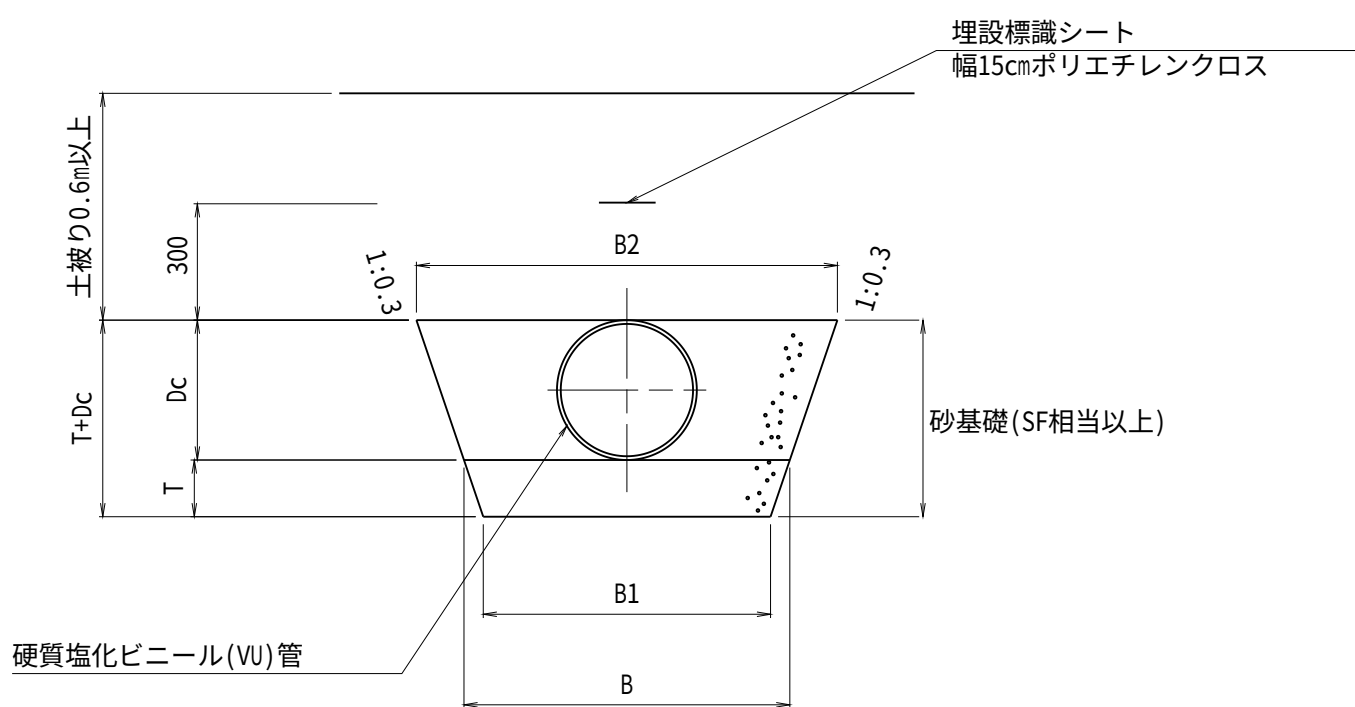
※管中心高の段差は前後の管で調整する。

工事名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図面名	用水路工 計画縦断面図(6/6)		
作成年月			
縮尺	図示	図面番号	8 - 6/6
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

用水路工 標準図(1/6)
 S=1:20

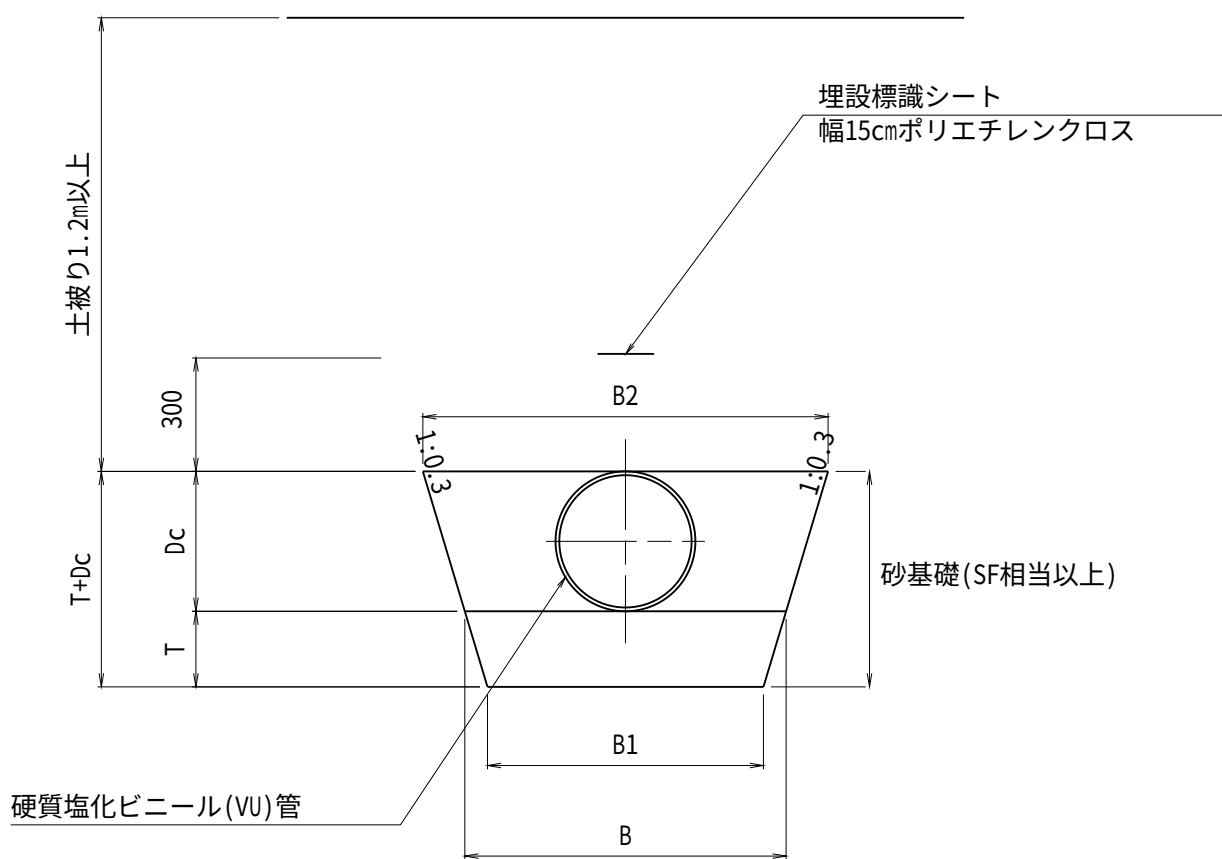
シングル配管

φ 300以下

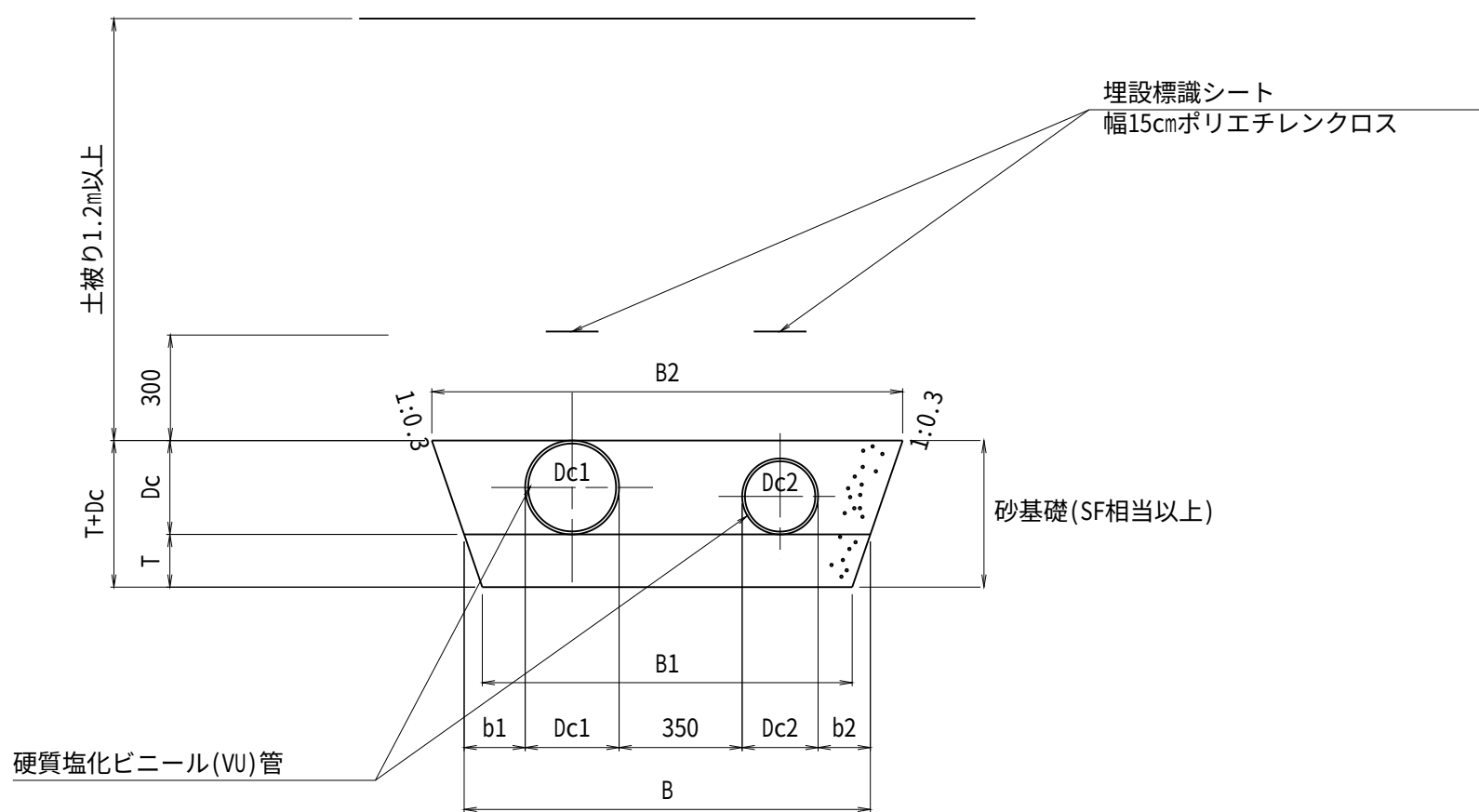


シングル配管

φ 350以上



ダブル配管



管径	Dc	T	B	B1	B2
φ 350	0.370	0.200	0.850	0.730	1.072
φ 300	0.318	0.200	0.800	0.680	0.991
φ 250	0.267	0.200	0.600	0.480	0.760
φ 200	0.216	0.150	0.500	0.410	0.630
φ 150	0.165	0.150	0.500	0.410	0.599
φ 100	0.114	0.150	0.500	0.410	0.568
φ 75	0.089	0.150	0.500	0.410	0.553

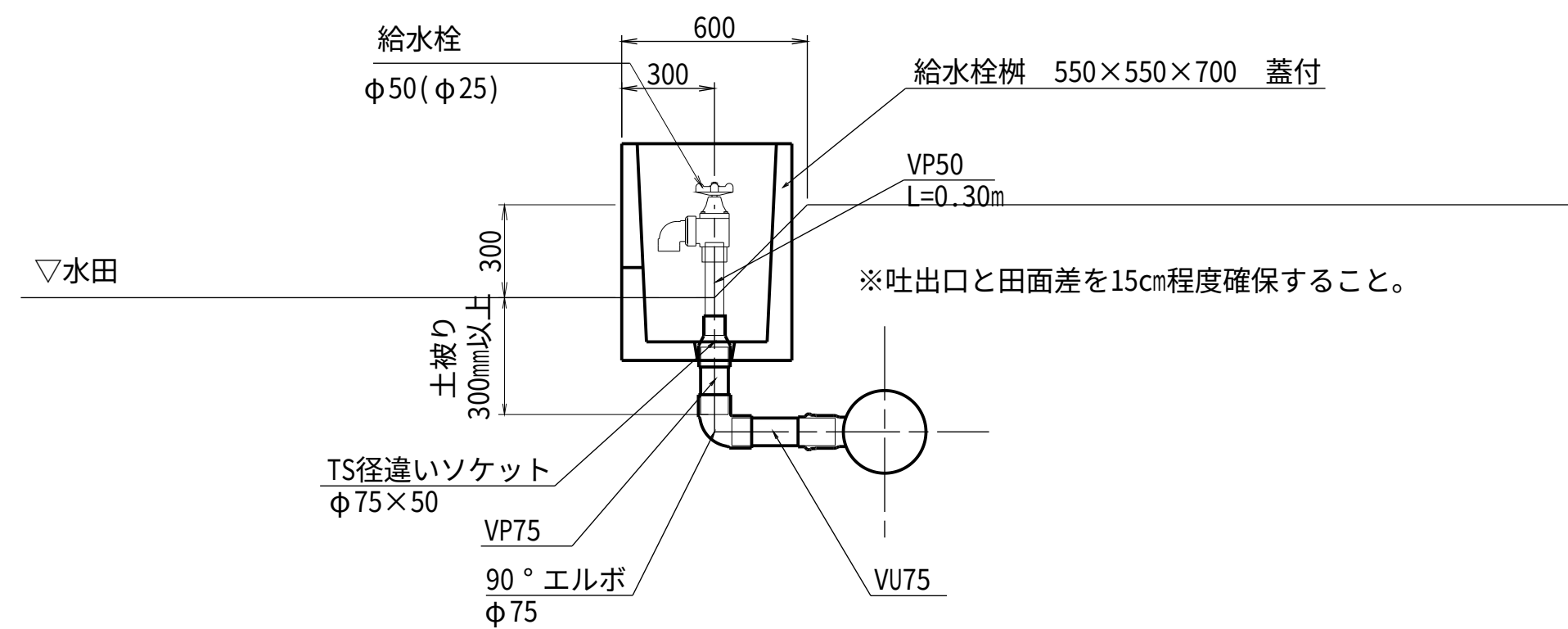
管径	Dc1	Dc2	b1	b2	間隔	T	B	B1	B2
φ 300×φ 250	0.318	0.267	0.241	0.167	0.350	0.200	1.343	1.223	1.553

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区區画整理その1工事		
図 面 名	用水路工 標準図(1/6)		
作成年月			
縮 尺	S=1:20	図面番号	9 - 1/6
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

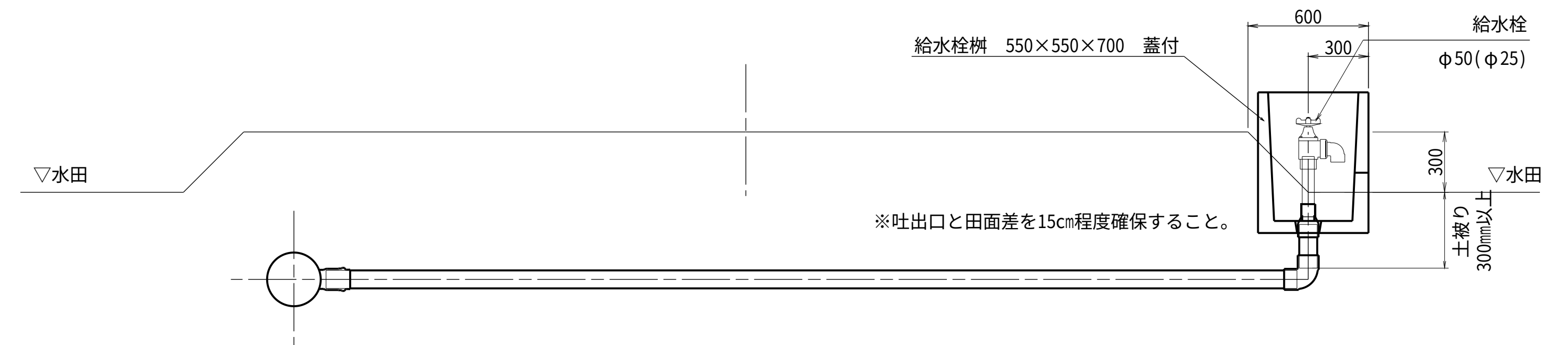
用水路工 標準図(2/6)

給水栓工 標準図 S=1:20

1 型



2 型



給水栓取付材料表

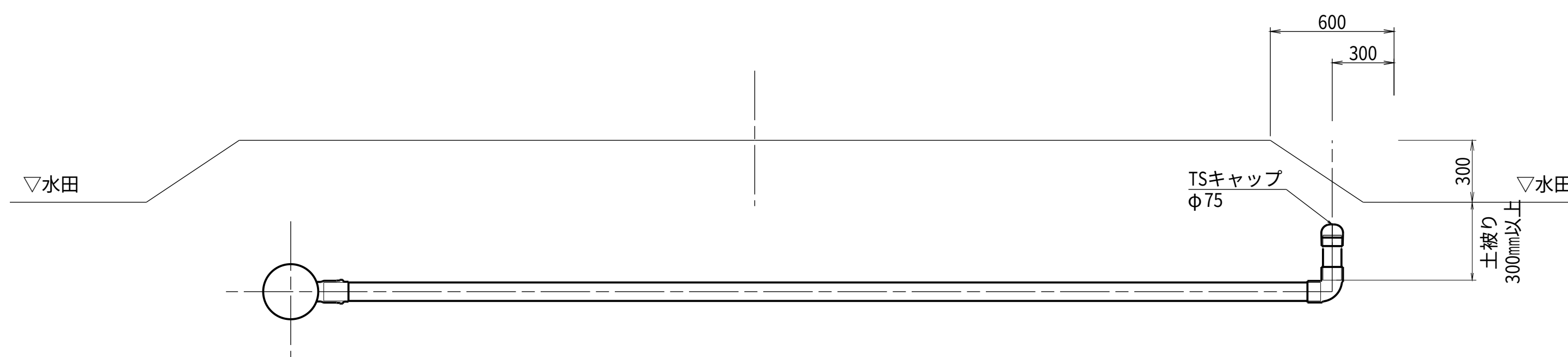
種 別	小用水路 口 径	FRP製T字管		TSチーズ				TS90 ° エルボ	TS径違いソケット	VP 管	アングルバルブ φ50(φ25)
		250×75	200×75	150×75	125×75	100×75	75×75	φ75	75×50	φ50	
1型	φ250	1						1	1	0.30	1
	φ200		1					1	1	0.30	1
	φ150			1				1	1	0.30	1

給水栓取付材料表

種 別	小用水路	FRP製I字管		TSチーズ				TS90°エルボ	TS径違いソケット	VP 管	アングルバルブ φ50(φ25)
	口 径	250×75	200×75	150×75	125×75	100×75	75×75	φ75	75×50	φ50	
2型	φ250	1						1	1	0.30	1
	φ200		1					1	1	0.30	1

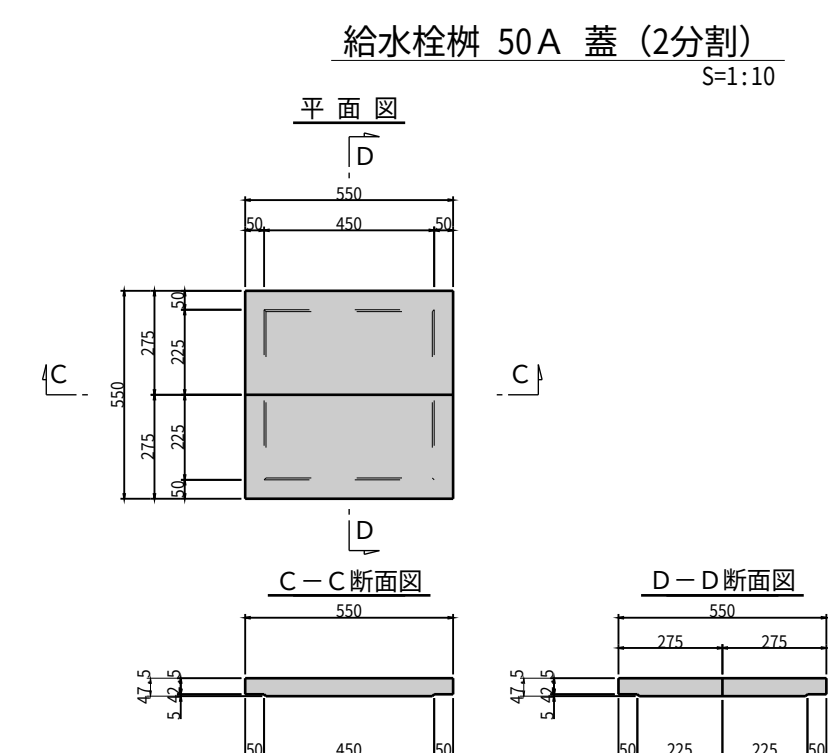
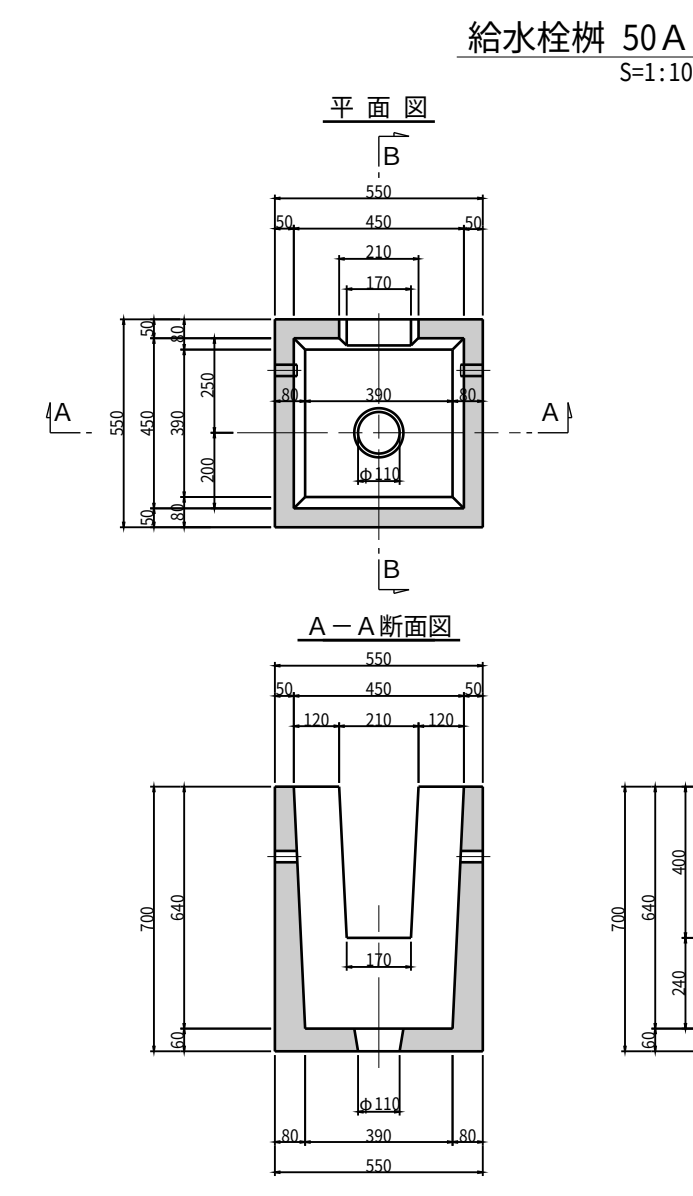
2 型

キャップ止め



給水栓取付材料表

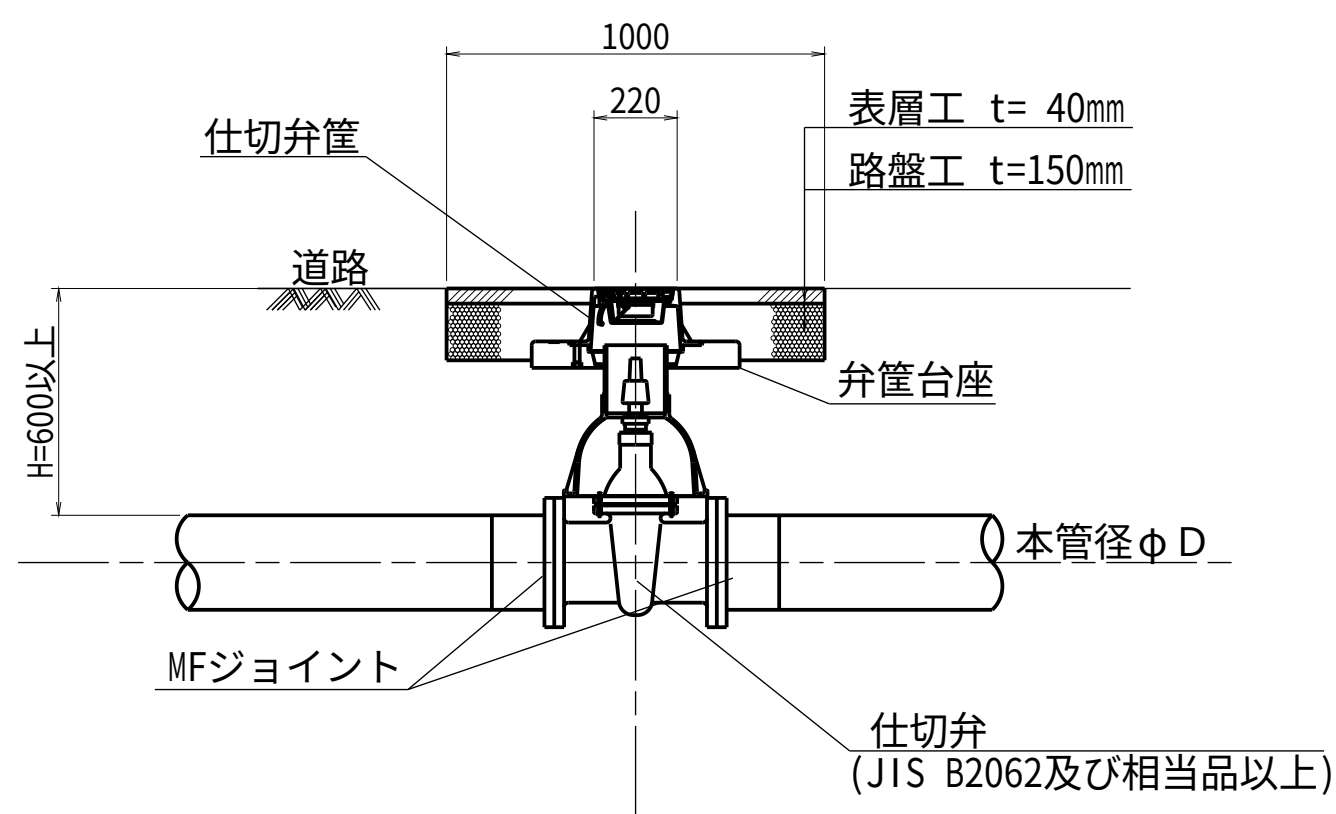
種 別	小用水路	FRP製T字管		TSチーズ				TS90°エルボ	TS径違いソケット	VP 管	TSキャップ
	口 径	250×75	200×75	150×75	125×75	100×75	75×75	φ75	75×50	φ50	φ75
2型キャップ 止め	φ250	1						1			1
	φ200		1					1			1



工事名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区Ⅱ区Ⅱ画整理そのⅠ工事		
図面名	用水路工 標準図(2/6)		
作成年月			
縮尺	図示	図面番号	9 - 2/6
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

用水路工 標準図(3/6)
 制水弁工 標準図 S=1:20

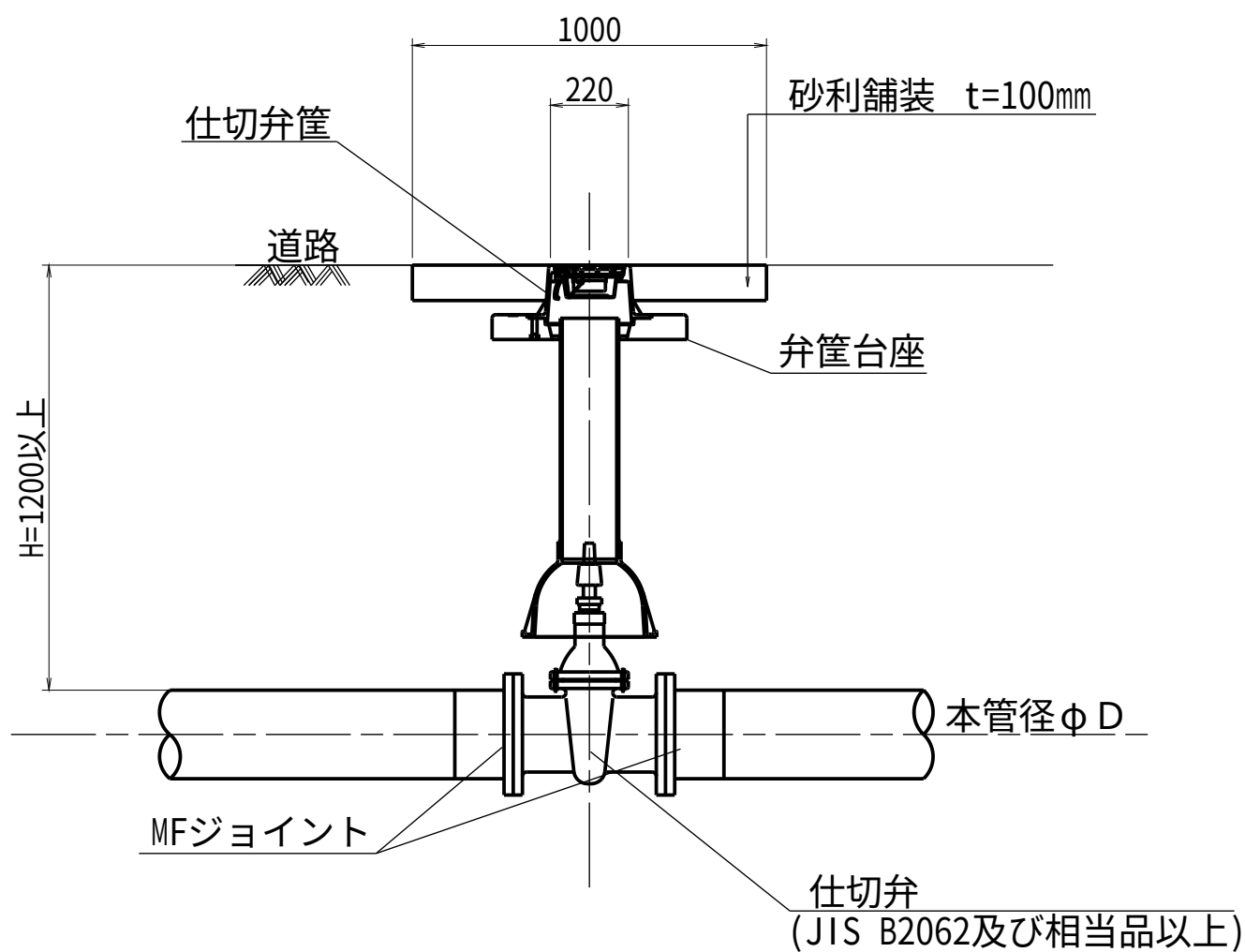
1型



制水弁工 参考数量表

材料名	規格・寸法	数量	単位	備考
仕切弁	φD (水道規格)	1	基	
MFジョイント	φD	2	個	
仕切弁筐 (内蓋付)	ネジ式	1	個	
弁筐台座		1	個	

2型

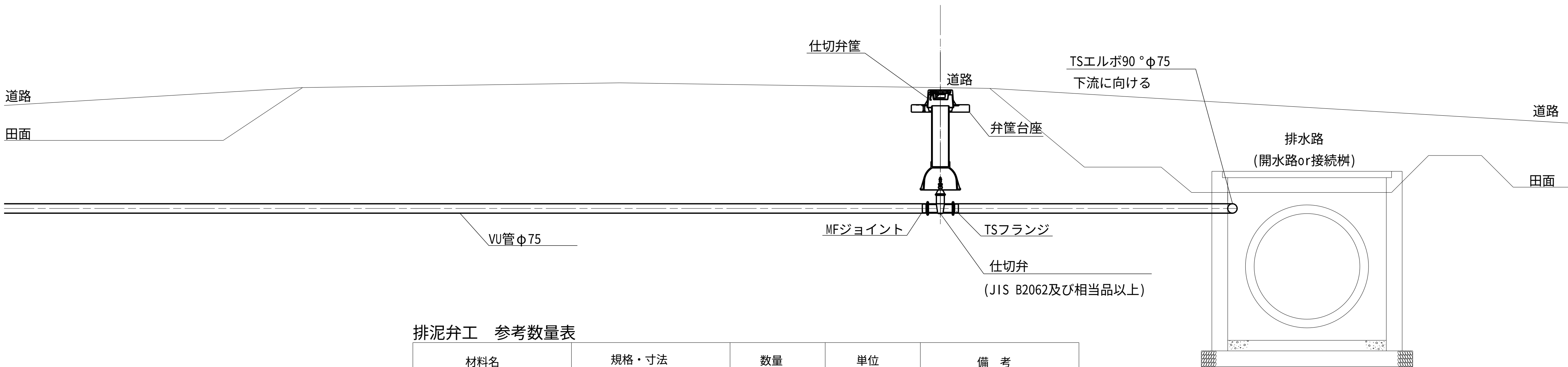


制水弁工 参考数量表

材料名	規格・寸法	数量	単位	備考
仕切弁	φD (水道規格)	1	基	
MFジョイント	φD	2	個	
仕切弁筐 (内蓋付)	ネジ式	1	個	
弁筐台座		1	個	

流末工 標準図

道路下



排泥弁工 参考数量表

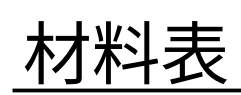
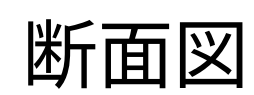
材料名	規格・寸法	数量	単位	備考
仕切弁	φ75 (水道規格)	1	基	
MFジョイント	φ75	1	個	
TSフランジ	φ75	1	個	
仕切弁筐 (内蓋付)	ネジ式	1	個	
弁筐台座		1	個	
TSエルボ90°	φ75	1	個	
VU直管	φ75	2.5	m	

法面下の流末工については、排泥工と同様とする。

工事名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図面名	用水路工 標準図(3/6)		
作成年月			
縮尺	S=1:20	図面番号	9 - 3/6
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

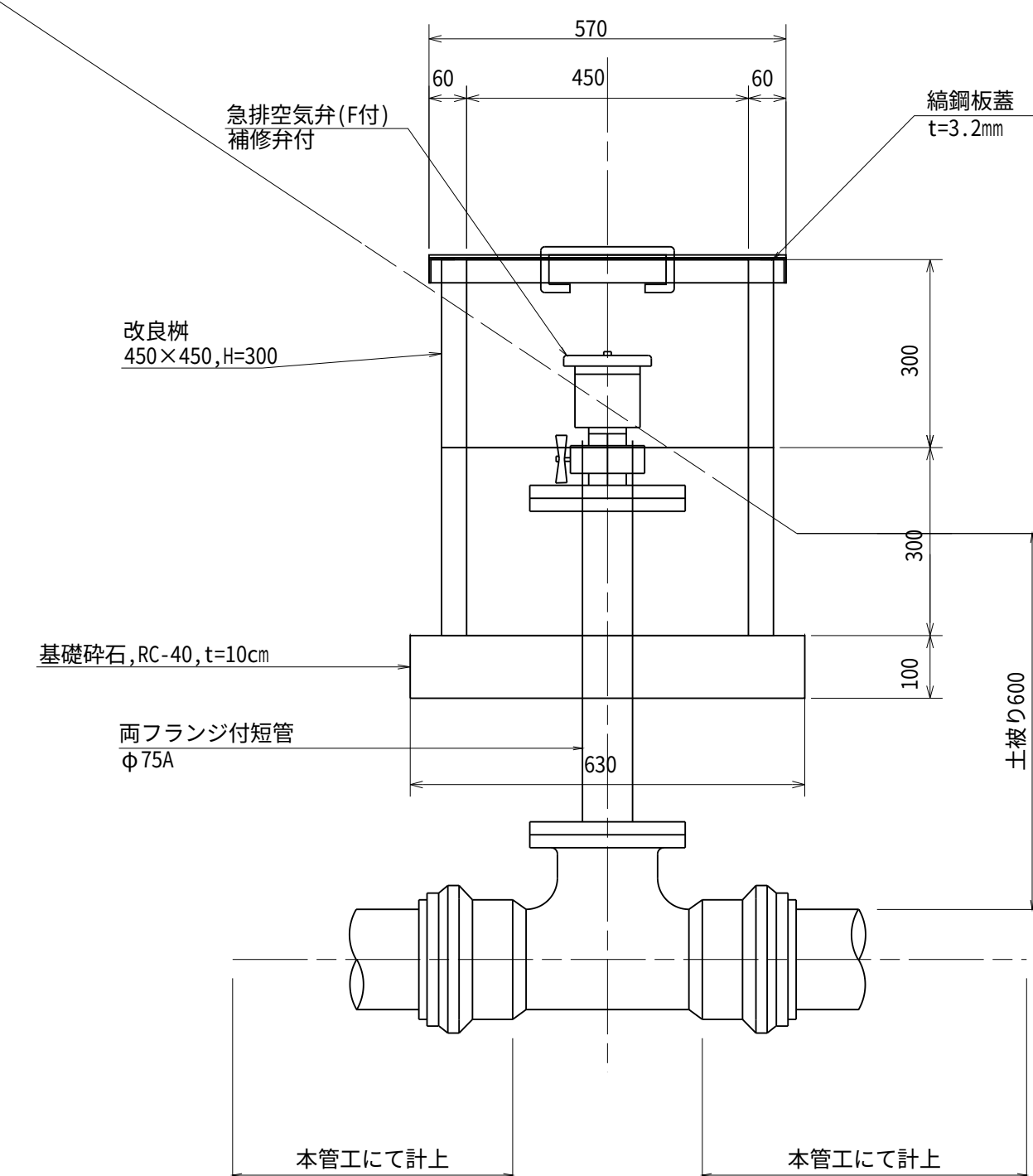
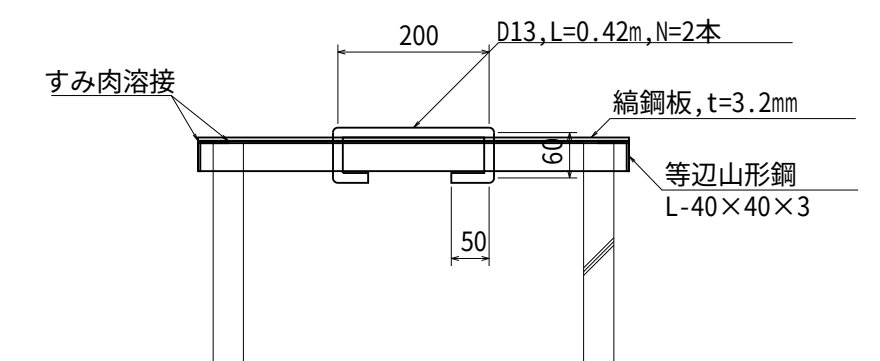
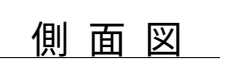
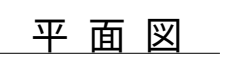
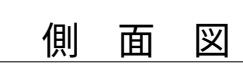
空気弁工 標準図 S=1:20

平面图



※ 付属品一式含む
※ ボルト・ナットはステンレス製とする。(SUS304の焼つけ防止加工品とする。)

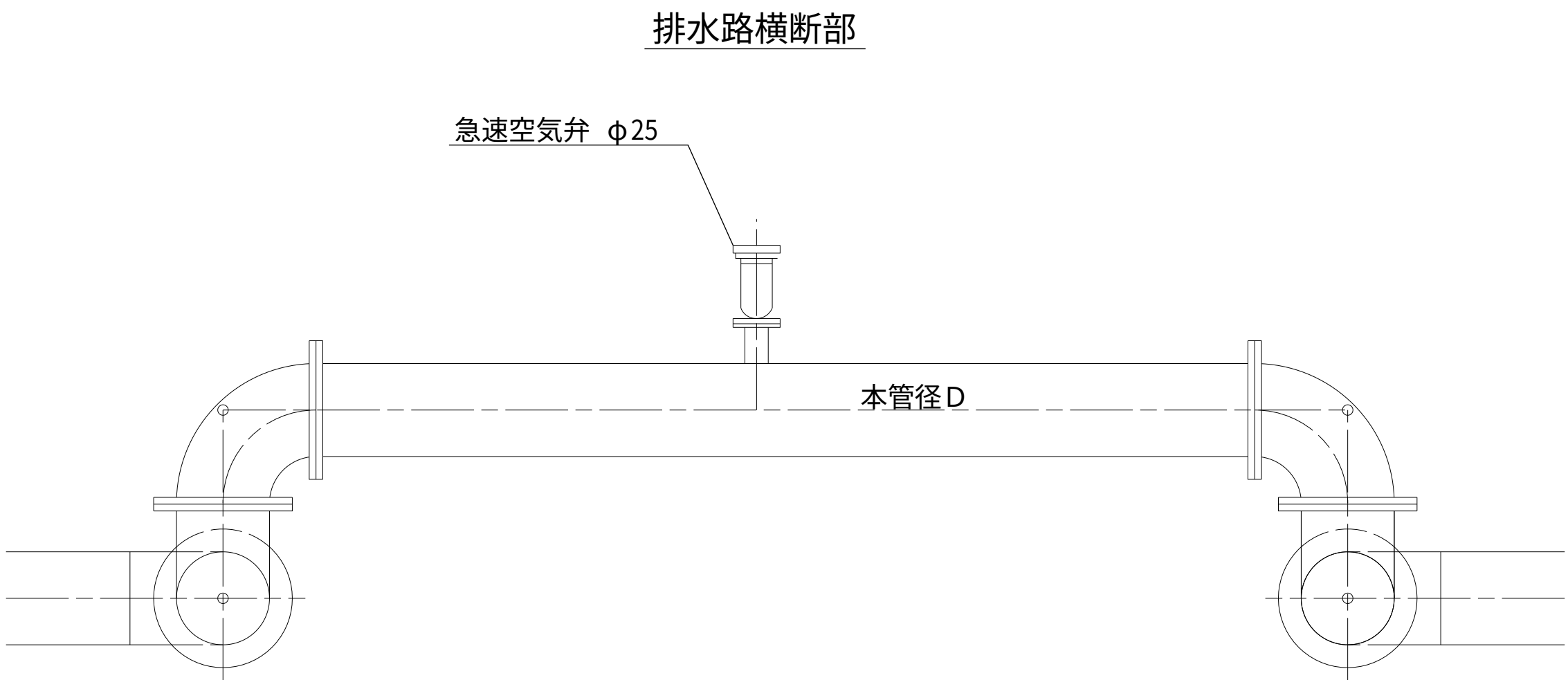
平面图



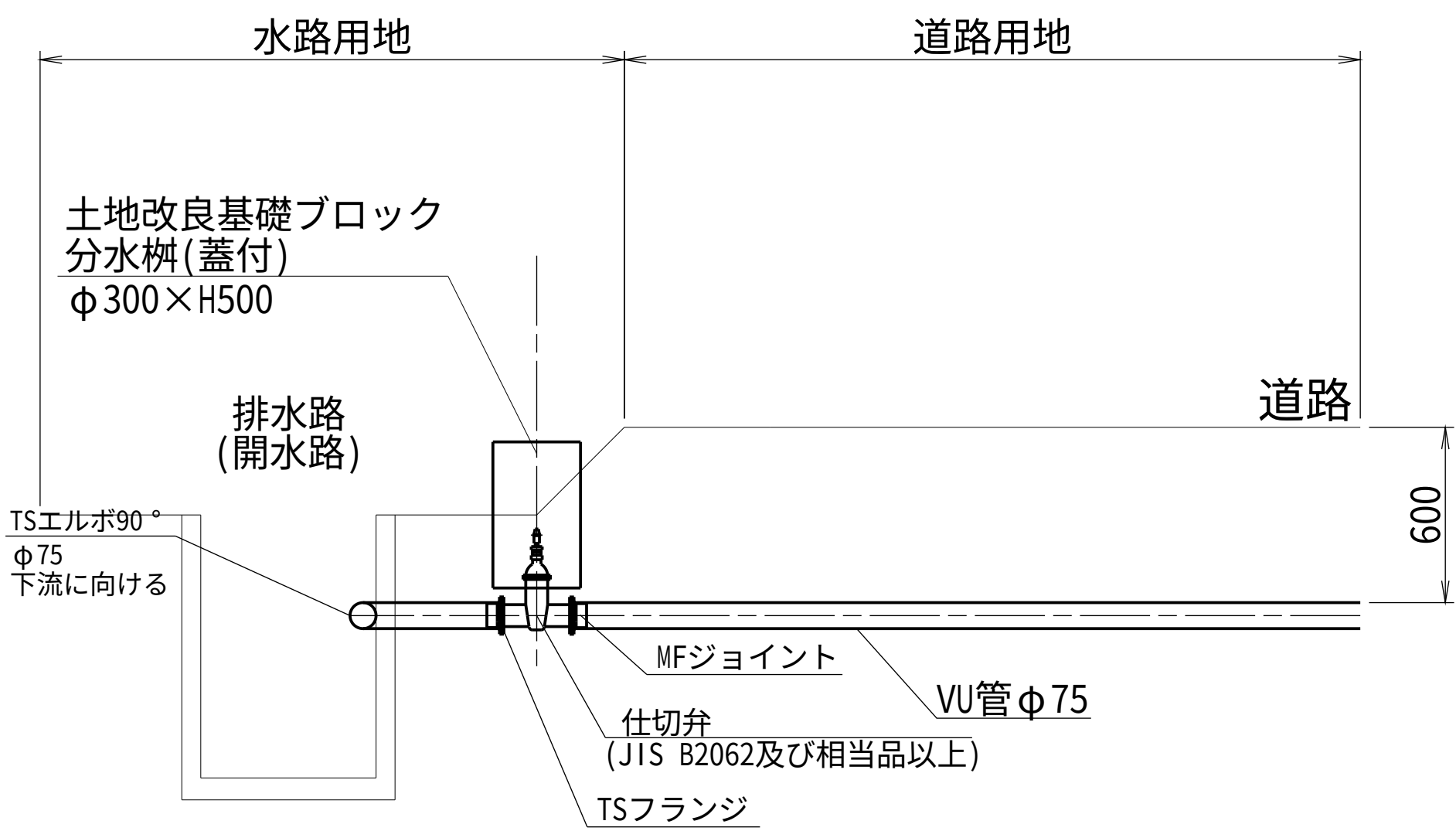
工事名	茨城中部農地整備事業 沼前馬別干拓団地海老沢沢1区画面整理の1工事		
図面名	用水路工 標準図(4/6)		
作成年月			
縮尺	図示	図面番号	9 - 4/6
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

用水路工 標準図(5/6)

空気弁工 標準図 S=1:20



排泥工 標準図



排泥弁工 参考数量表

材料名	規格・寸法	数量	単位	備 考
仕切弁	φ 75 (水道規格)	1	基	
MFジョイント	φ 75	1	個	
TSフランジ	φ 75	1	個	
土地改良基礎ブロック分水柵(蓋付)	φ 300×H500	1	個	
TSエルボ90°	φ 75	1	個	

工事名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図面名	用水路工 標準図(5/6)		
作成年月			
縮尺	S=1:20	図面番号	9 - 5/6
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

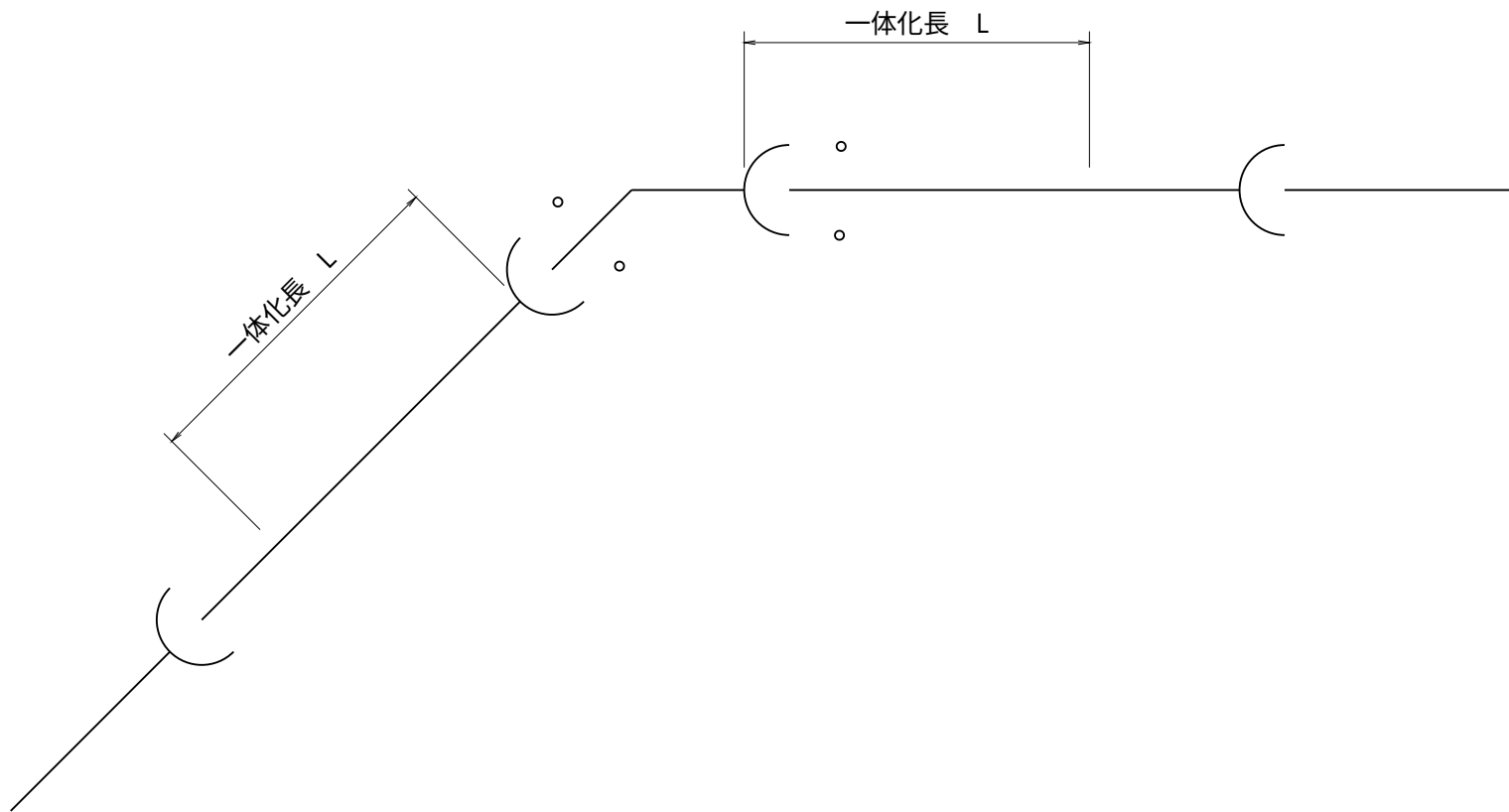
用水路工 標準図(6/6)

塩ビ管継手配置要領図

曲 管

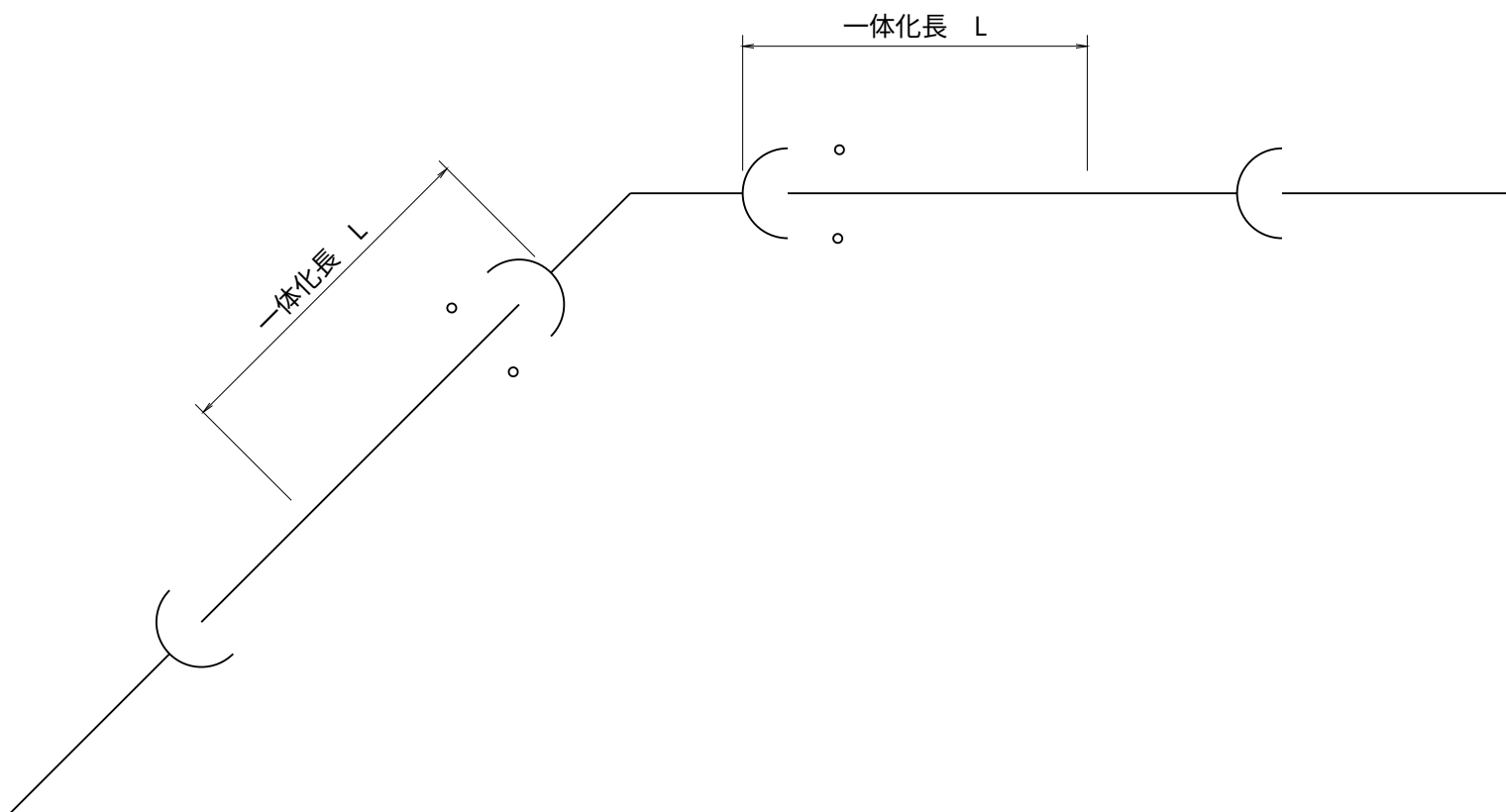
塩ビ製曲管

(TS又は離脱防止金具設置)



FRP製曲管

(離脱防止金具内蔵型)



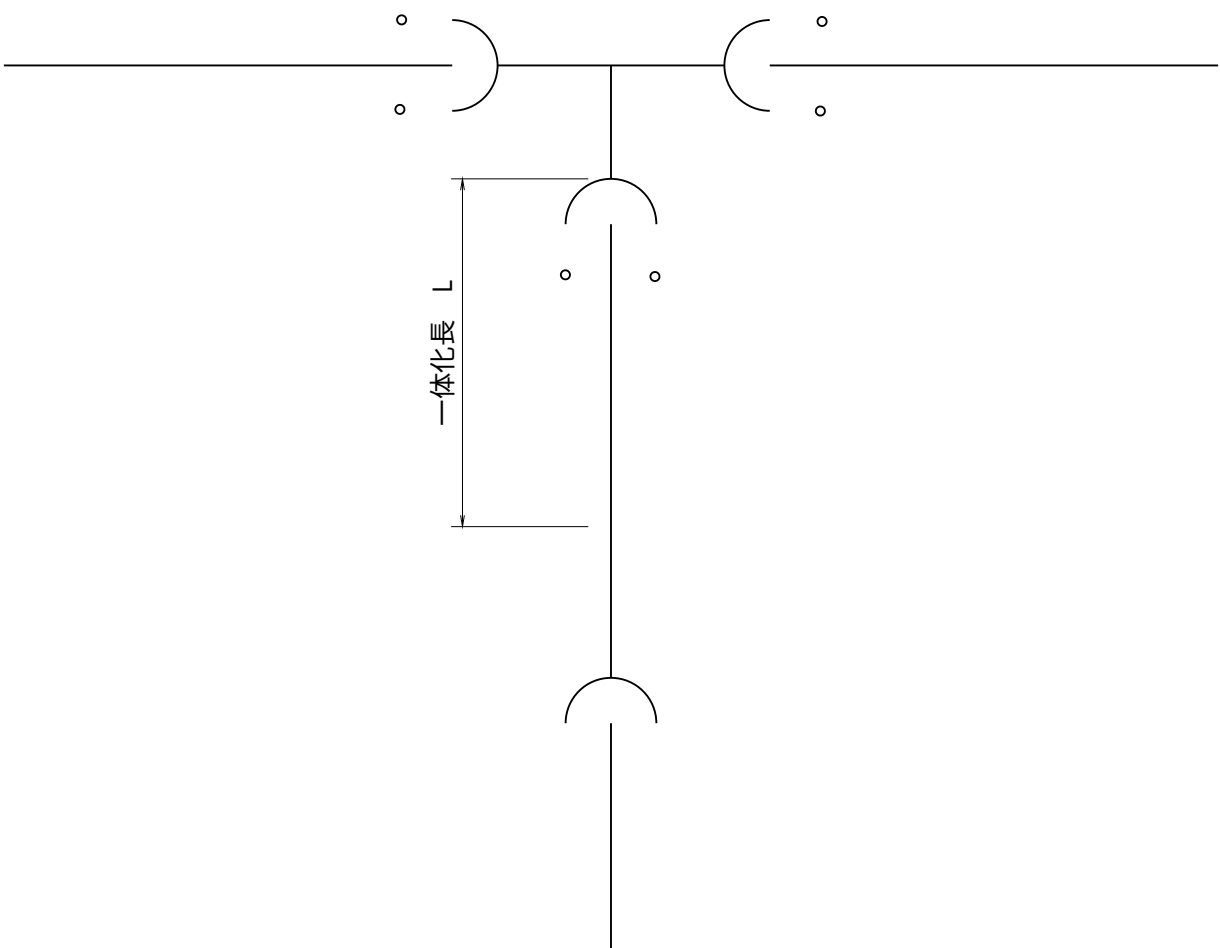
曲管必要一体化長

本管径	水平				鉛直上向				鉛直下向			
	90 °	45 °	22 ° 1/2	11 ° 1/4	90 °	45 °	22 ° 1/2	11 ° 1/4	90 °	45 °	22 ° 1/2	11 ° 1/4
φ75	2.13	1.30	0.71	0.31	4.05	4.05	4.05	4.05	4.05	4.05	4.05	4.05
φ100	2.70	1.66	0.91	0.44	5.07	5.07	5.07	5.07	5.07	5.07	5.07	5.07
φ150	3.84	2.38	1.34	0.67	7.17	7.17	7.17	7.17	7.17	7.17	7.17	7.17
φ200	4.98	3.03	1.77	0.87	9.09	9.09	9.09	9.09	9.09	9.09	9.09	9.09
φ250	6.77	3.68	2.18	1.10	11.01	11.01	11.01	11.01	11.01	11.01	11.01	11.01
φ300	8.37	4.27	2.51	1.25	12.72	12.72	12.72	12.72	12.72	12.72	12.72	12.72
φ350	4.79	2.88	1.70	0.81	9.11	9.11	9.11	9.11	9.11	9.11	9.11	9.11

T 字 管

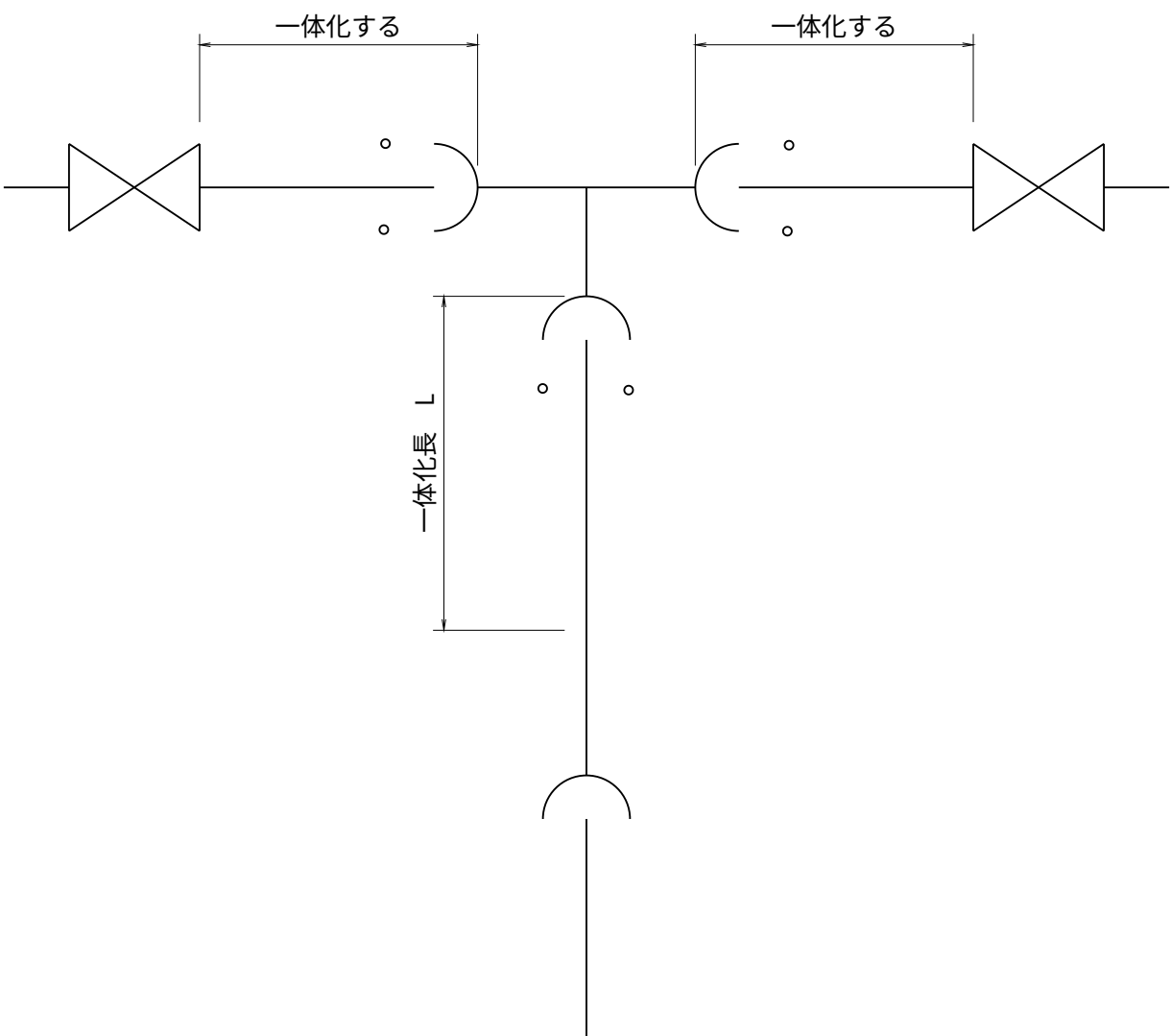
一般部

(全方離脱防止金具内蔵型)



制水弁設置部

(全方離脱防止金具内蔵型)



曲管必要一体化長(受働土圧考慮なし)

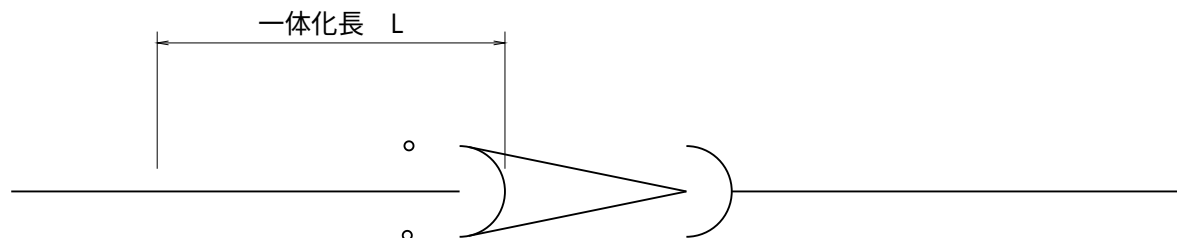
本管径	水平(受働土圧なし)			
	90 °	45 °	22 ° 1/2	11 ° 1/4
φ75	4.05	4.05	4.05	4.05
φ100	5.07	5.07	5.07	5.07
φ150	7.17	7.17	7.17	7.17
φ200	9.09	9.09	9.09	9.09
φ250	11.01	11.01	11.01	11.01
φ300	12.72	12.72	12.72	12.72
φ350	9.11	9.11	9.11	9.11

T字管必要一体化長

本管径	枝管径						
	φ75	φ100	φ150	φ200	φ250	φ300	φ350
φ75	4.05						
φ100	3.96	5.07					
φ150	3.87						
φ200	3.75			9.09			
φ250	3.67			8.91	11.01		
φ300	3.56				10.68		
φ350		2.81			6.57	7.83	9.11

片 落 管

(全方離脱防止金具内蔵型)



片落管必要一体化長

本管径	枝管径						
	φ50	φ75	φ100	φ150	φ200	φ250	φ300
φ75	2.21						
φ100		1.98					
φ150			3.75				
φ200			6.56	3.79			
φ250				6.81	3.80		
φ300					6.85	3.75	
φ350						4.36	2.38

※特記事項

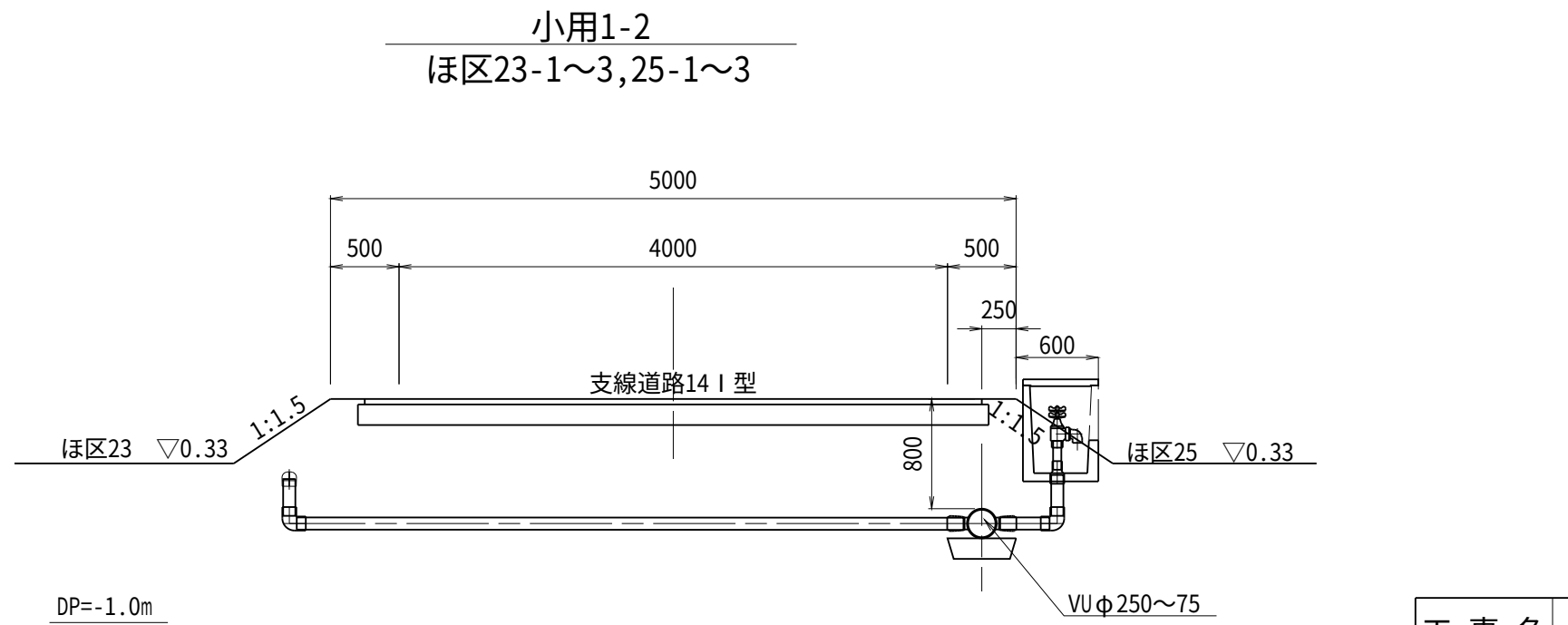
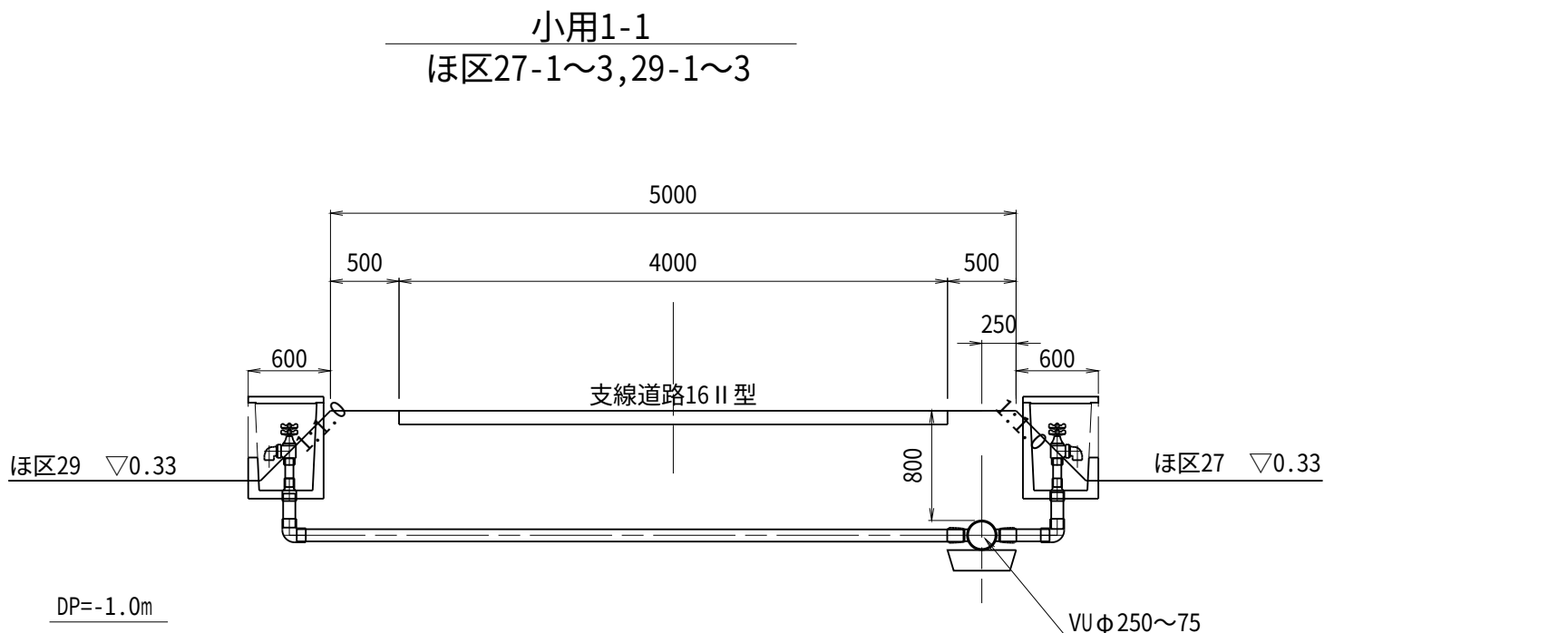
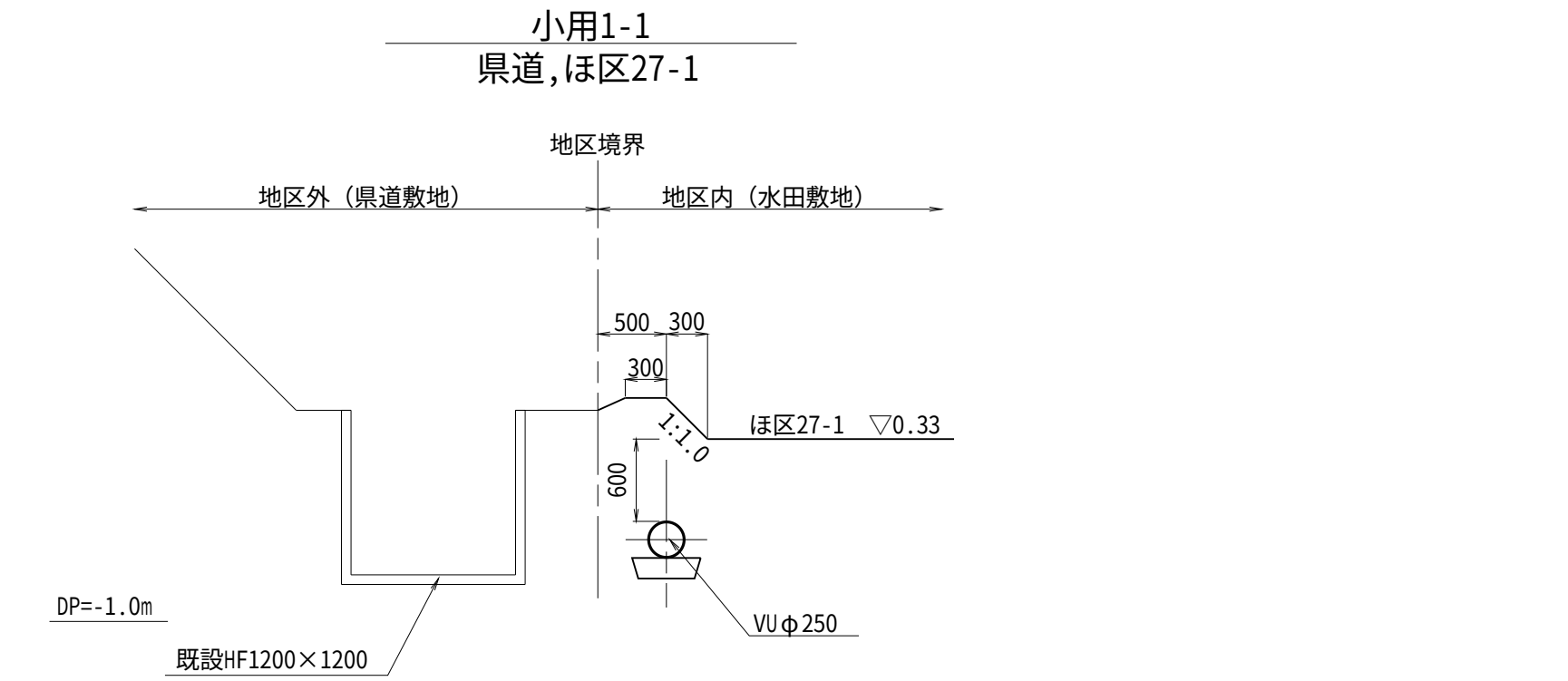
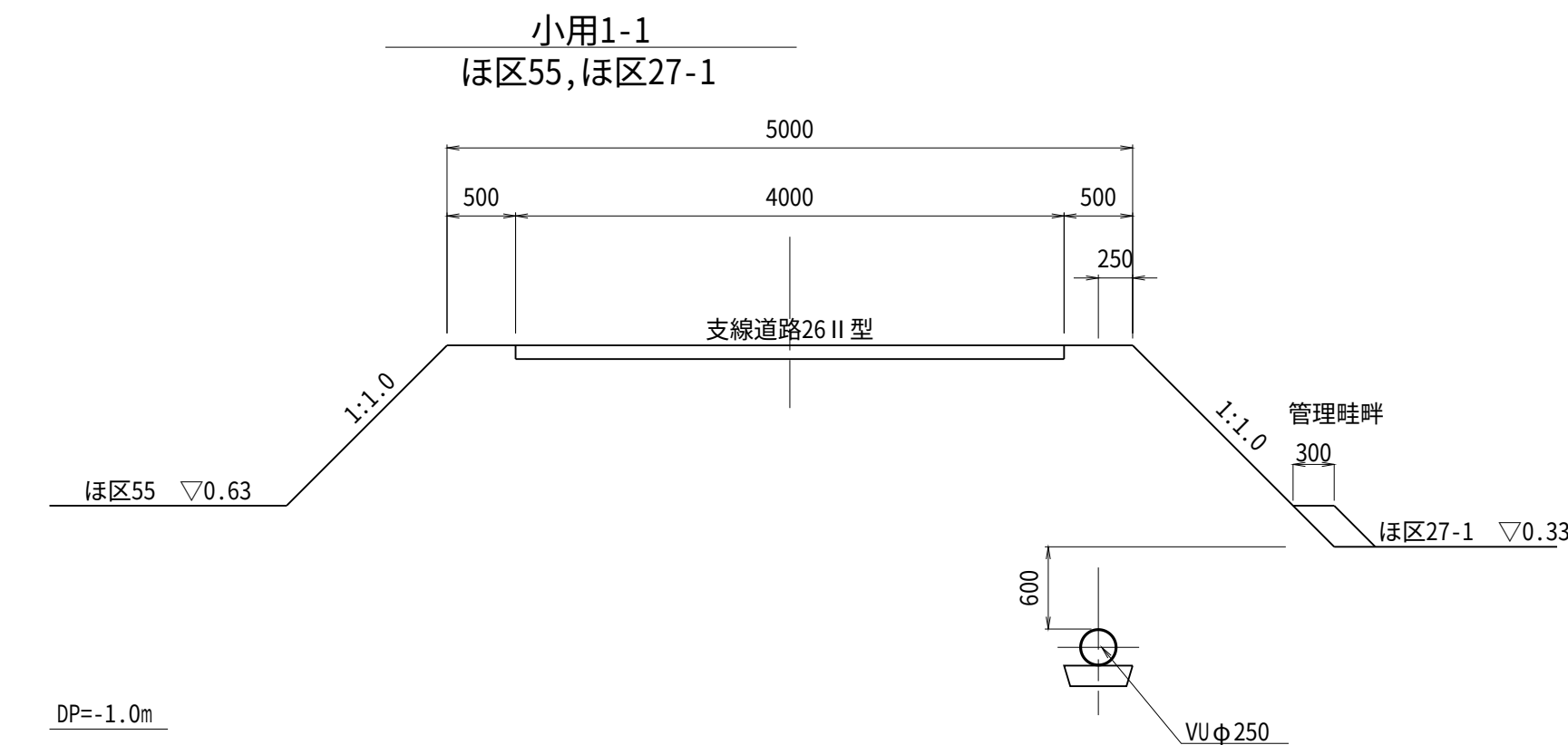
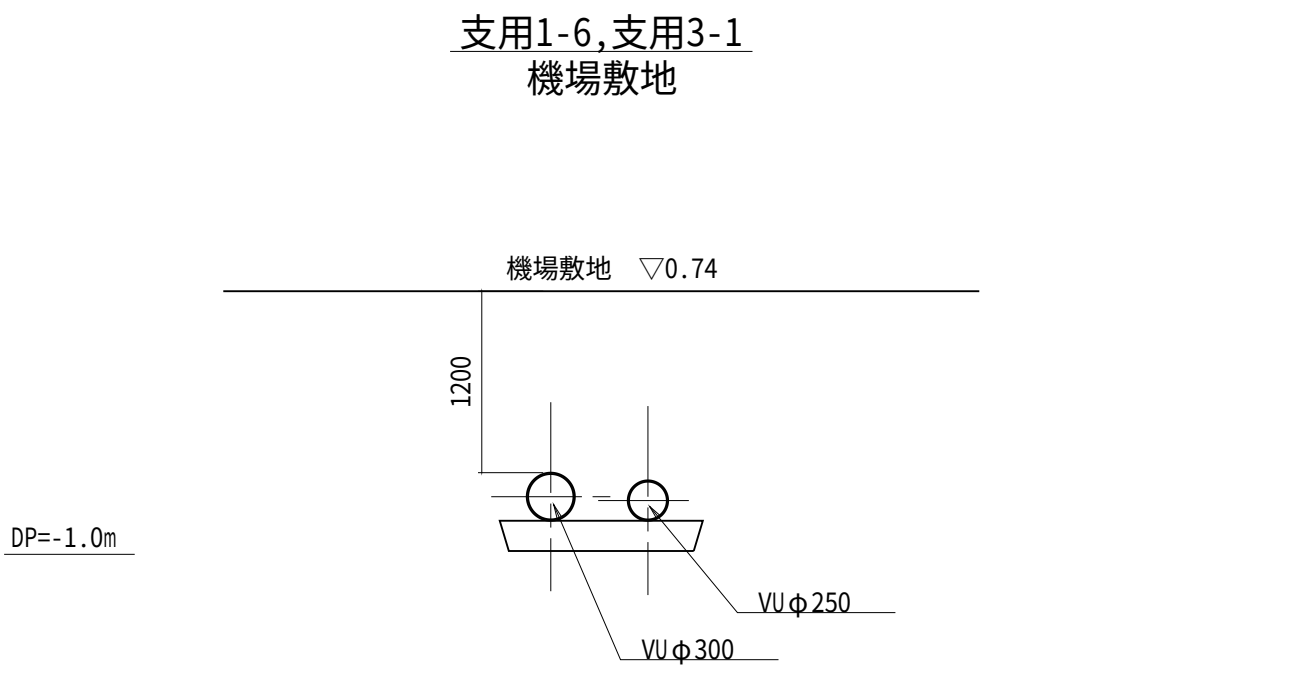
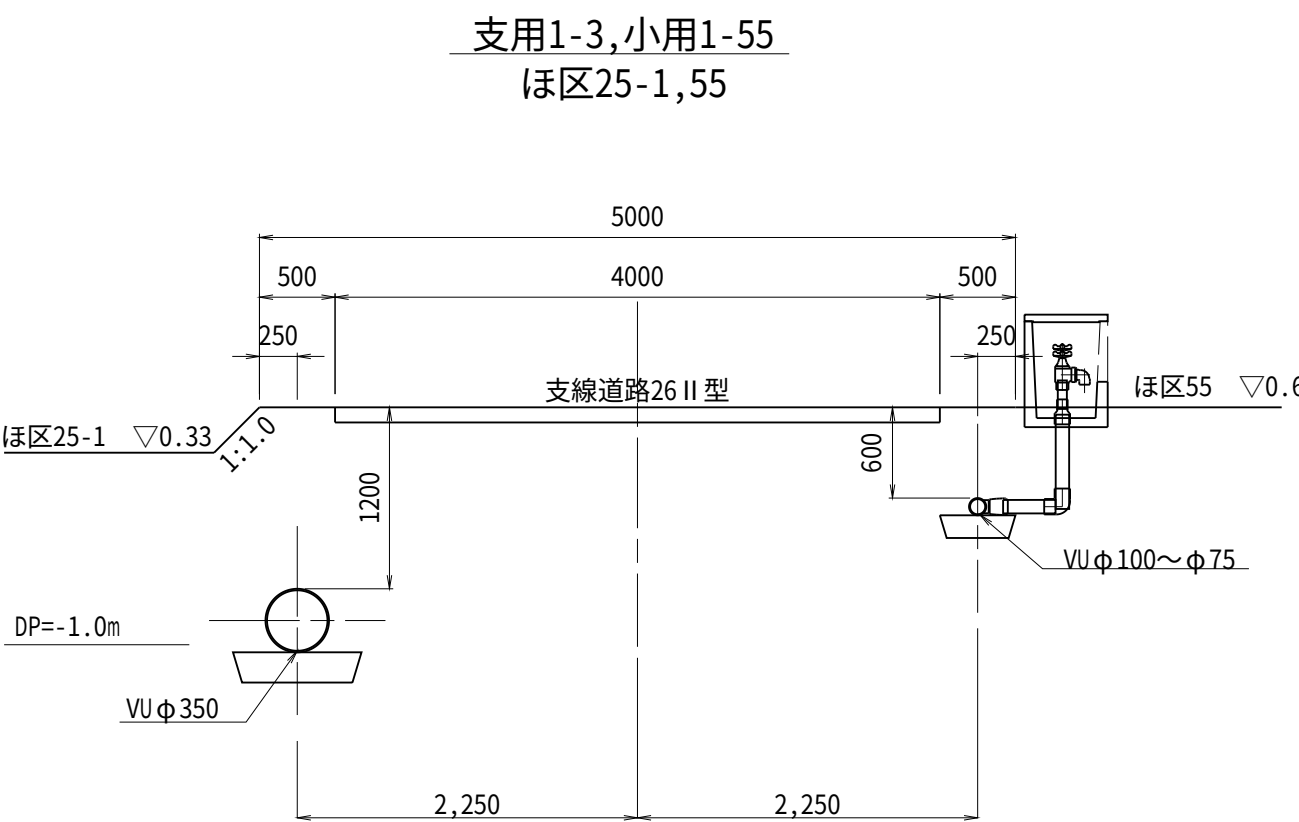
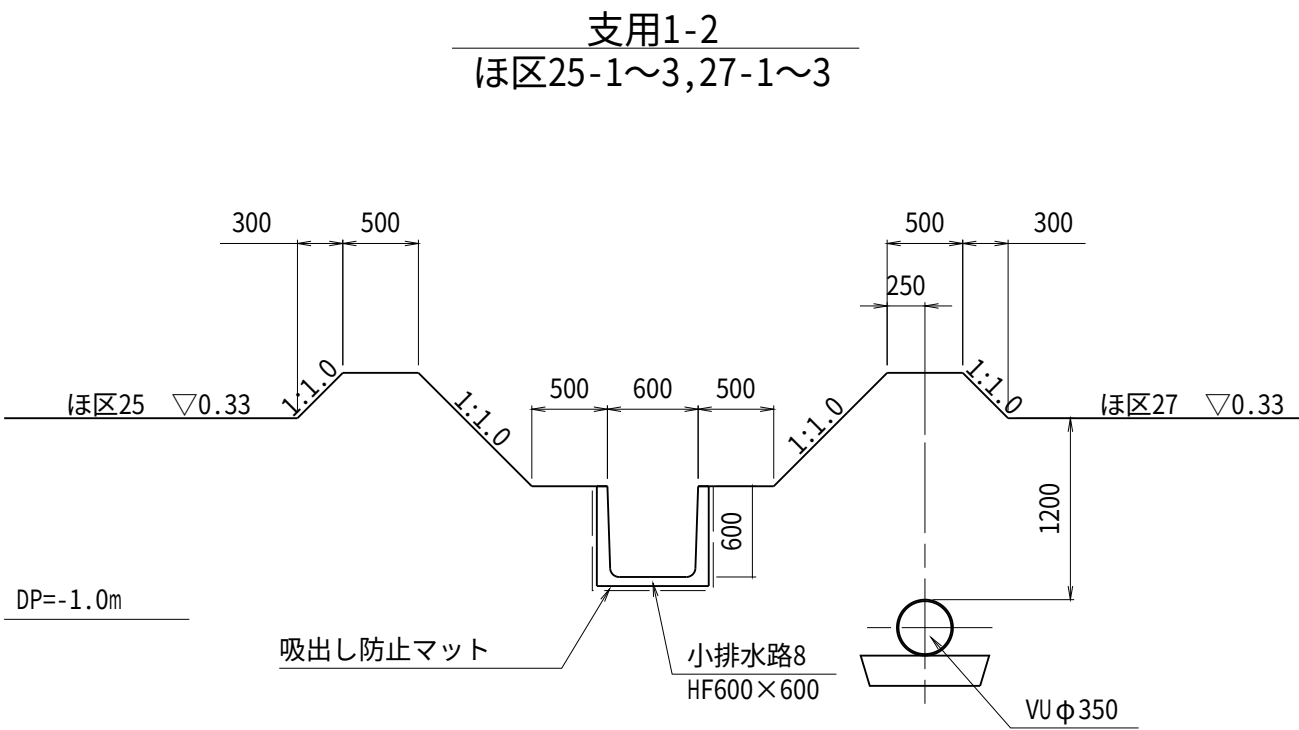
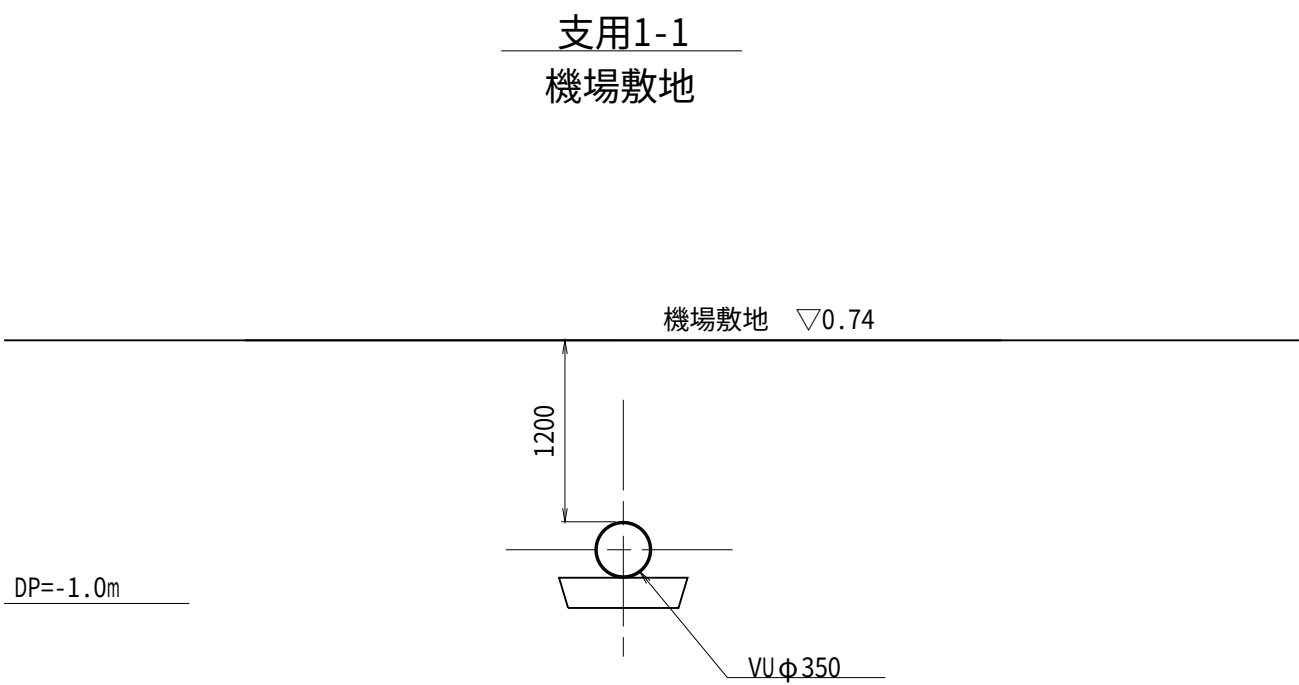
- 一体化長の区間に切管又は異形管を設ける場合は、離脱防止金具を使用すること。
- 施工上の都合で片側の一体化長が必要長さを確保できない場合は、反対側の一体化長に不足分の延長を加算すること。

- 制水弁単独の場合の必要一体化長は同口径T字管に準じる。

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	塩ビ管継手配置要領図		
作成年月			
縮 尺	Nonscale	図面番号	9 - 6/6
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

用水路工 標準断面図

S=1:50

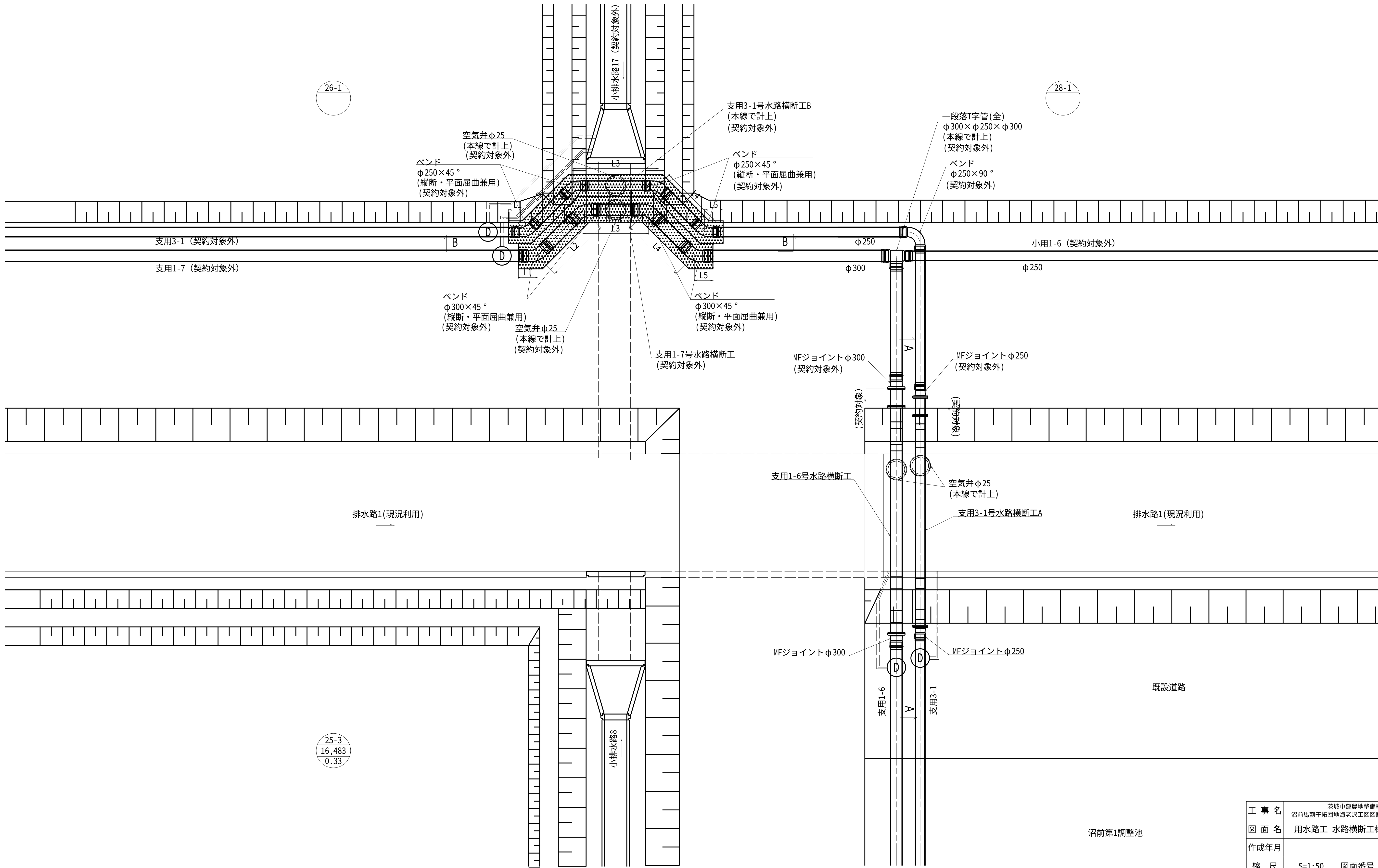


工 事 名	茨城中部農地整備事業		
図 面 名	沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
作成年月	用水路工 標準断面図		
縮 尺	S=1:50	図面番号	10
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

用水路工 水路横断工構造図(1/2)

支用1-6号、1-7号、3-1号A、3-1号B S=1:50

平面図

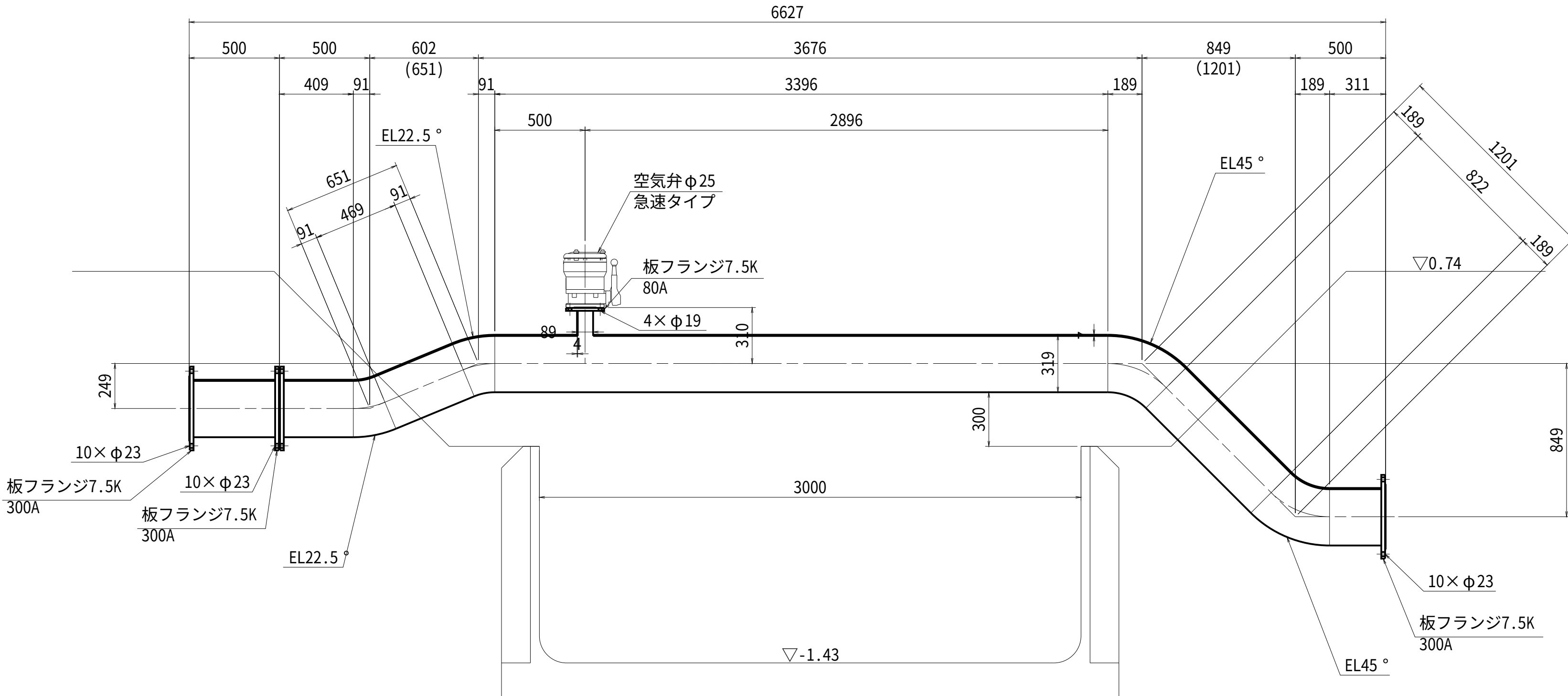
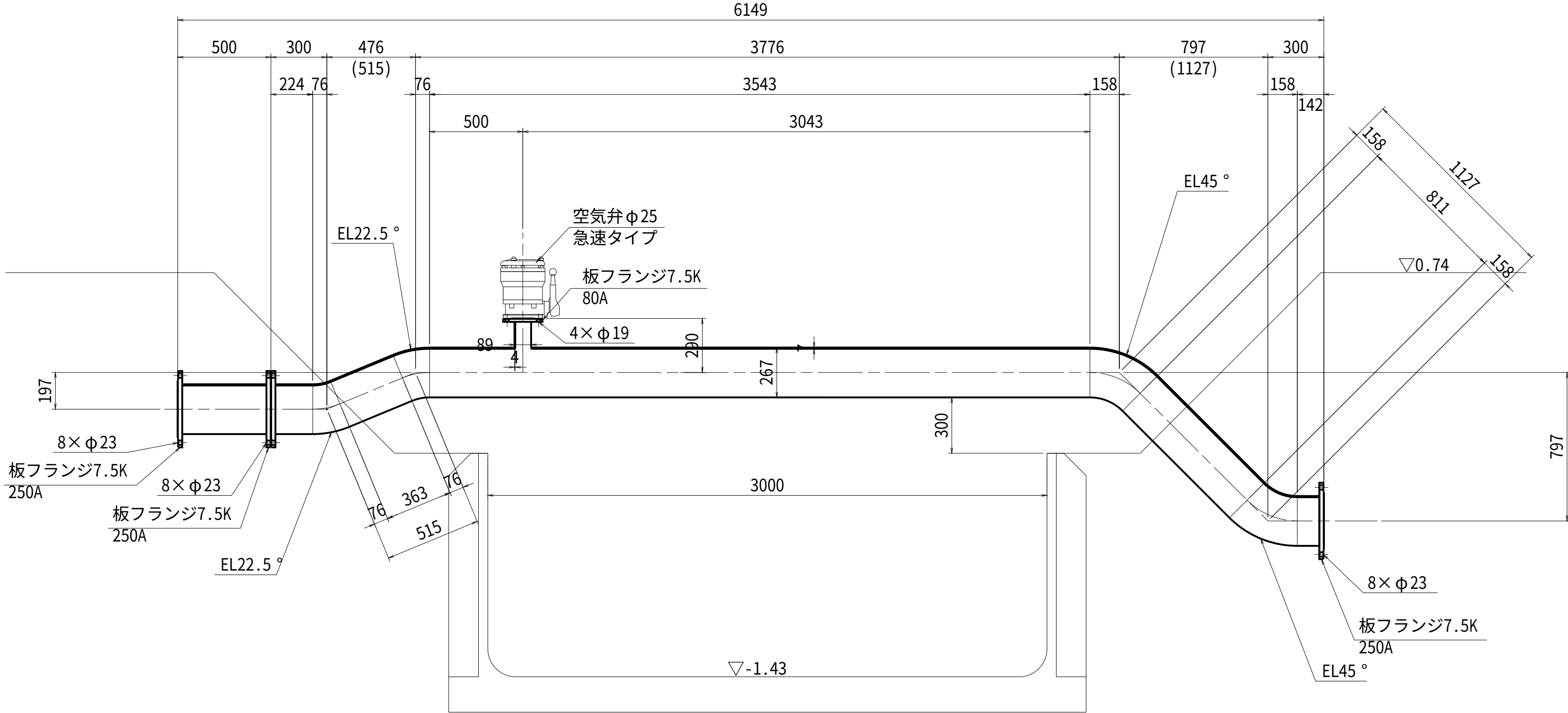


特記事項: 水路横断管の延長については現地にて距離の測り出しを行い、寸法をチェックして施工すること。

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	用水路工 水路横断工構造図(1/2)		
作成年月			
縮 尺	S=1:50	図面番号	11 - 1/2
会 社 名			
事業所名	関東農政局	茨城中部農地整備事業所	

異形管詳細図 S=1:20

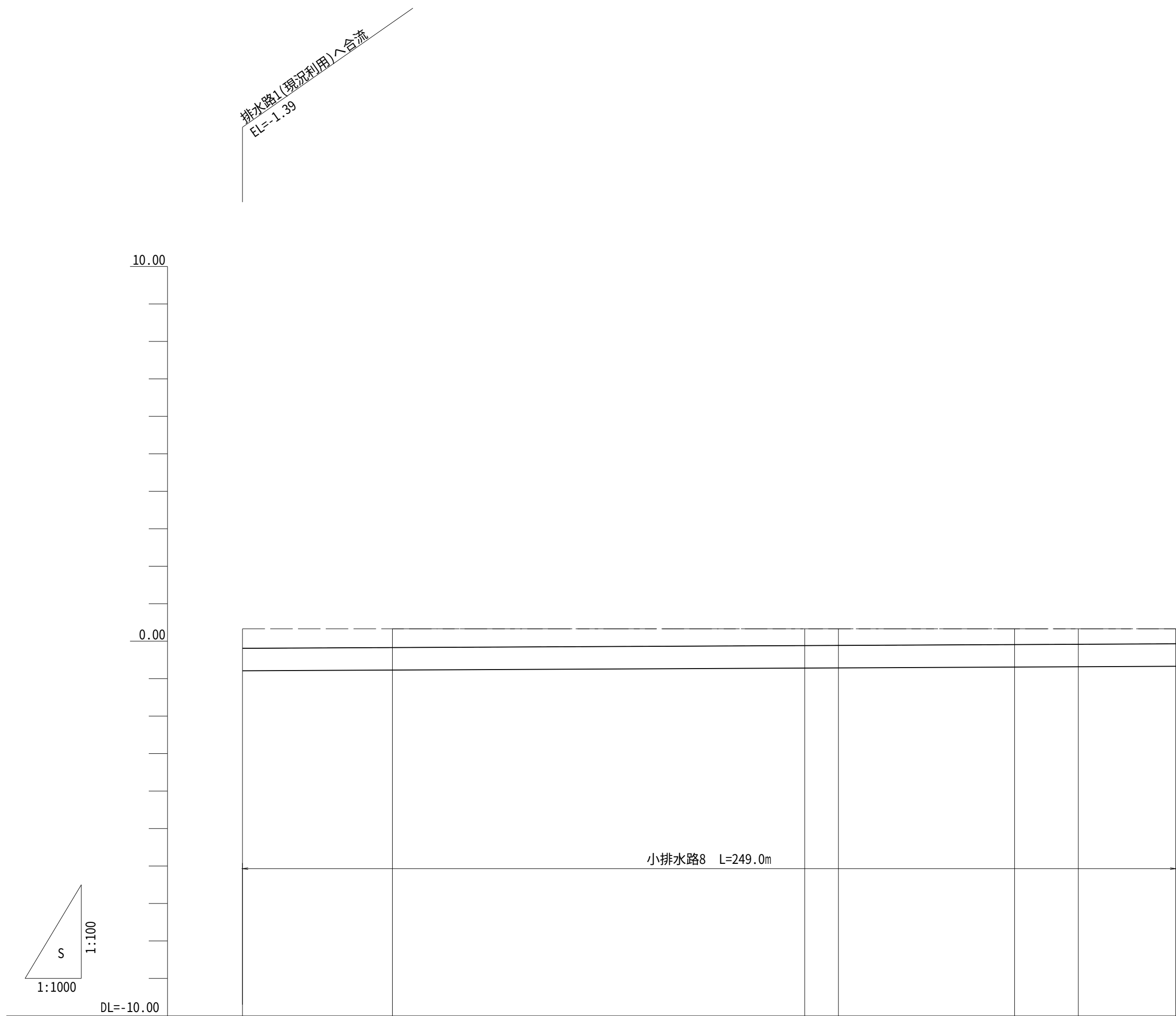
S=1:20



内面 溶剤形エポキシ樹脂塗料0.5mm
外面(埋設部) ポリウレタン被覆2.0mm
(露出部) ポリウレタン被覆2.0mm

工事名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図面名	用水路工 水路横断工構造図(2/2)		
作成年月			
縮尺	S=1:20	図面番号	11 - 2/2
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

排水路工 計画縦断面図(1/2)

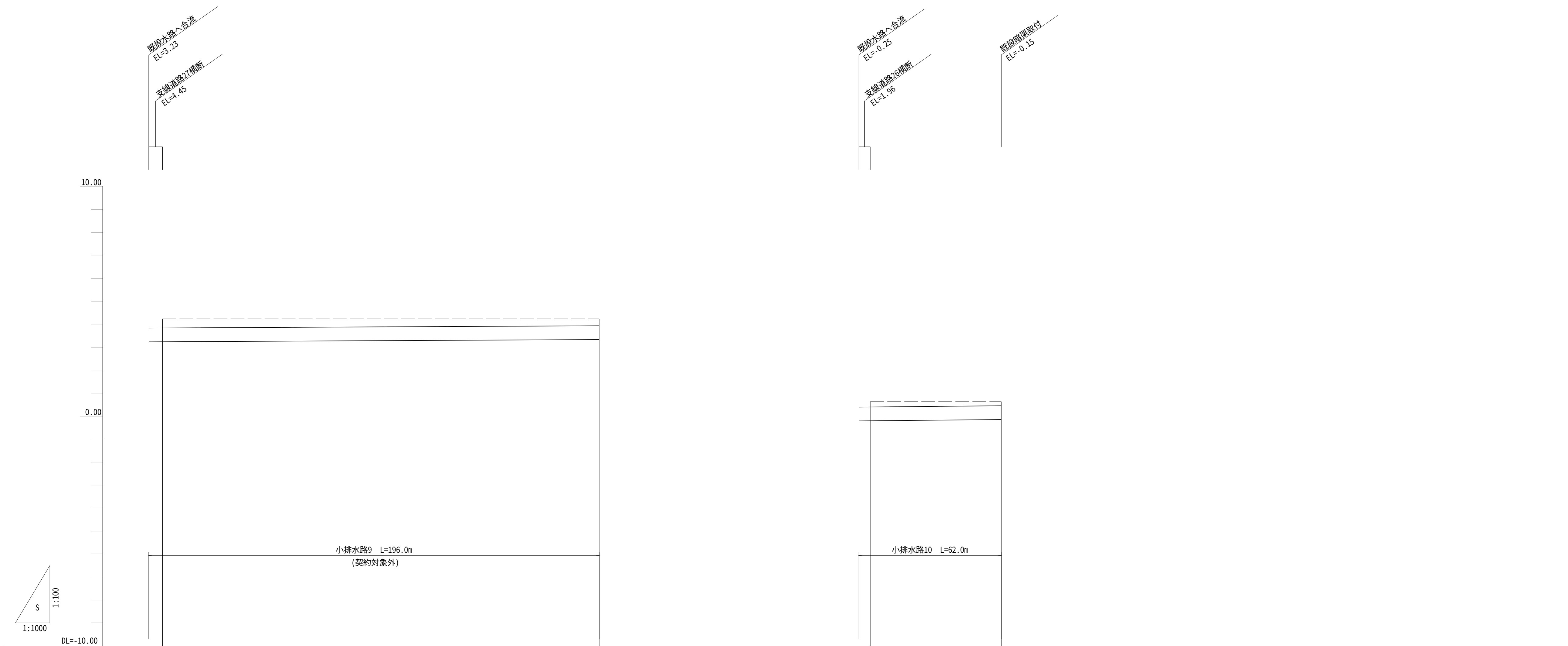


勾 配									
水路断面									
H.W.L	-0.19	-0.19	-0.17	-0.12	-0.11	-0.09	-0.08	-0.07	
計画水路高	-0.79	-0.79	-0.77	-0.72	-0.71	-0.69	-0.68	-0.67	
右田面高	(調整池)			(27-3)0.33		(27-2)0.33		(27-1)0.33	
左田面高	(25-3)0.33			(25-2)0.33		(25-1)0.33			
追加距離	0.0	6.0	40.0	150.0	159.0	206.0	223.0	249.0	
単 距 離	0.0	6.0	34.0	110.0	9.0	47.0	17.0	26.0	
測 点									

凡 例	
右田面高	—— — —
左田面高	—— — —
水 路 高	—————
H.W.L	—— — —

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	排水路工 計画縦断面図(1/2)		
作成年月			
縮 尺	図示	図面番号	13 - 1/2
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

排水路工 計画縦断図(2/2)



勾 配	3.23 1/2000 L=196.0m 3.33		-0.21 1/1000 L=62.0m -0.15			
水路断面	HF400×600 L=196.0m (土羽なし)		HF400×600 L=62.0m (土羽なし)			
H.W.L	3.83 3.83 3.93		0.39 0.40 0.45			
計画水路高	3.23 3.23 3.33		-0.21 -0.21 -0.15			
右田面高						
左田面高	(56)4.23 (55)0.63					
追加距離	0.0 6.0 196.0		0.0 5.0 62.0			
単 距 離	0.0 6.0 190.0		0.0 5.0 57.0			
測 点						

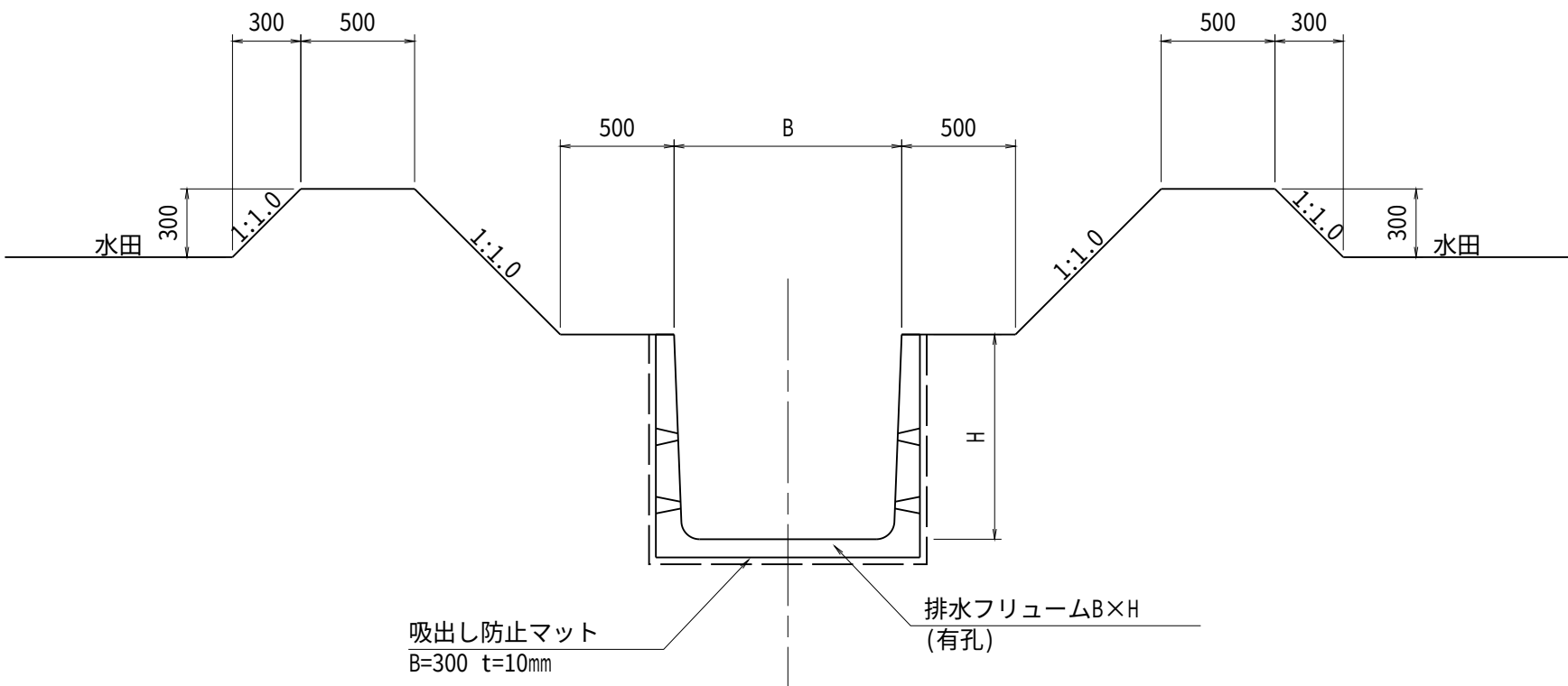
凡 例	
右田面高	—— — —
左田面高	—— — —
水 路 高	—————
H.W.L	—— — —

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	排水路工 計画縦断図(2/2)		
作成年月			
縮 尺	図示	図面番号	13 - 2/2
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

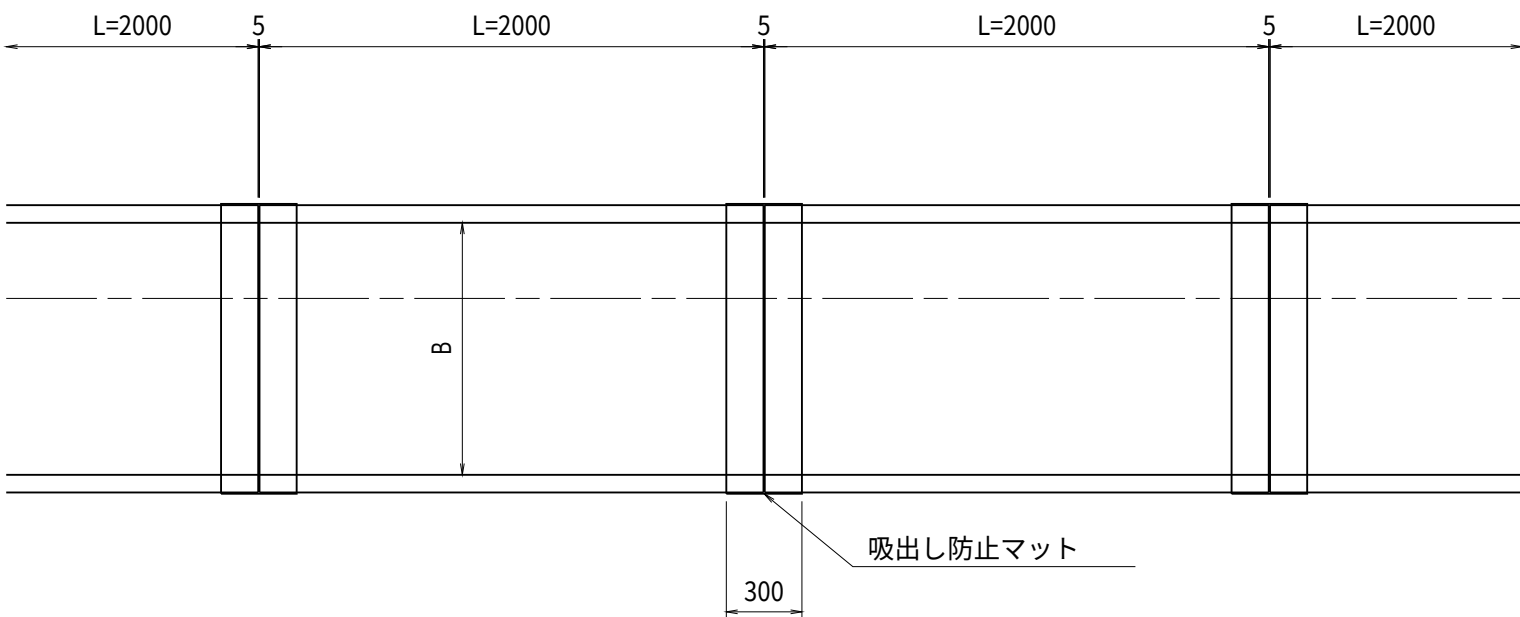
排水路工 標準断面図(1/2)

S=1:30

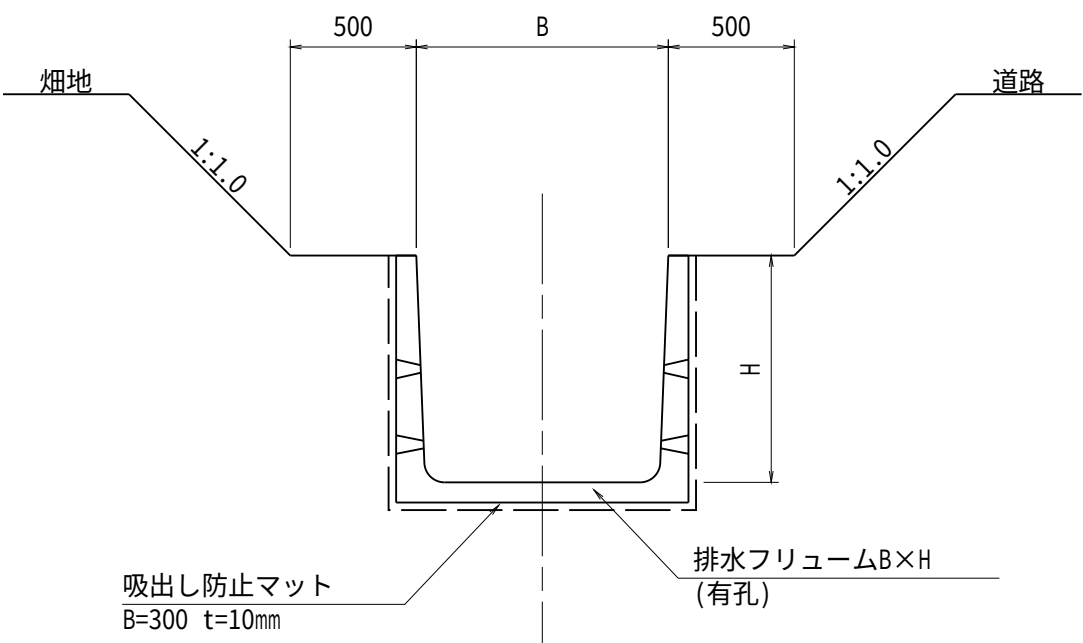
開渠 両側水田部



開渠 平面図



開渠 道路-畑地



特記事項

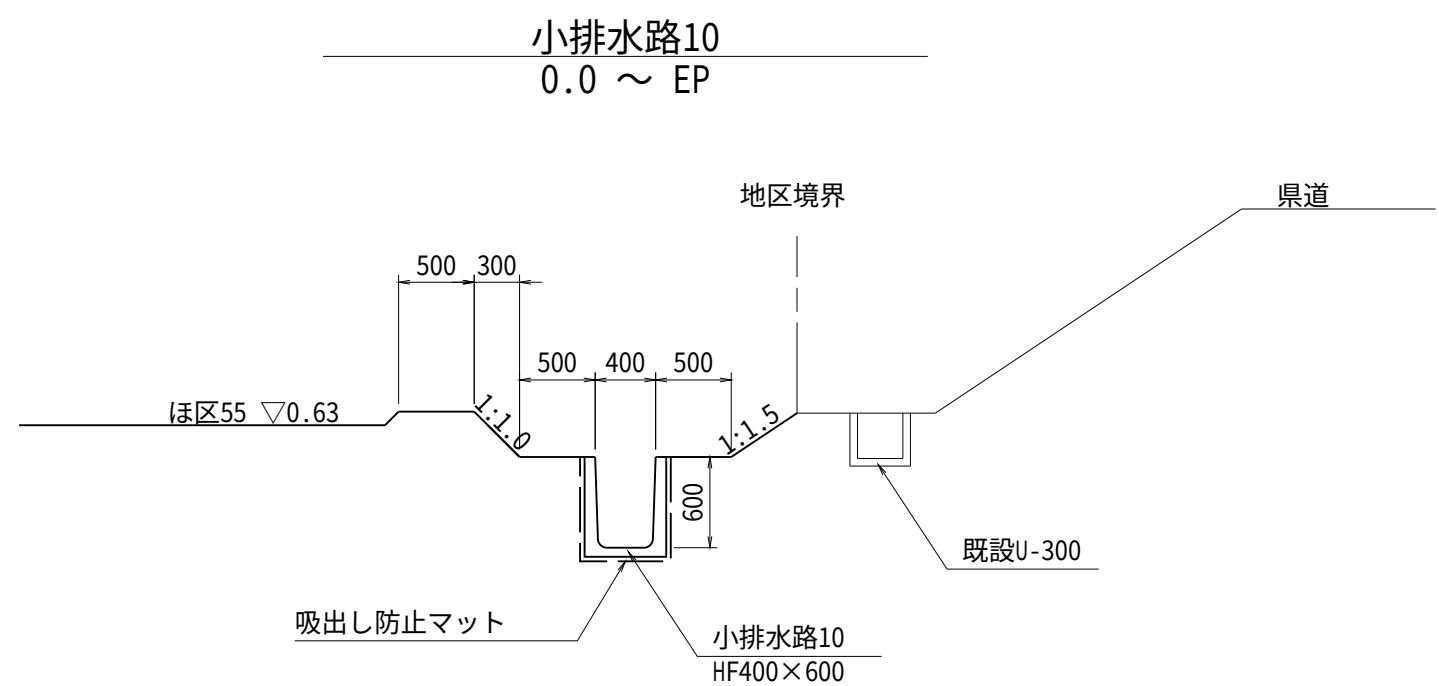
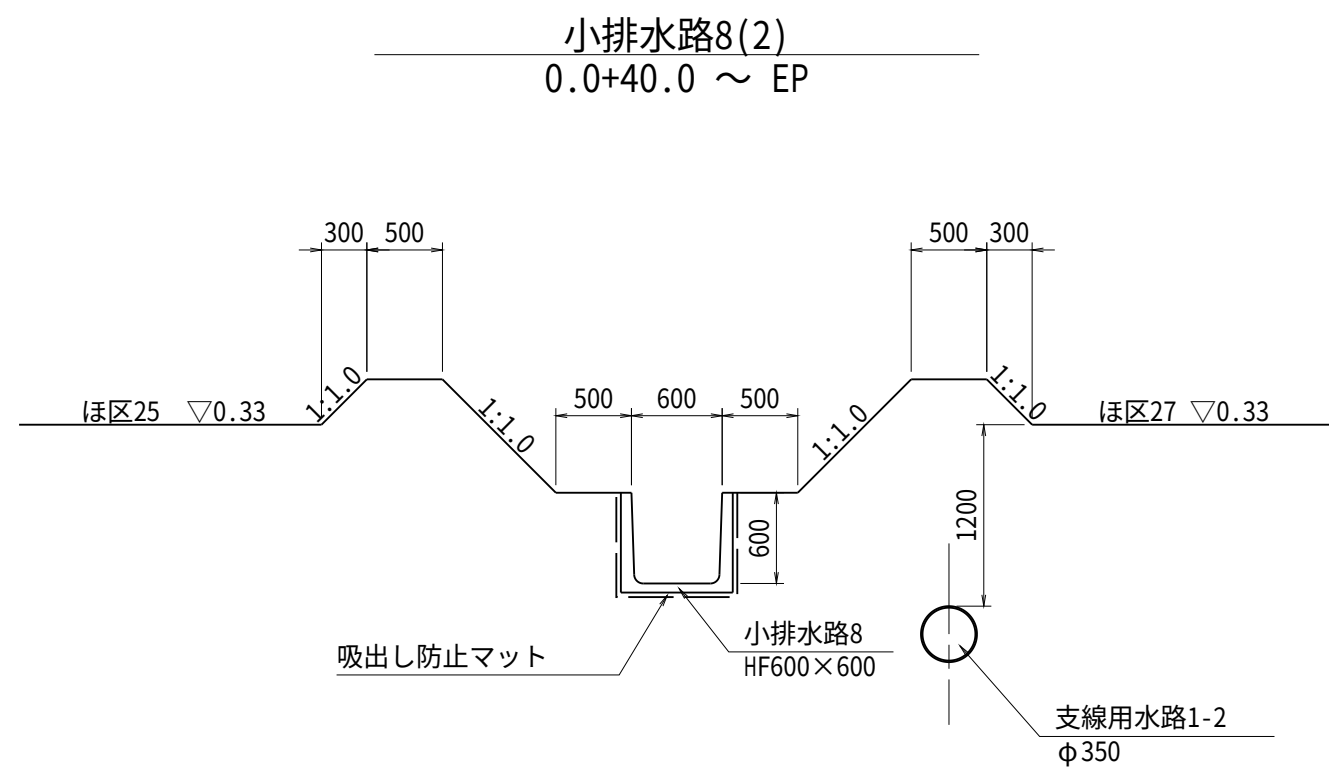
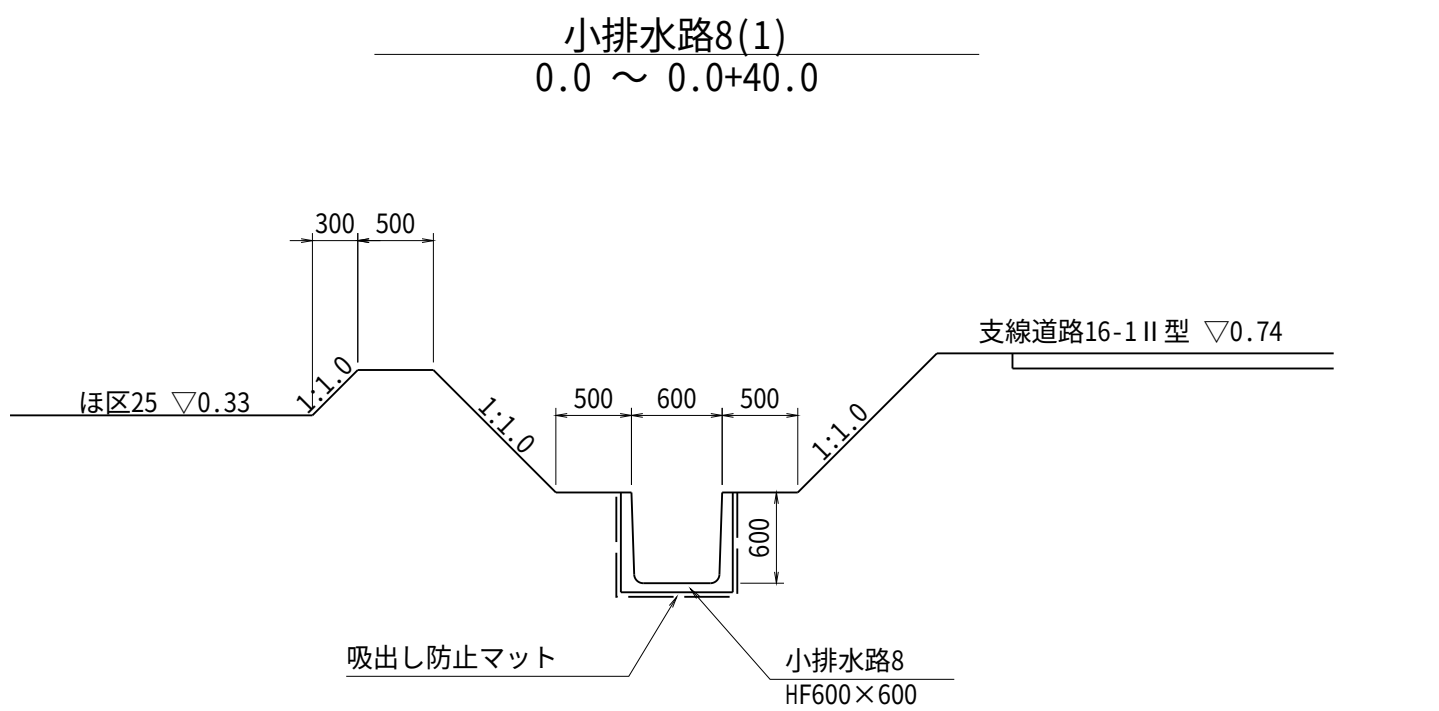
排水路側面の水抜き孔には、フィルターを設置すること。

排水路底面の水抜き孔には、吸出し防止マットを10cm角に切り設置すること。

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	排水路工 標準断面図(1/2)		
作成年月			
縮 尺	S=1:30	図面番号	14 - 1/2
会 社 名			
事業所名	関東農政局	茨城中部農地整備事業所	

排水路工 標準断面図(2/2)

S=1:50



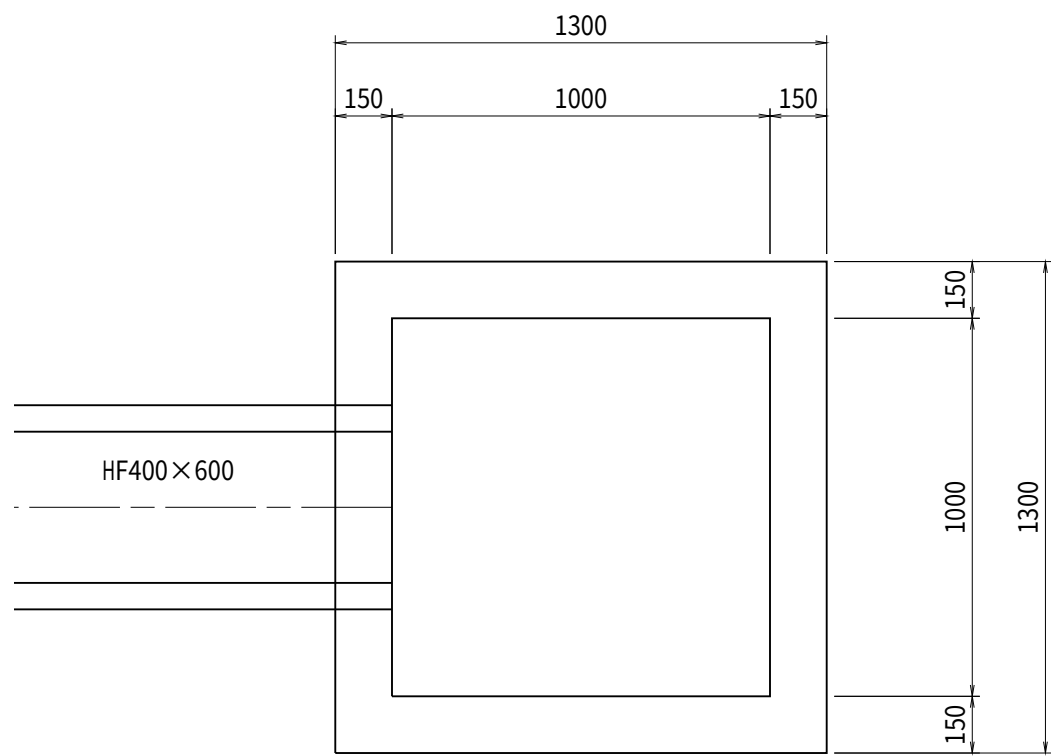
工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	排水路工 標準断面図(2/2)		
作成年月			
縮 尺	S=1:50	図面番号	14 - 2/2
会 社 名			
事業所名	関東農政局	茨城中部農地整備事業所	

排水路工 柵工標準図

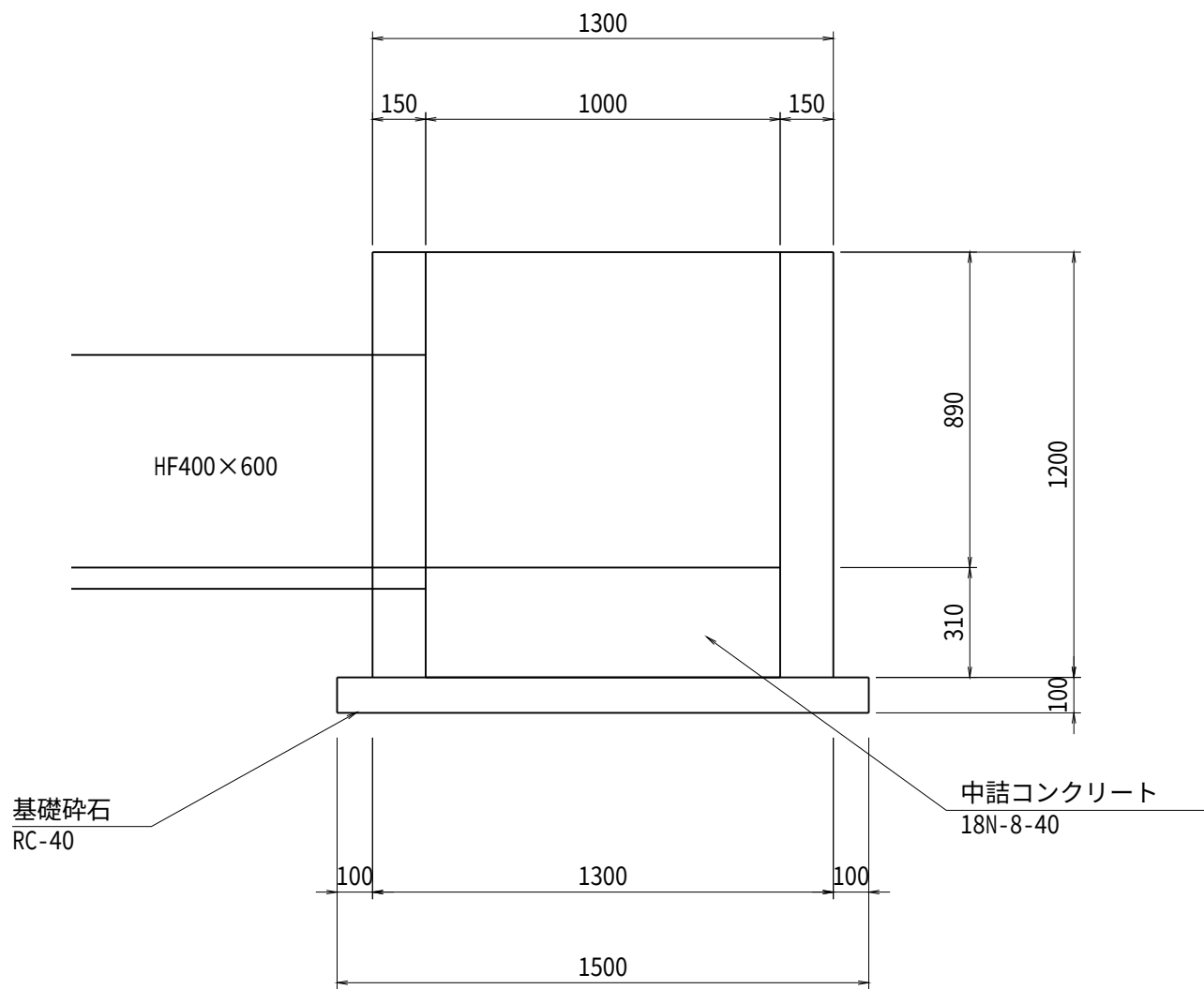
S=1:20

1000型(H1.2)

平面図



断面図



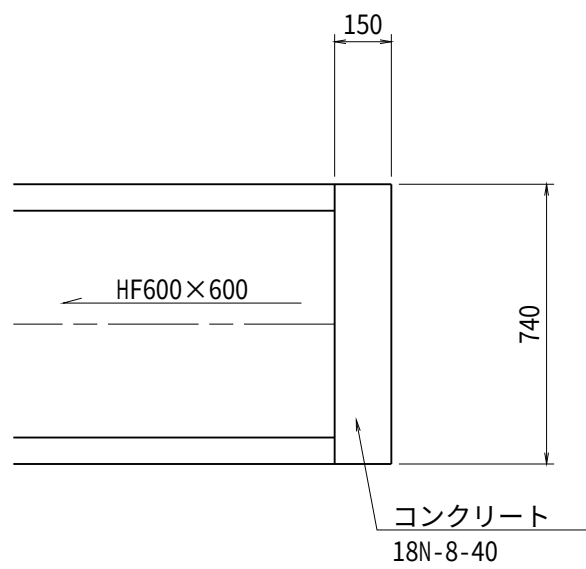
工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	排水路工 柵工標準図		
作成年月			
縮 尺	S=1:20	図面番号	15
会 社 名			
事業所名	関東農政局	茨城中部農地整備事業所	

末端処理工標準図

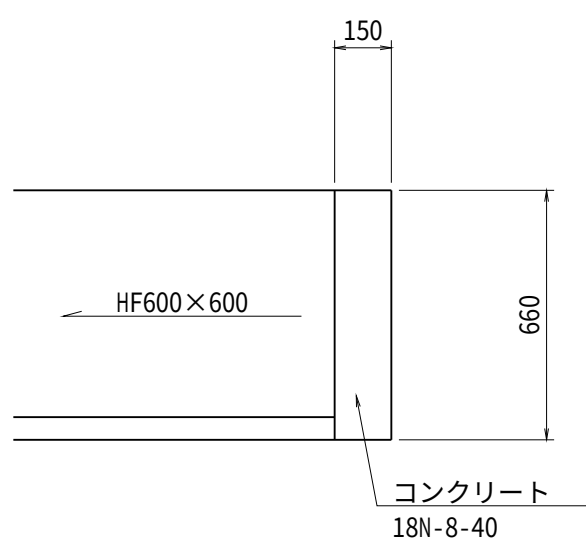
S=1:20

HF600×600

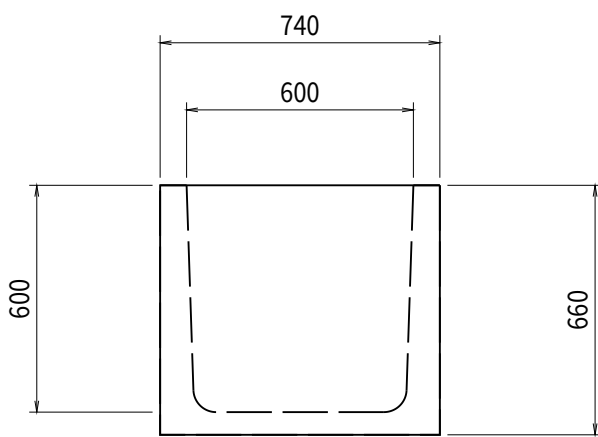
平面図



縦断面図



断面図

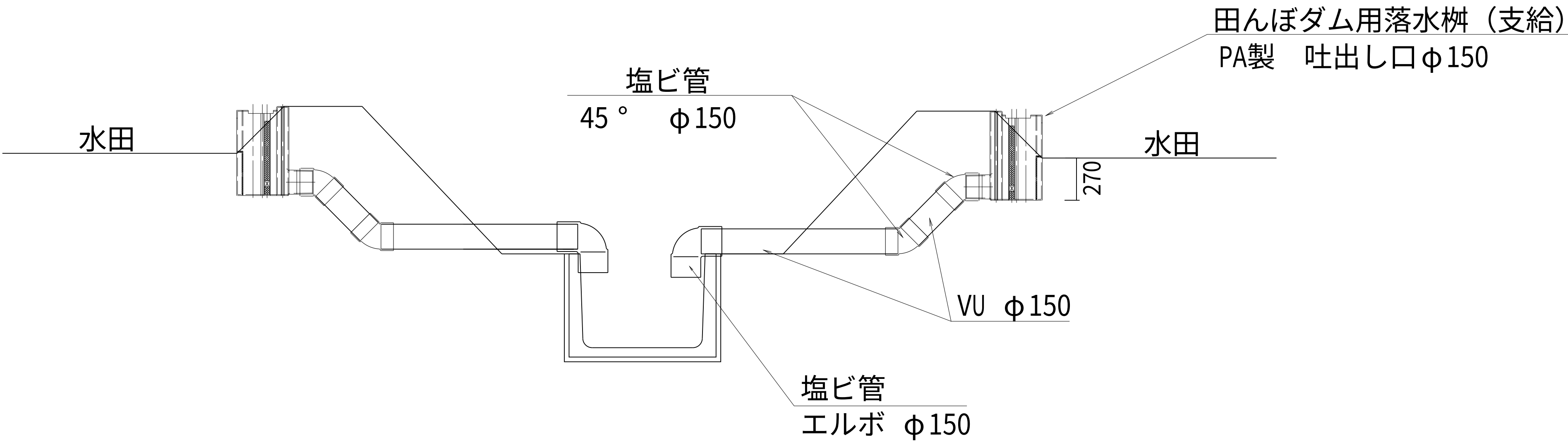


工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	末端処理工標準図		
作成年月			
縮 尺	S=1:20	図面番号	16
会 社 名			
事業所名	関東農政局	茨城中部農地整備事業所	

落水工標準図

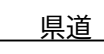
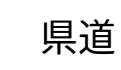
S=1:20

開水路形式排水路



工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	落水工標準図		
作成年月			
縮 尺	S=1:20	図面番号	17
会 社 名			
事業所名	関東農政局	茨城中部農地整備事業所	

小排10号取付工 S=1:50

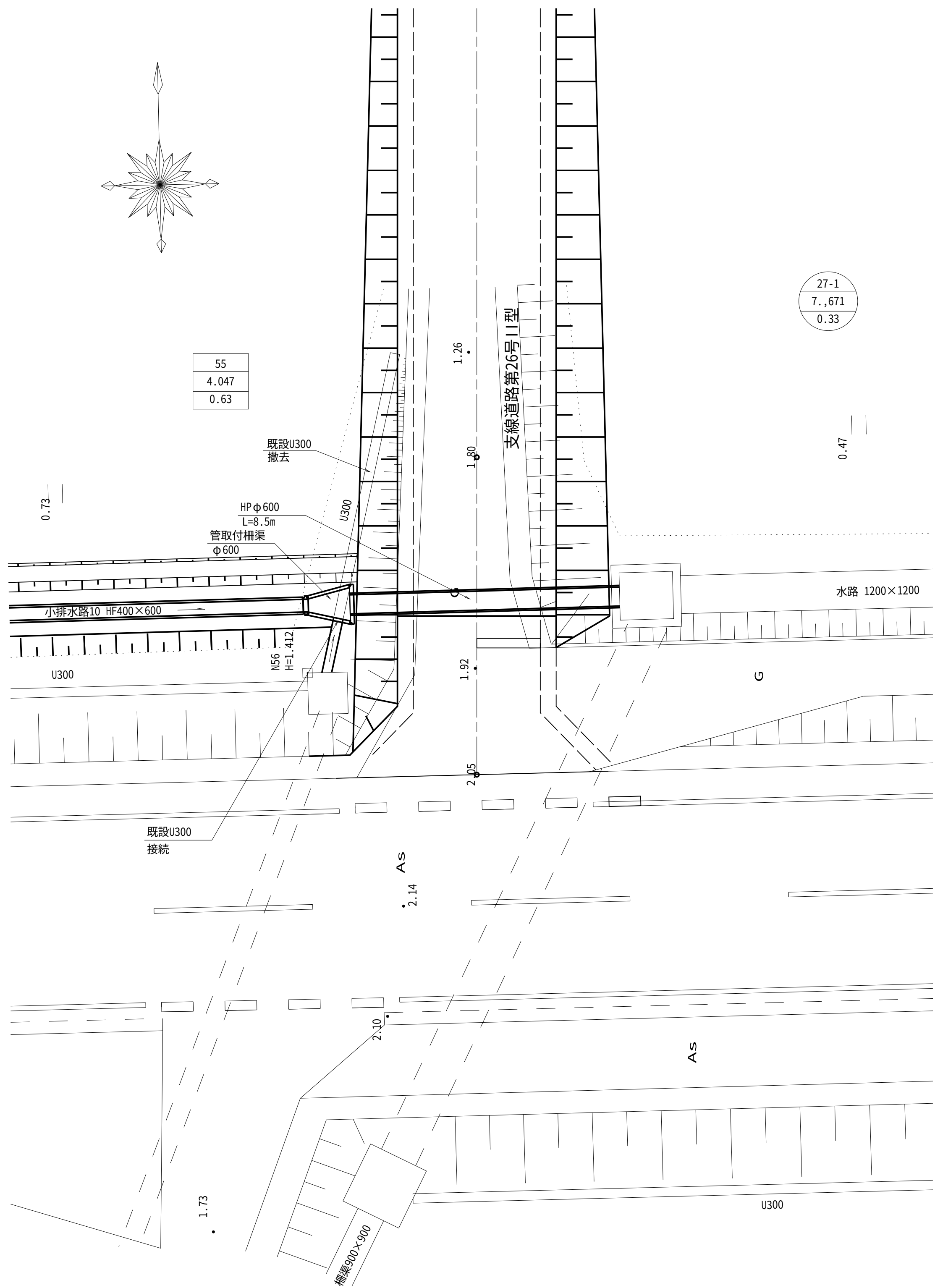


DL=-2.00

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬剥干拓団地海老沢沢1区區画整理の1工事		
図 面 名	排水路工 取付工構造図		
作成年月			
縮 尺	S=1:50	図面番号	18
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

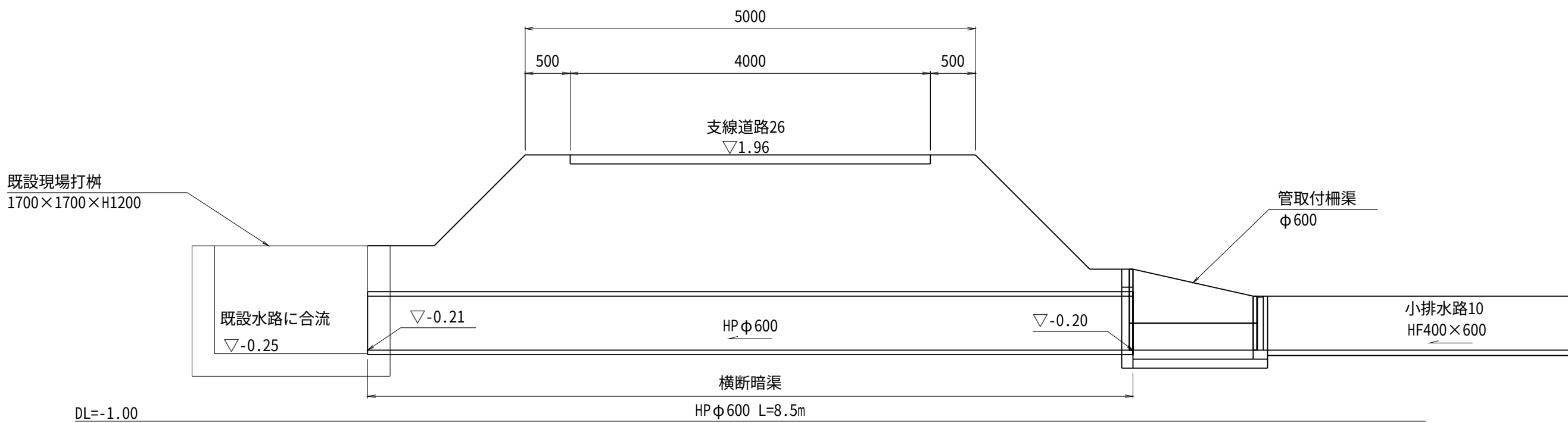
排水路工 道路横断工
小排10号道路横断工

平面図
S=1:100



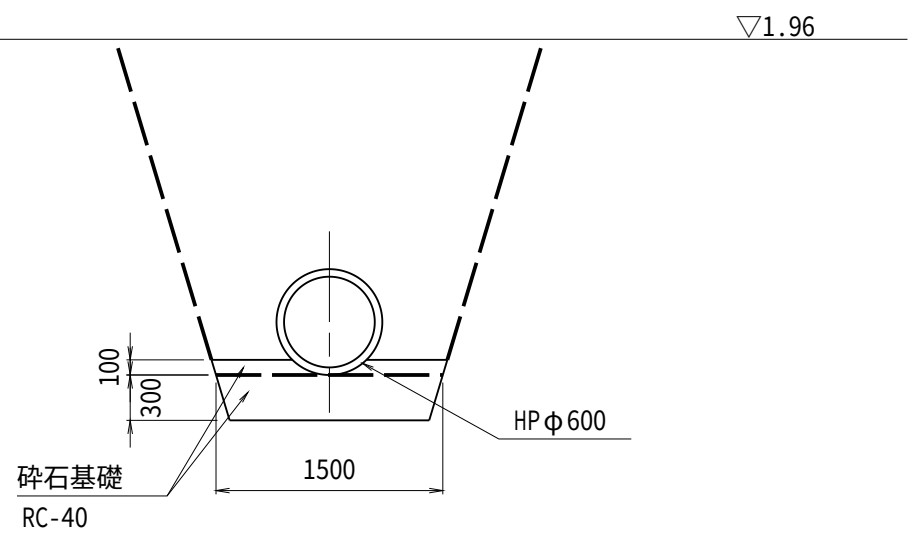
小排10号道路横断工

S=1:50

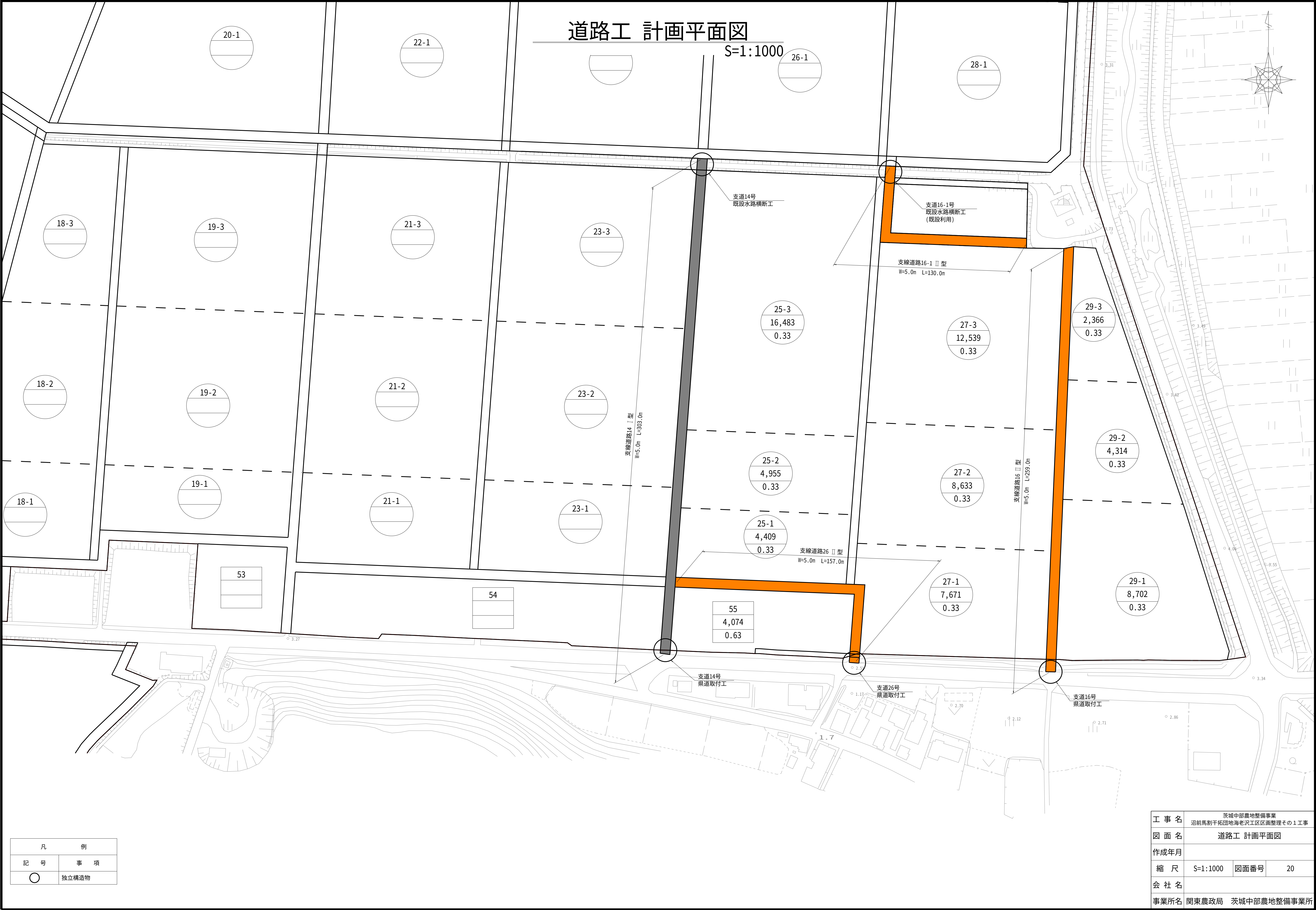


暗渠断面

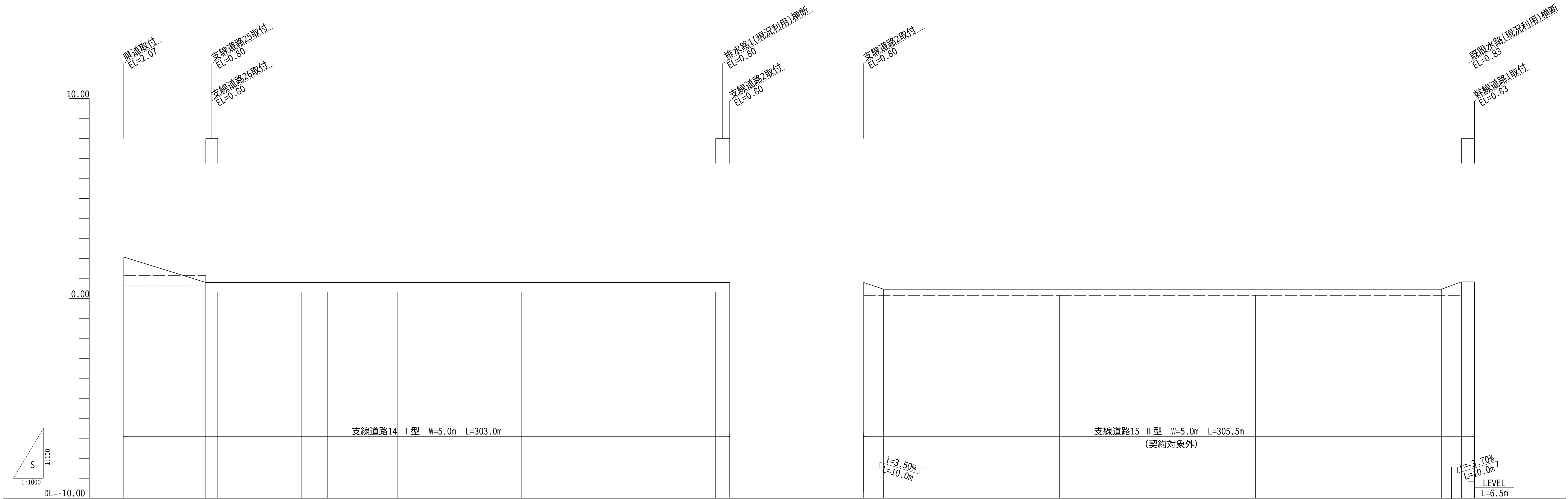
S=1:50



工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区區画整理その1工事		
図 面 名	排水路工 道路横断工		
作成年月			
縮 尺	図示	図面番号	19
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		



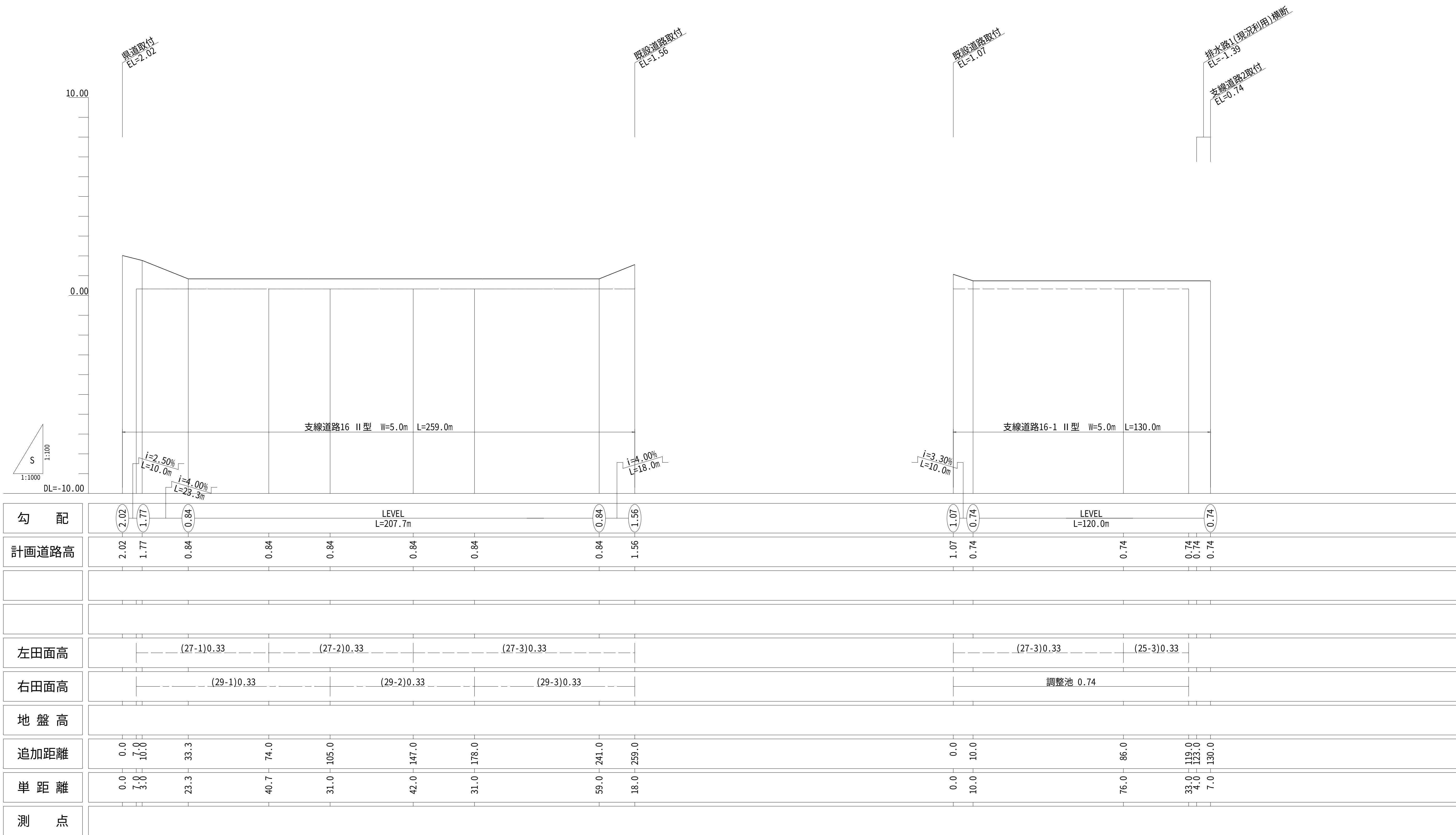
道路工 計画縦断面図(1/3)



凡 例	
計画道路高	———
現況地盤高	———
右田面高	———
左田面高	———

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓田地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	道路工 計画縦断面図(1/3)		
作成年月			
縮 尺	図示	図面番号	21 - 1/3
会 社 名			
事業所名	関東農政局	茨城中部農地整備事業所	

道路工 計画縦断面図(2/3)

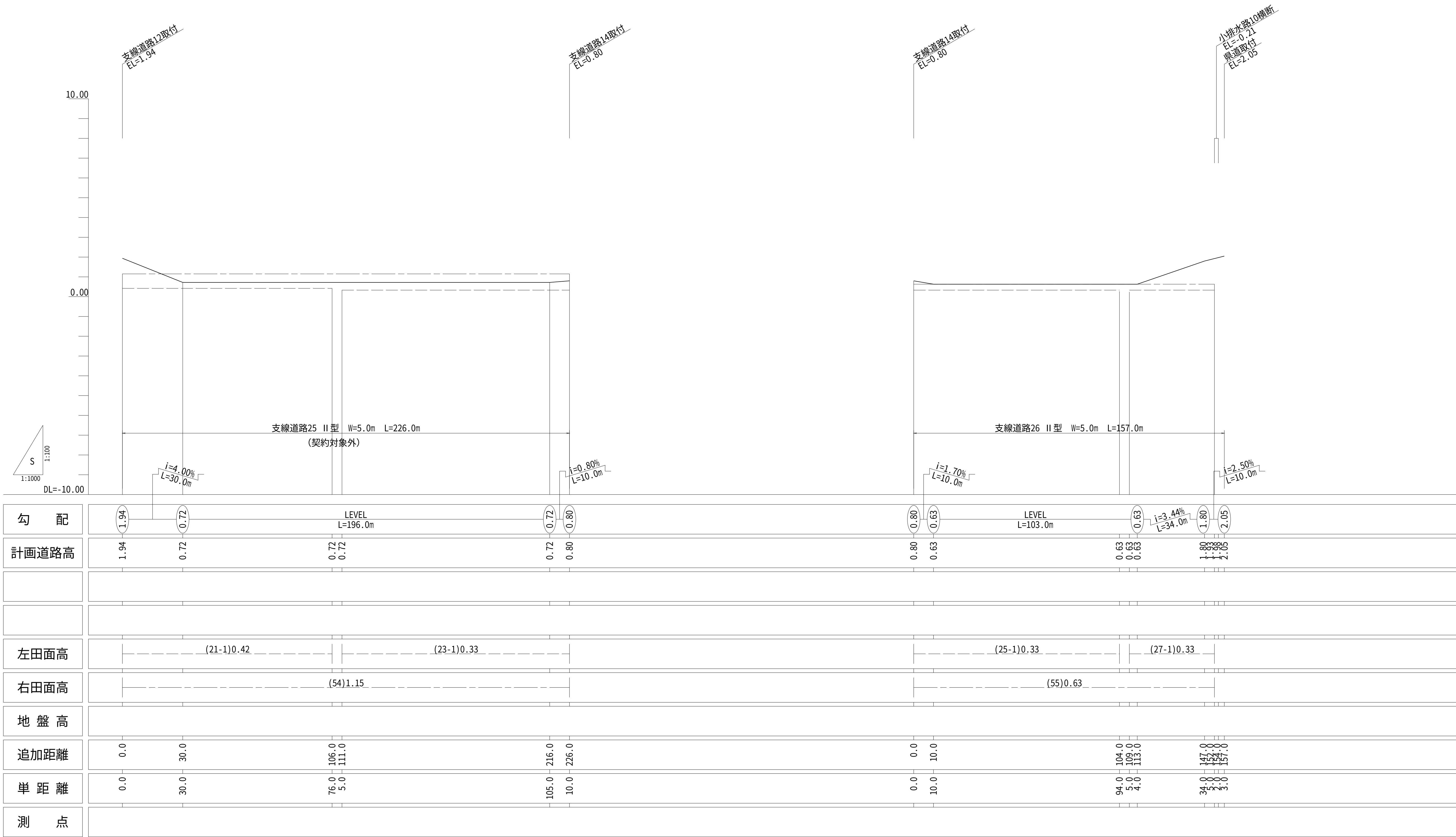


勾 配	LEVEL L=207.7m										LEVEL L=120.0m				
計画道路高	2.02	1.77	0.84	0.84	0.84	0.84	0.84	0.84	0.84	1.56	1.07	0.74	0.74	0.74	0.74
左田面高		(27-1)0.33	(27-2)0.33	(27-3)0.33							(27-3)0.33	(25-3)0.33			
右田面高		(29-1)0.33	(29-2)0.33	(29-3)0.33							調整池 0.74				
地 盤 高															
追加距離	0.0	7.0	33.3	74.0	105.0	147.0	178.0	241.0	259.0		0.0	10.0	86.0	119.0	130.0
単 距 離	0.0	7.0	23.3	40.7	31.0	42.0	31.0	59.0	18.0		0.0	10.0	76.0	33.0	7.0
測 点															

凡 例	
計画道路高	———
現況地盤高	———
右田面高	———
左田面高	———

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓田地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	道路工 計画縦断面図(2/3)		
作成年月			
縮 尺	図示	図面番号	21 - 2/3
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

道路工 計画縦断面図(3/3)



勾 配	1.94 0.72 LEVEL L=196.0m 0.72 0.80				0.80 0.63 LEVEL L=103.0m 0.63 1.80 2.05					
計画道路高	1.94	0.72	0.72	0.72	0.80	0.63	0.63	0.63	1.80	2.05
左田面高	(21-1)0.42				(23-1)0.33		(25-1)0.33		(27-1)0.33	
右田面高	(54)1.15				(55)0.63					
地 盤 高										
追加距離	0.0	30.0	106.0 111.0	216.0 226.0	0.0	10.0	104.0 109.0 113.0	147.0 152.0 154.0 157.0		
単 距 離	0.0	30.0	76.0 5.0	105.0 10.0	0.0	10.0	94.0 5.0 4.0	34.0 5.0 2.0 3.0		
測 点										

凡 例	
計画道路高	———
現況地盤高	———
右田面高	———
左田面高	———

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓田地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	道路工 計画縦断面図(3/3)		
作成年月			
縮 尺	図示	図面番号	21 - 3/3
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

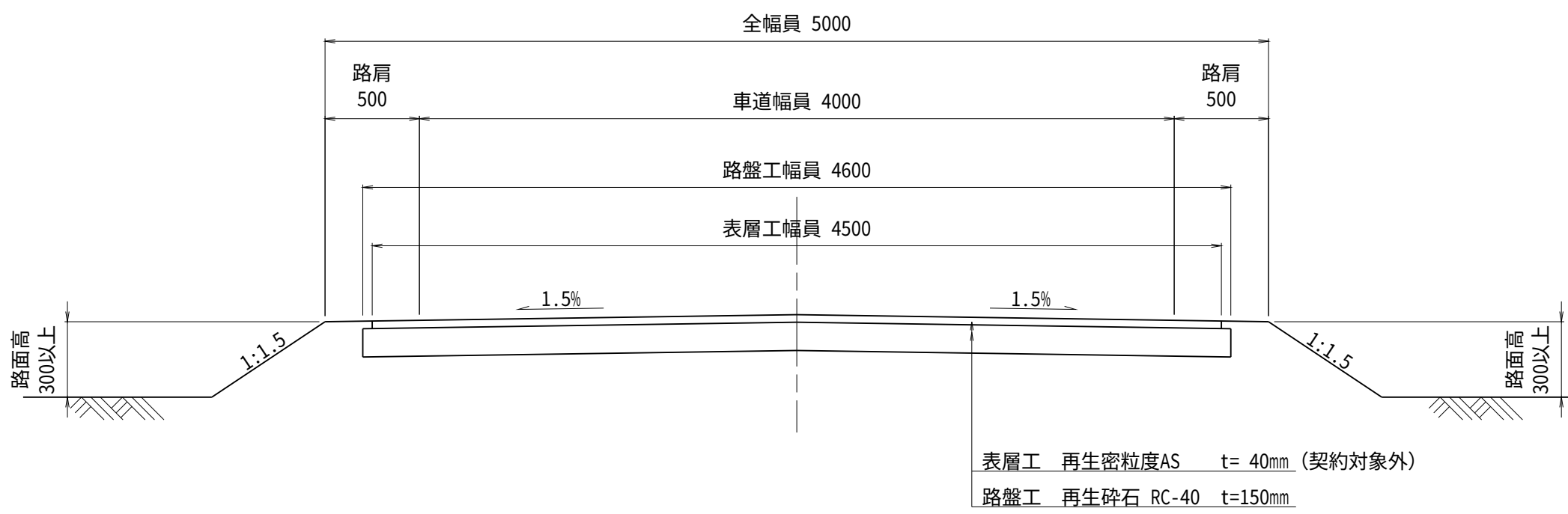
道路工 標準断面図(1/2)

S=1:30

道路工標準図

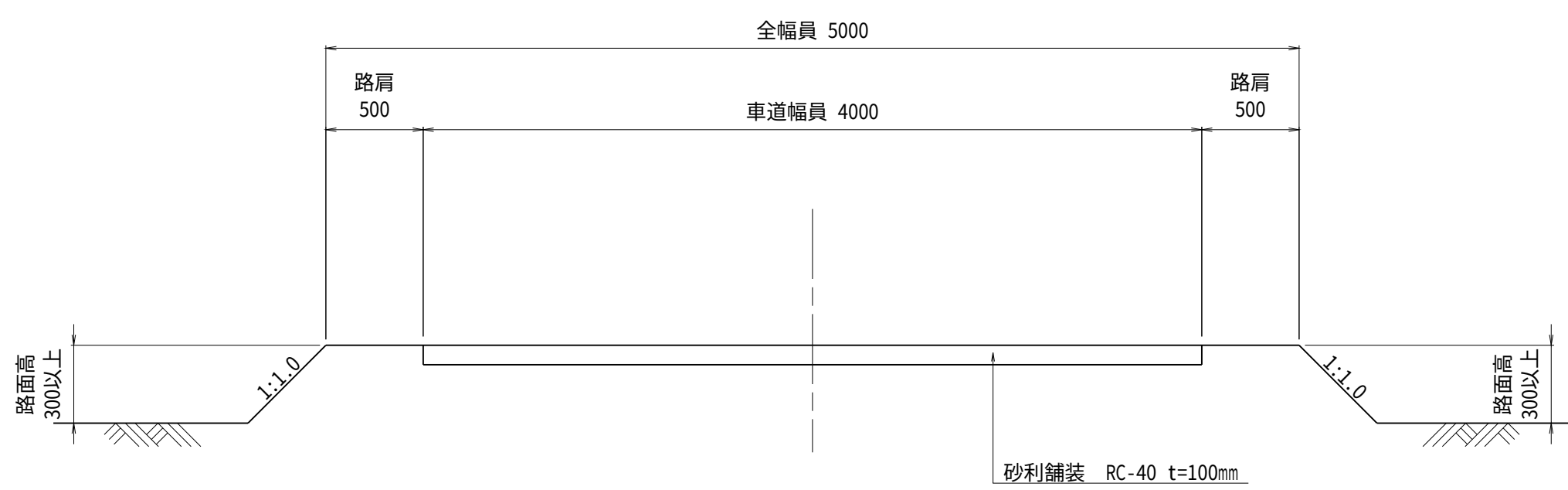
支線道路Ⅰ型

As舗装



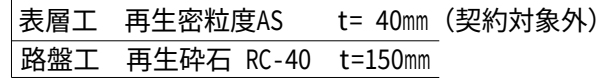
支線道路Ⅱ型

砂利舗装

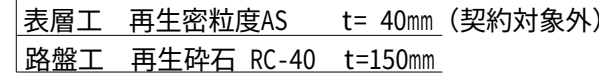


工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	道路工 標準断面図(1/2)		
作成年月			
縮 尺	S=1:30	図面番号	22 - 1/2
会 社 名			
事業所名	関東農政局	茨城中部農地整備事業所	

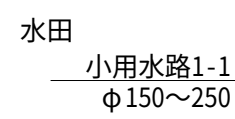
S=1:50

支線道路14 I 型(1)
0.0 ~ 0.0+41.0

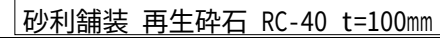
0.0+41.0 ~ EP



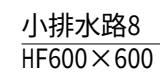
0.0 ~ EF



0.0 ~ 0.0+86.0



0.0+86.0 ~ EP

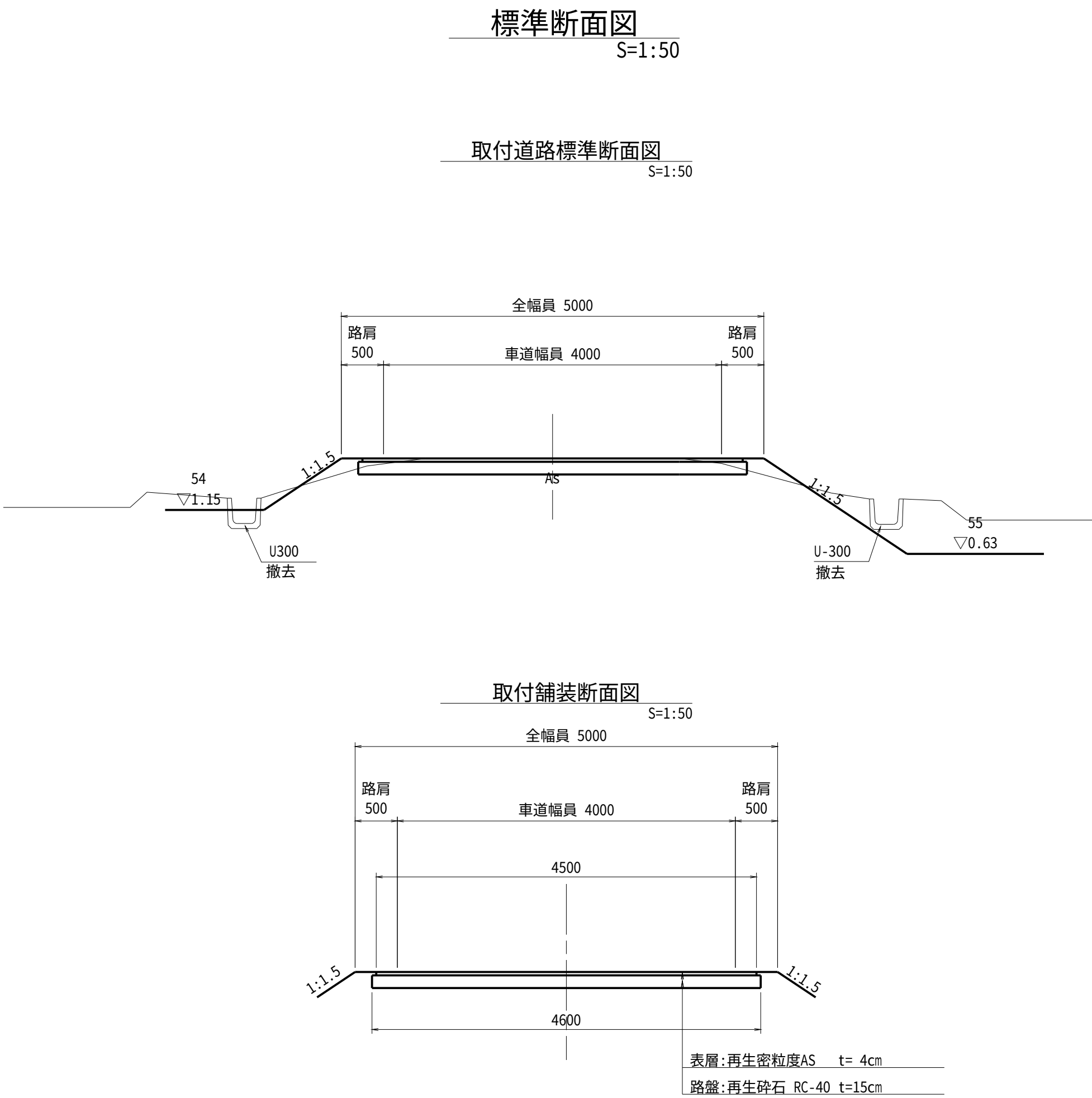
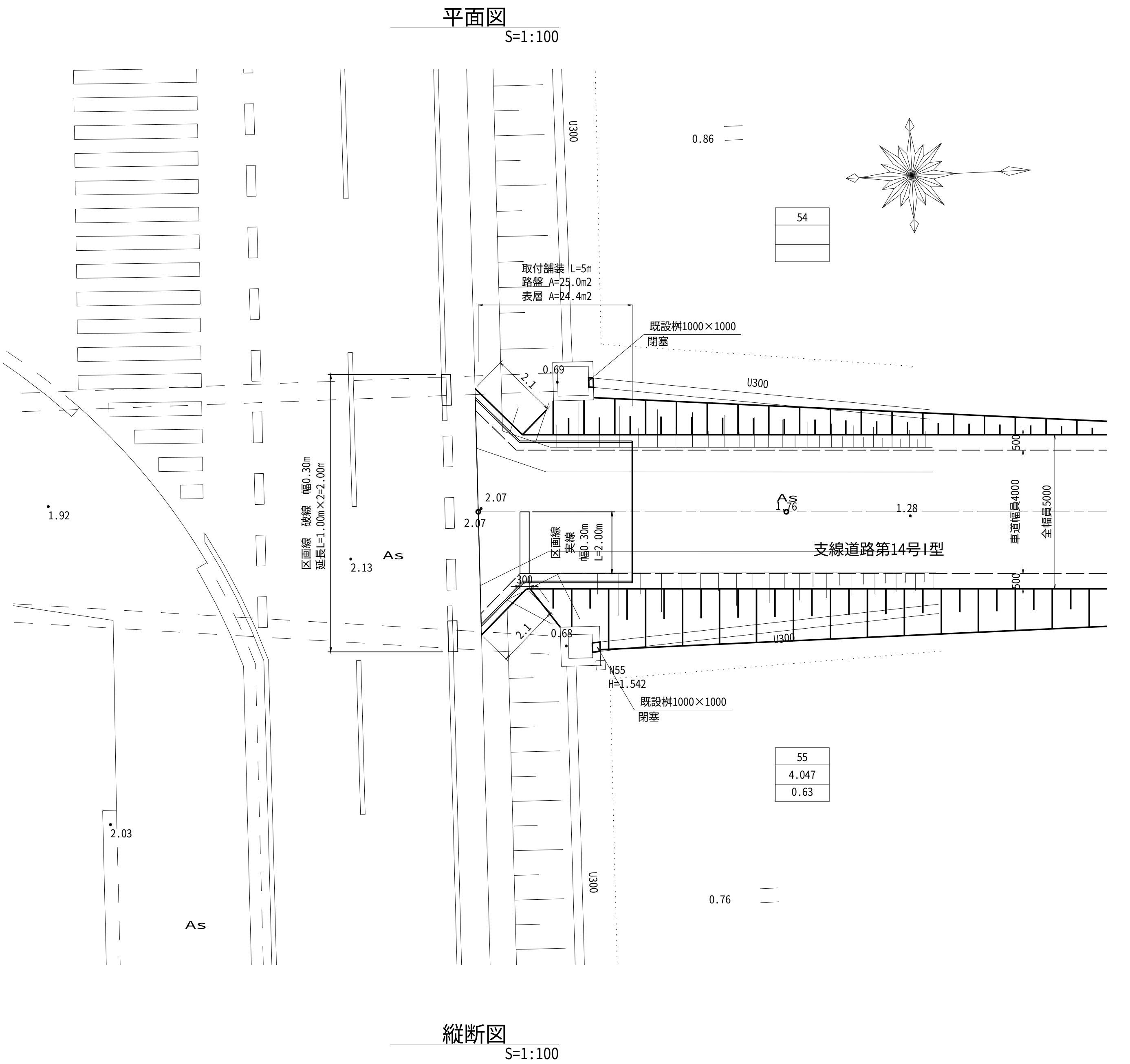


0.0 - 0.1 LF



工 事 名	茨城中部震地整備事業 沼前馬剣干拓団地海老沢工区區画整理そのⅠ工事		
図 面 名	道路工 標準断面図(2/2)		
作成年月			
縮 尺	S=1:50	図面番号	22 - 2/2
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部震地整備事業所		

道路工 取付工構造図(1/3)
支道14号県道取付工

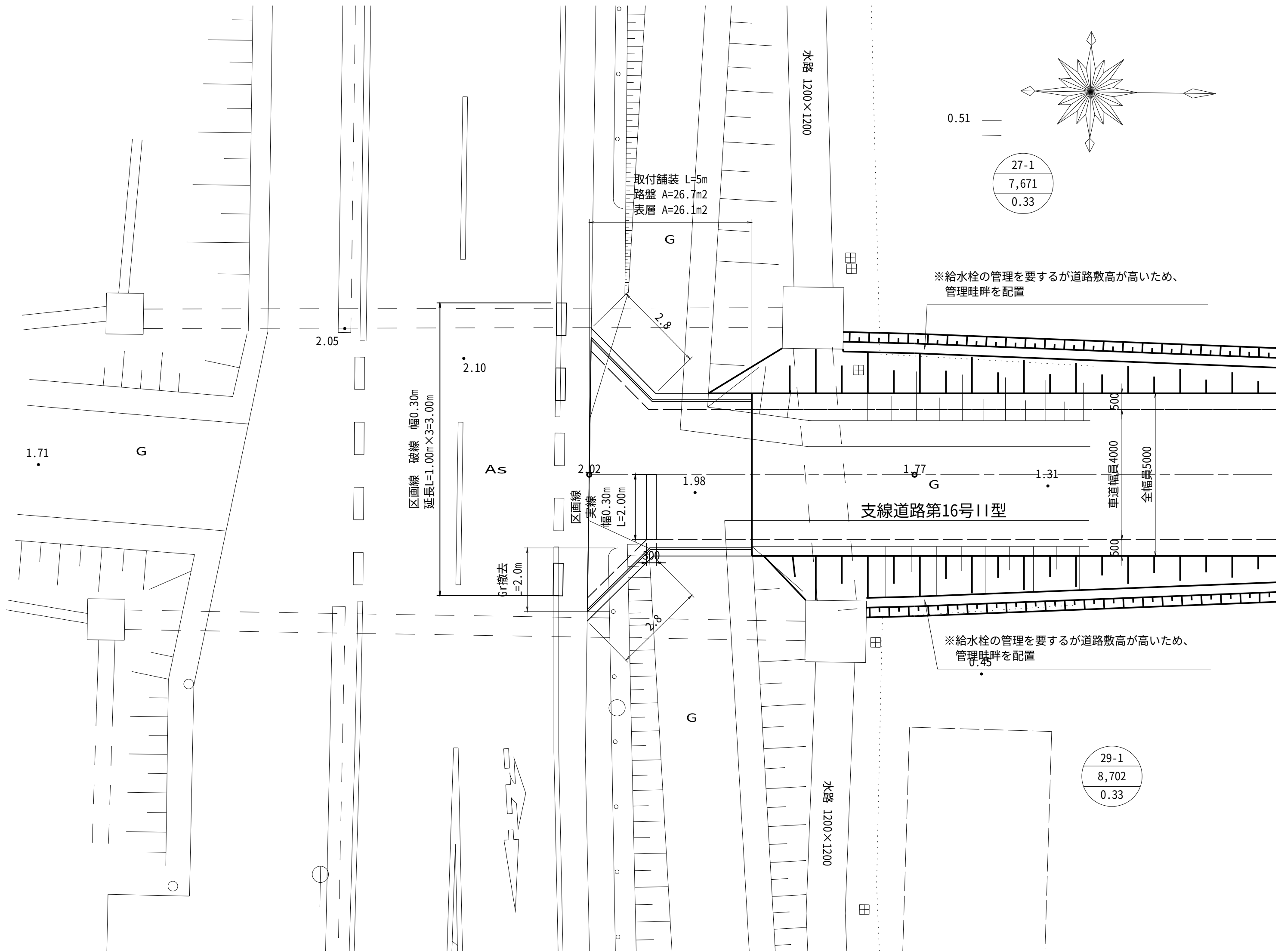


工 事 名	茨城中部農地整備事業		
図 面 名	沼前馬割干拓団地海老沢工区區画整理その1工事		
作成年月	道路工 取付工構造図(1/3)		
縮 尺	図示	図面番号	23 - 1/3
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

道路工 取付工構造図(2/3)
支道16号県道取付工

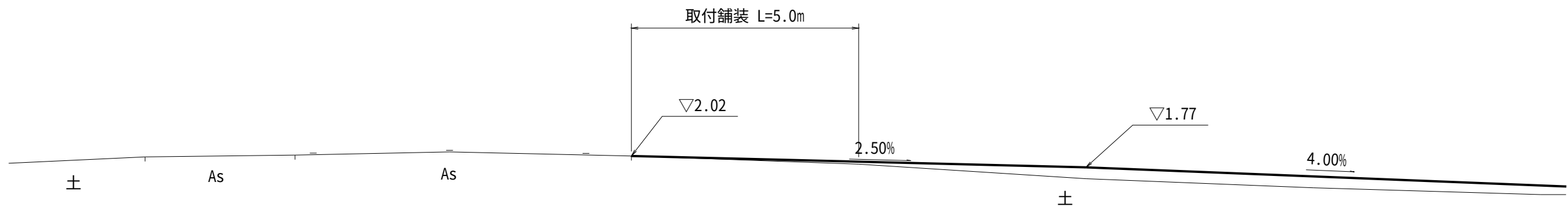
平面図

S=1:100



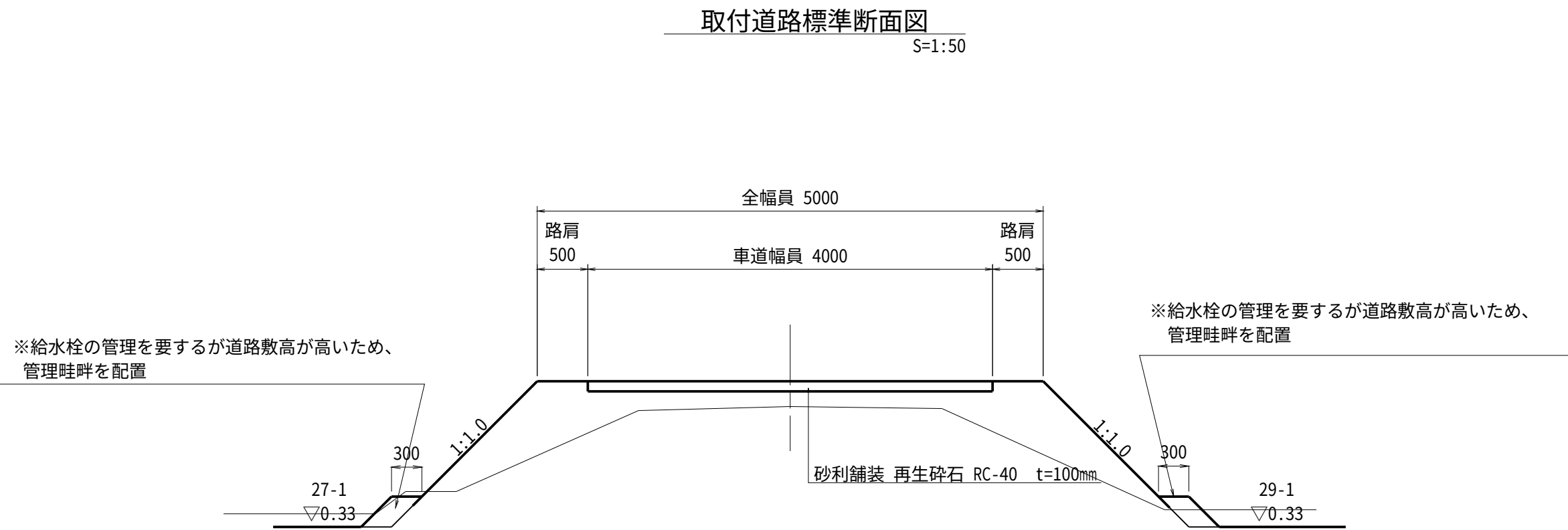
縦断面

S=1:100



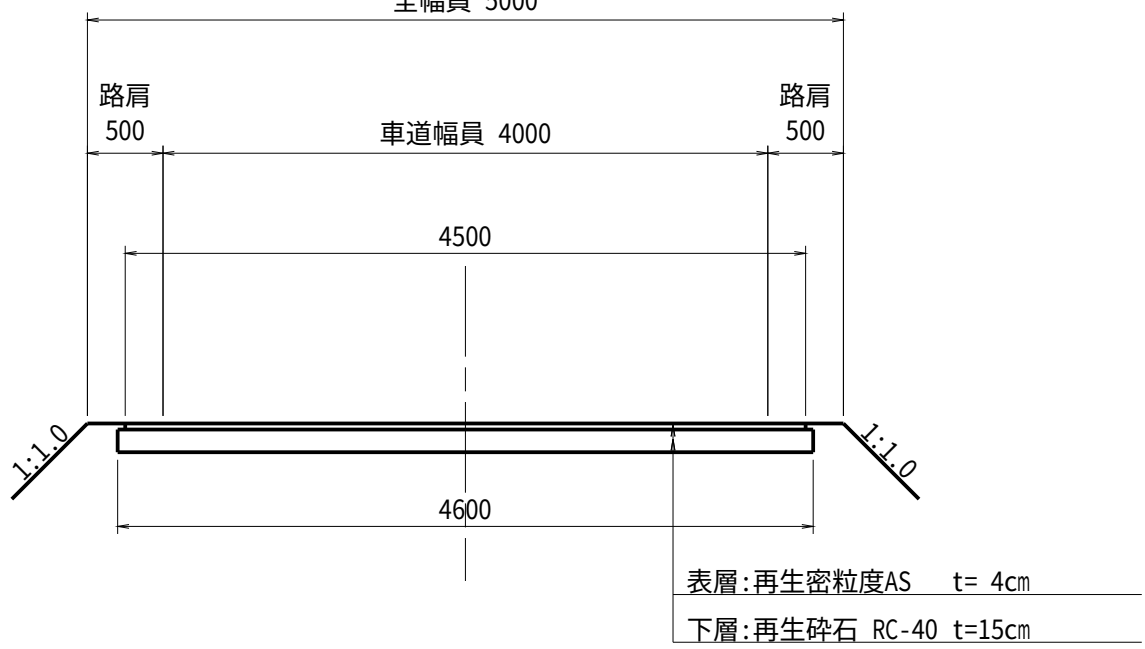
標準断面図

S=1:50



取付舗装断面図

S=1:50

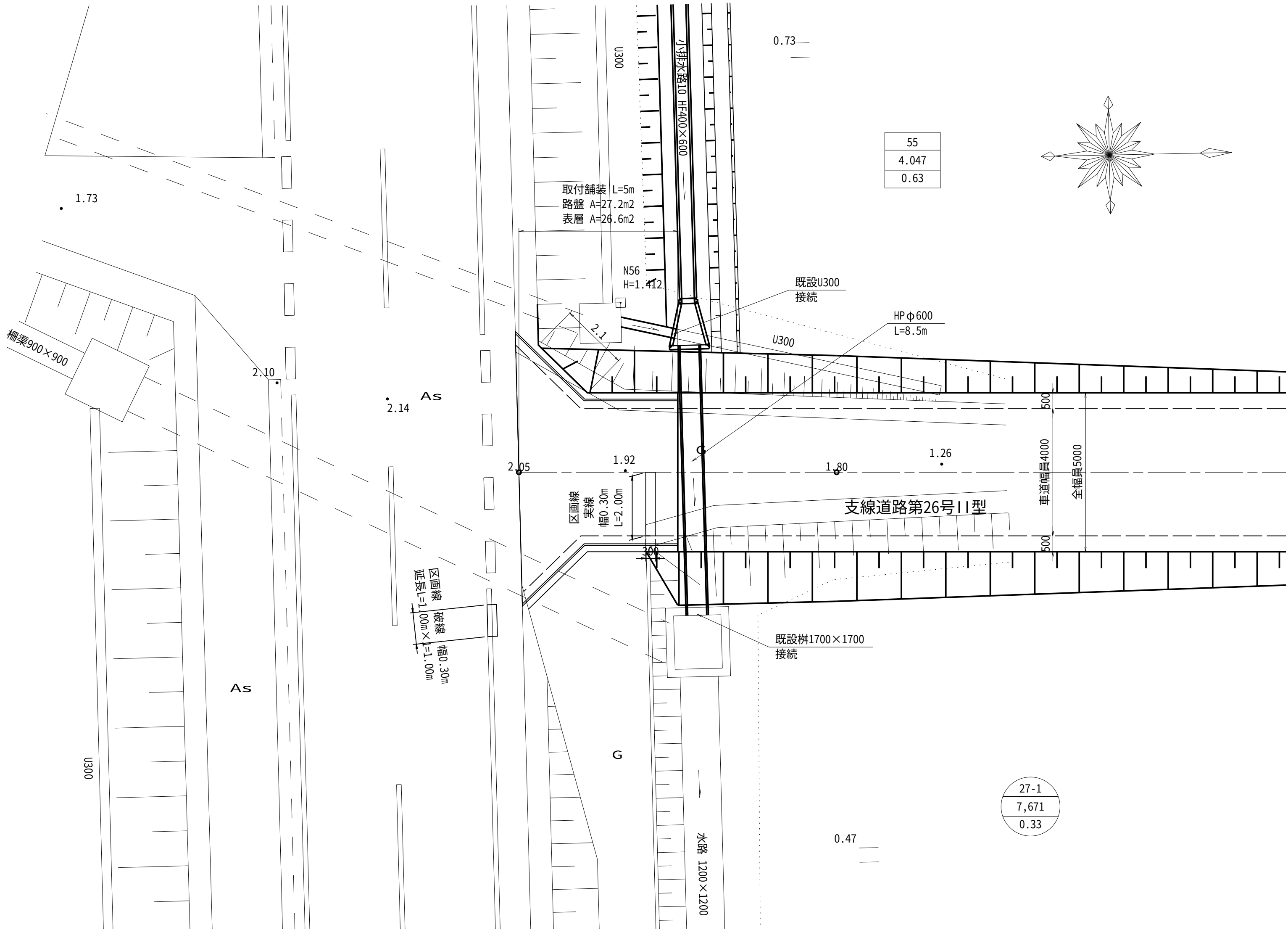


工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	道路工 取付工構造図(2/3)		
作成年月			
縮 尺	図示	図面番号	23 - 2/3
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

道路工 取付工構造図(3/3)
支道26号県道取付工

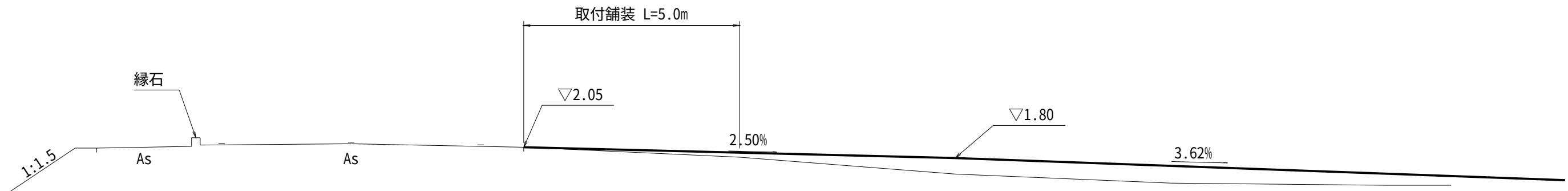
平面図

S=1:100



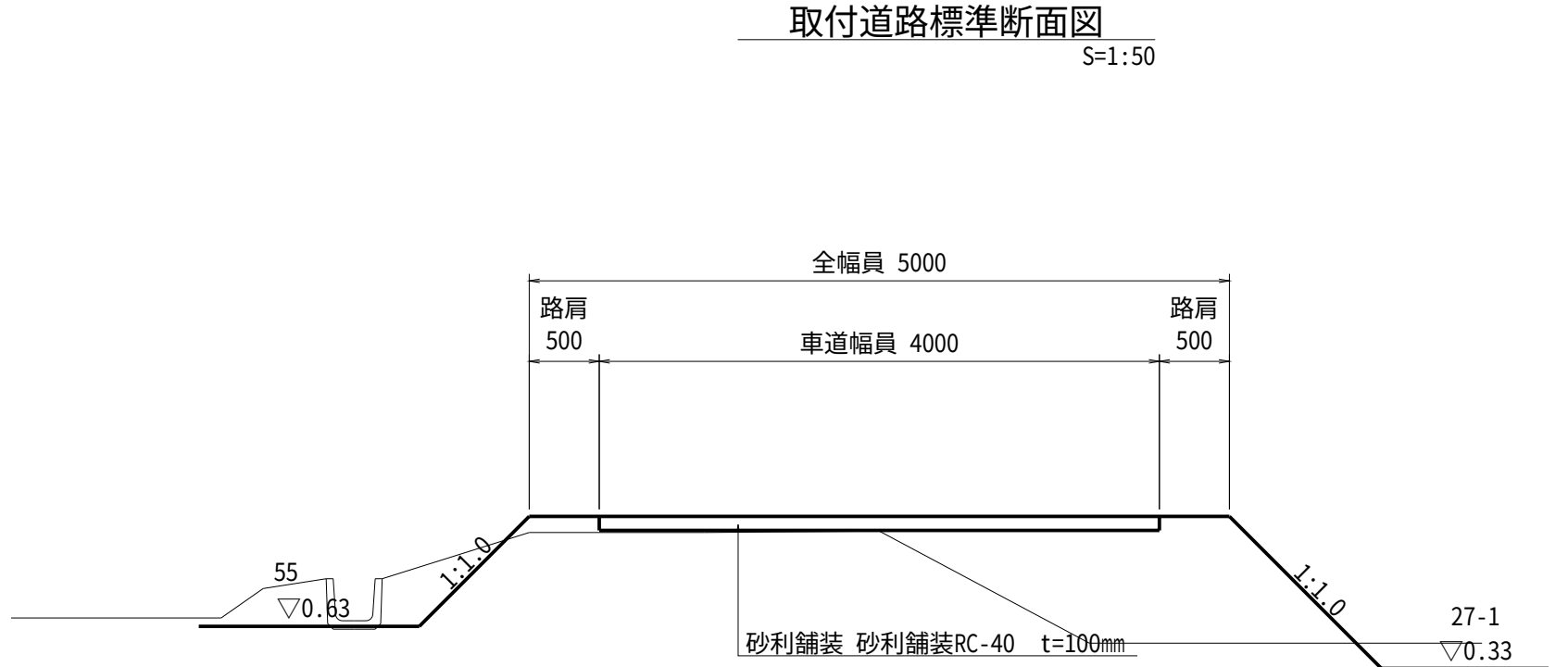
縦断面図

S=1:100



標準断面図

S=1:50

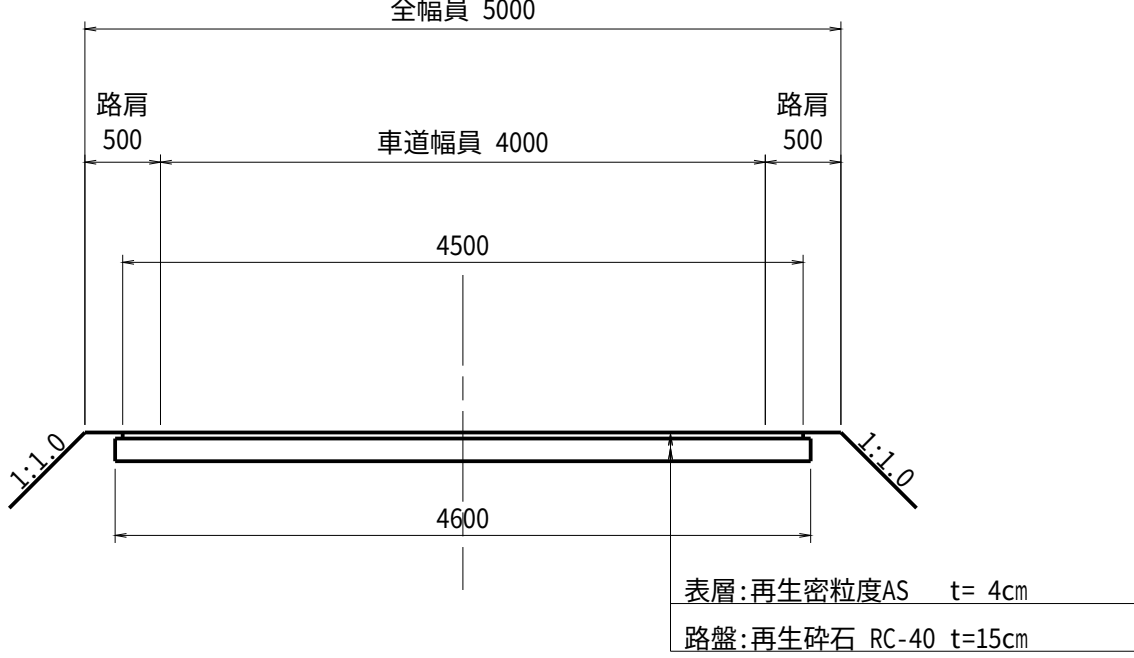


取付道路標準断面図

S=1:50

取付舗装断面図

S=1:50

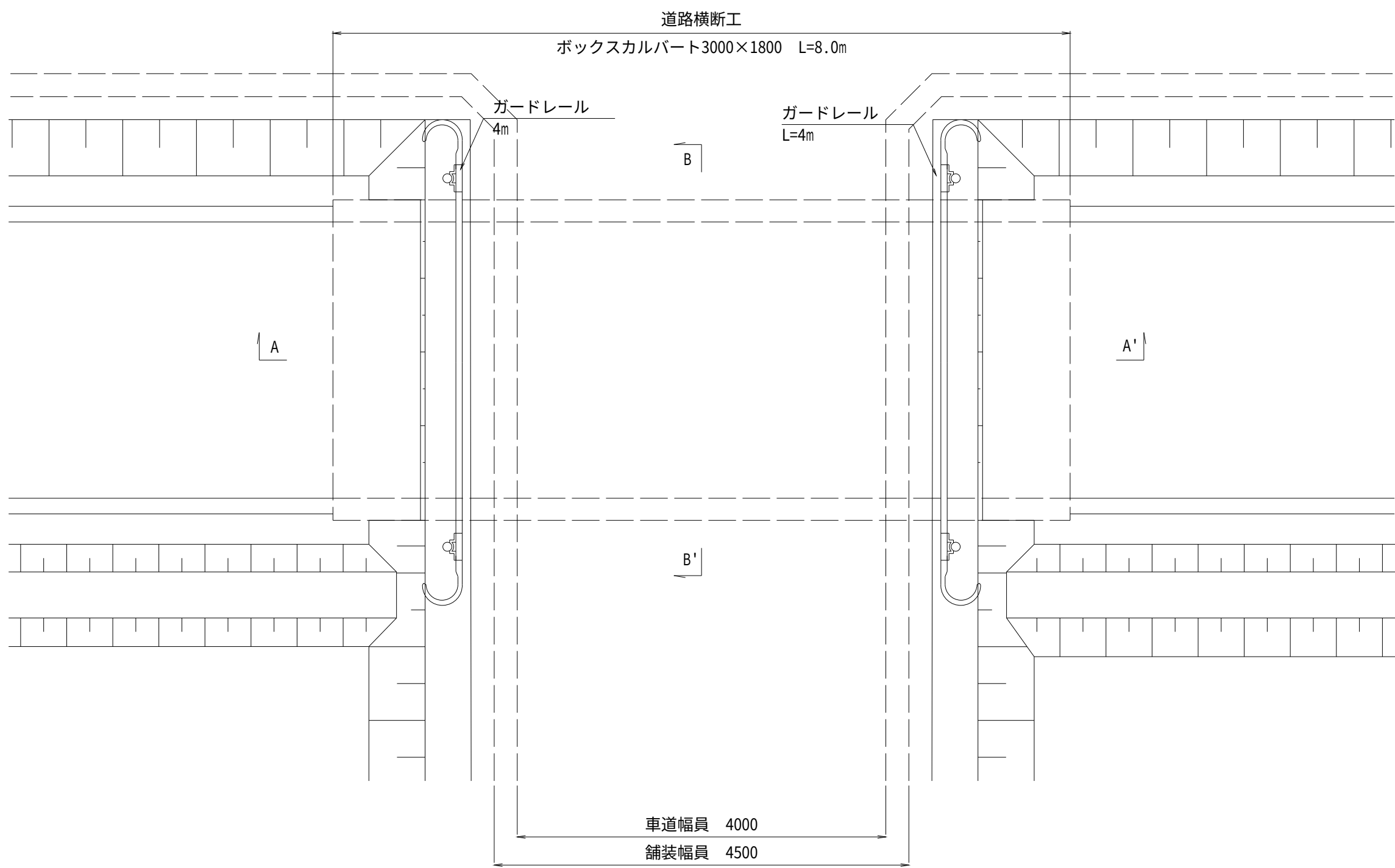


工事名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区區画整理その1工事		
図面名	道路工 取付工構造図(3/3)		
作成年月			
縮尺	図示	図面番号	23 - 3/3
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

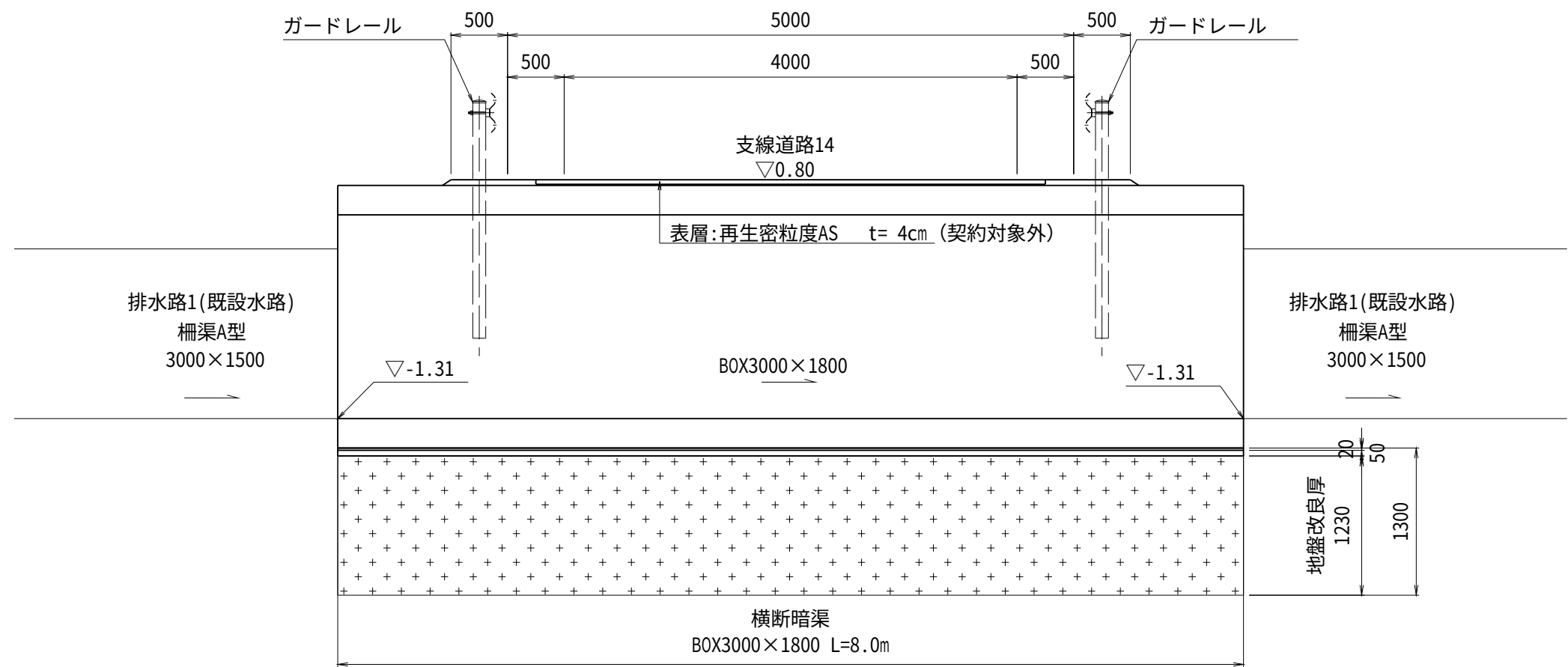
道路工 水路横断工構造図

支道14号既設水路横断工 S=1:50

平面図

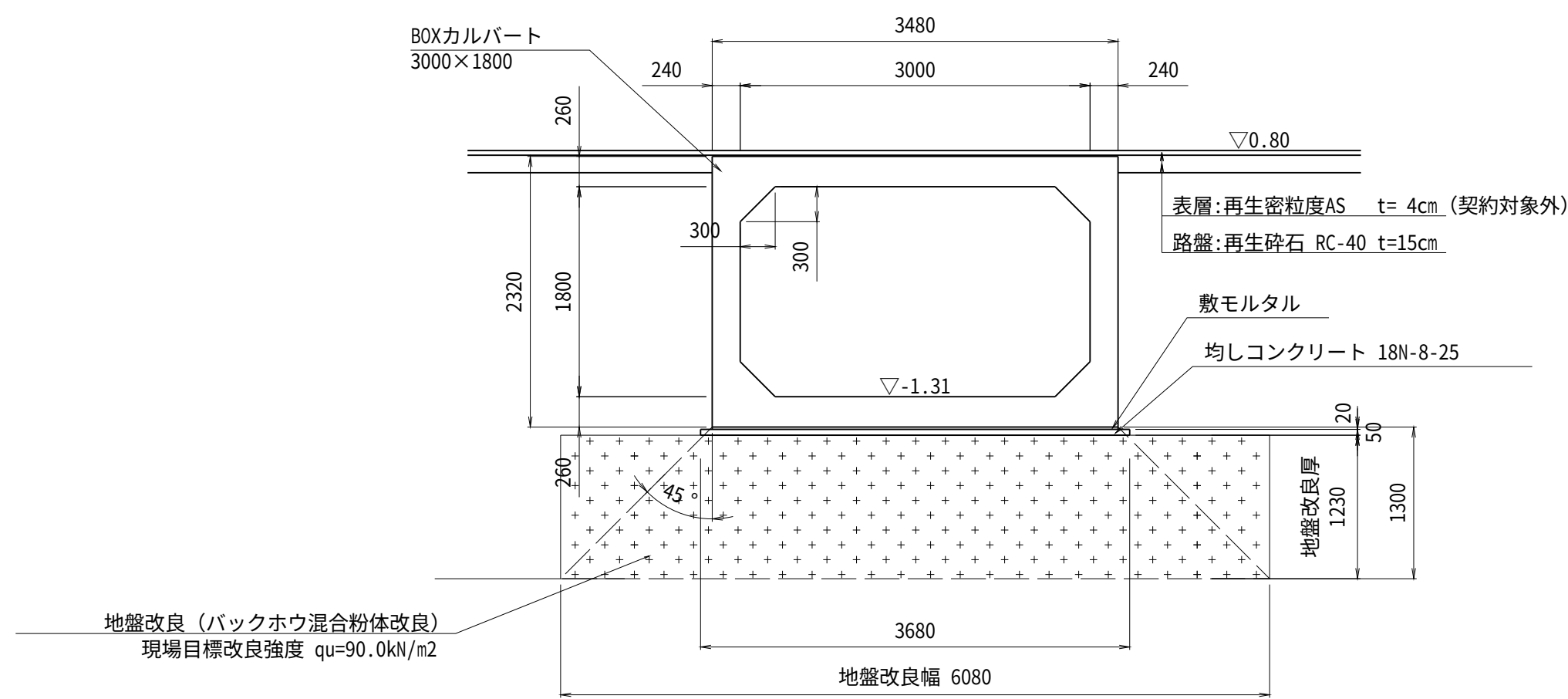


A-A'断面図



DL=-4.00

B-B'断面図



工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	道路工 水路横断工構造図		
作成年月			
縮 尺	図示	図面番号	24
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

※地盤支持力が確保できなければ、砂礫層を確認するまで地盤改良を行う。

S=1:150



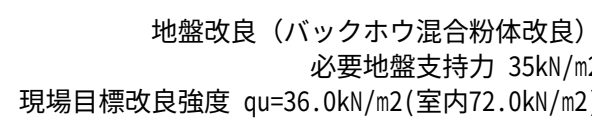
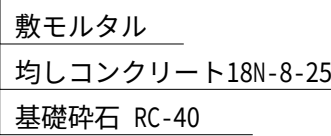
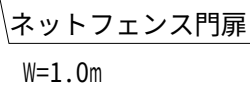
工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬剱平拓田地海老沢工区區画整理その1工事		
図 面 名	沼前第1調整池 計画平面図		
作成年月			
縮 尺	S=1:150	図面番号	25
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

S=1:150

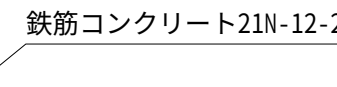
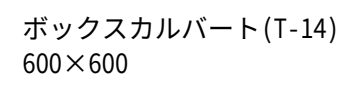
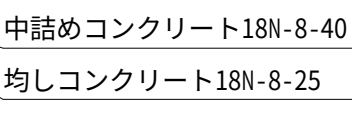
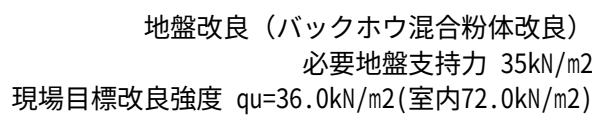
[illegible][illegible][illegible]

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬剣干拓団地老沢沢工区區画整理その１工事		
図 面 名	沼前第1調整池 計画断面図		
作成年月			
縮 尺	S=1:150	図面番号	26
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

S=1:50



(ゲート正面図)



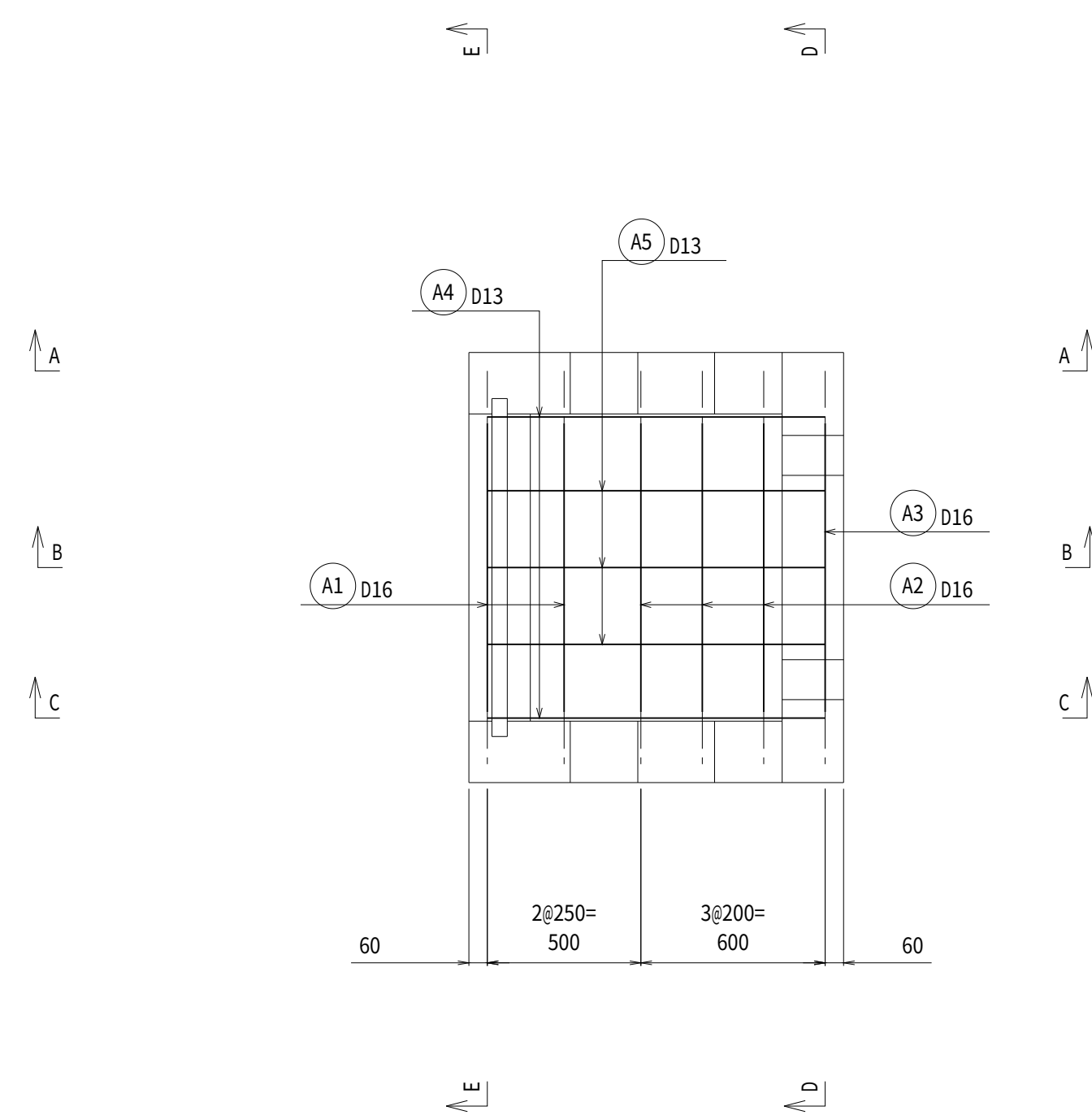
※ 構造物基礎底面における必要地盤支持力 35kN/m²

工 事 名	茨城中部農地整備事業		
	沼前馬到干拓団地海老沢工区區画整理その１工事		
図 面 名	沼前第1調整池 分水工・取付水路構造物(1/5)		
作成年月			
縮 尺	S=1:50	図面番号	27 - 1/5
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

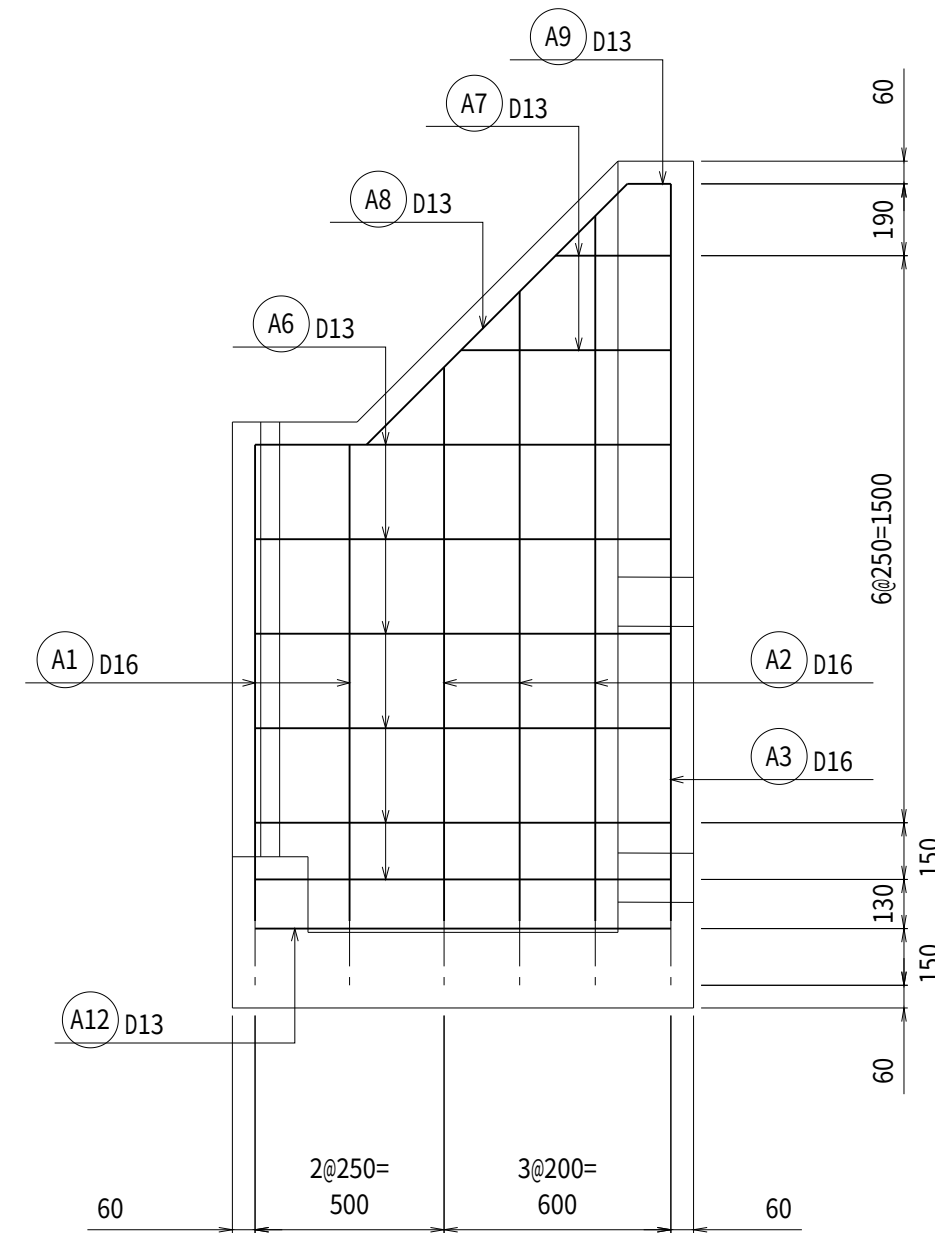
沼前第1調整池 分土工・取付水路構造図(2/5)

分土工配筋図

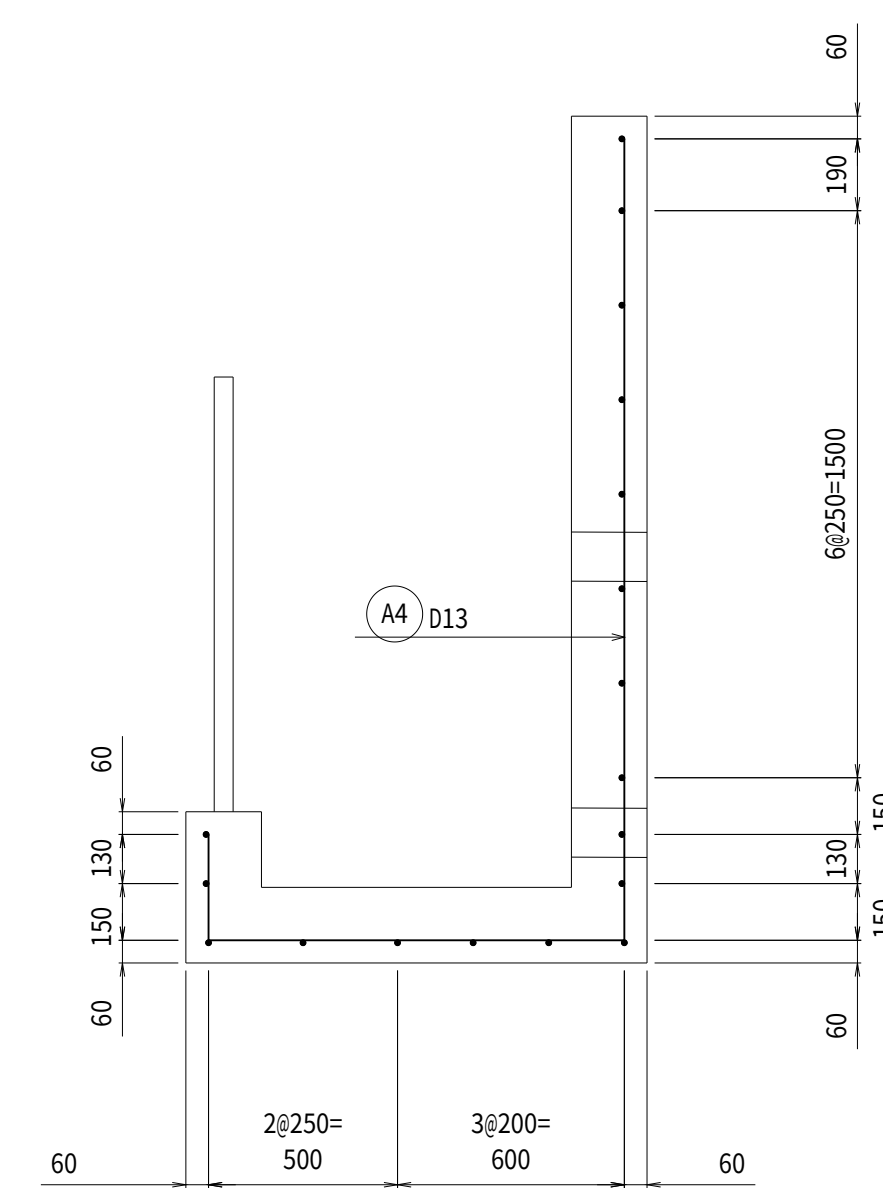
平面図



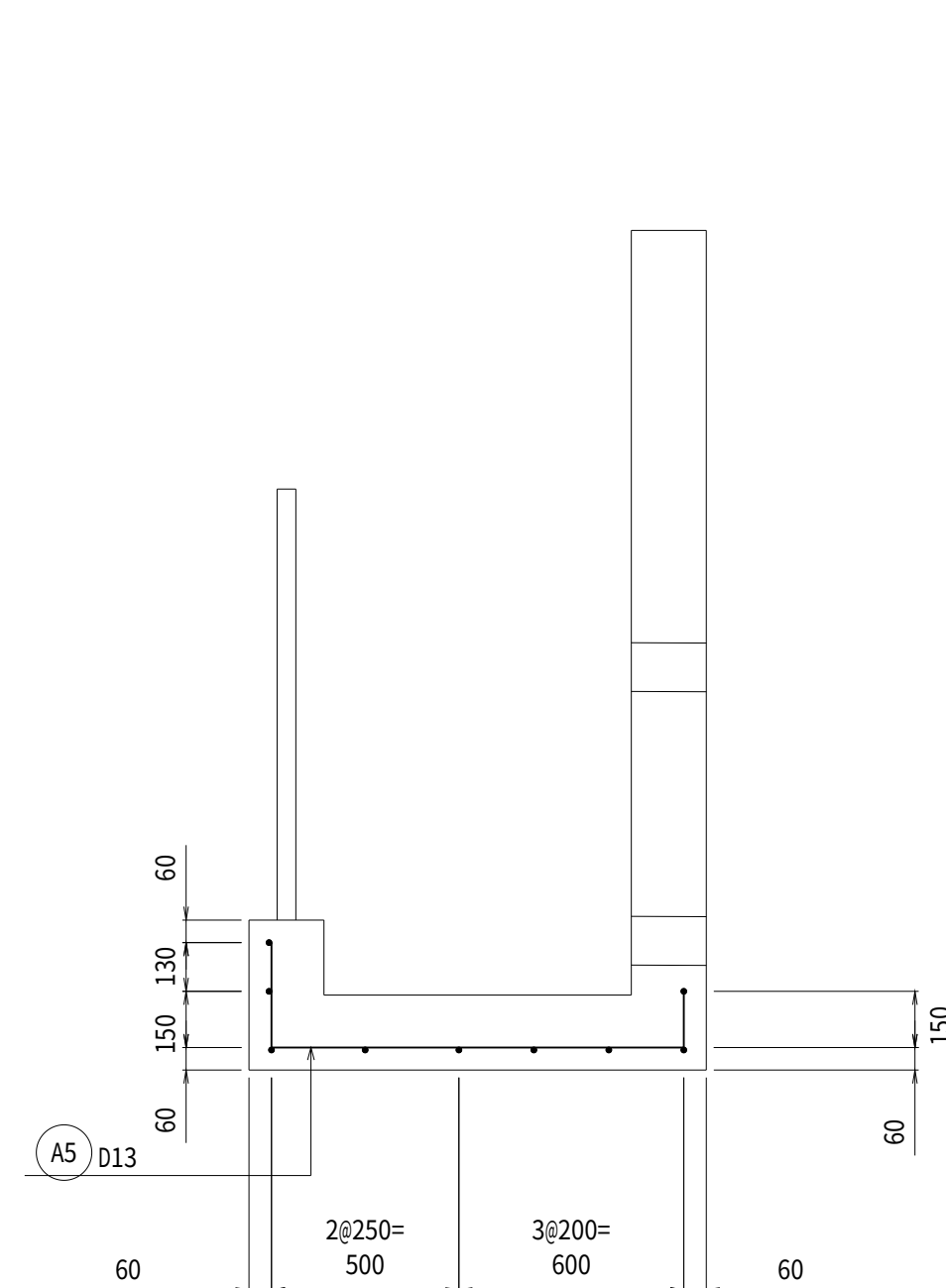
A-A断面



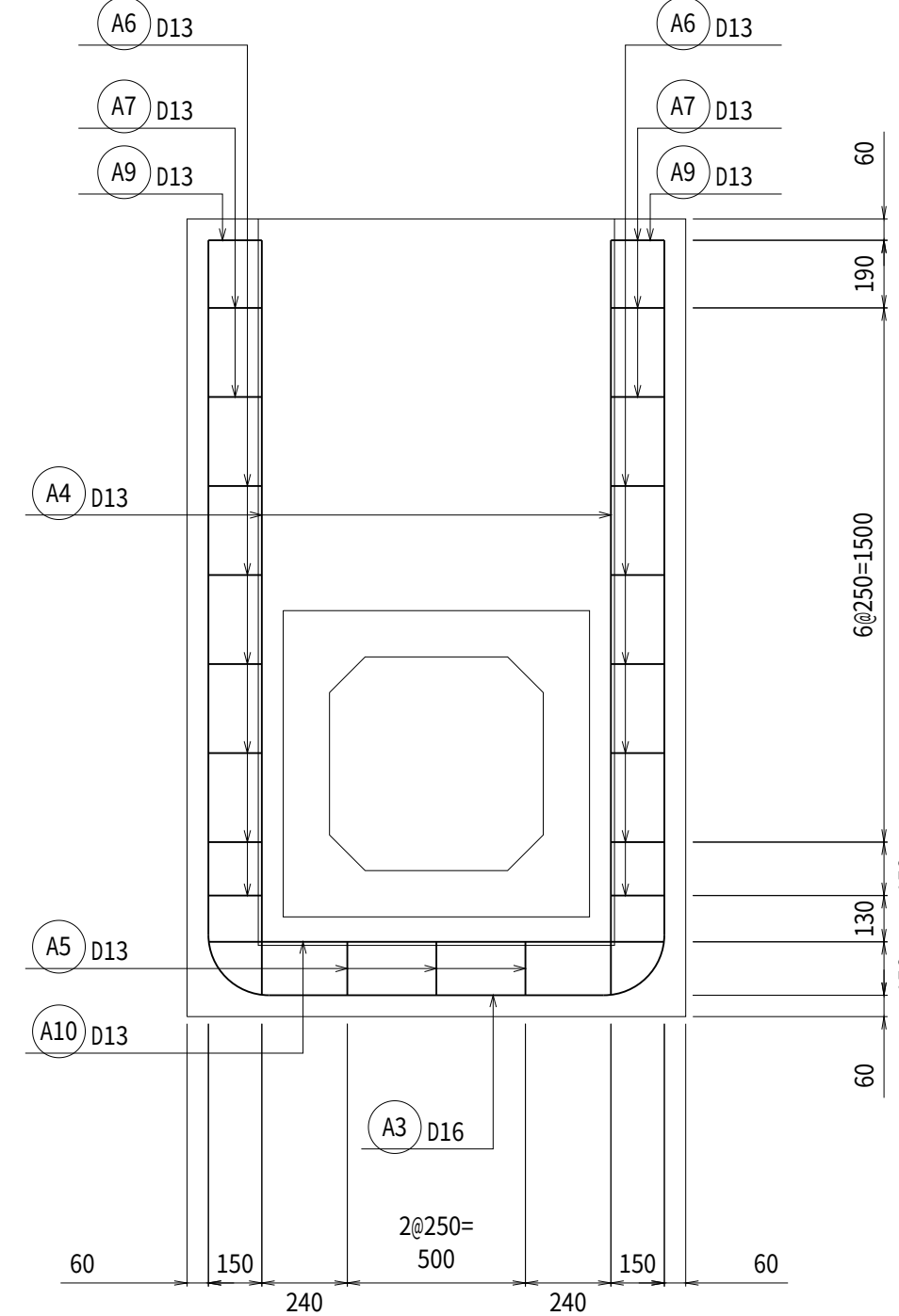
B-B断面



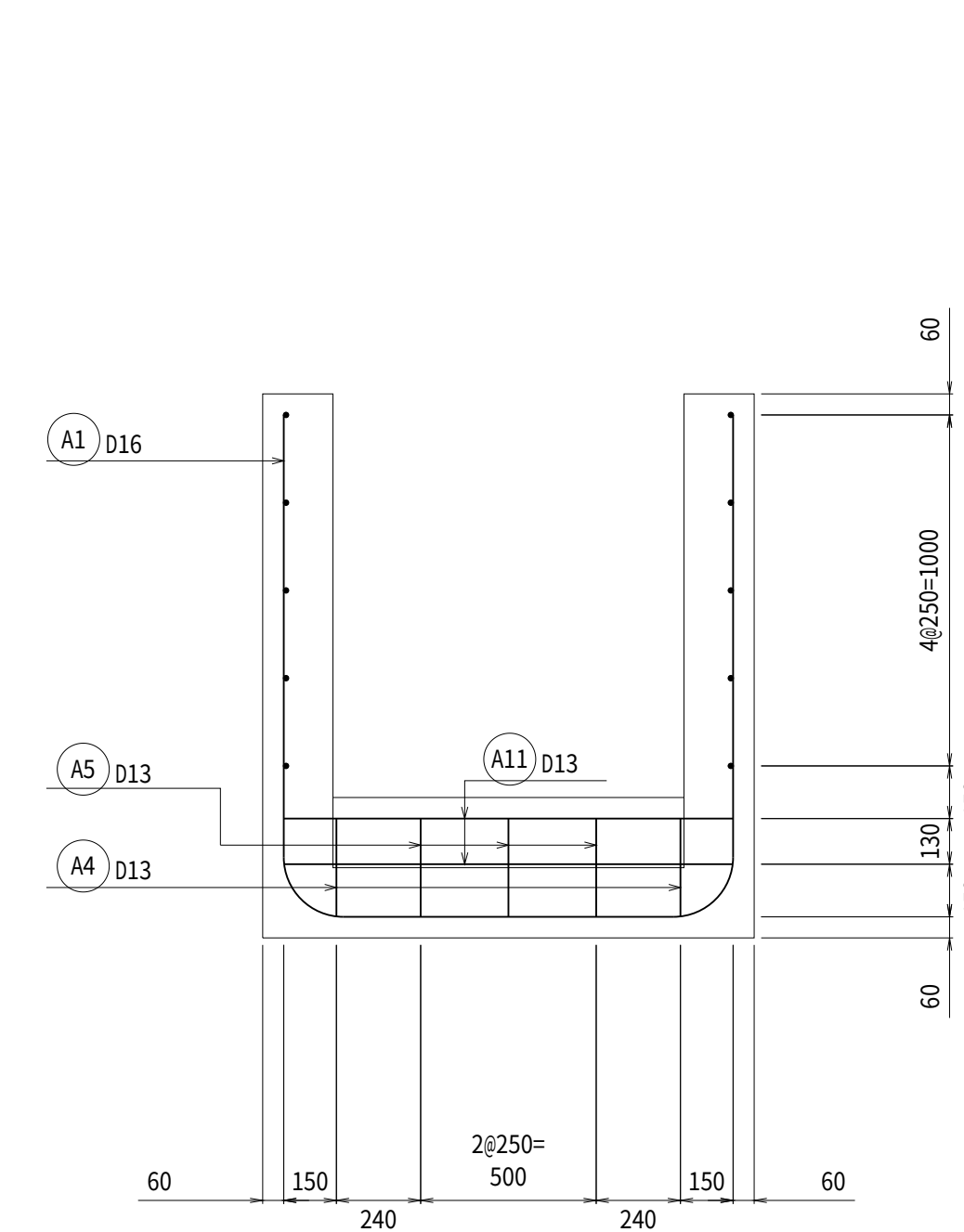
C-C断面



D-D断面



E-E断面

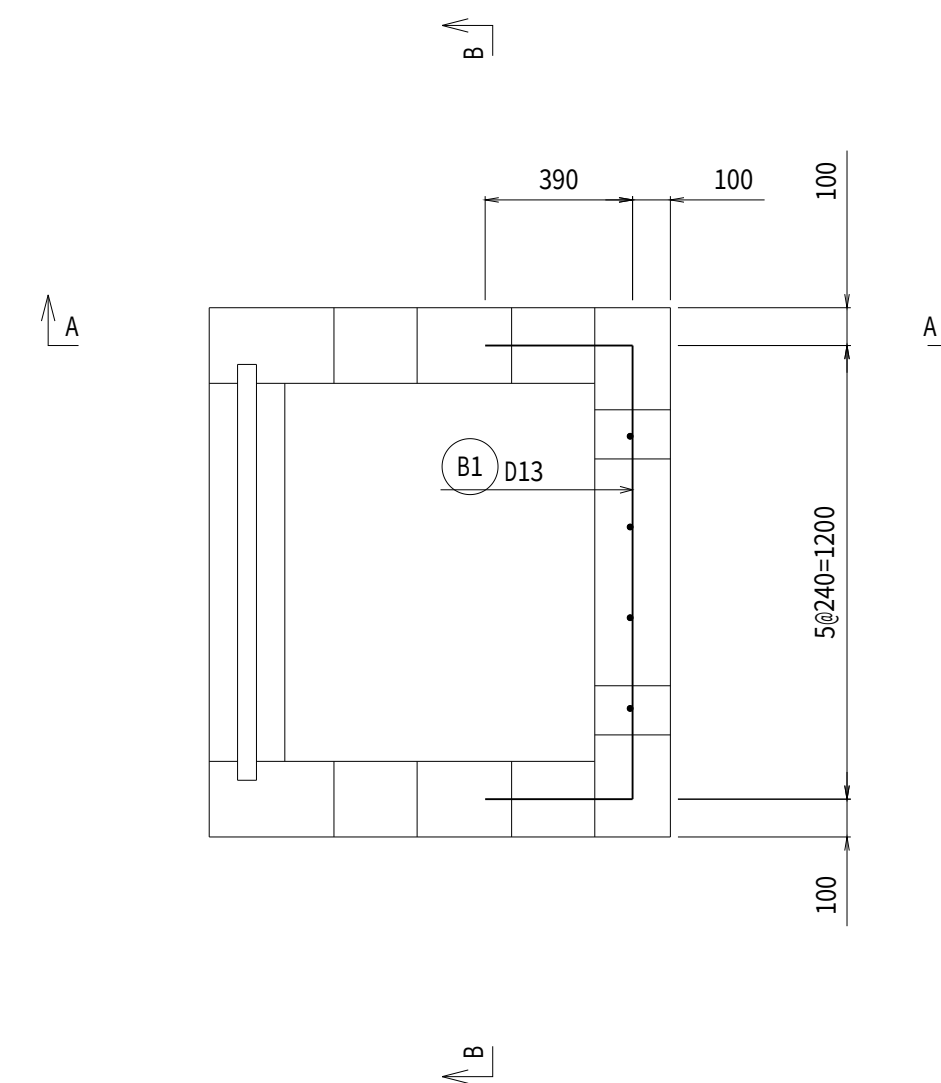


工事名	茨城中部農地整備事業		
図面名	沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
作成年月			
縮尺	S=1:20	図面番号	27 - 2/5
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

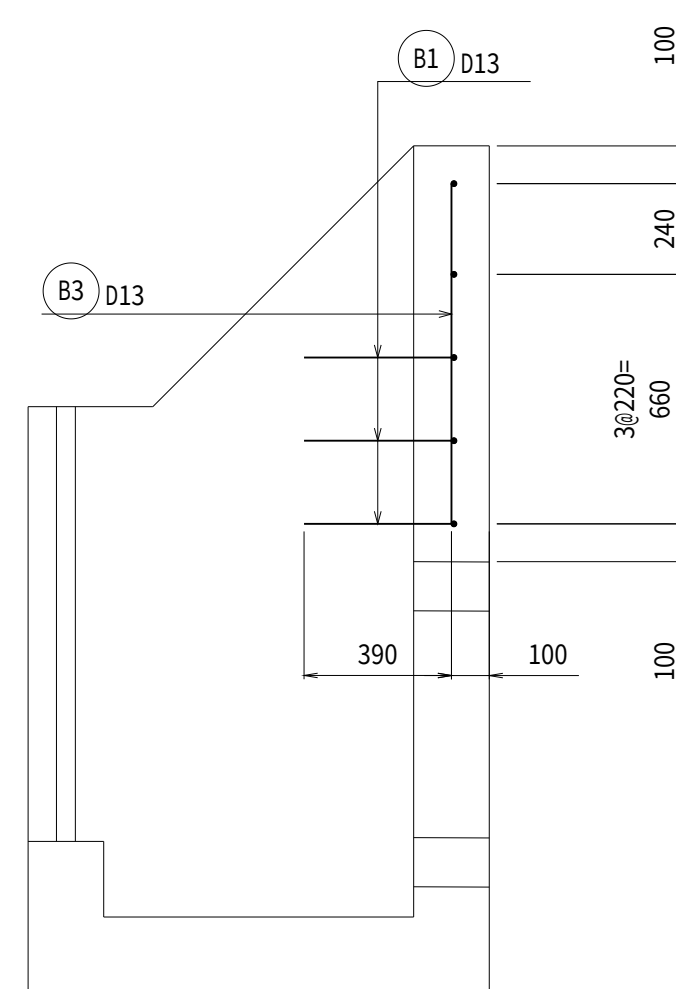
沼前第1調整池 分土工・取付水路構造図(3/5)

分土工(BOX上部)配筋図

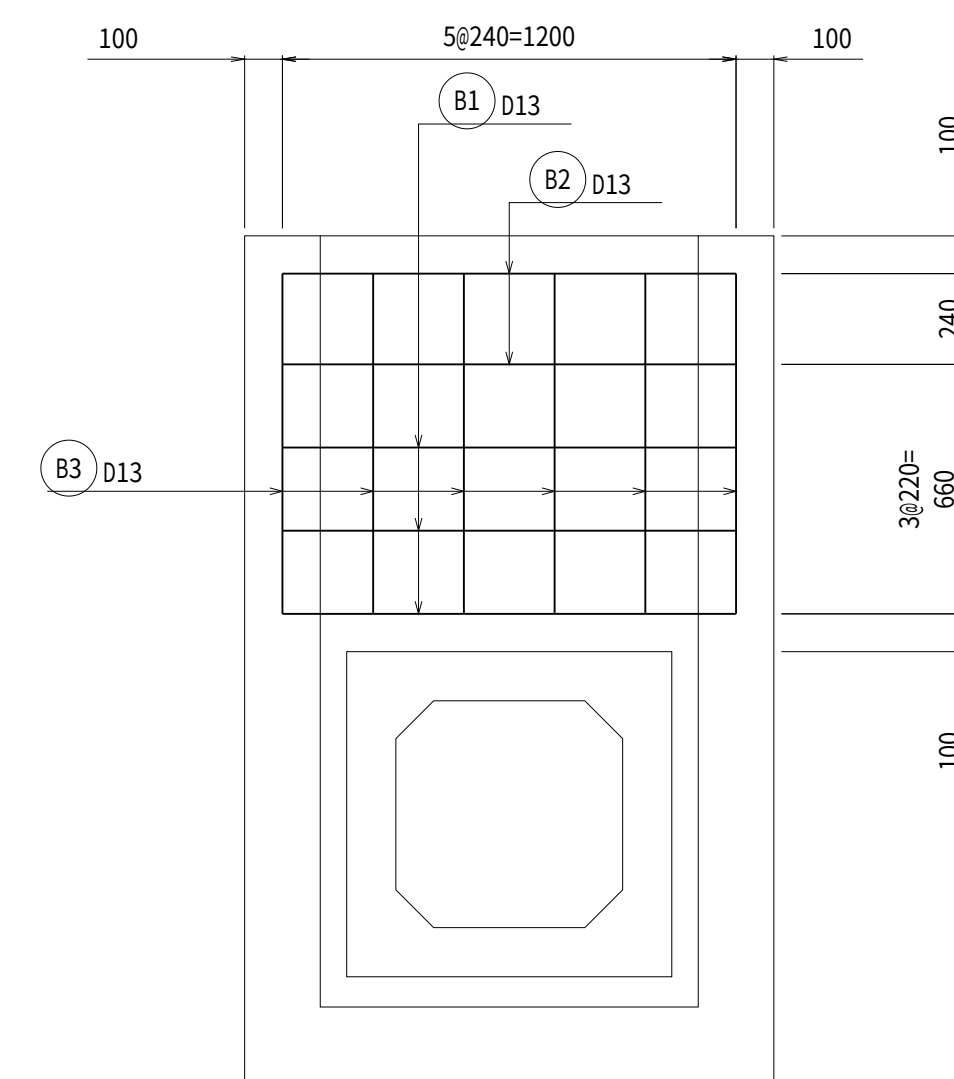
平面図



A-A断面



B-B断面

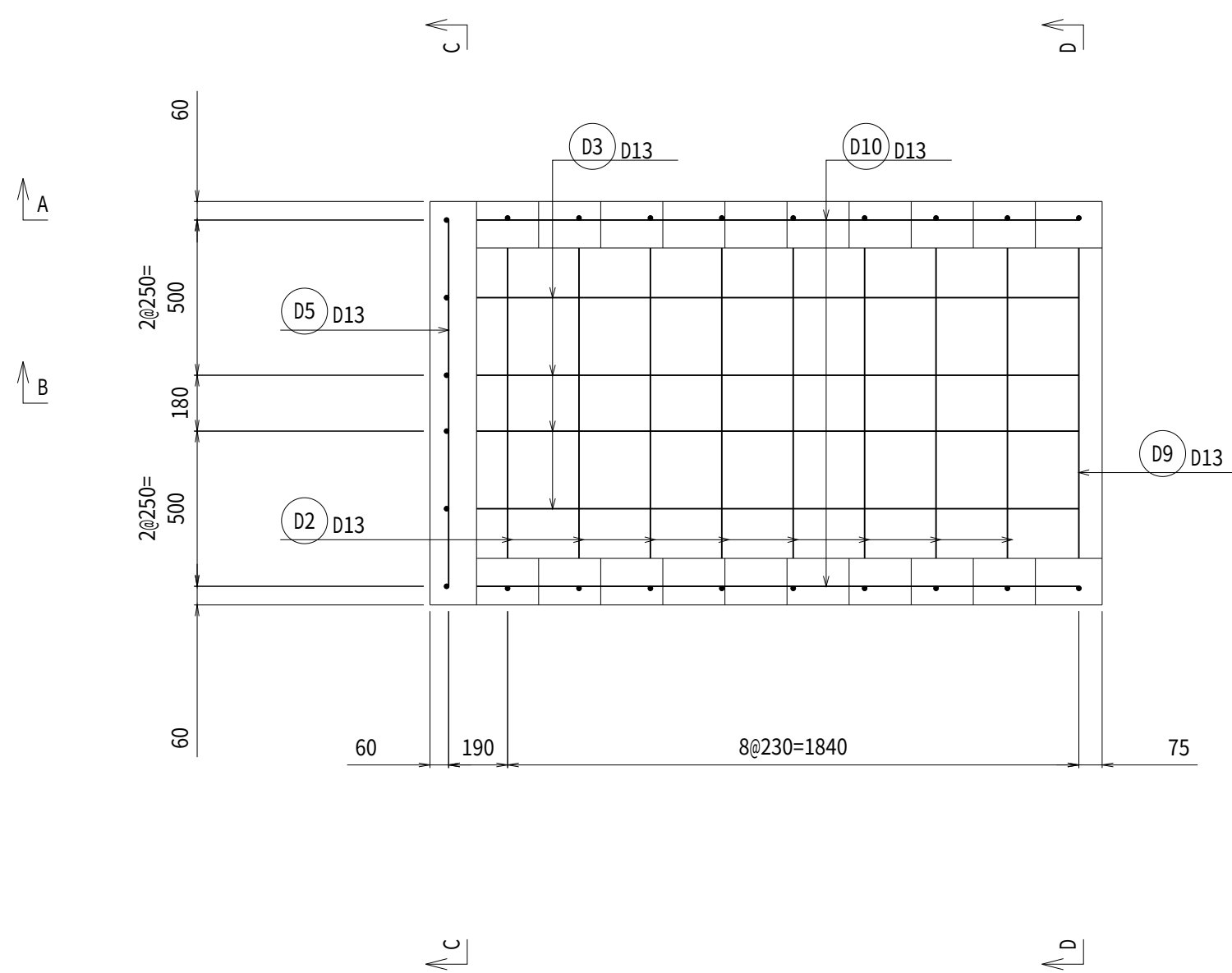


工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	沼前第1調整池 分土工・取付水路構造図(3/5)		
作成年月			
縮 尺	S=1:20	図面番号	27 - 3/5
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

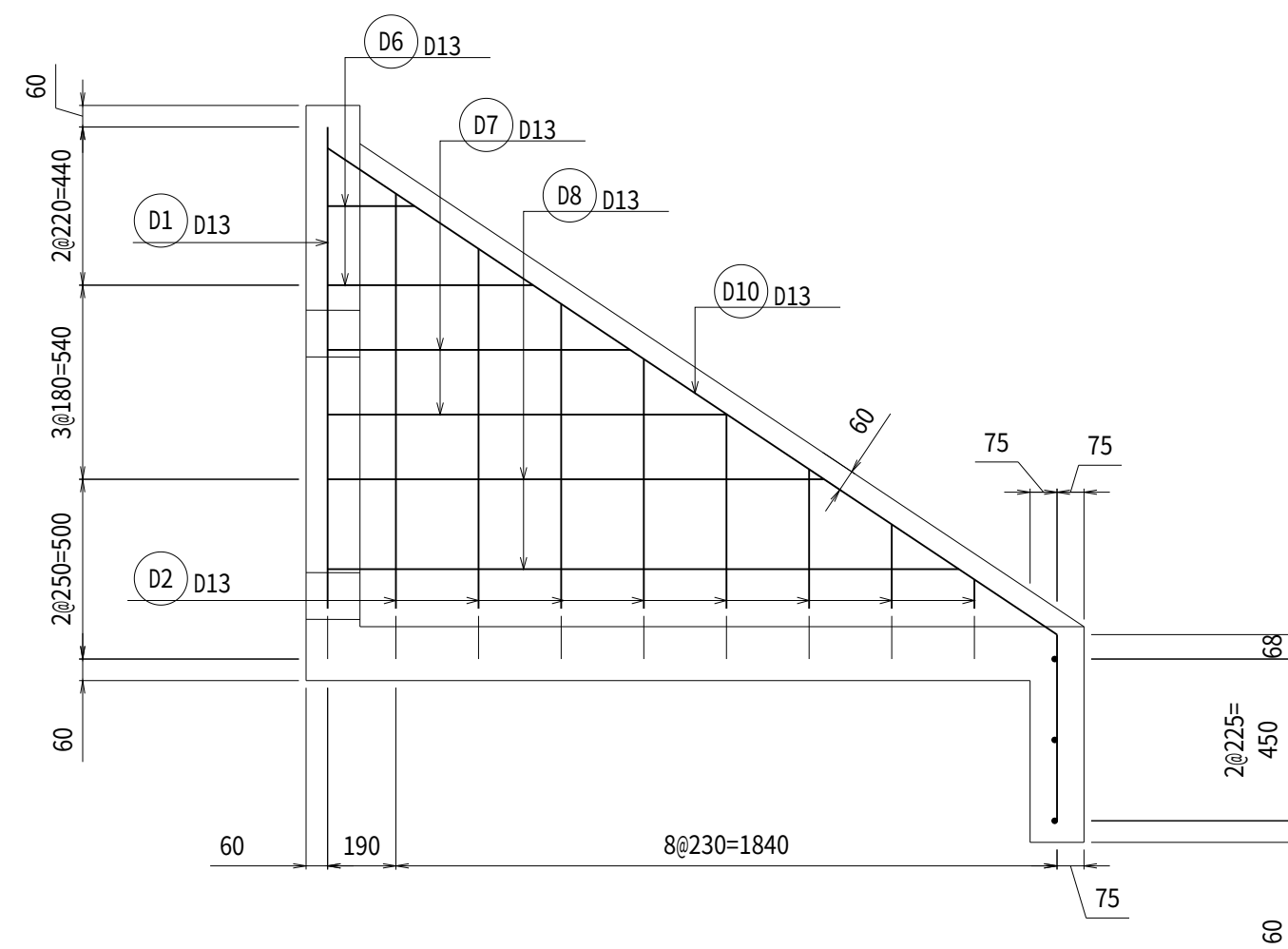
沼前第1調整池 分土工・取付水路構造図(4/5)

流入工配筋図

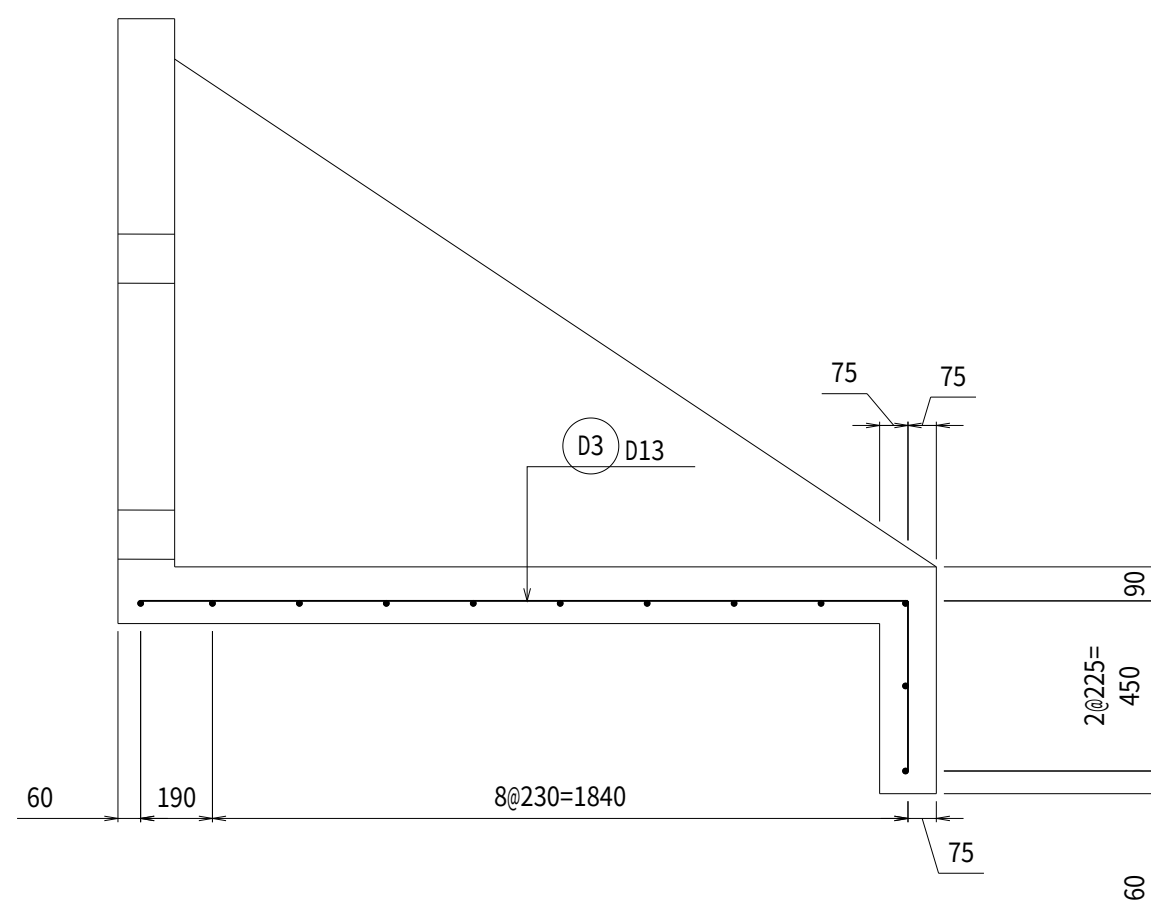
平面図



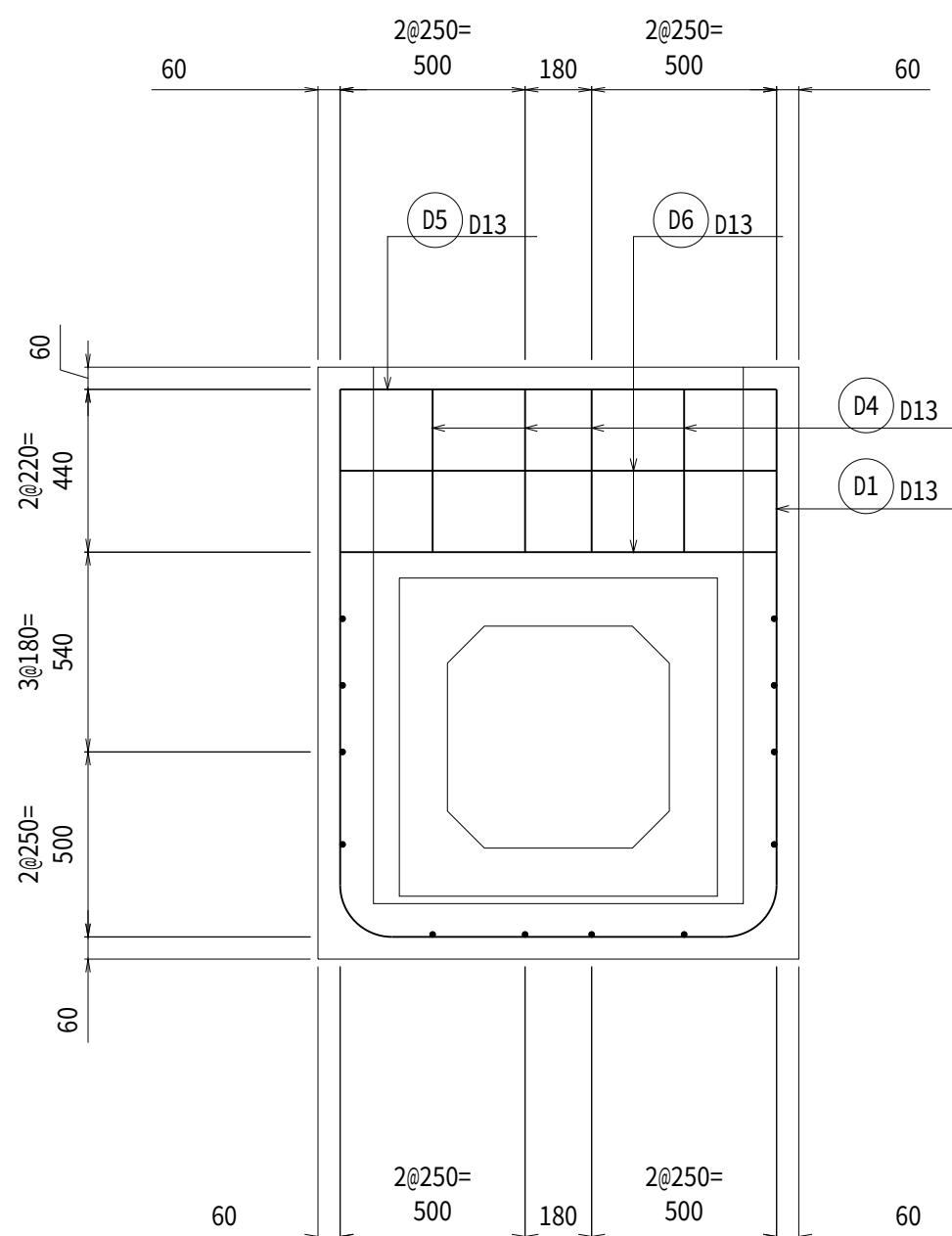
A-A断面



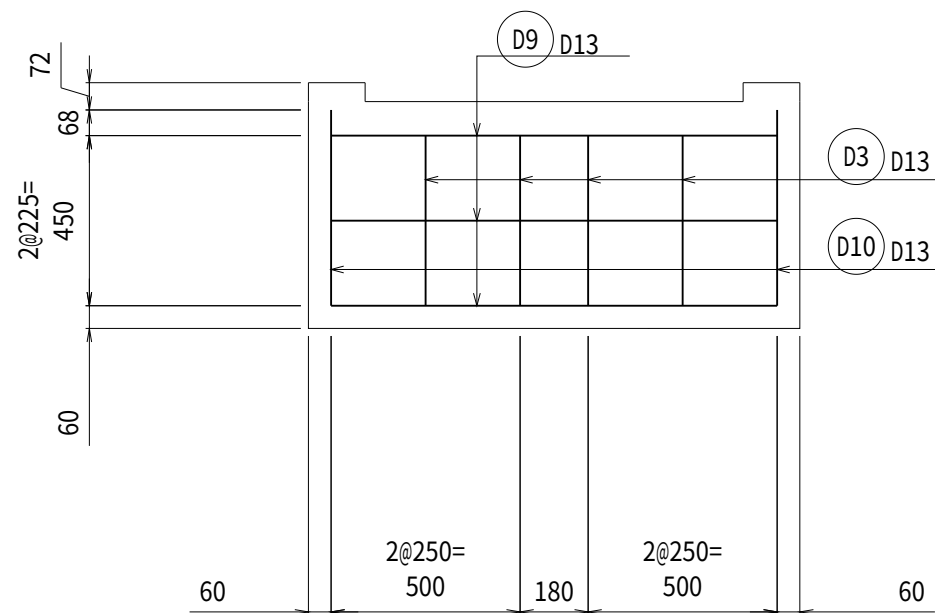
B-B断面



C-C断面



D-D断面

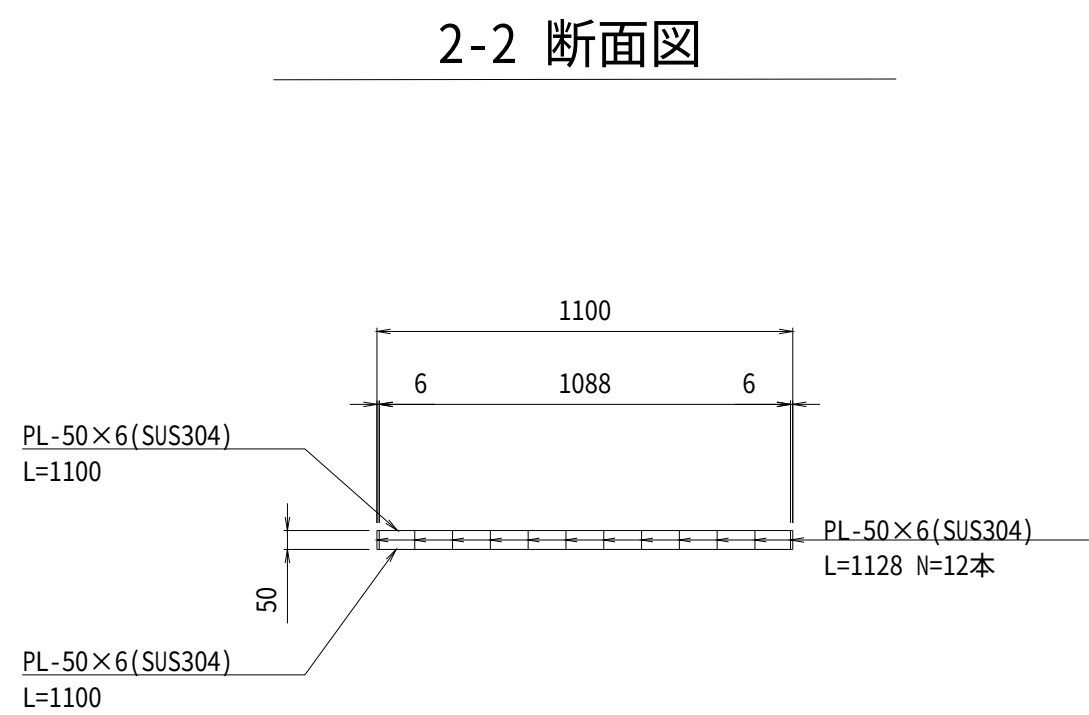
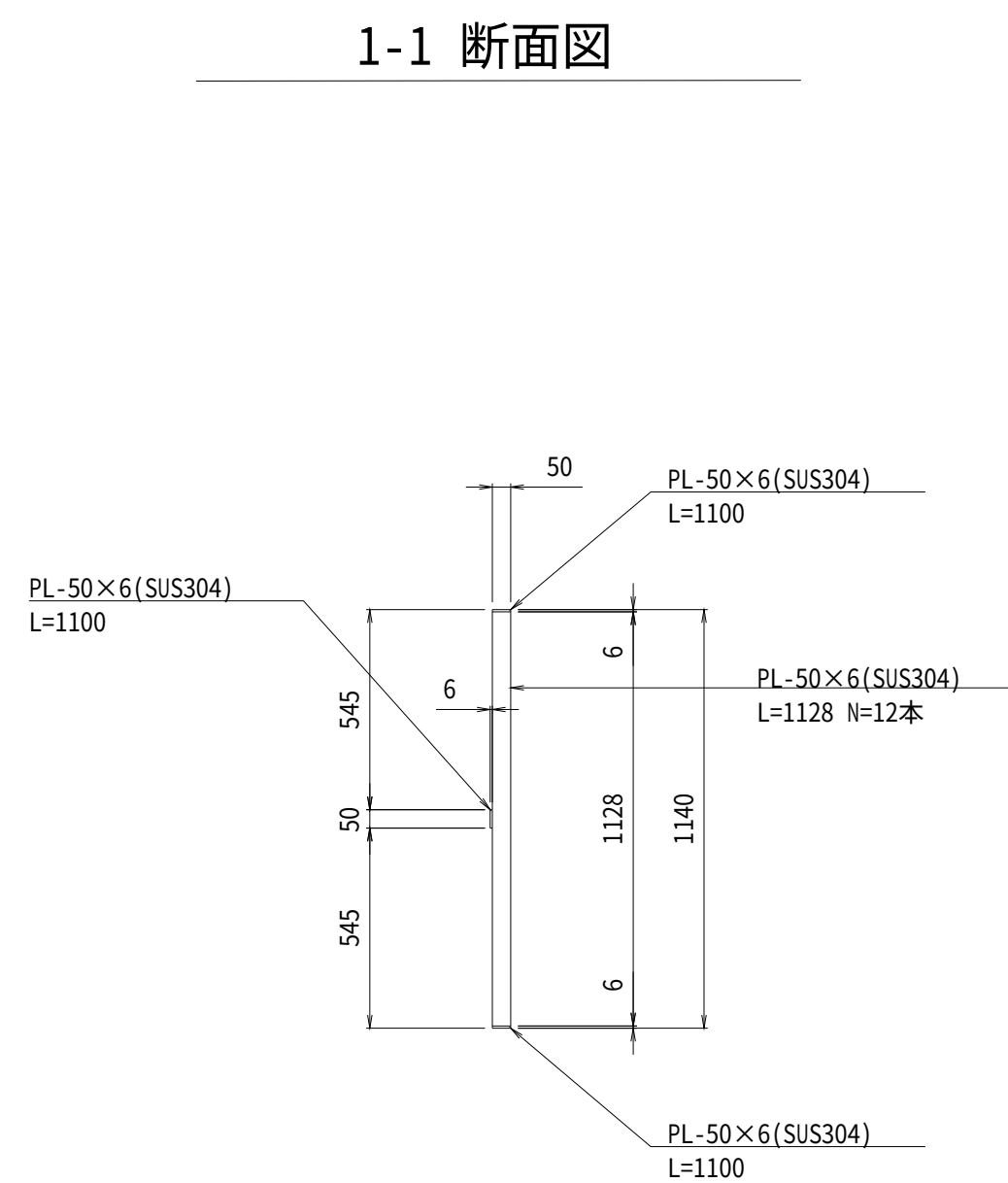
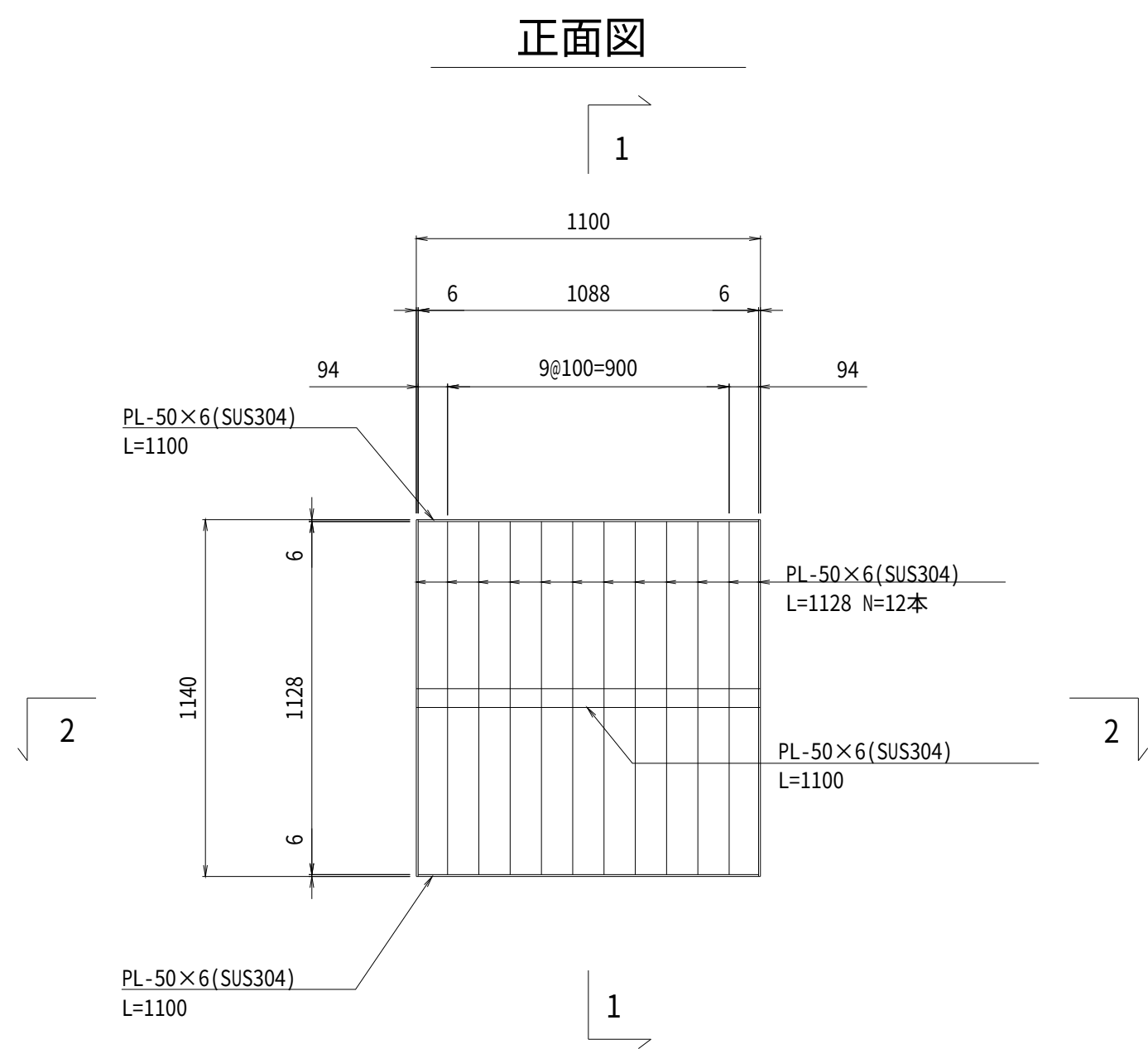


工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	沼前第1調整池 分土工・取付水路構造図(4/5)		
作成年月			
縮 尺	S=1:20	図面番号	27 - 4/5
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

沼前第1調整池 分土工・取付水路構造図(5/5)

分土工スクリーン構造図(参考)

S=1:20

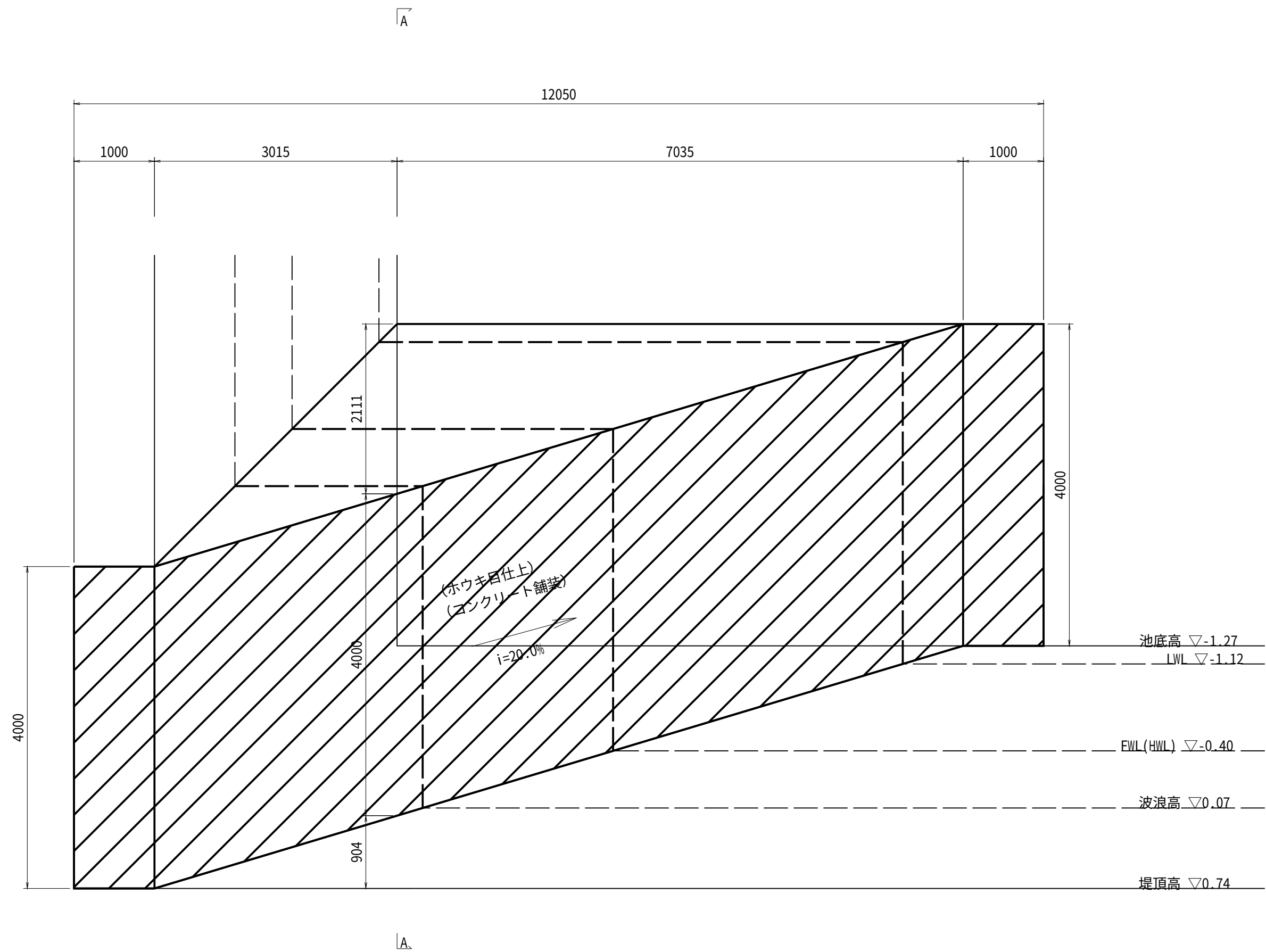


工 事 名	茨城中部農地整備事業		
図 面 名	沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
作成年月			
縮 尺	S=1:20	図面番号	27 - 5/5
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

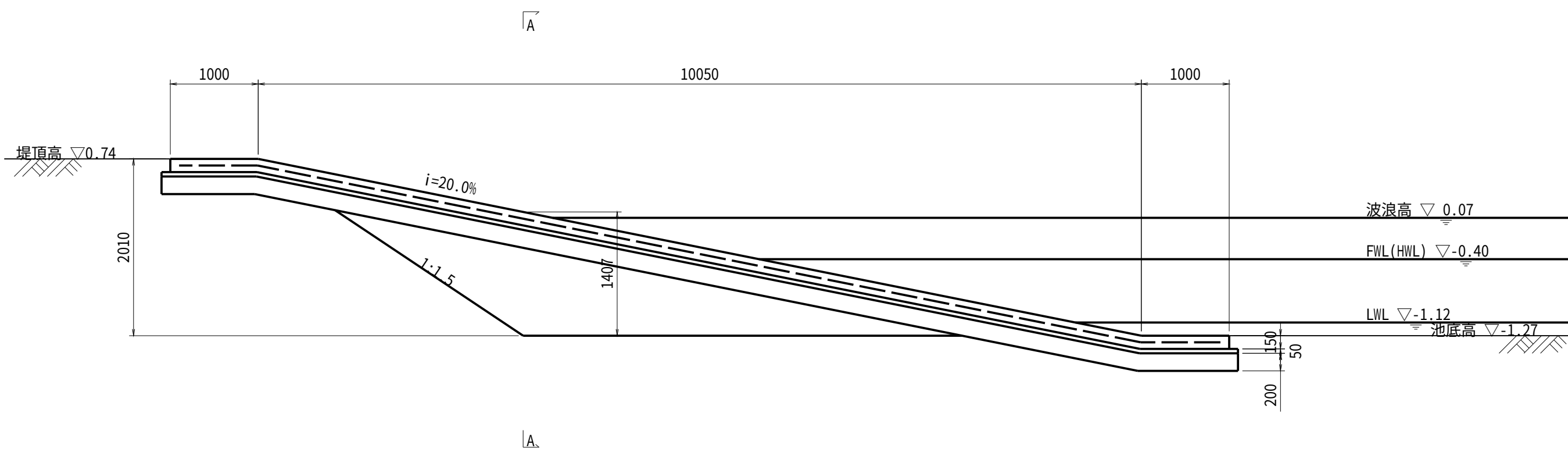
沼前第1調整池 進入路構造図

S=1:50

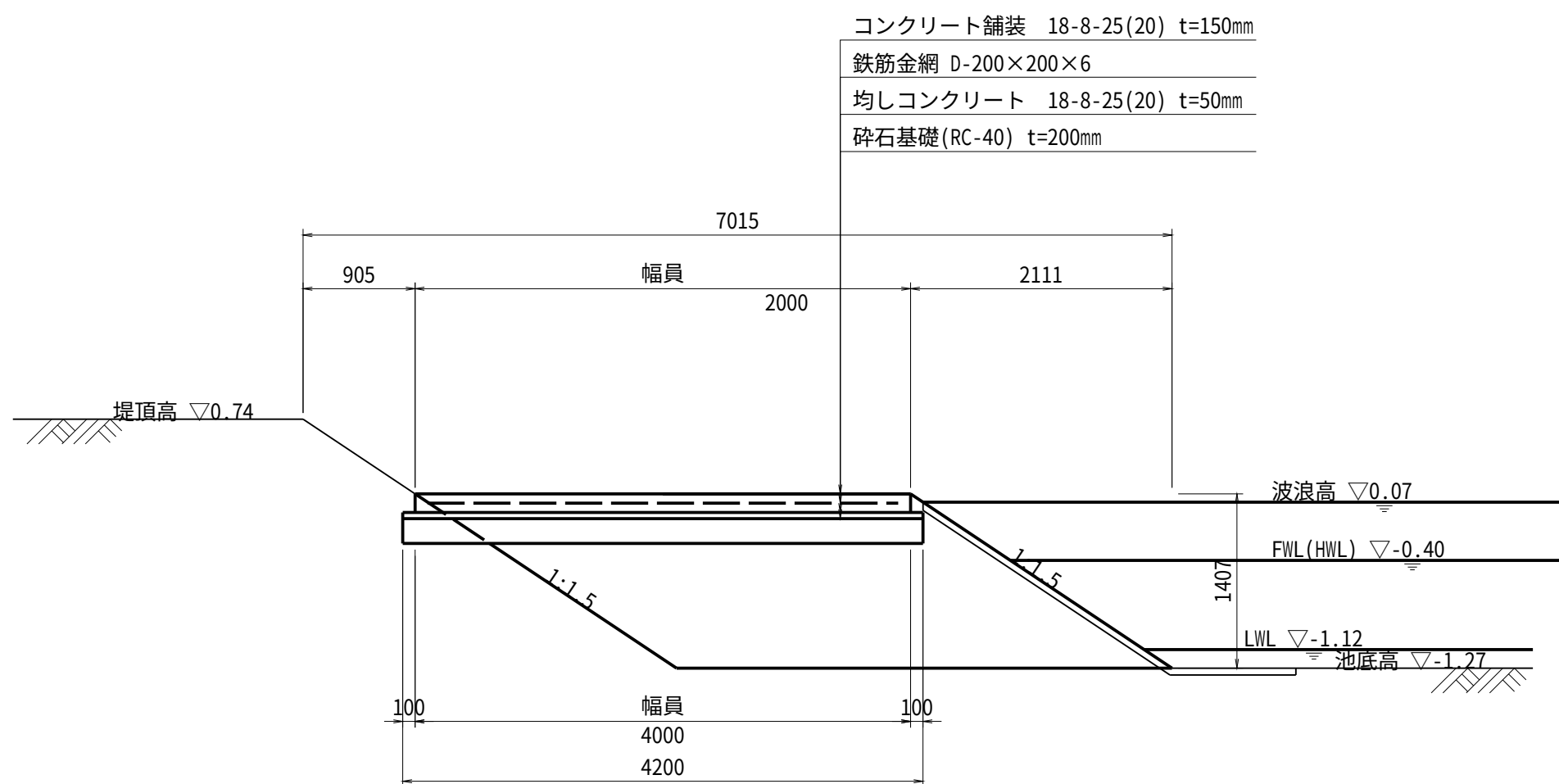
平面図



縦断面図



A-A断面

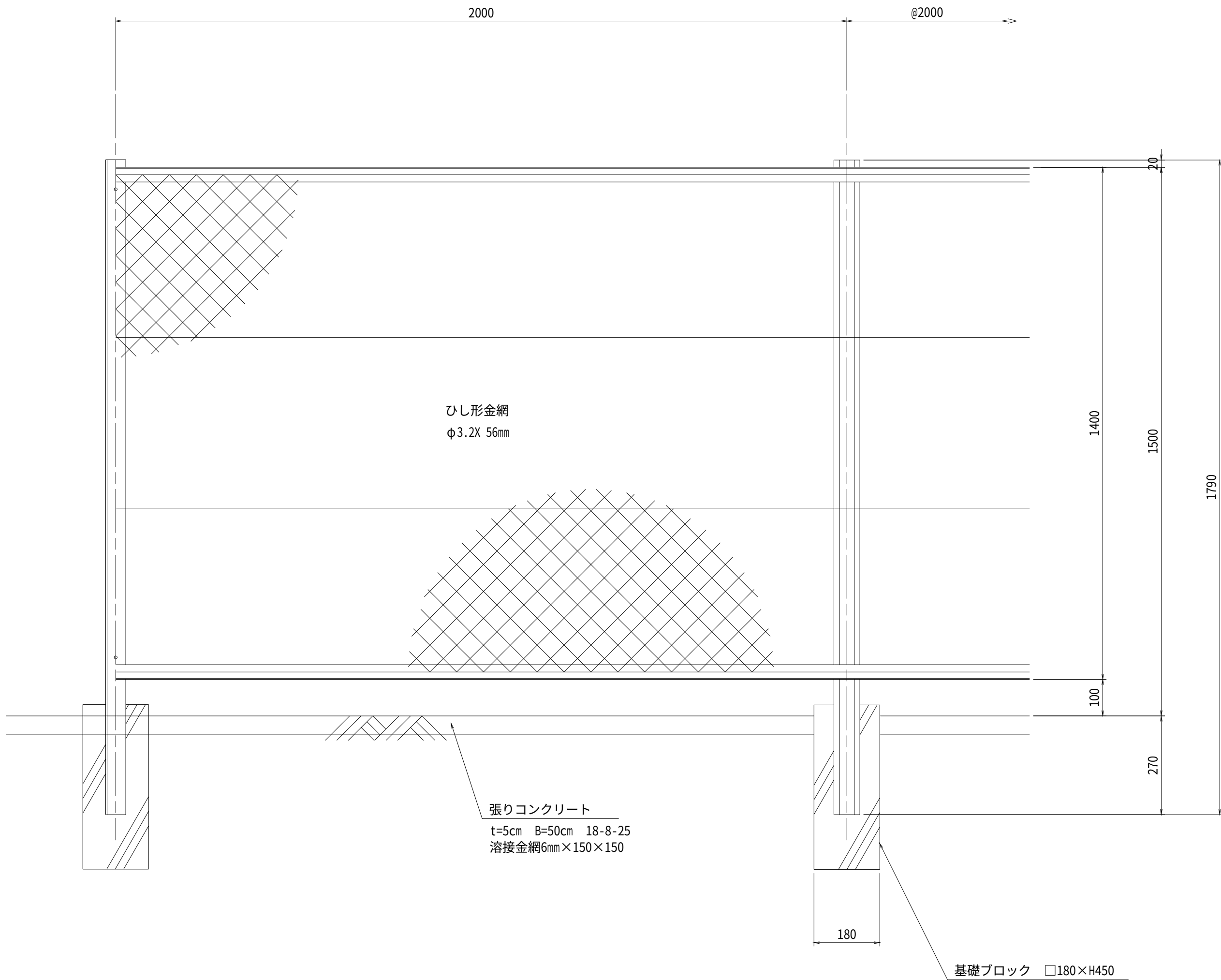


工事名	茨城中部農地整備事業		
図面名	沼前第1調整池 進入路構造図		
作成年月			
縮尺	S=1:50	図面番号	28
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

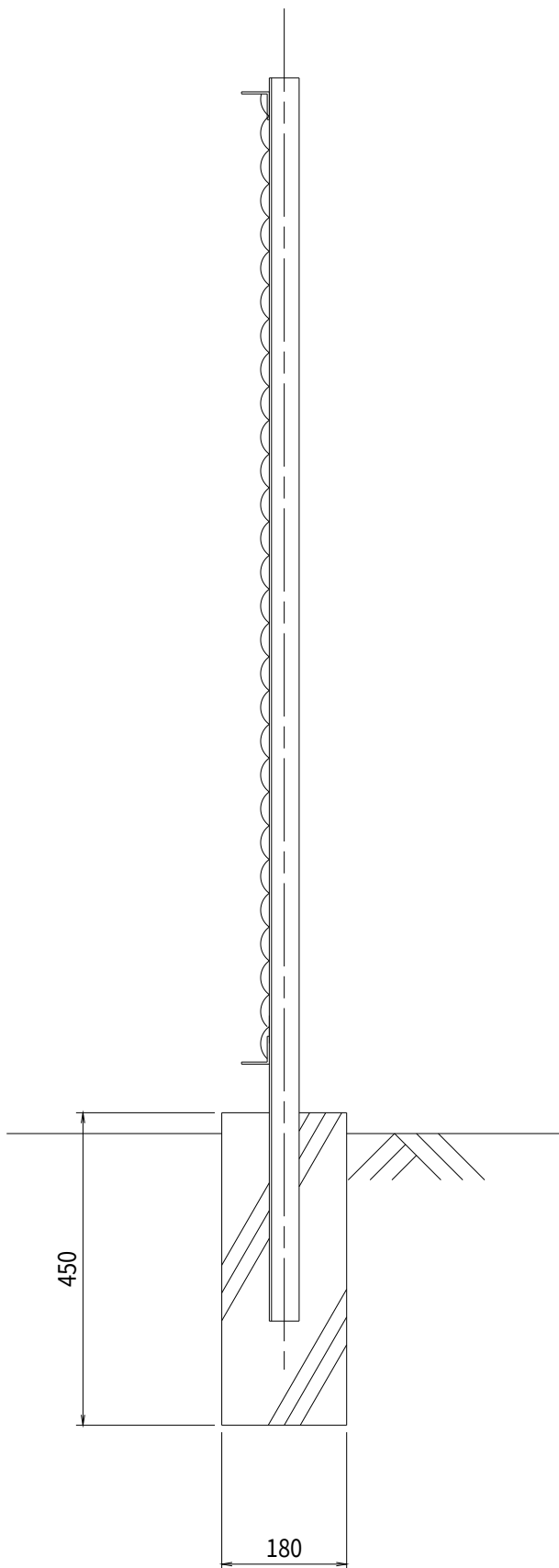
沼前第1調整池 ネットフェンス参考図(1/2)
S=1:10

ネットフェンス
H1500

正面図

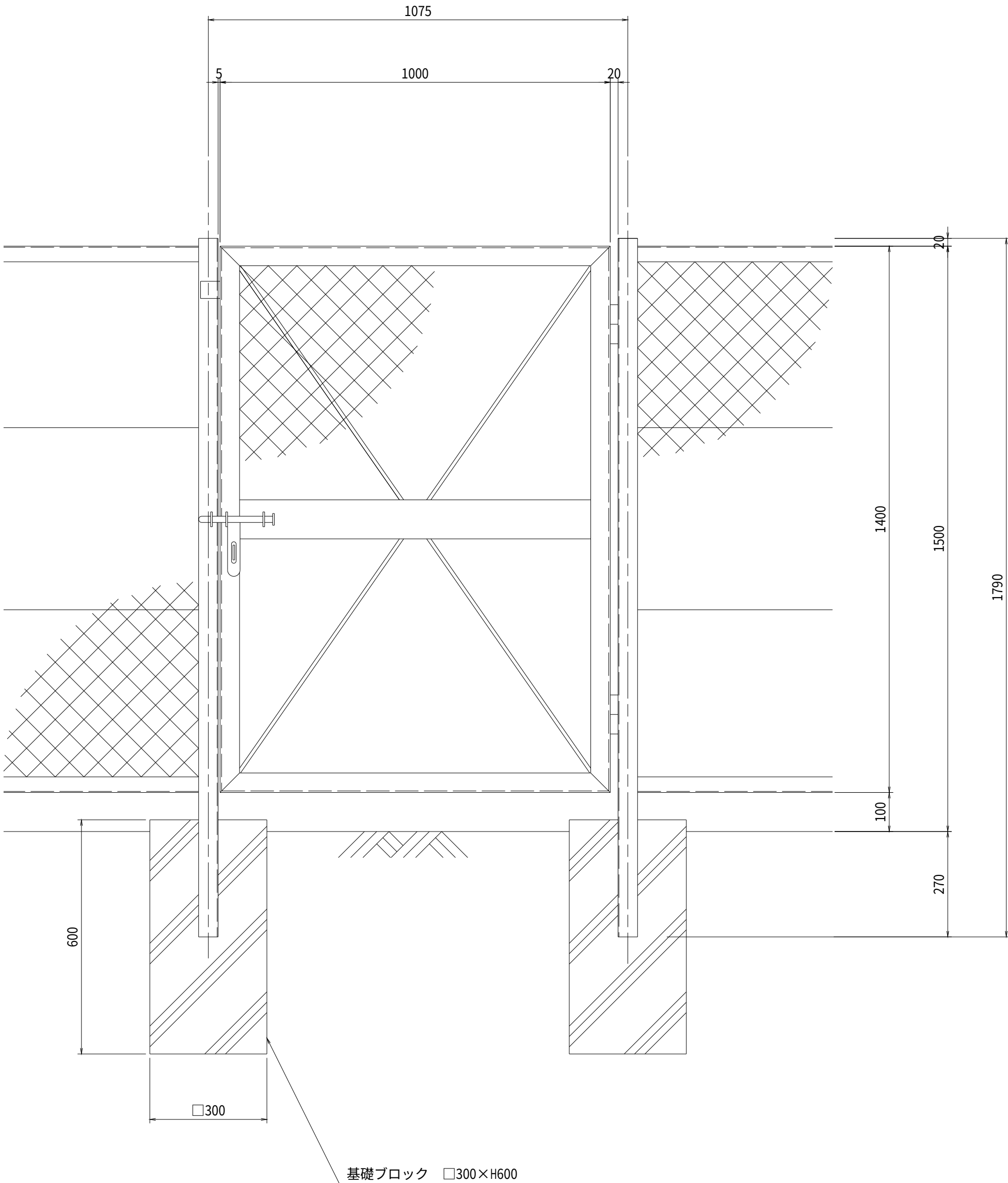


側面図



片開き門扉
W1000×H1500

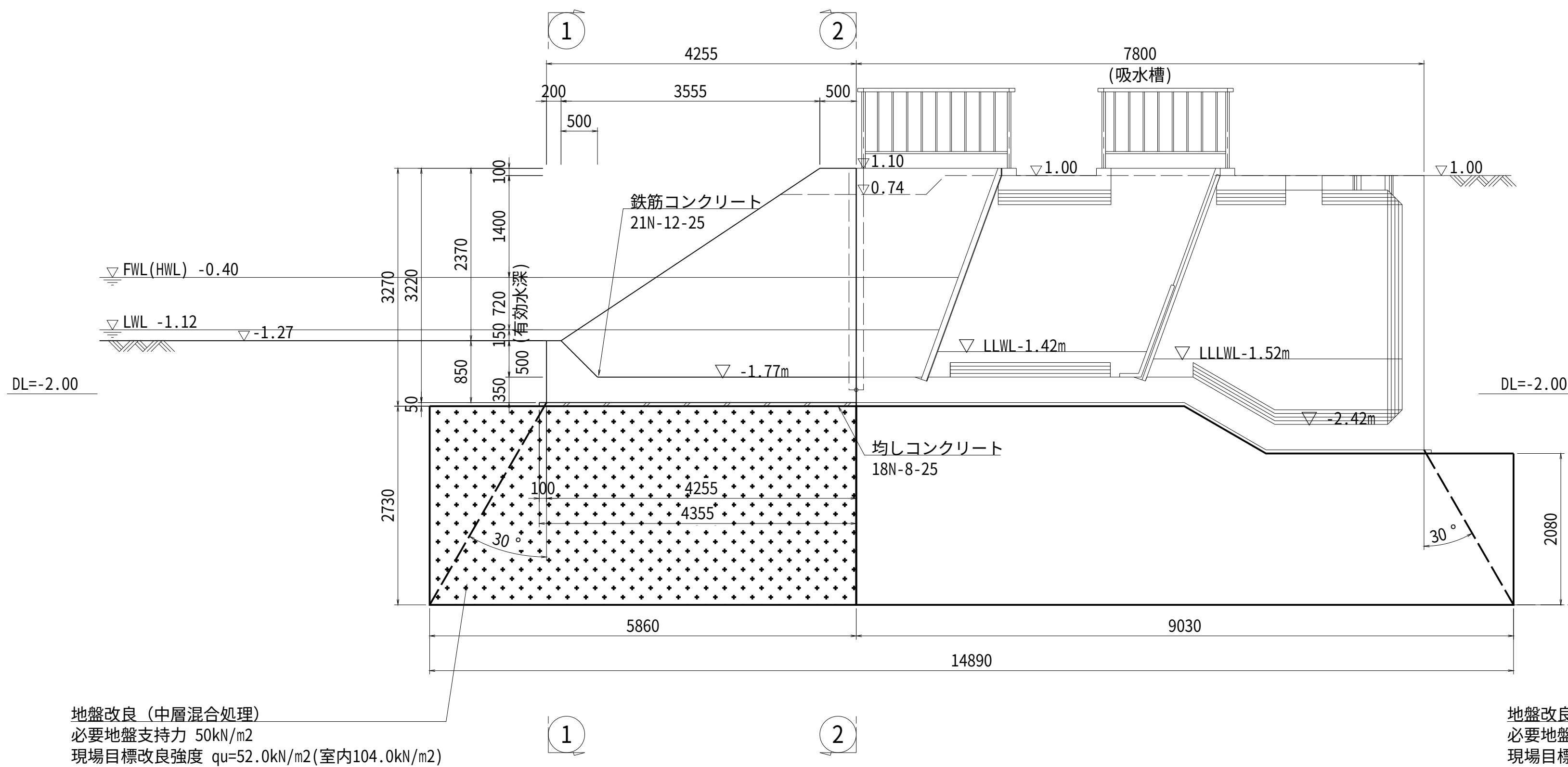
正面図



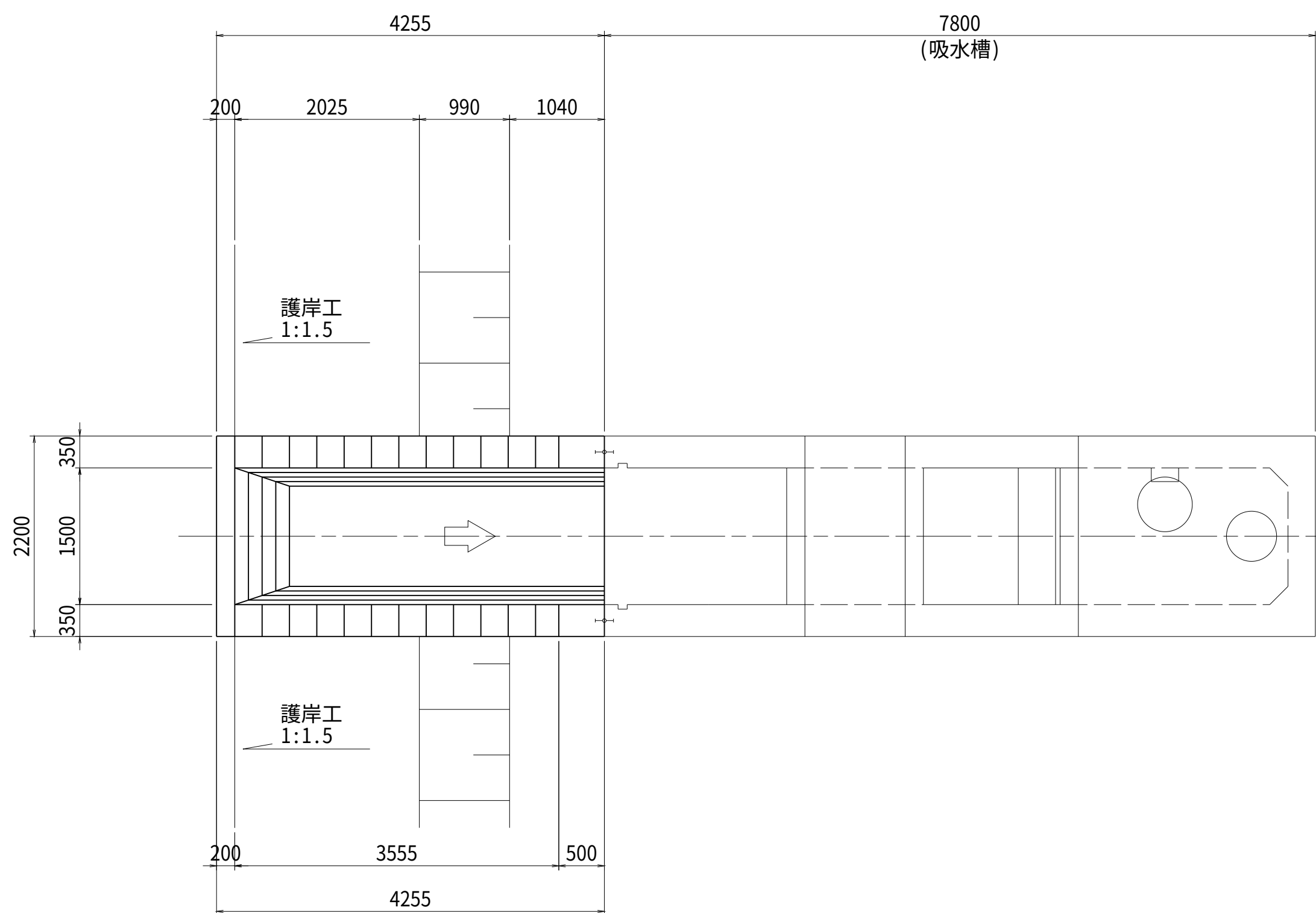
工事名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図面名	沼前第1調整池 ネットフェンス参考図(1/2)		
作成年月			
縮尺	S=1:10	図面番号	29 - 1/2
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

沼前第1用水機場 導水路構造図(1/3)
構造図

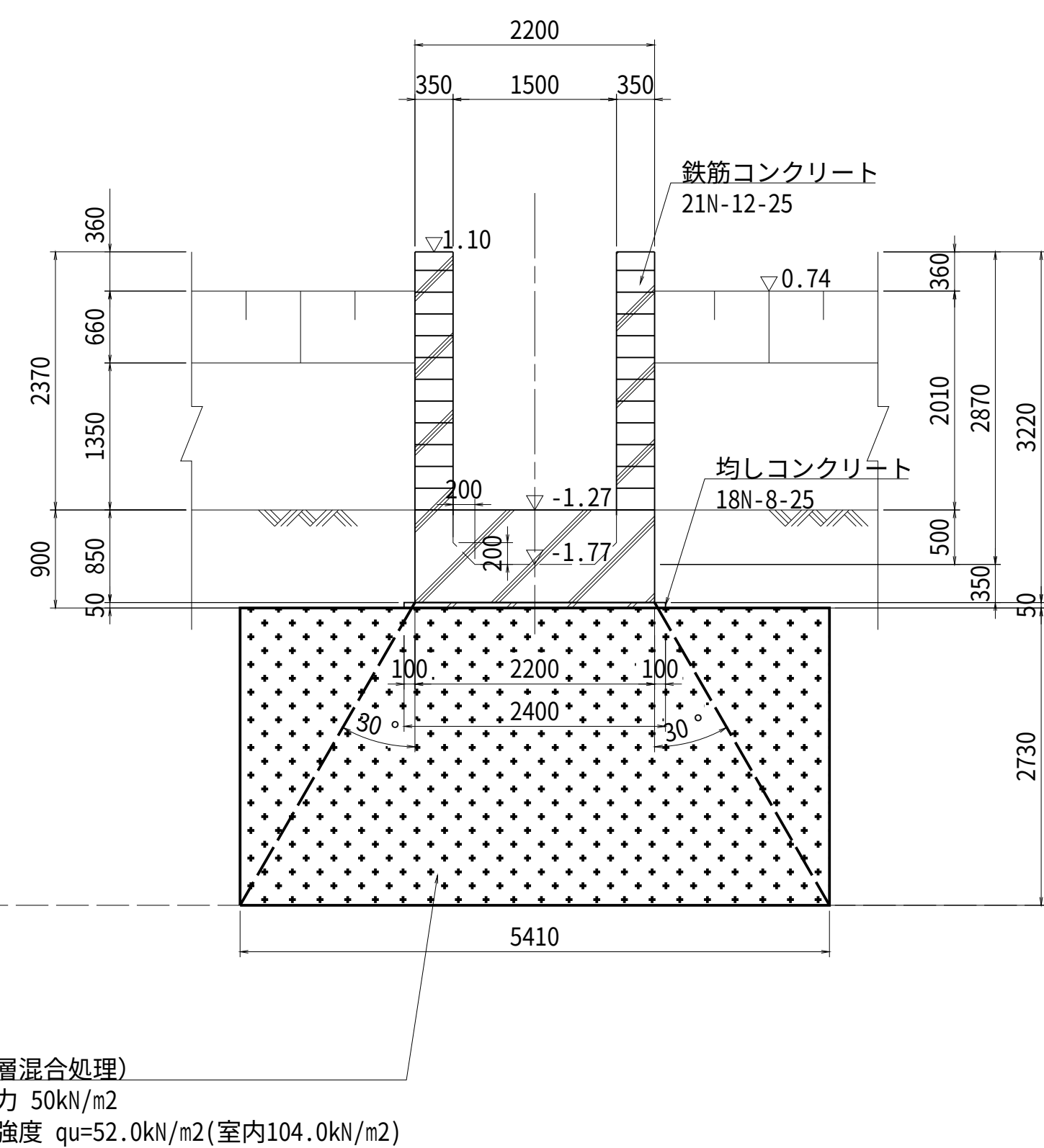
縦断面図



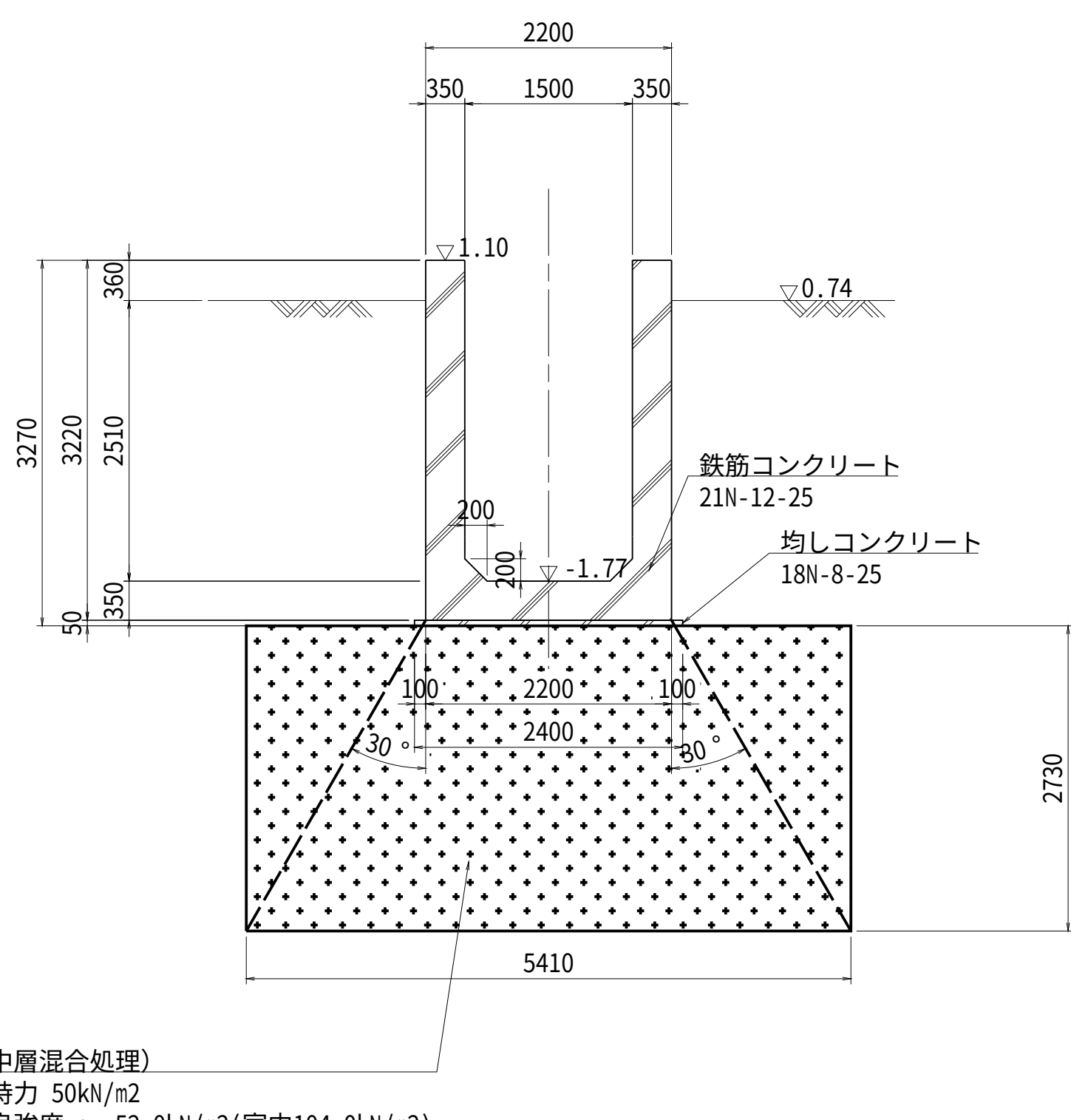
平面図



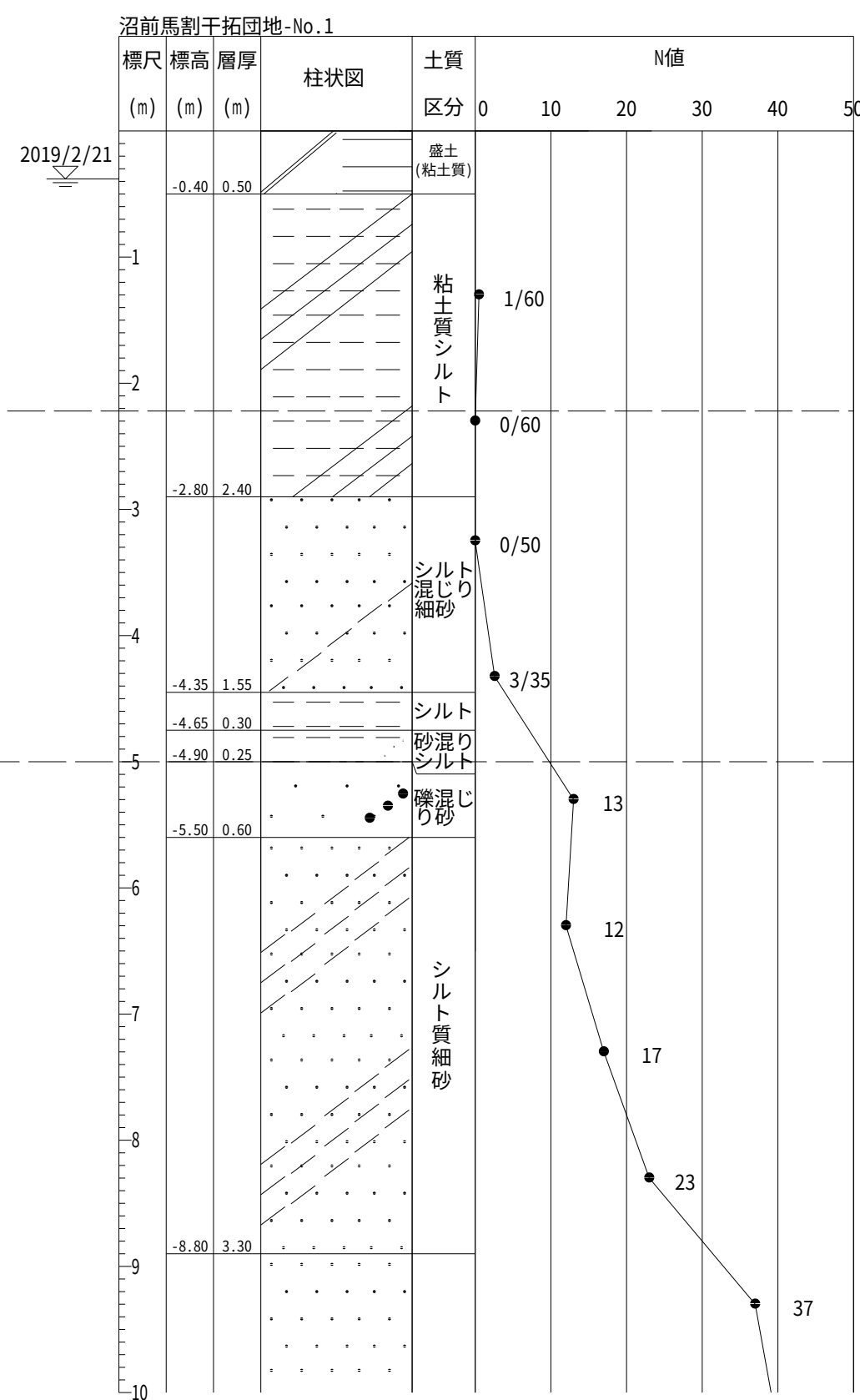
① - ①



② - ②



ボーリング柱状図

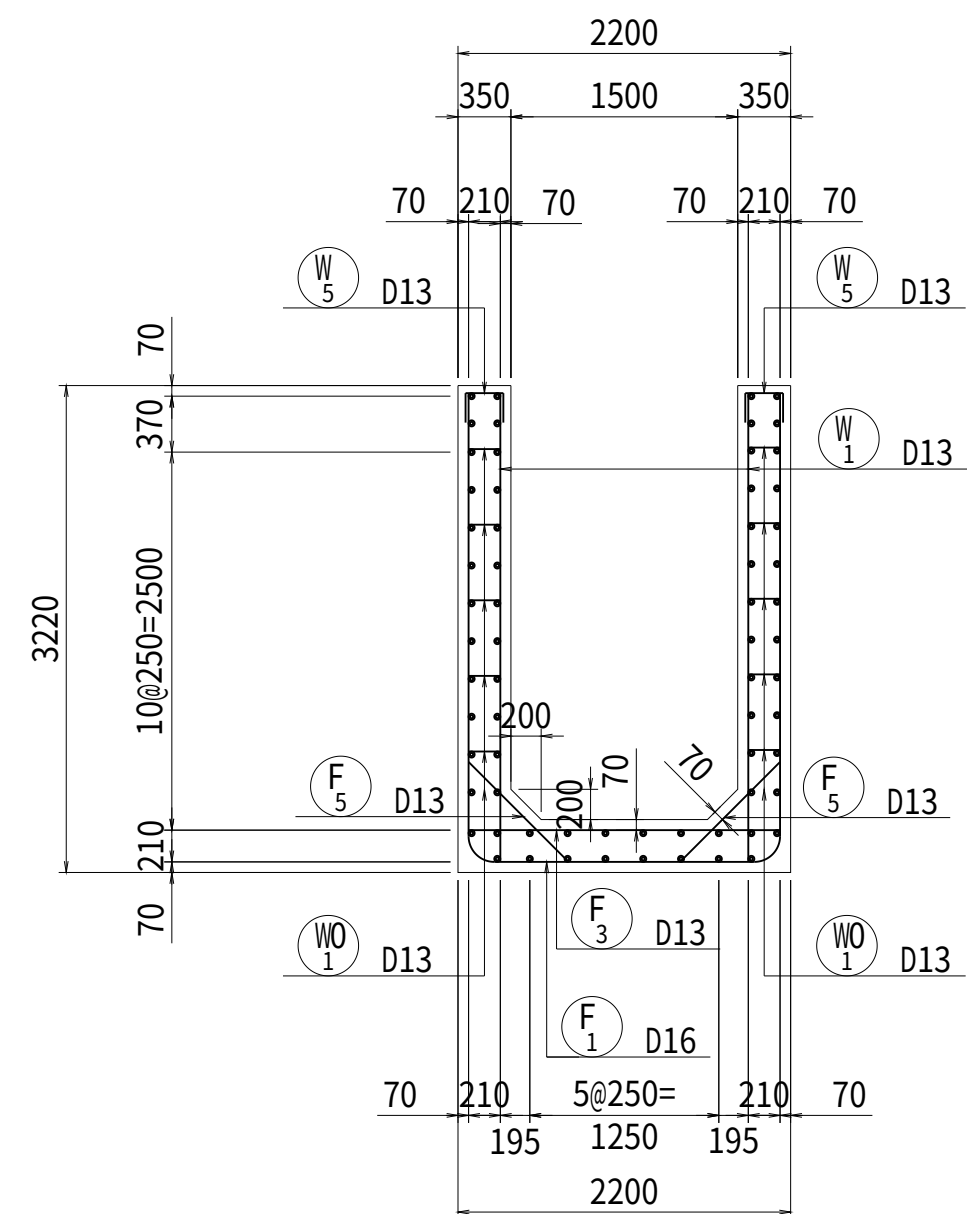


※ 構造物基礎底面における必要地盤支持力 50kN/m2

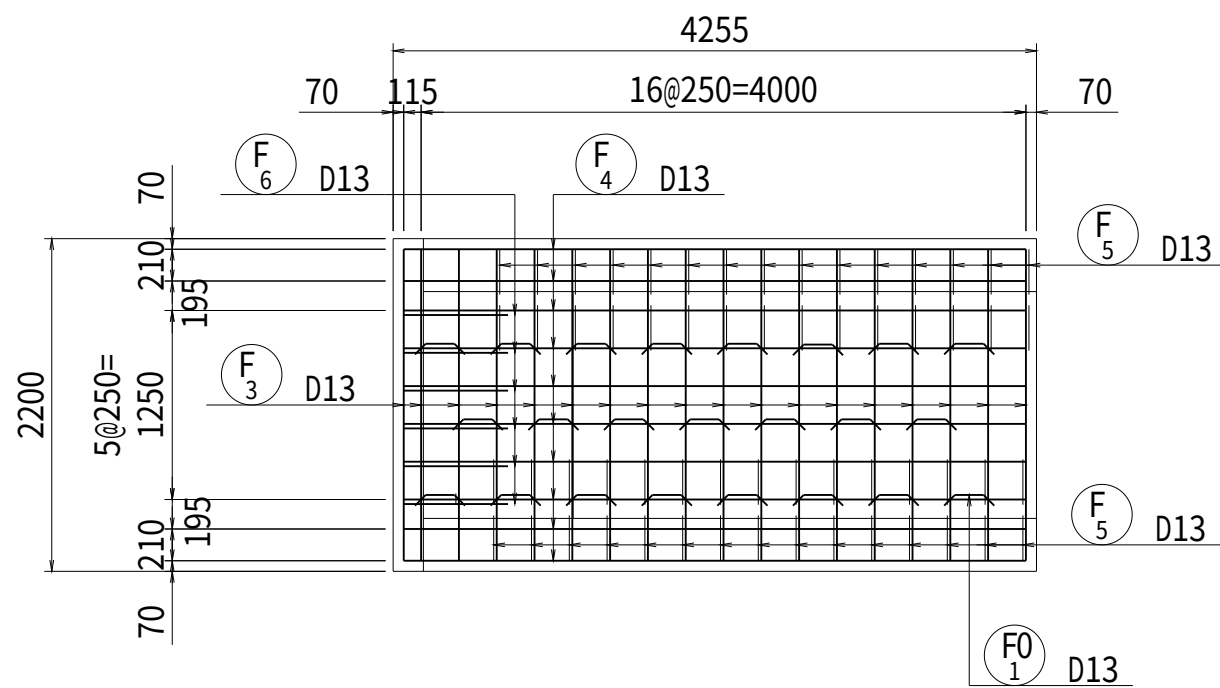
工事名	茨城中部農地整備事業		
図面名	沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図面名	沼前第1用水機場 導水路構造図(1/3)		
作成年月			
縮尺	S=1:50	図面番号	30 - 1/3
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

沼前第1用水機場 導水路構造図(2/3)
配筋図(1)

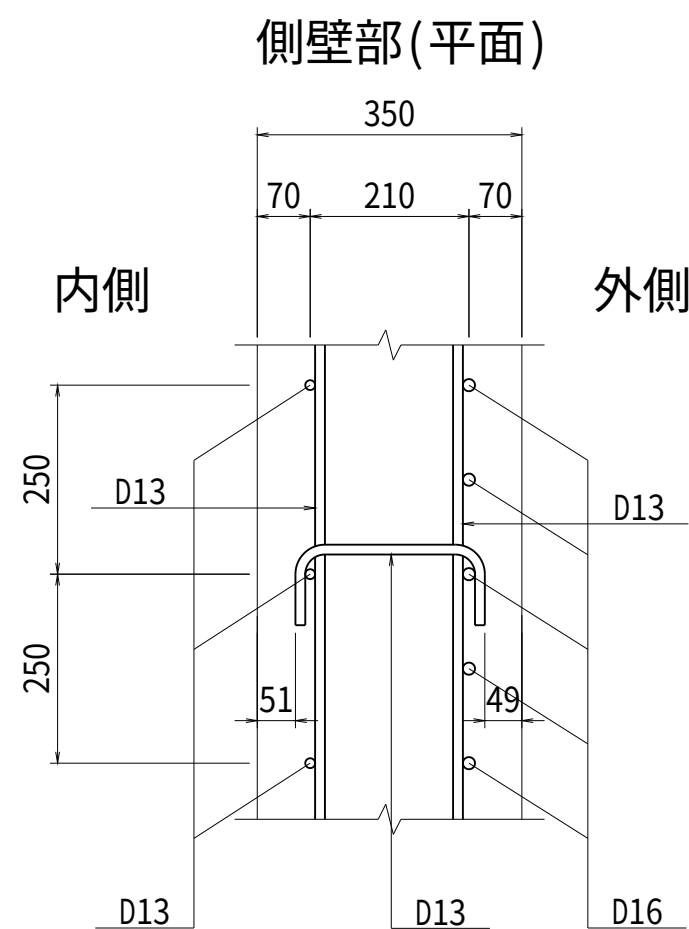
1 - 1
断面図 S=1:50



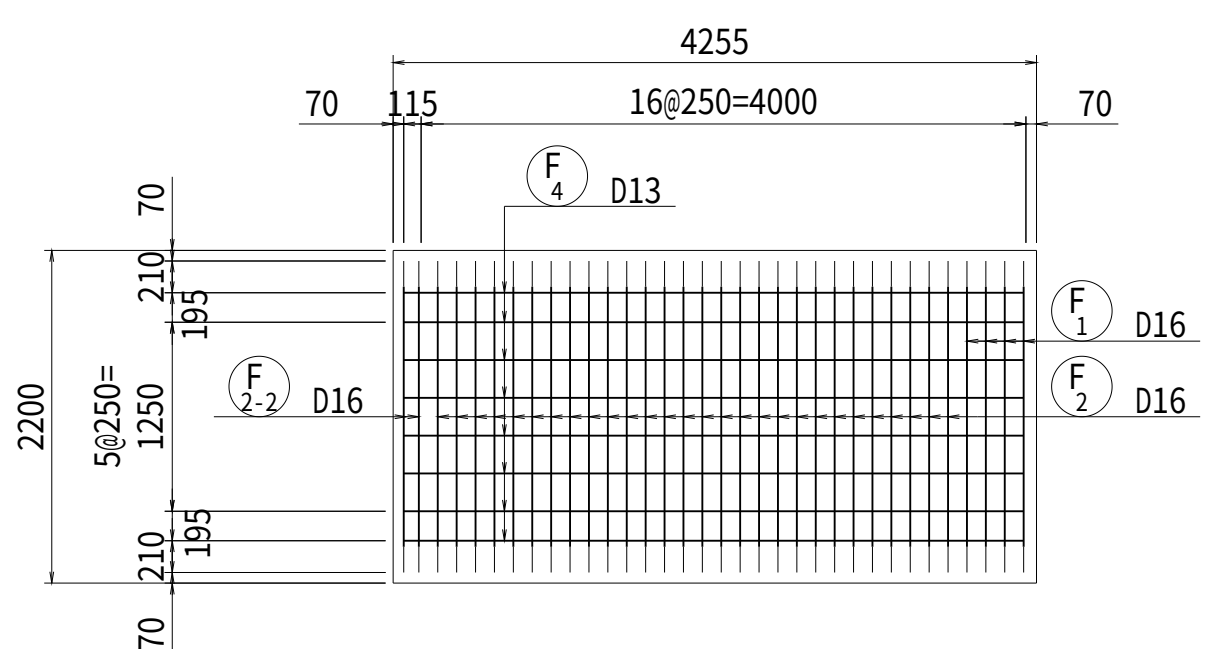
3 - 3
底板上面 S=1:50



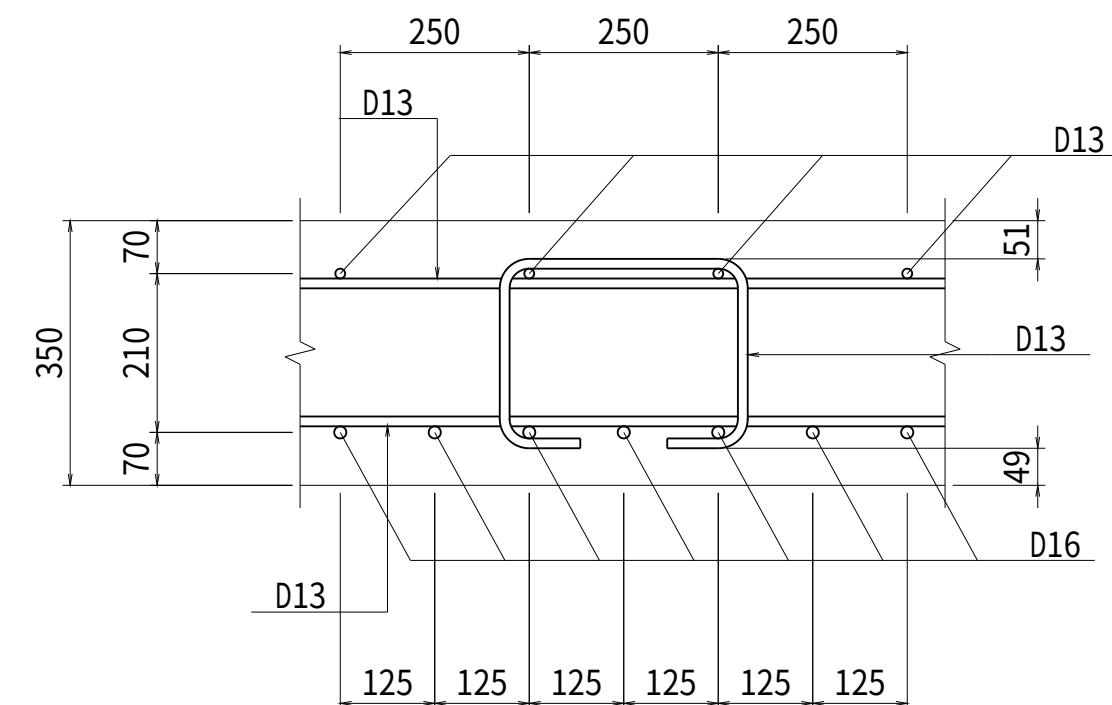
組立図 S=1:10



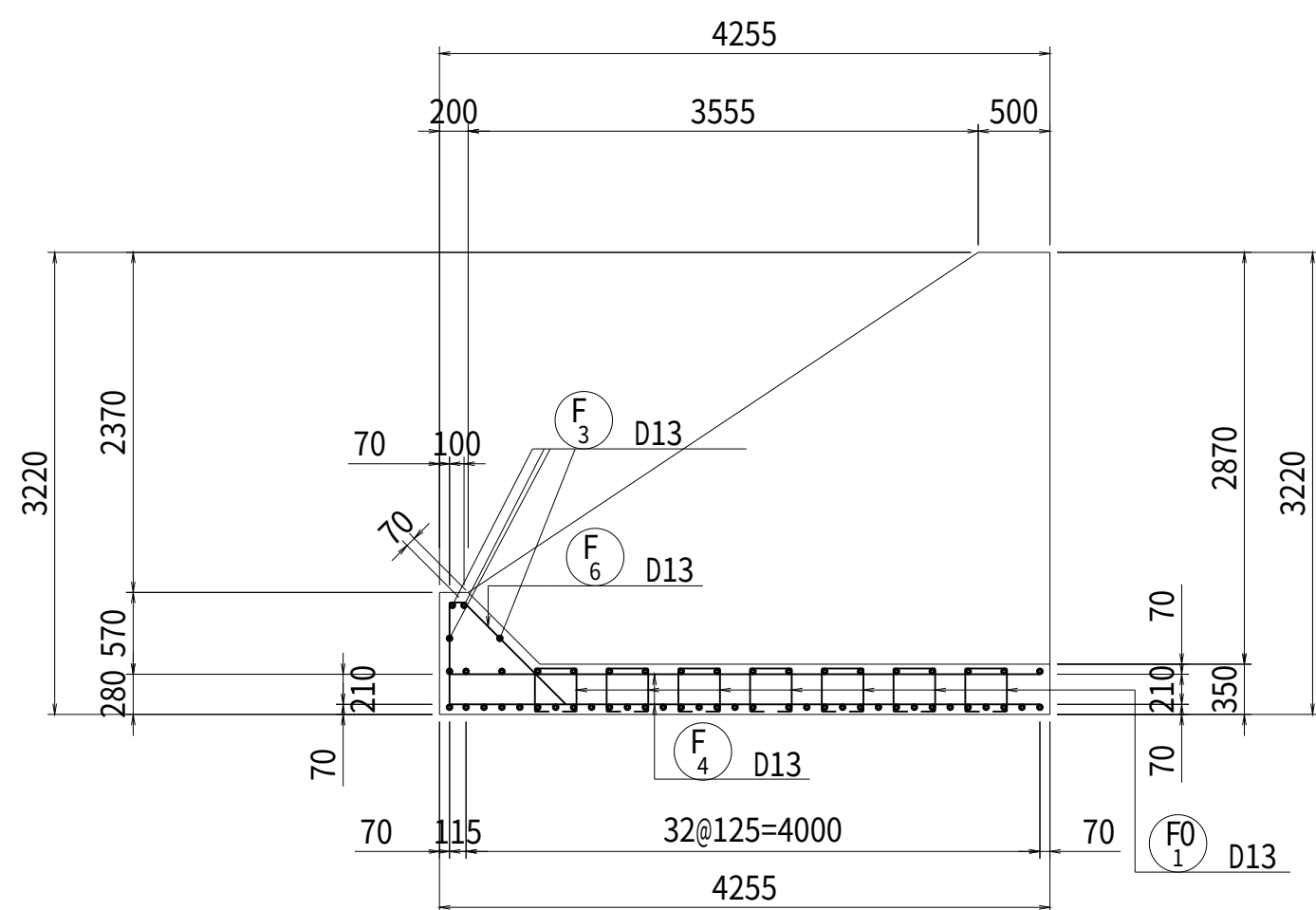
4 - 4
底板下面 S=1:50



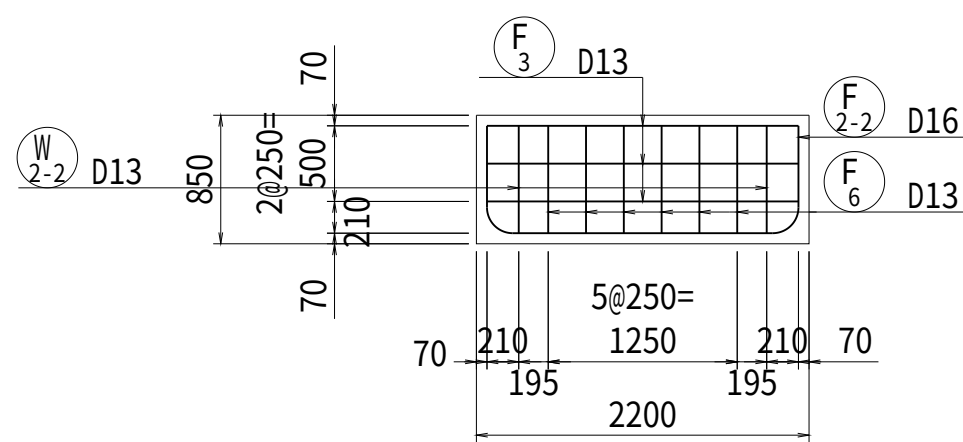
底版部



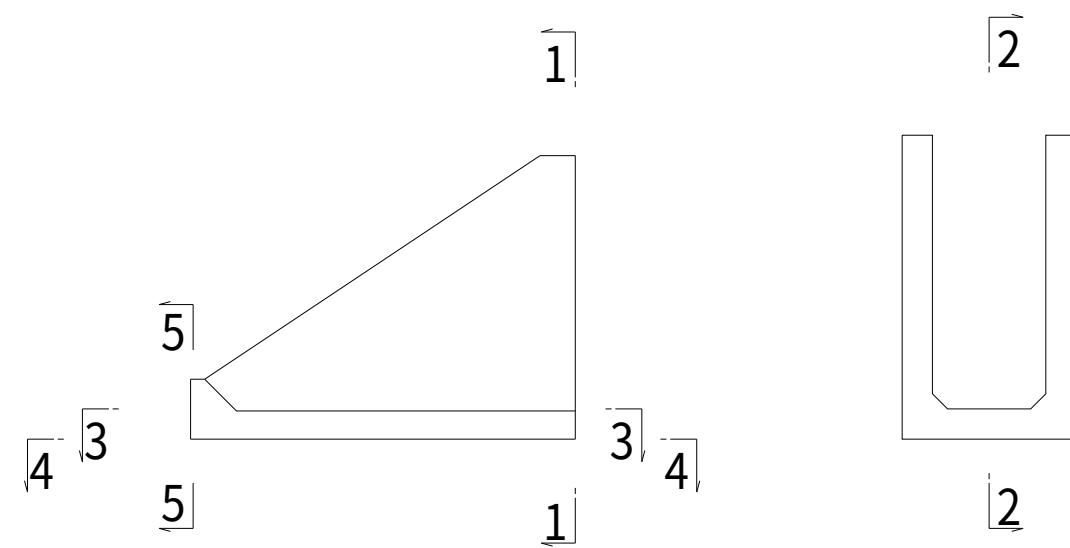
2 - 2
縦断面図 S=1:50



5 - 5
断面図 S=1:50



位置図



工 事 名	茨城中部農地整備事業		
図 面 名	沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
作成年月	沼前第1用水機場 導水路構造図(2/3)		
縮 尺	図示	図面番号	30 - 2/3
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

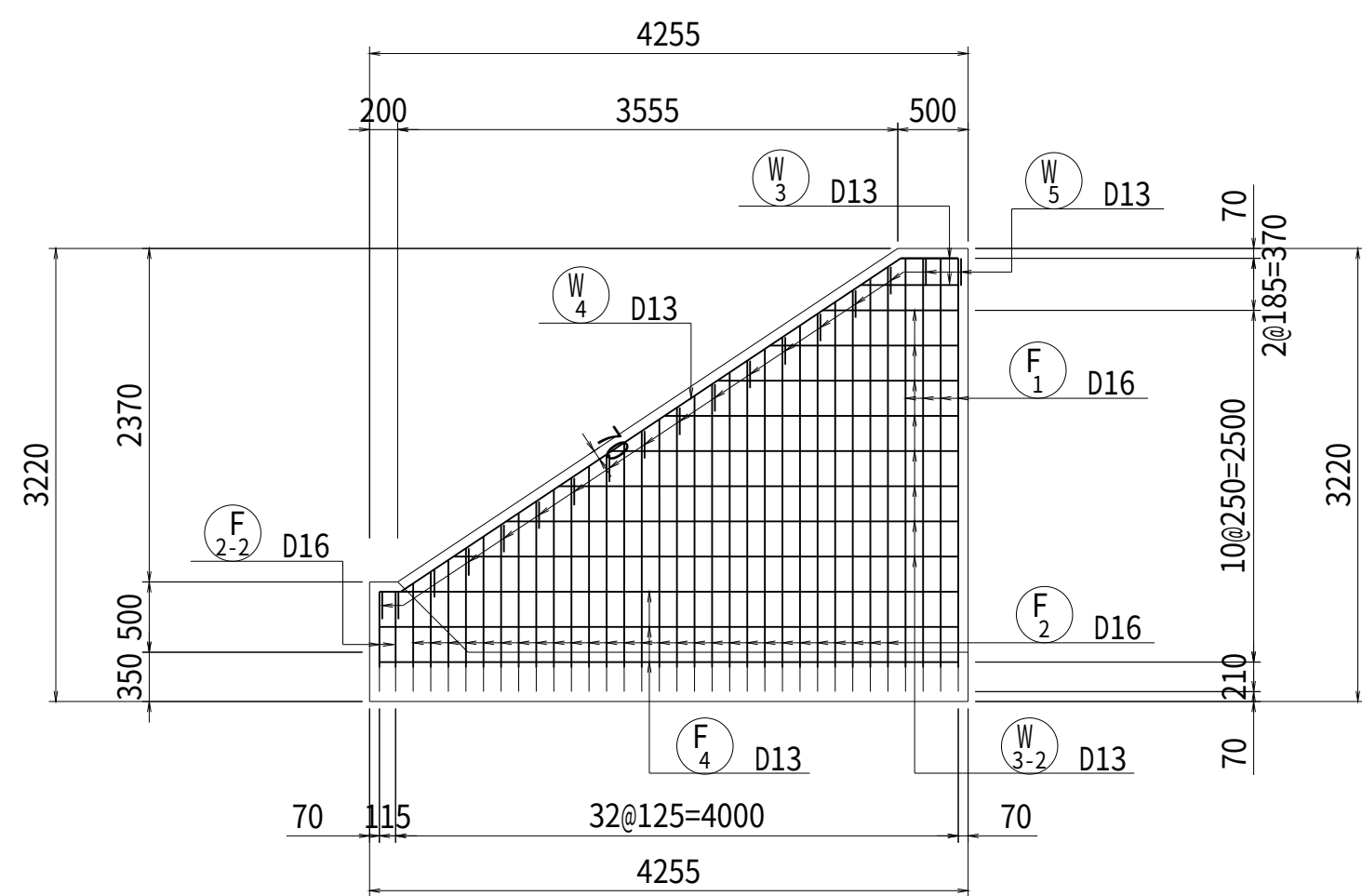
沼前第1用水機場 導水路構造図(3/3)

配筋図(2)

S=1:50

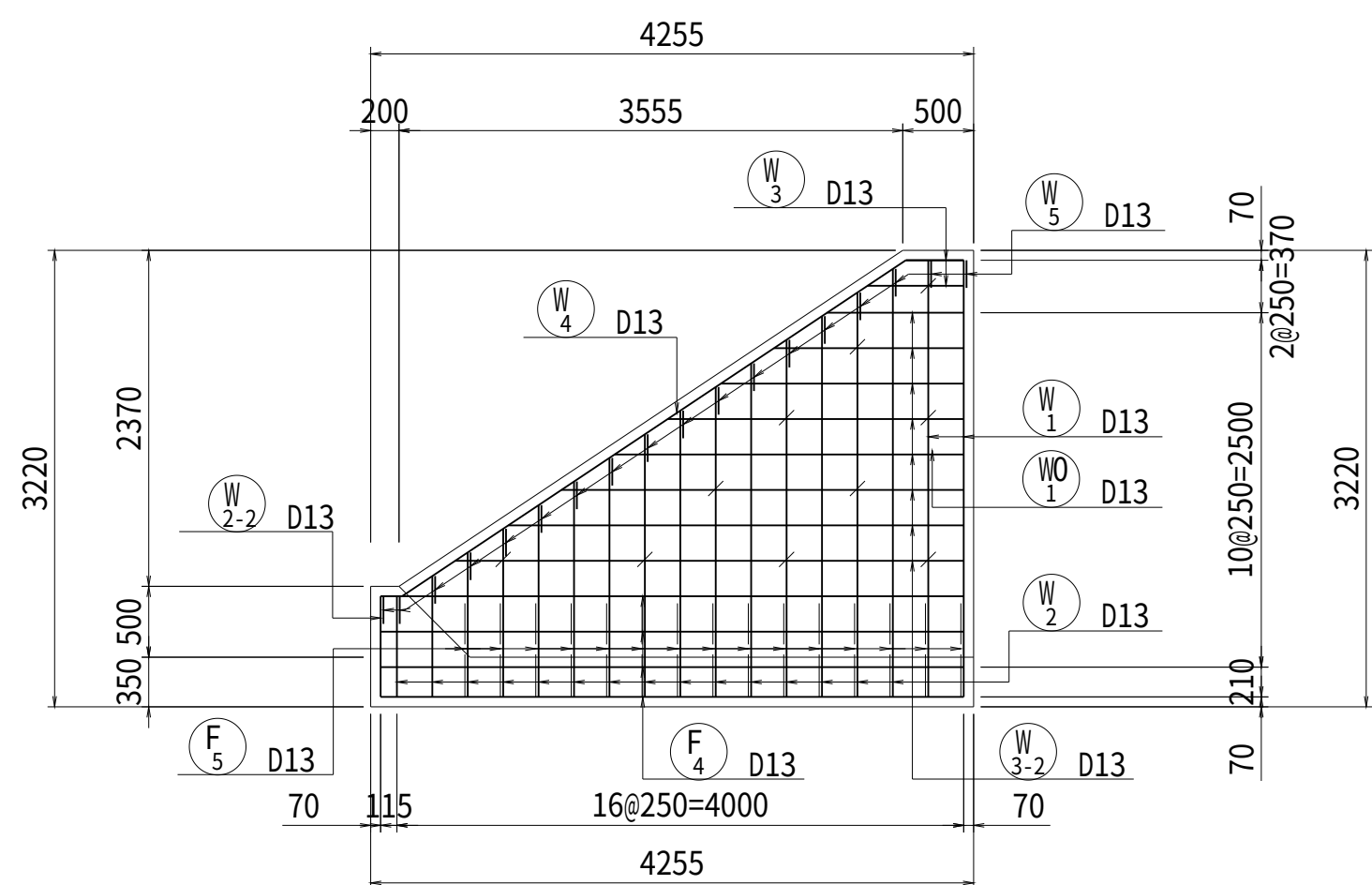
6 - 6

側壁外面

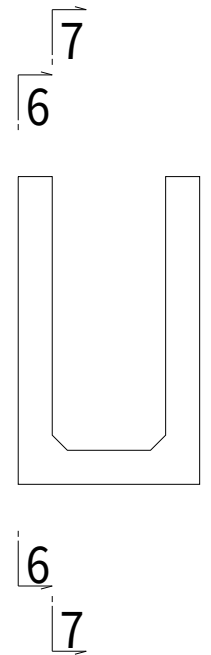


7 - 7

側壁内面



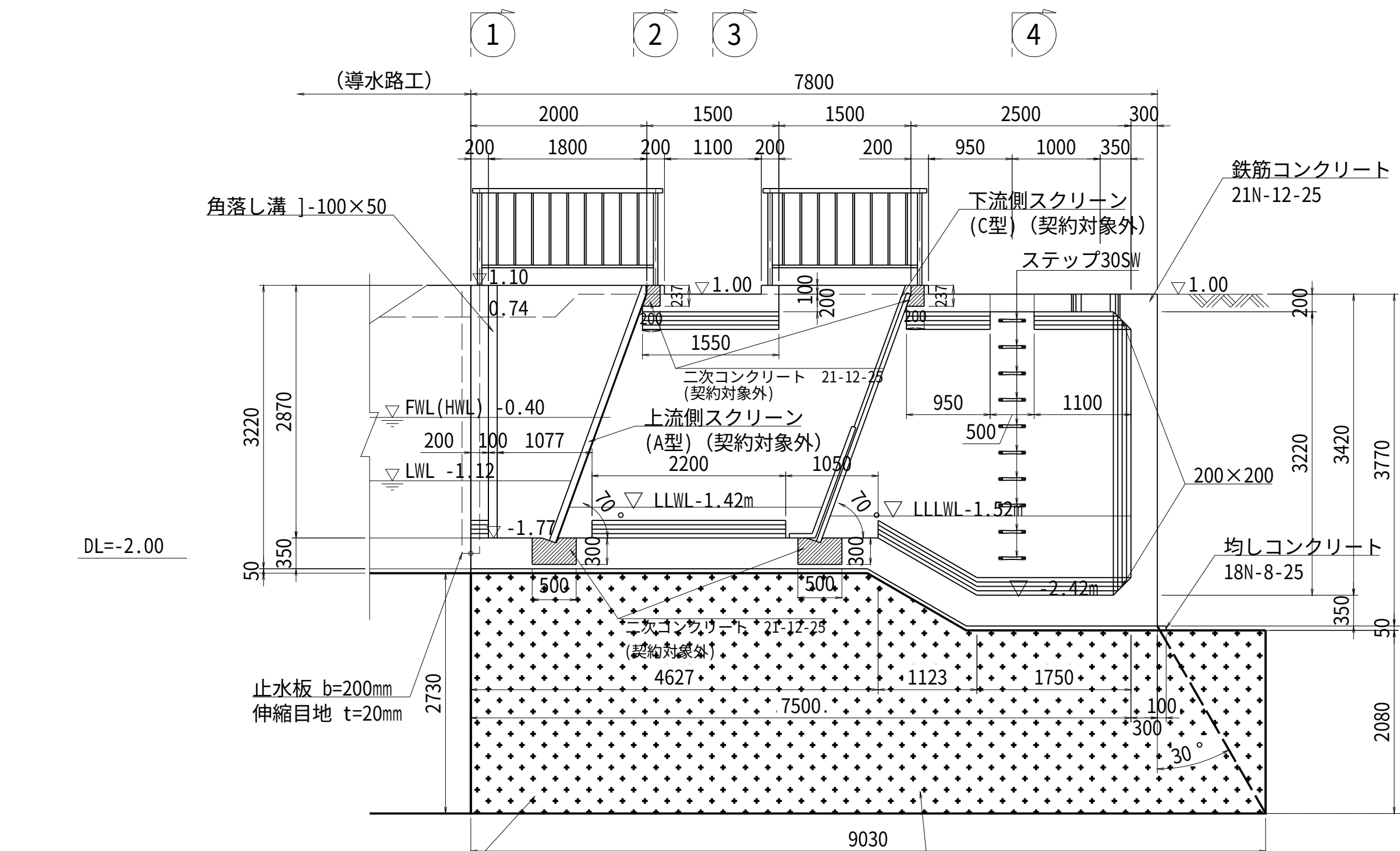
位置図



工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	沼前第1用水機場 導水路構造図(3/3)		
作成年月			
縮 尺	S=1:50	図面番号	30 - 3/3
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

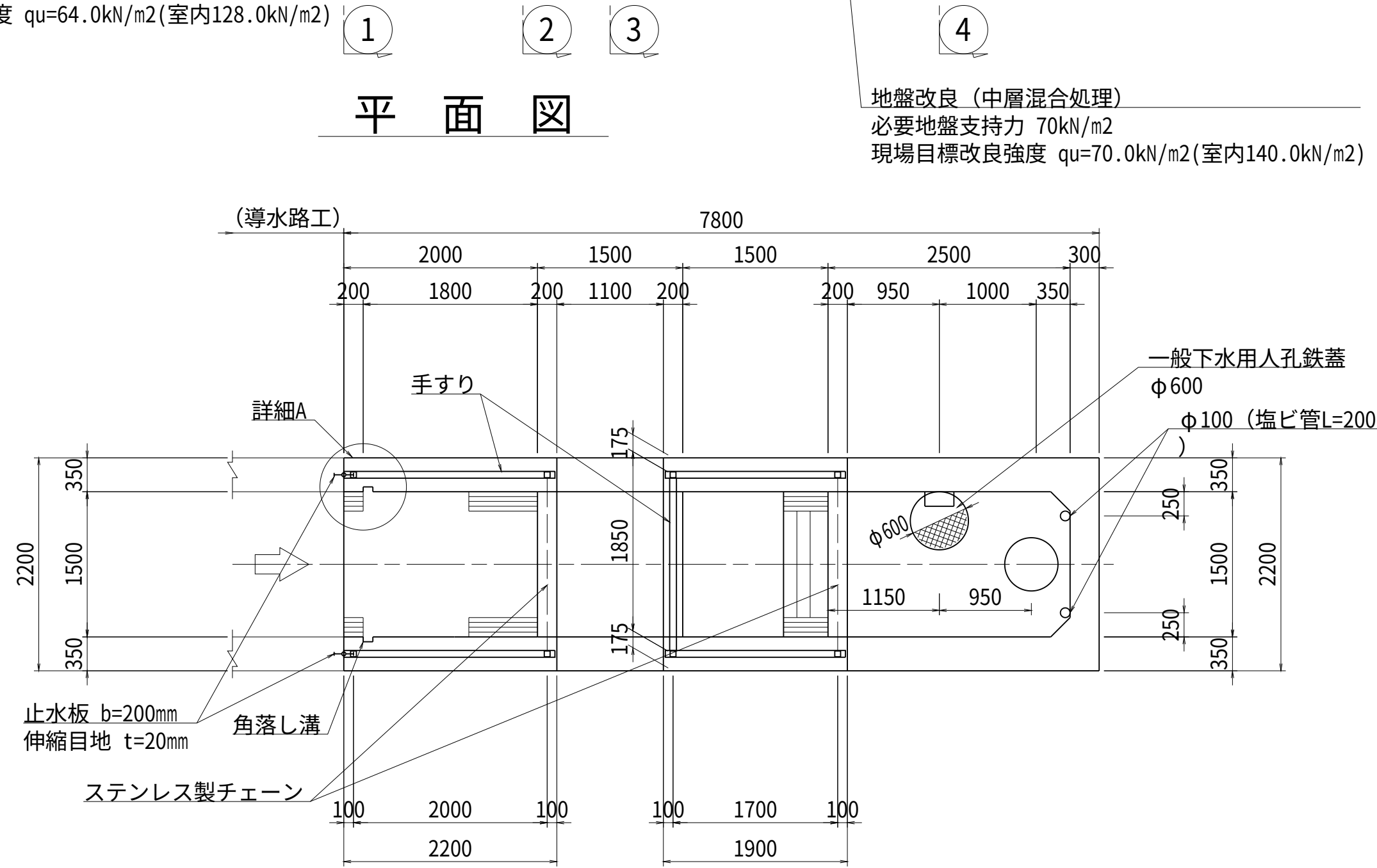
沼前第1用水機場 吸水槽構造図(1/3)
構造図 S=1:50

縦断面図



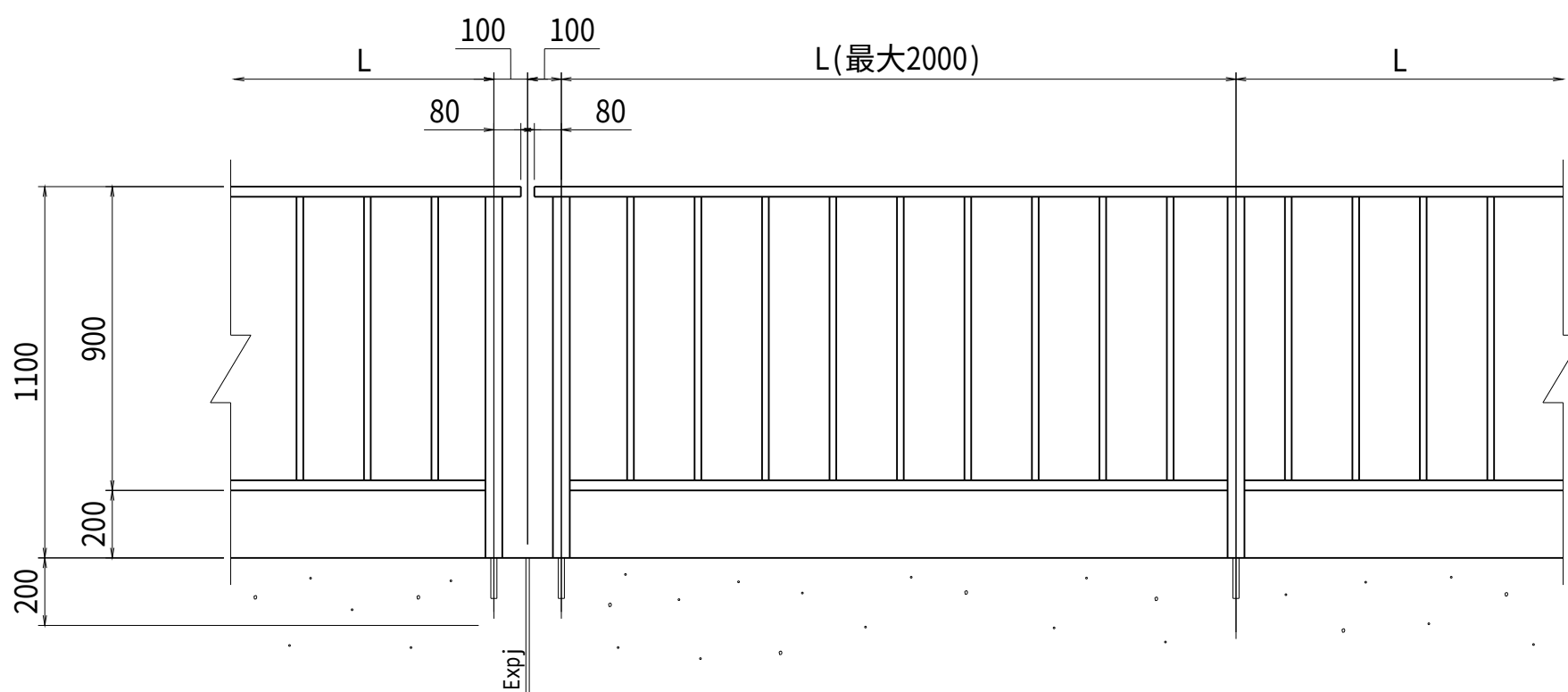
地盤改良 (中層混合処理)
必要地盤支持力 60kN/m2
現場目標改良強度 qu=64.0kN/m2(室内128.0kN/m2)

平面図

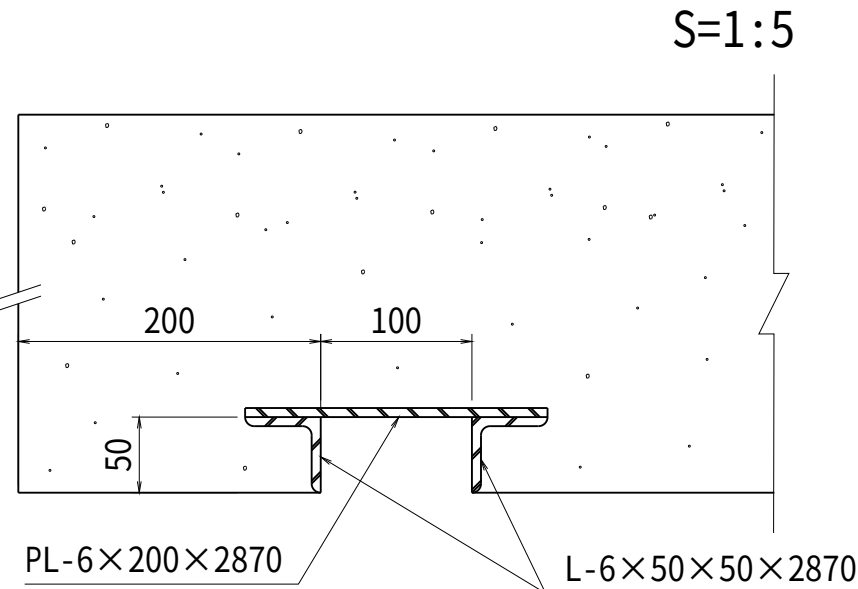


地盤改良 (中層混合処理)
必要地盤支持力 70kN/m2
現場目標改良強度 qu=70.0kN/m2(室内140.0kN/m2)

手すり標準寸法図
(アルミ製アンカータイプ) S=1:20

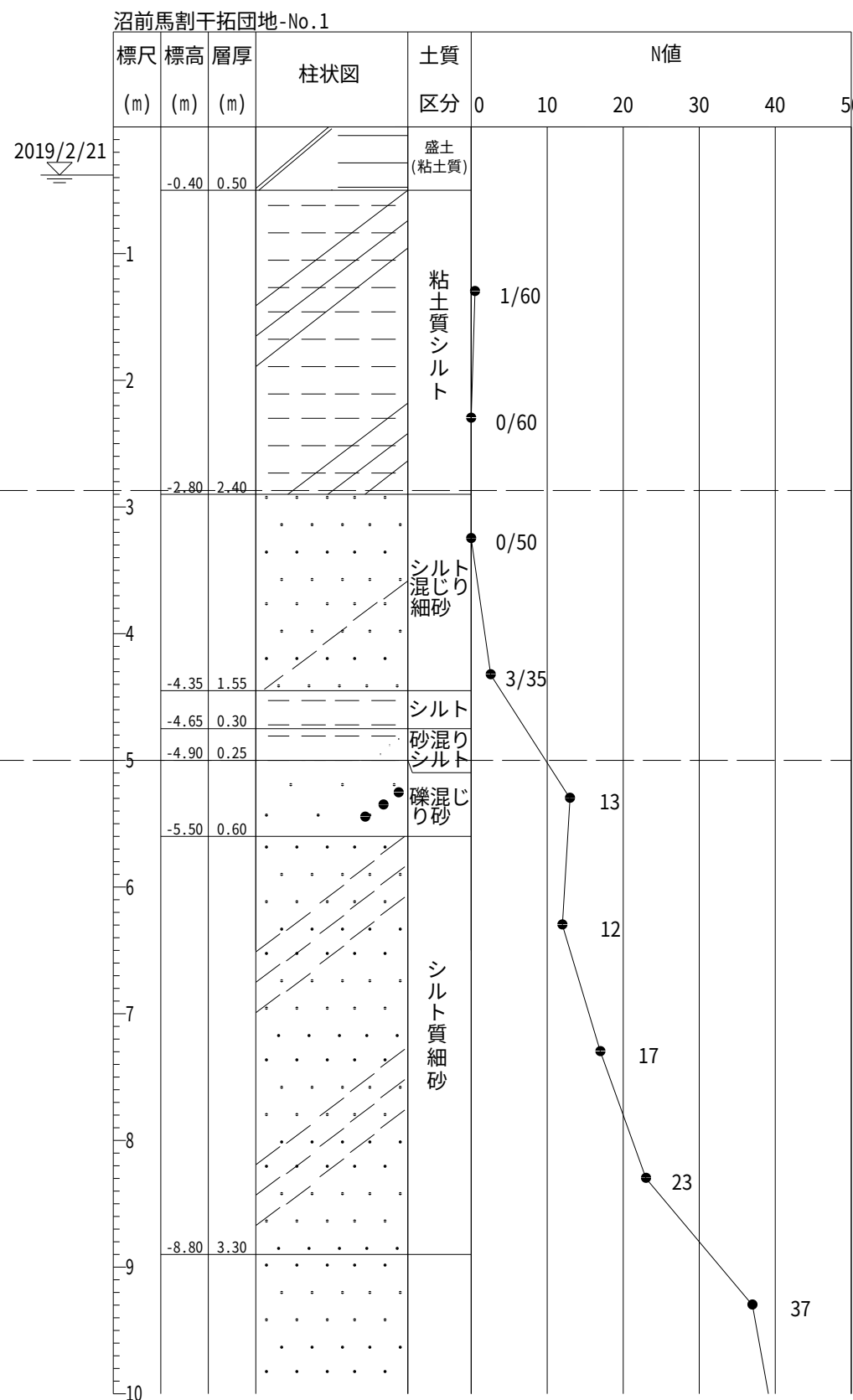


詳細 A

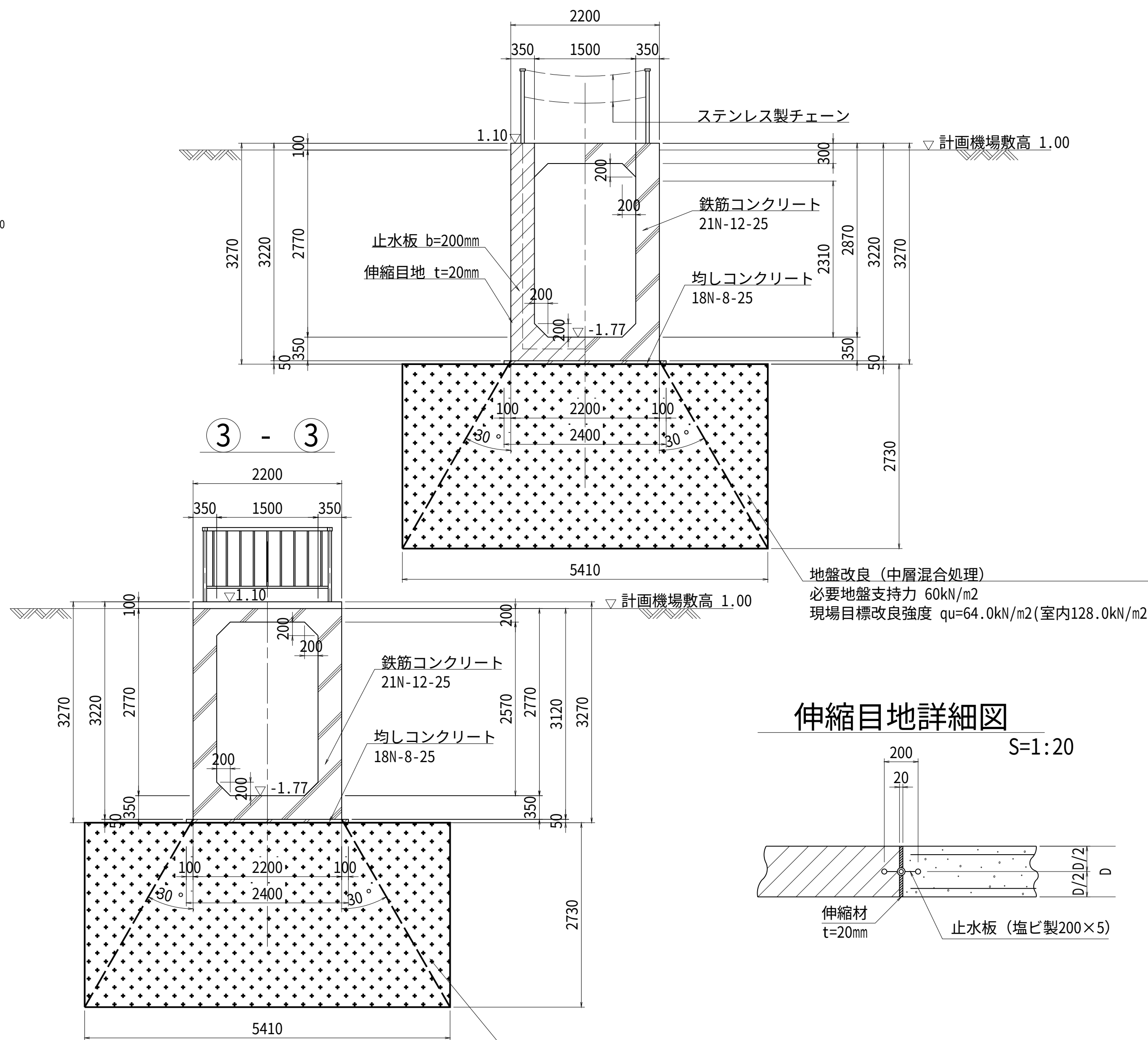


地盤改良 (中層混合処理)
必要地盤支持力 70kN/m2
現場目標改良強度 qu=70.0kN/m2(室内140.0kN/m2)

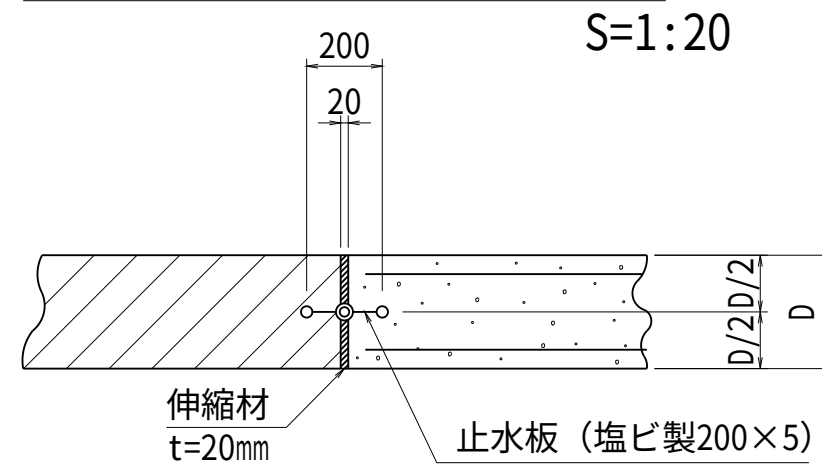
ボーリング柱状図



① - ① ② - ②

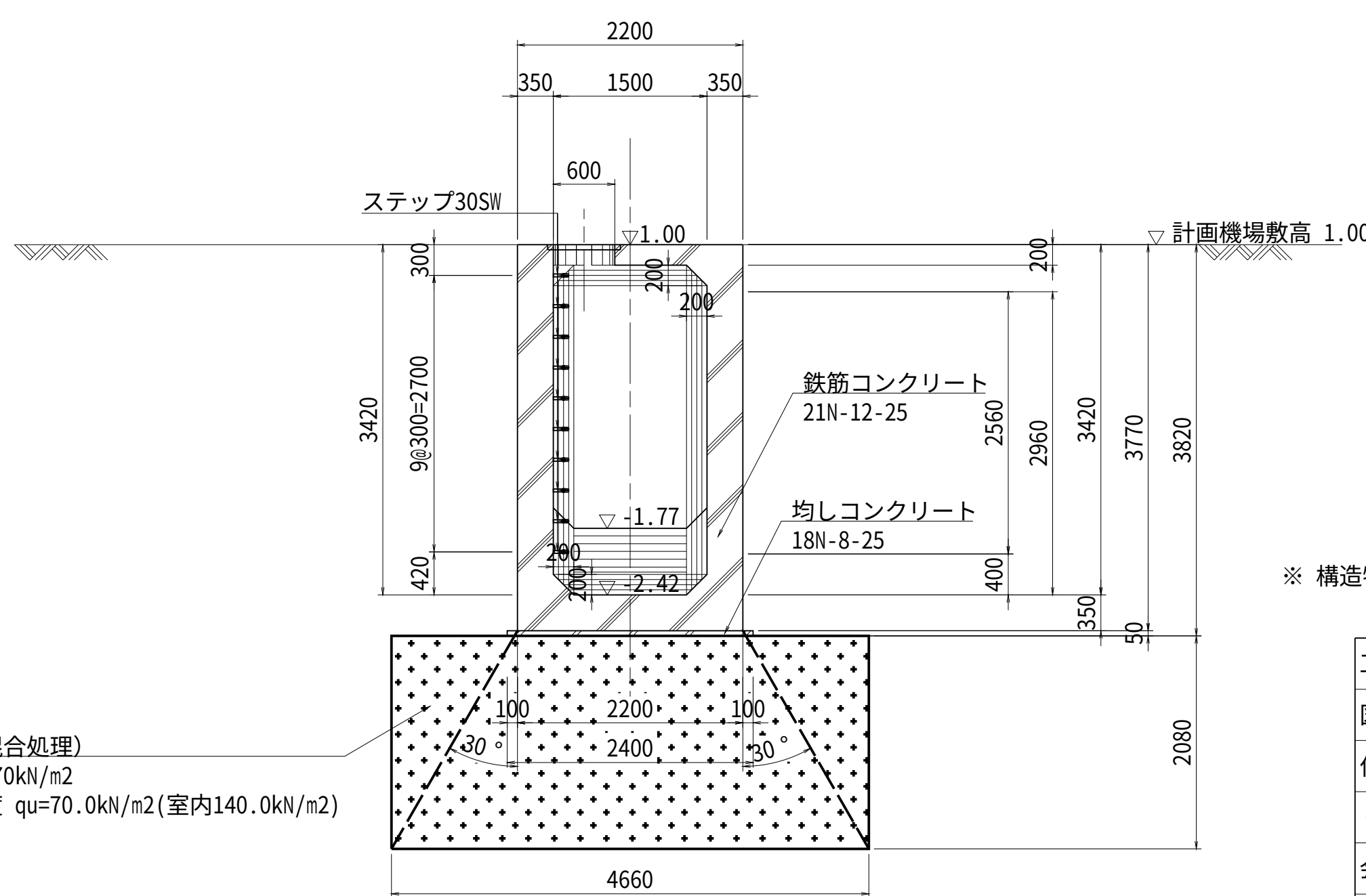


伸縮目地詳細図



地盤改良 (中層混合処理)
必要地盤支持力 60kN/m2
現場目標改良強度 qu=64.0kN/m2(室内128.0kN/m2)

④ - ④



※ 構造物基礎底面における必要地盤支持力 70kN/m2

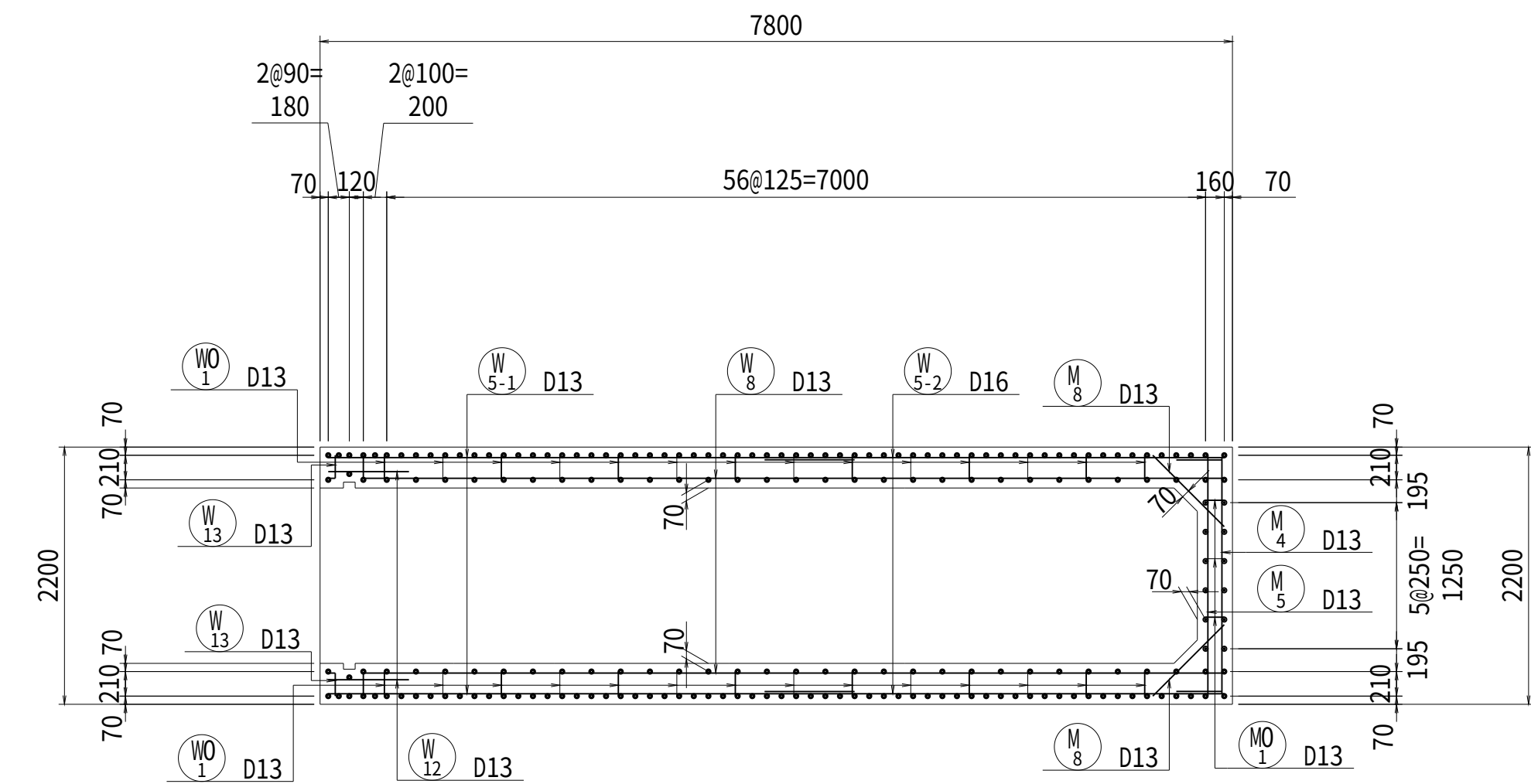
工事名	茨城中部農地整備事業		
図面名	沼前第1用水機場 吸水槽構造図(1/3)		
作成年月			
縮尺	図示	図面番号	31 - 1/3
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

沼前第1用水機場 吸水槽構造図(2/3)

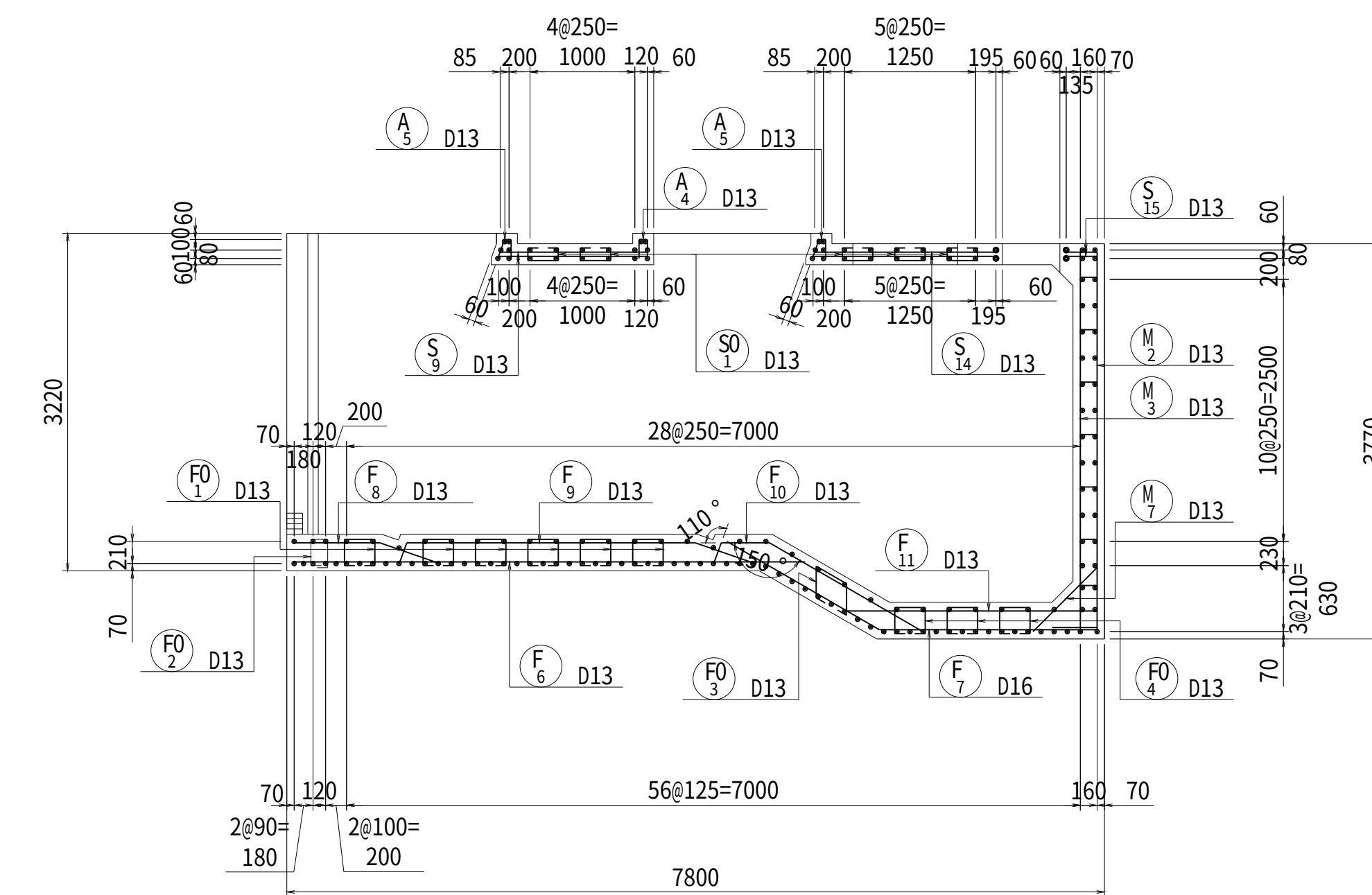
配筋図(1)

S=1:50

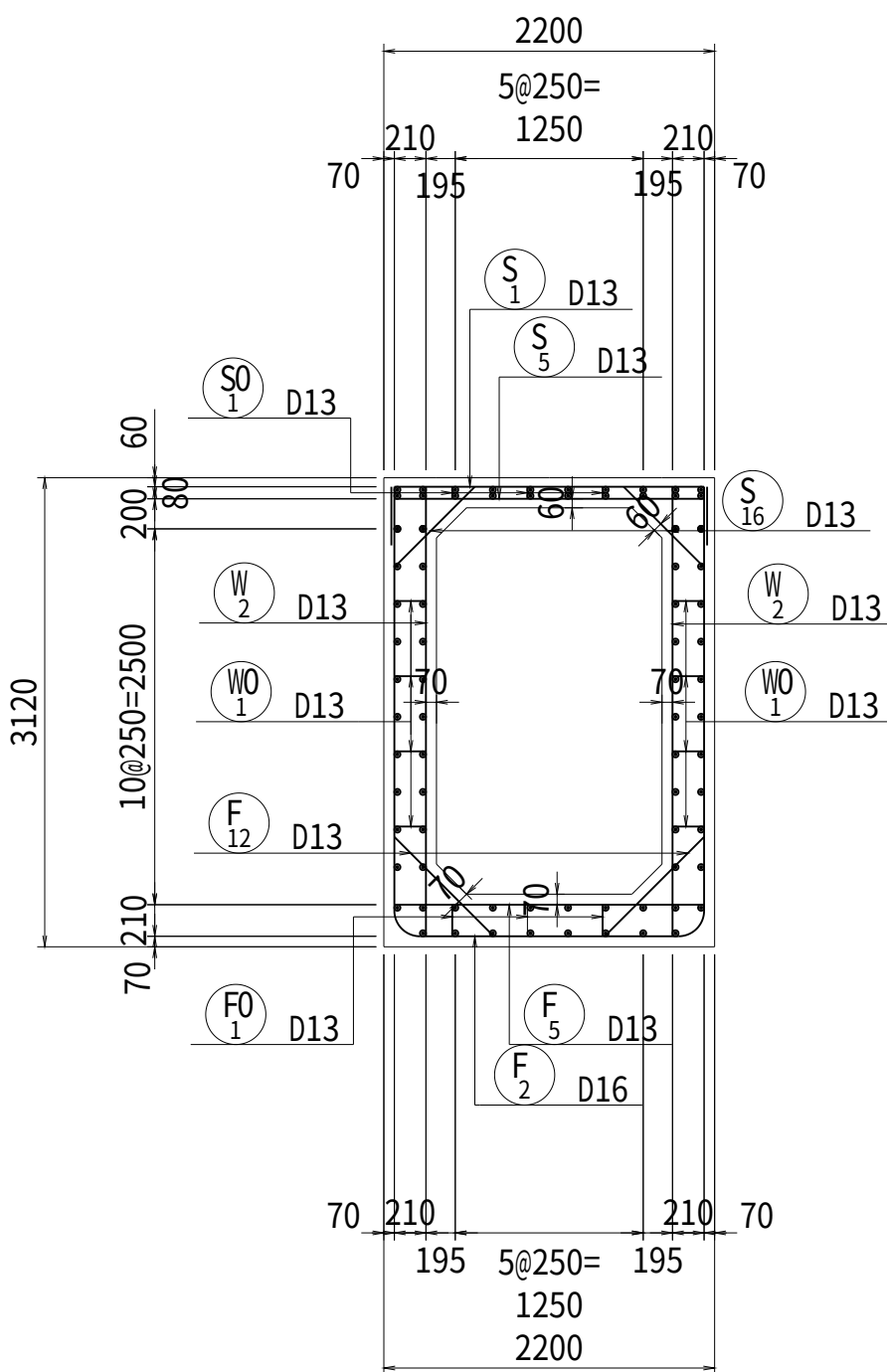
1 - 1
断面図



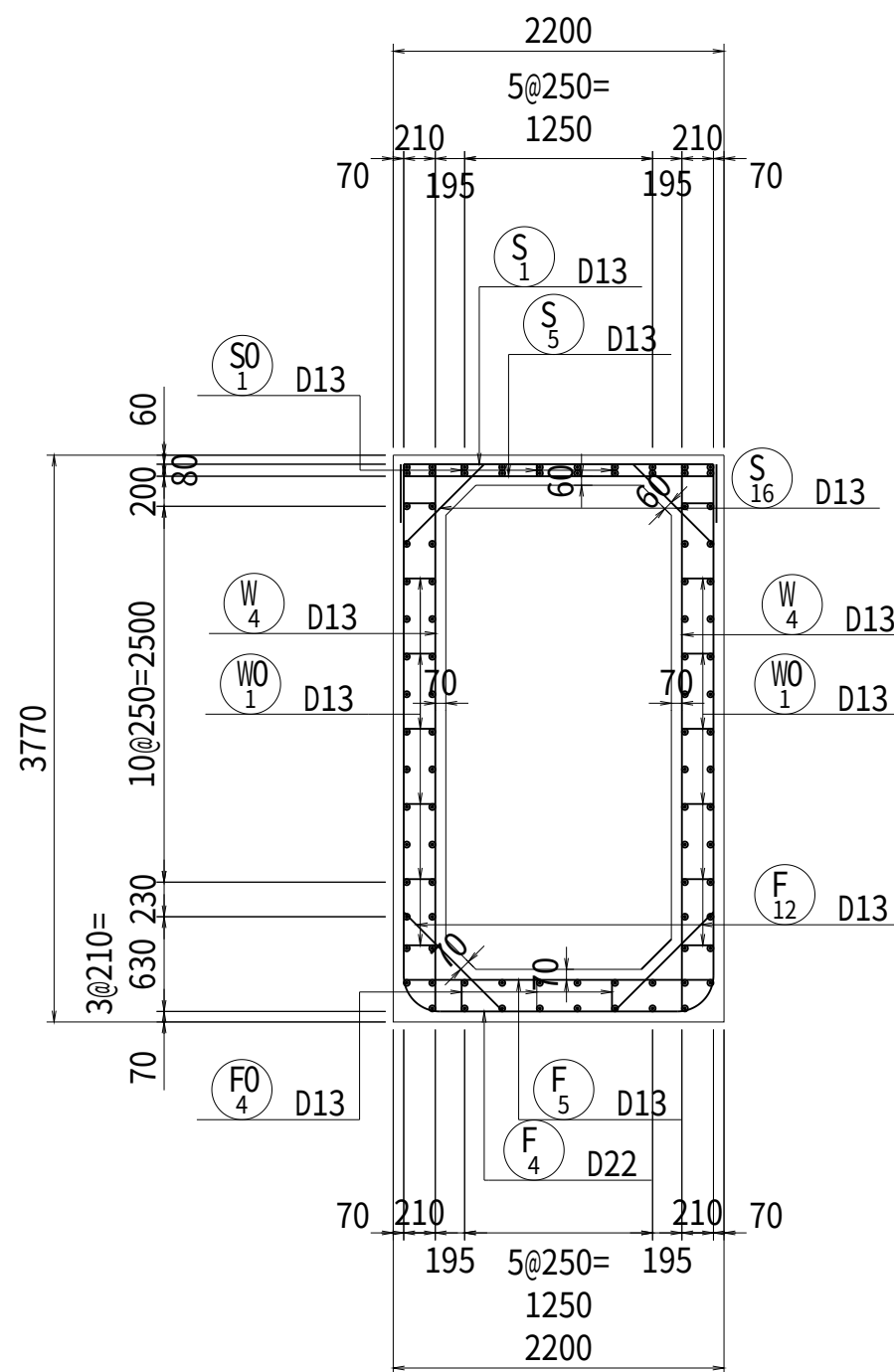
2 - 2
断面図



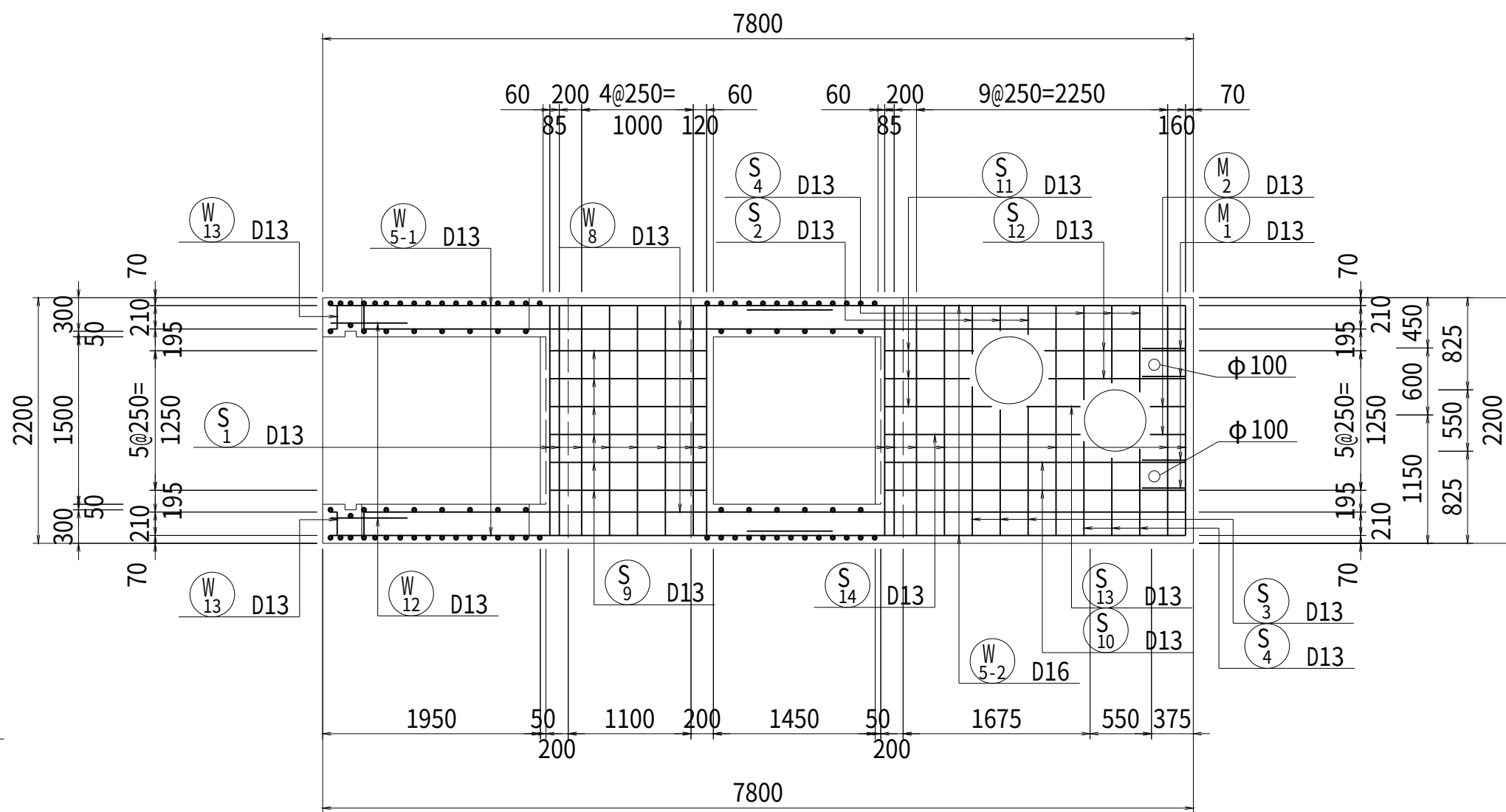
3 - 3
断面図



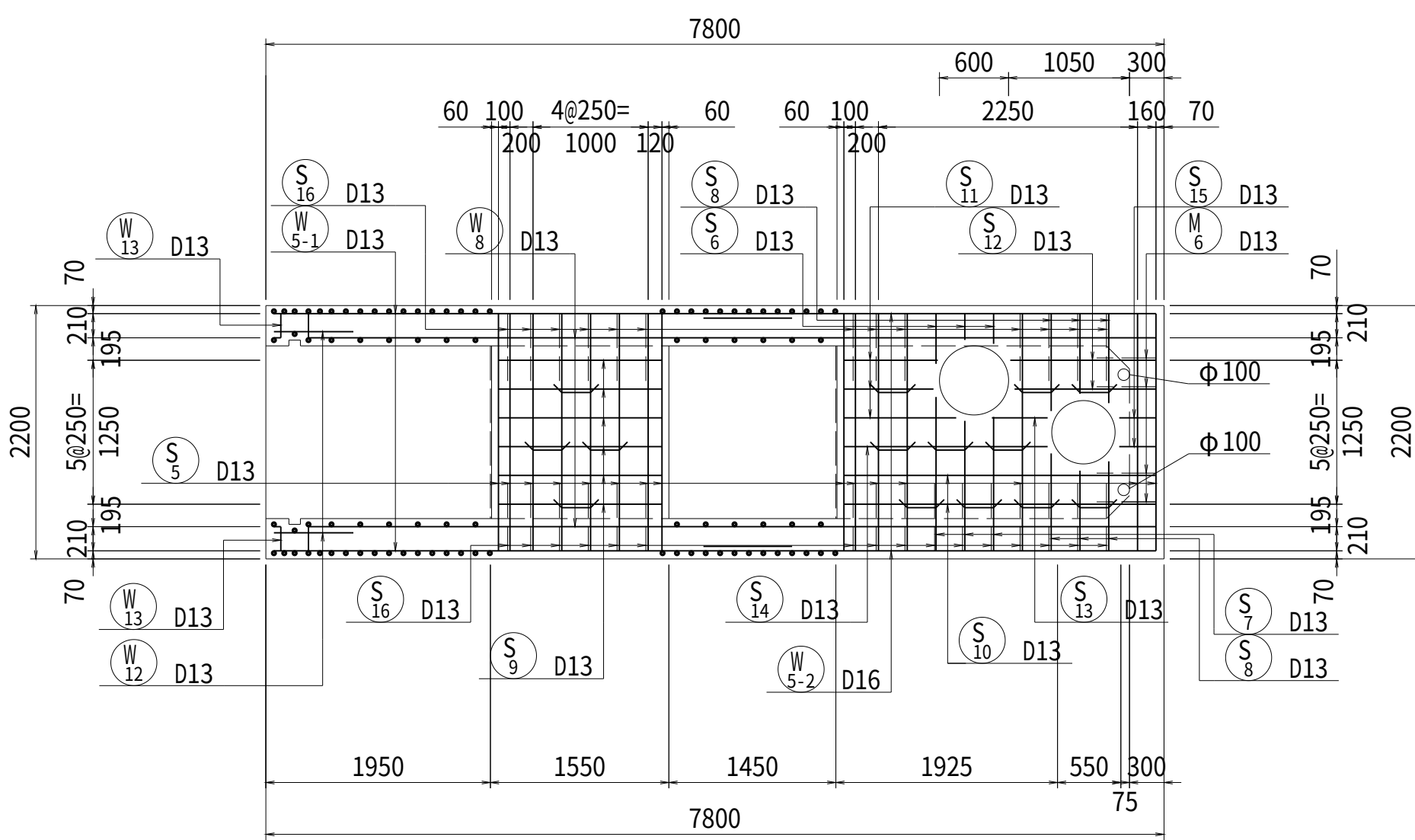
4 - 4
断面図



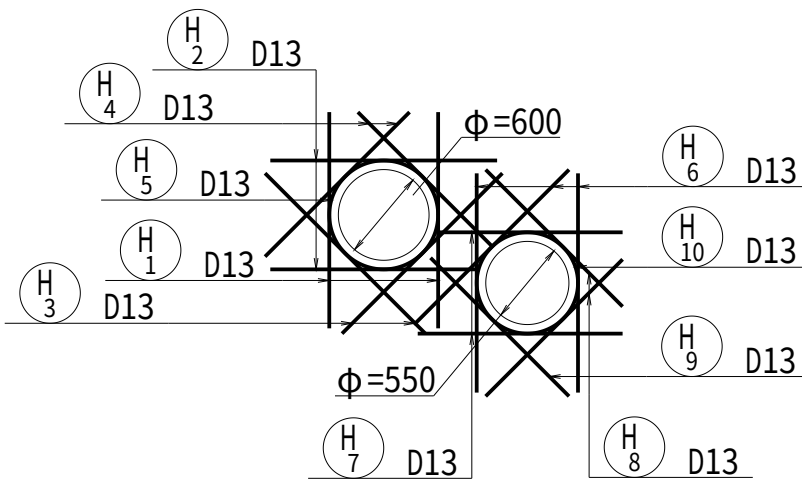
5 - 5
頂版上面



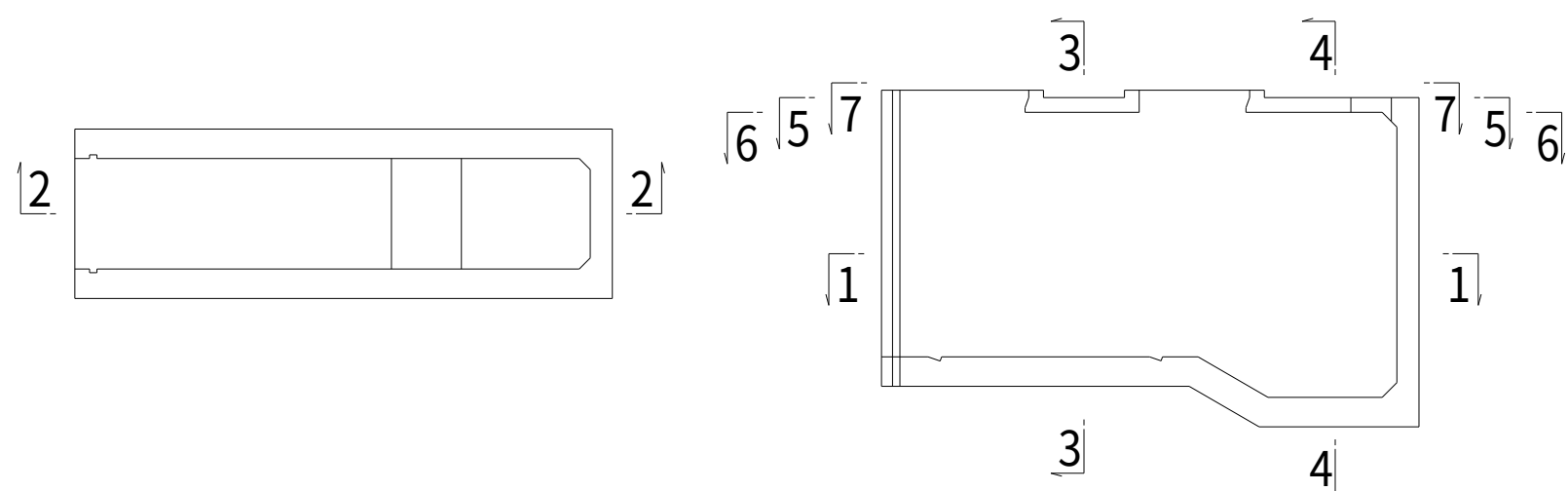
6 - 6
頂版下面



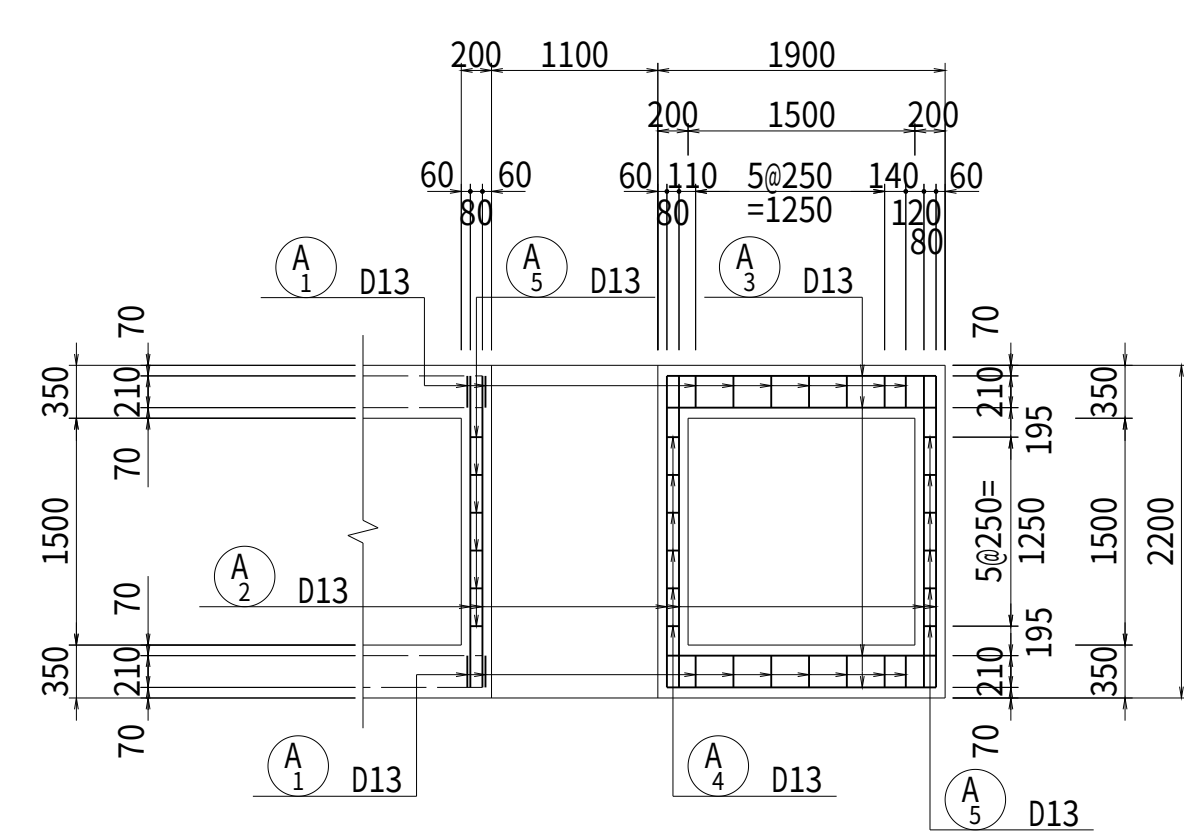
開口部補強鉄筋
(5-5,6-6)



位置図



7 - 7
頂版立上り部



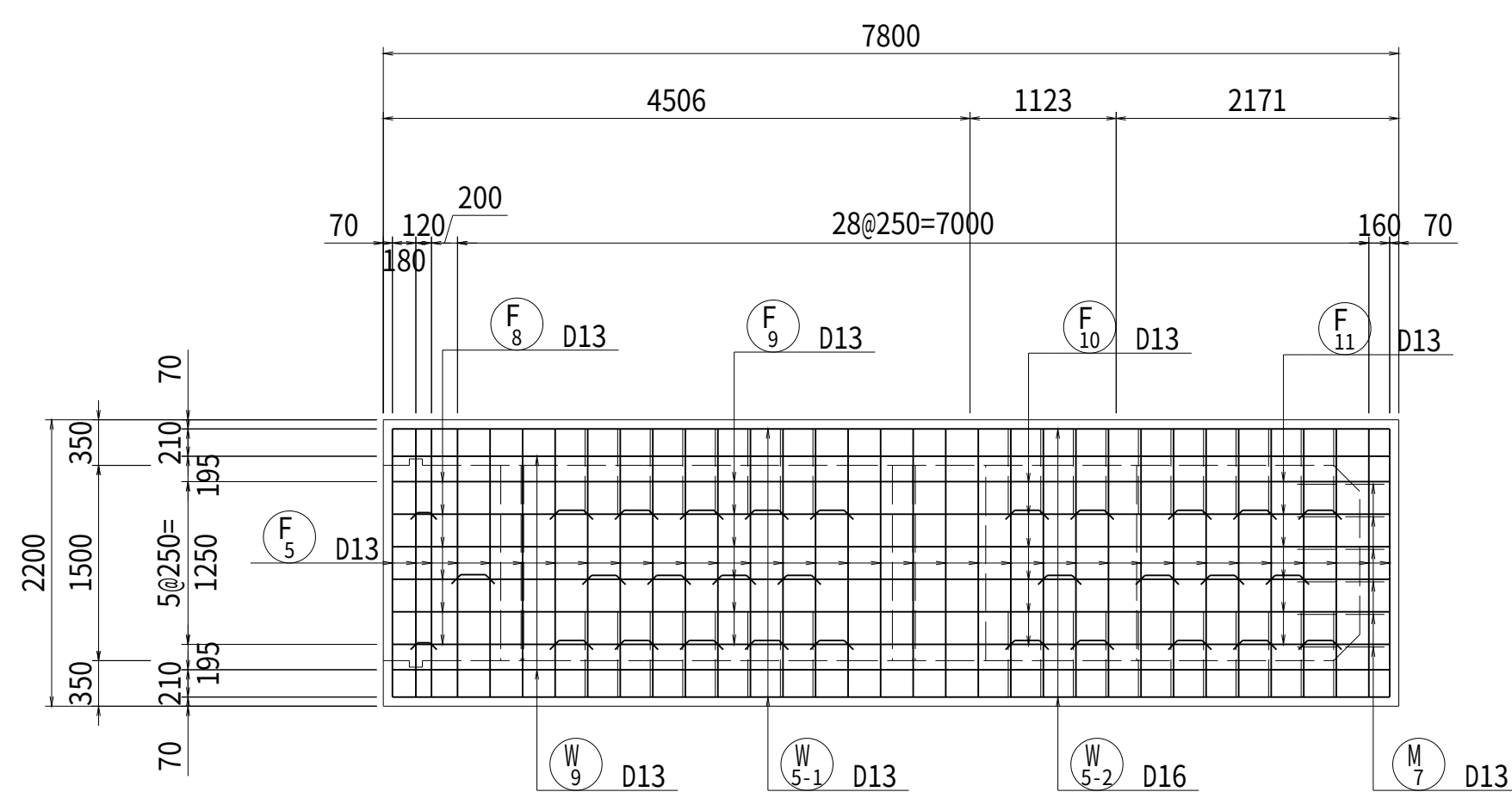
工事名	茨城中部農地整備事業		
図面名	沼前第1用水機場 吸水槽構造図(2/3)		
作成年月			
縮尺	S=1:50	図面番号	31 - 2/3
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

沼前第1用水機場 吸水槽構造図(3/3)

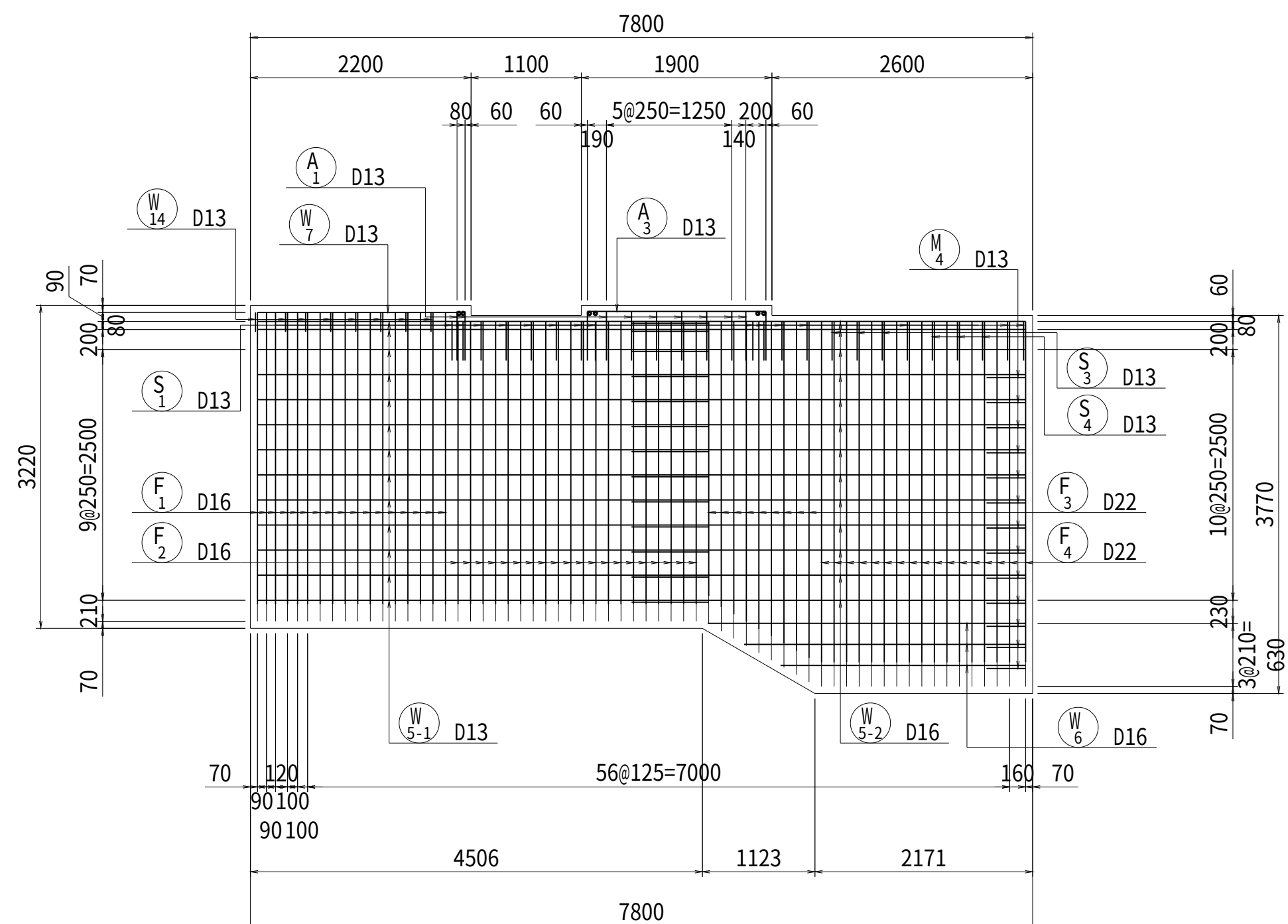
配筋図(2)

S=1:50

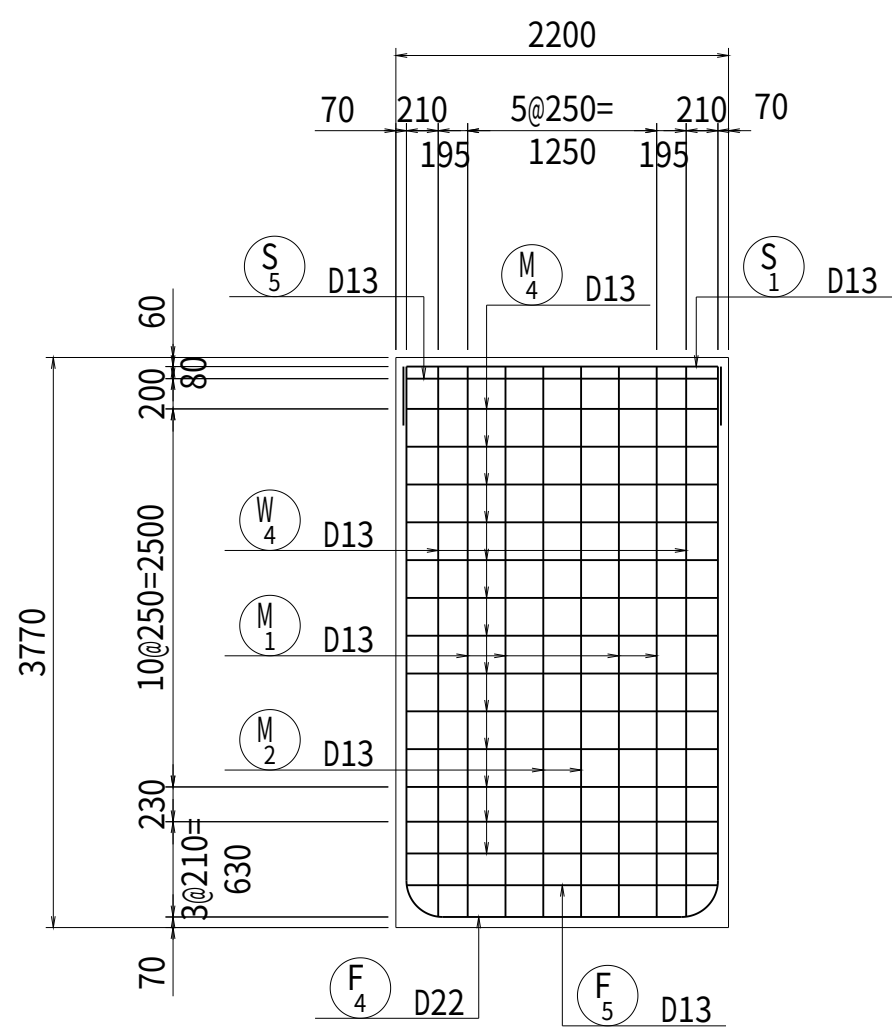
8 - 8
底板上面



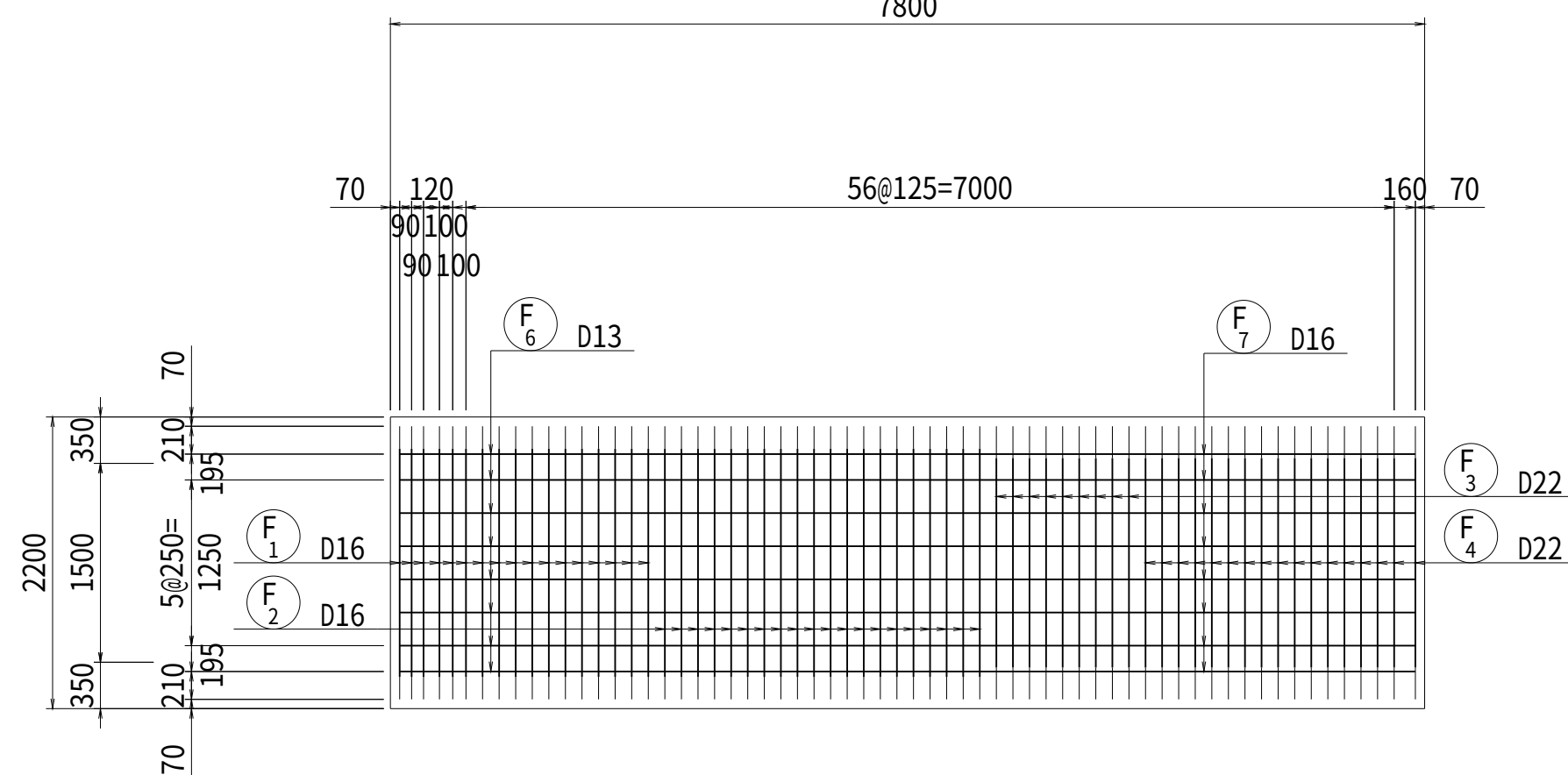
10 - 10
側壁外面



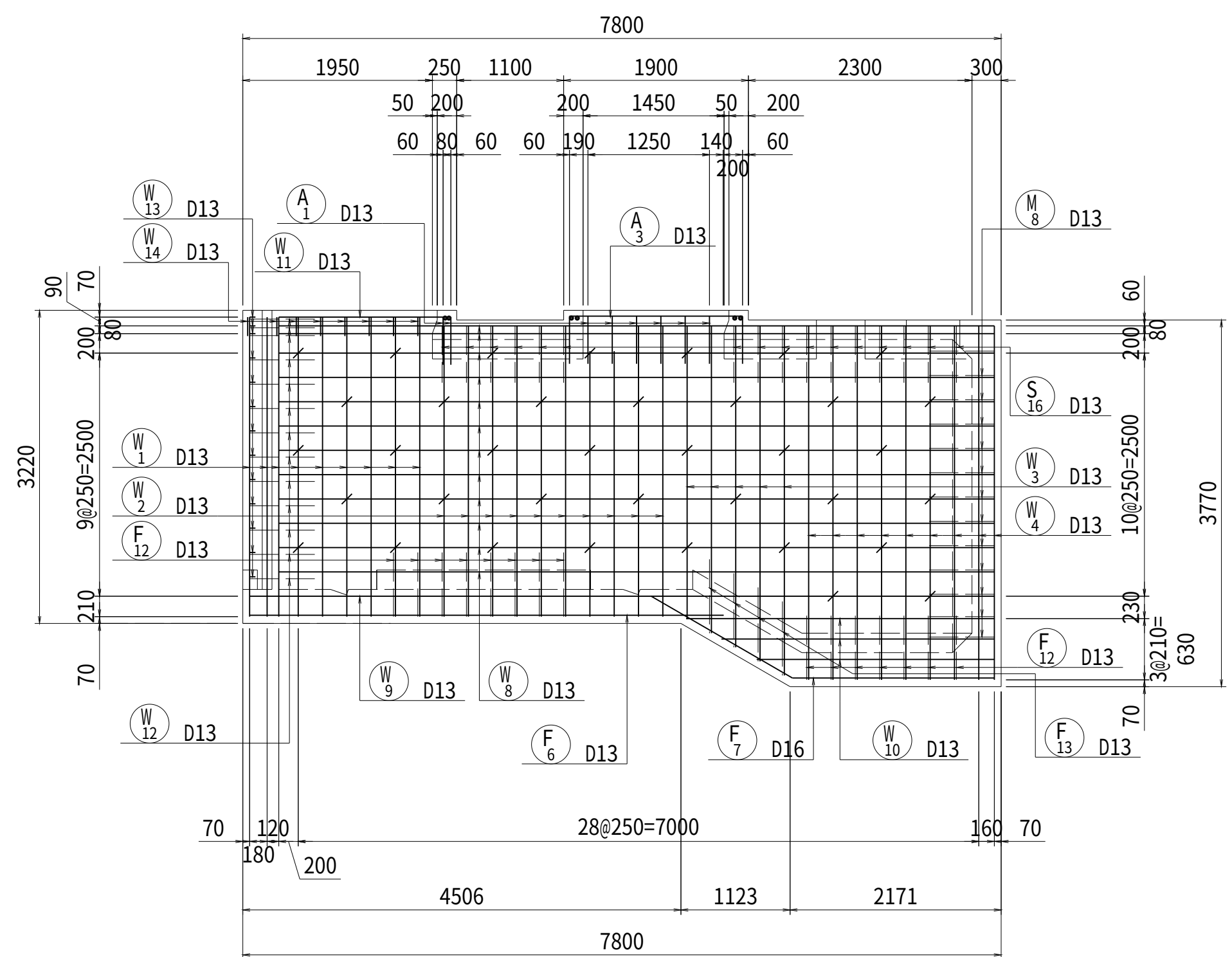
12 - 12
妻壁外面



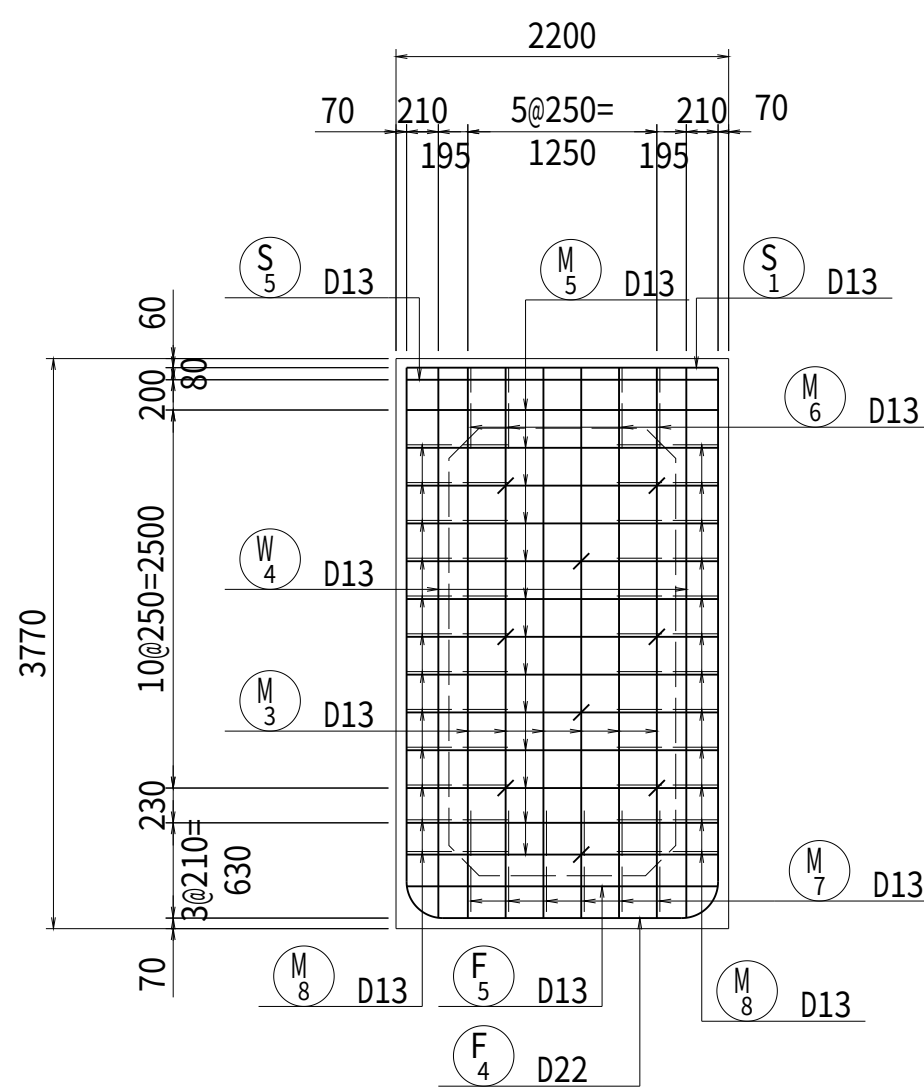
9 - 9
底板下面



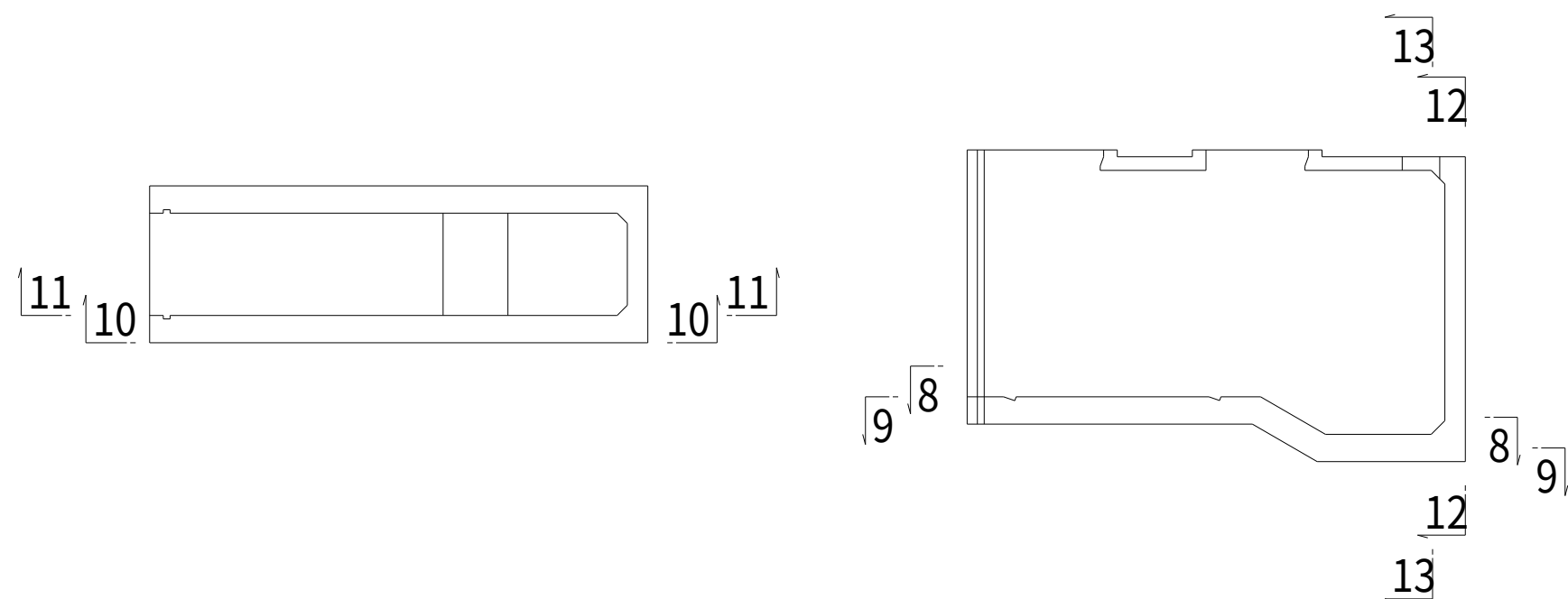
11 - 11
側壁内面



13 - 13
妻壁内面



位置図

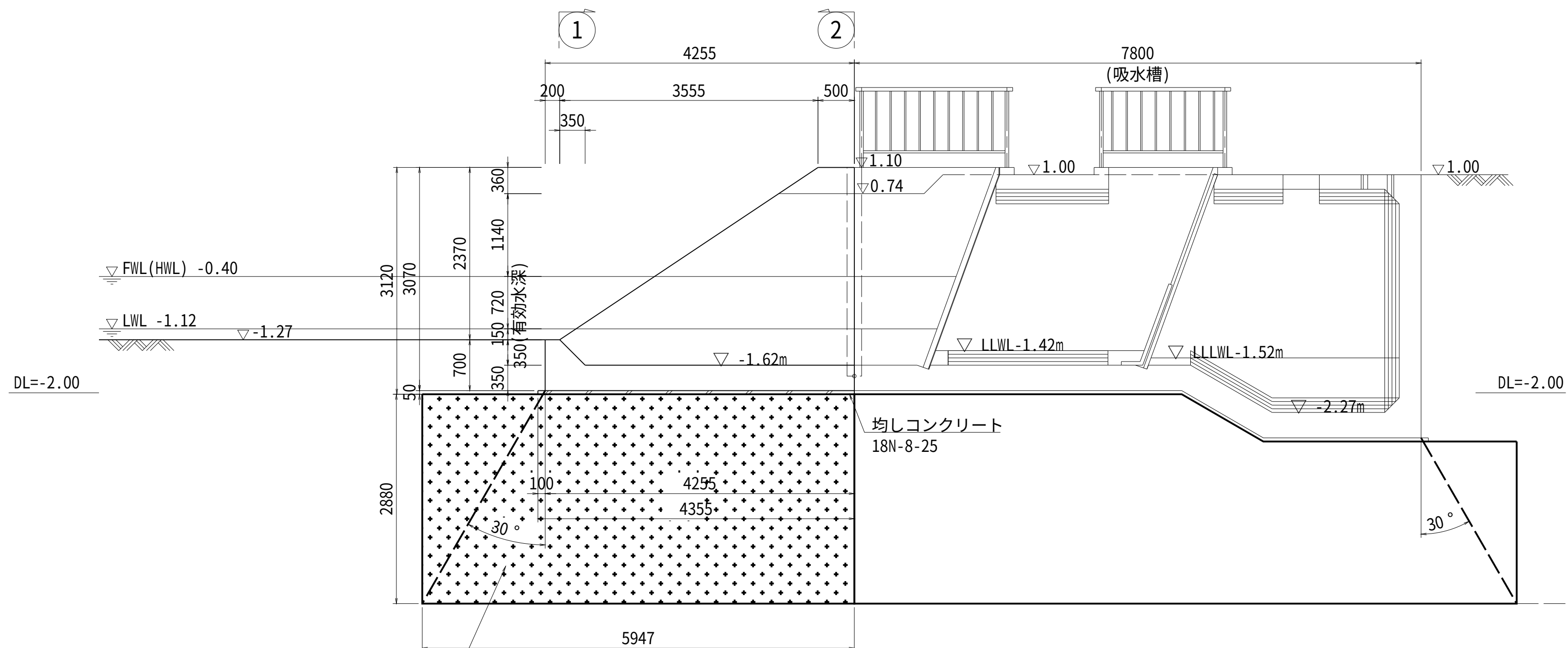


工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	沼前第1用水機場 吸水槽構造図(3/3)		
作成年月			
縮 尺	S=1:50	図面番号	31 - 3/3
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

構造図

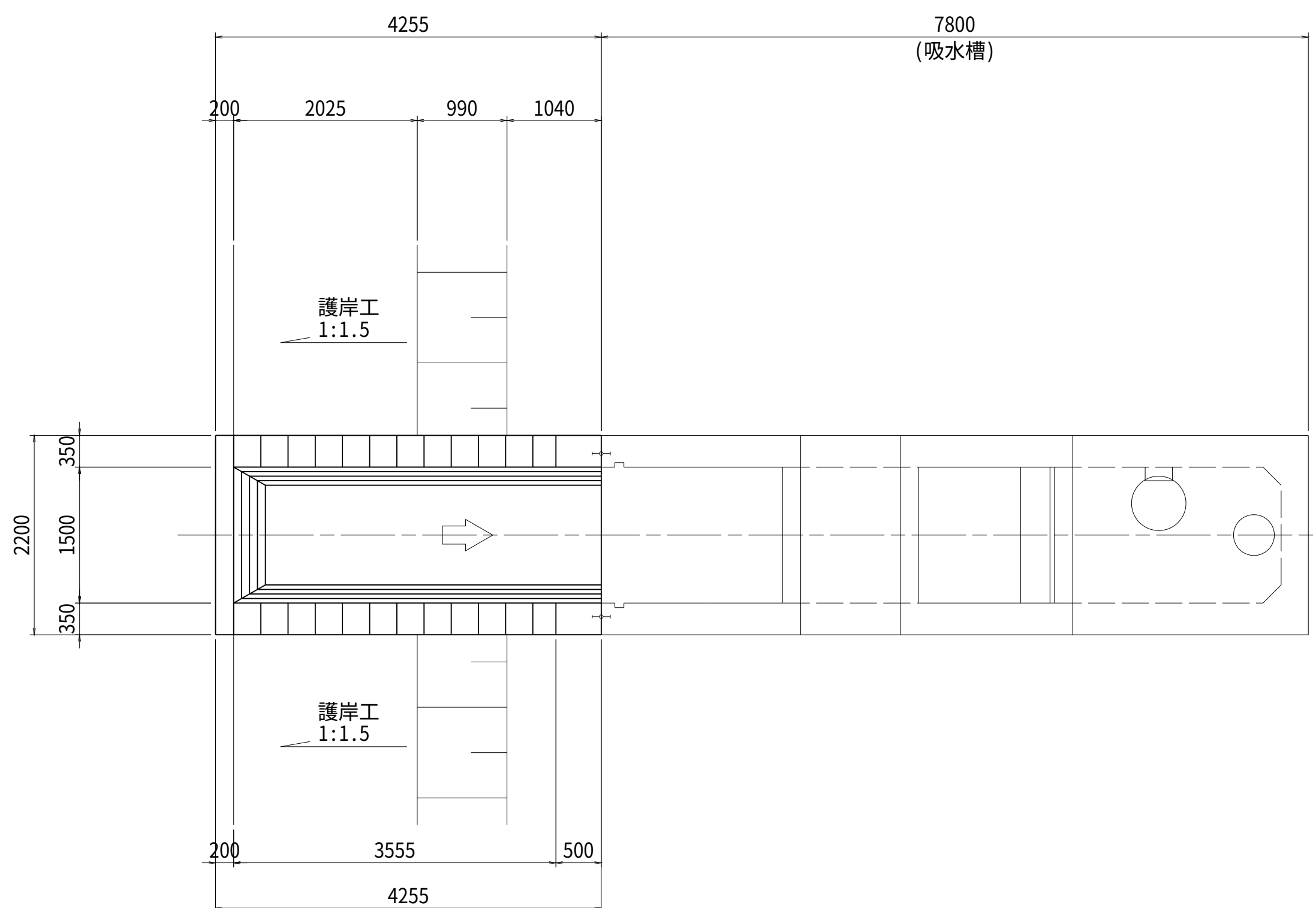
S=1:50

縦断面図

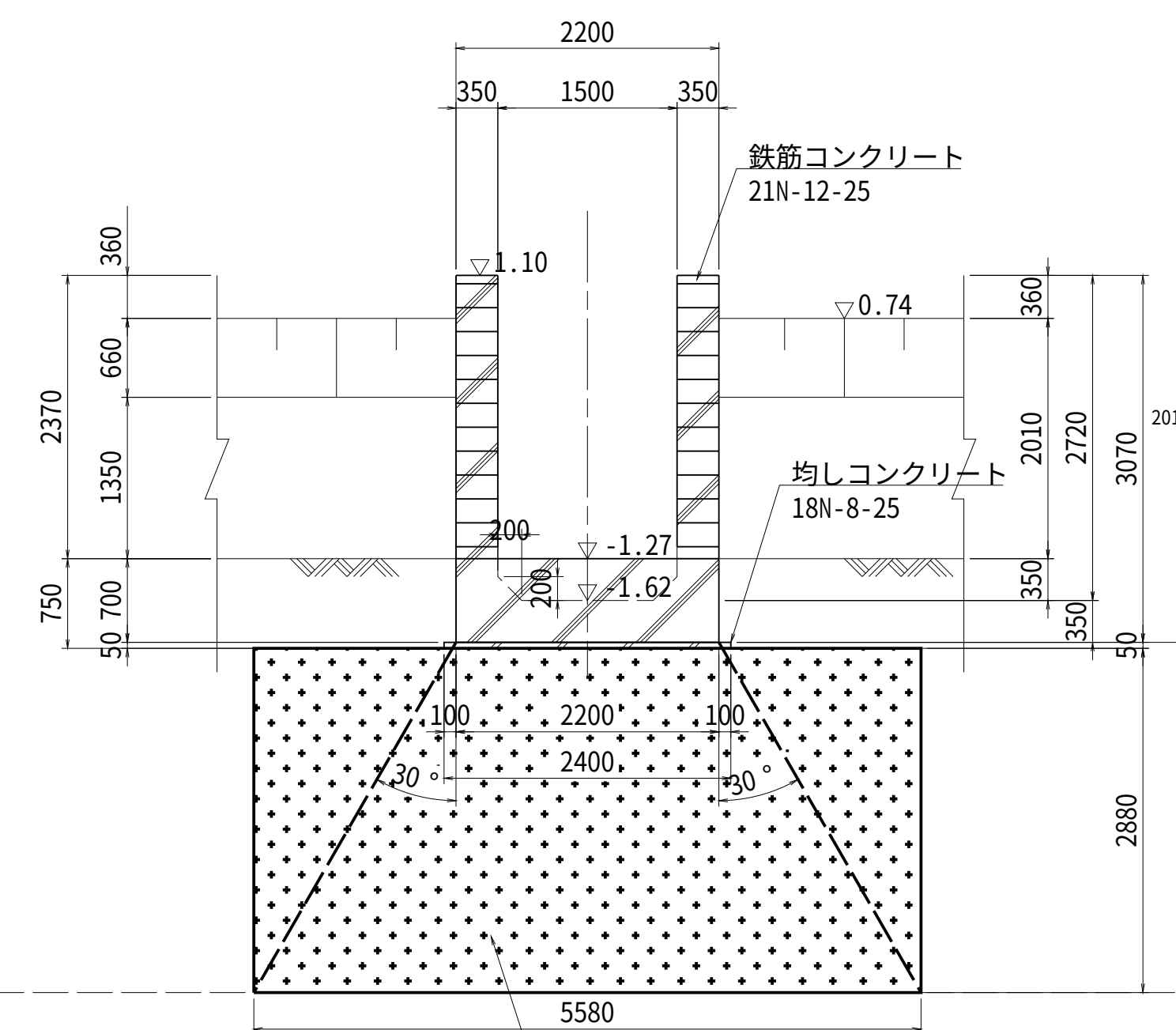


地盤改良(中層混合処理)
必要地盤支持力 50kN/m²
現場目標改良強度 $q_u=52.0\text{kN/m}^2$ (室内104.0kN/m²)

平面图

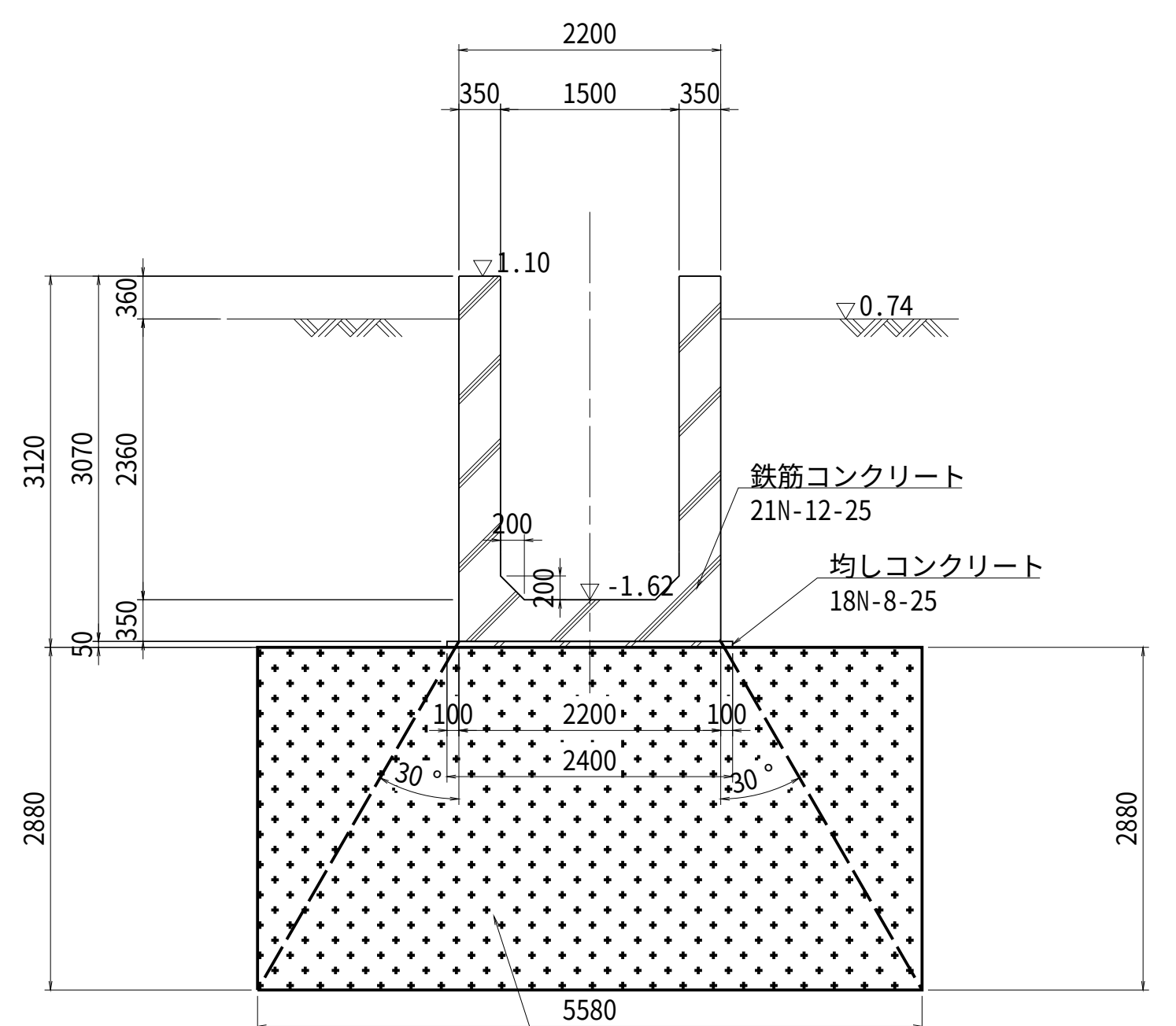


① - ①



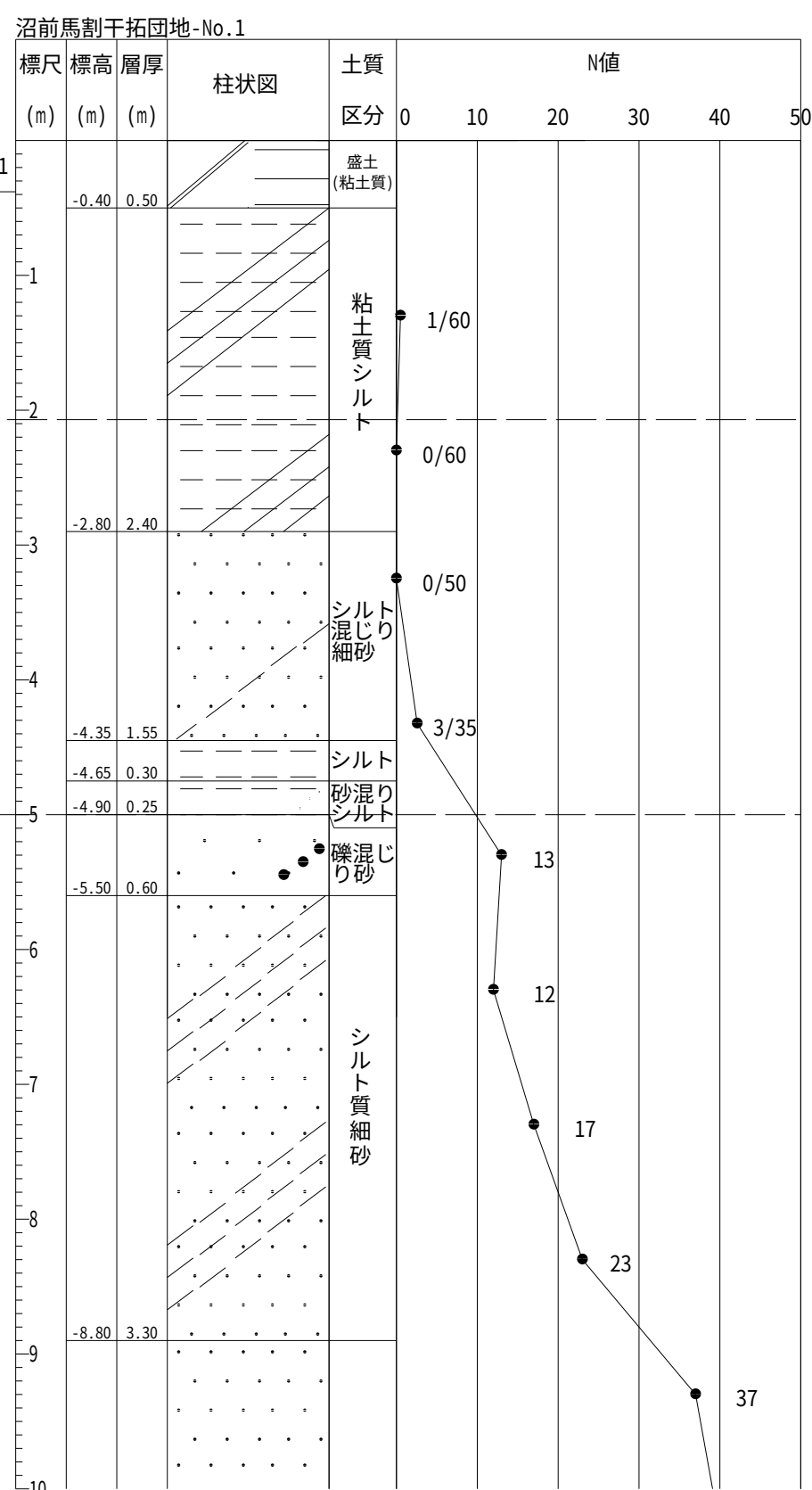
地盤改良（中層混合処理）
必要地盤支持力 50kN/m²
現場目標改良強度 $q_u=52.0\text{kN/m}^2$ (室内104.0kN/m²)

② - ②



地盤改良（中層混合処理）
必要地盤支持力 50kN/m²
現場目標改良強度 $q_u=52.0\text{kN/m}^2$ (室内104.0kN/m²)

ボーリング柱状図



※ 構造物基礎底面における必要地盤支持力 45kN/m²

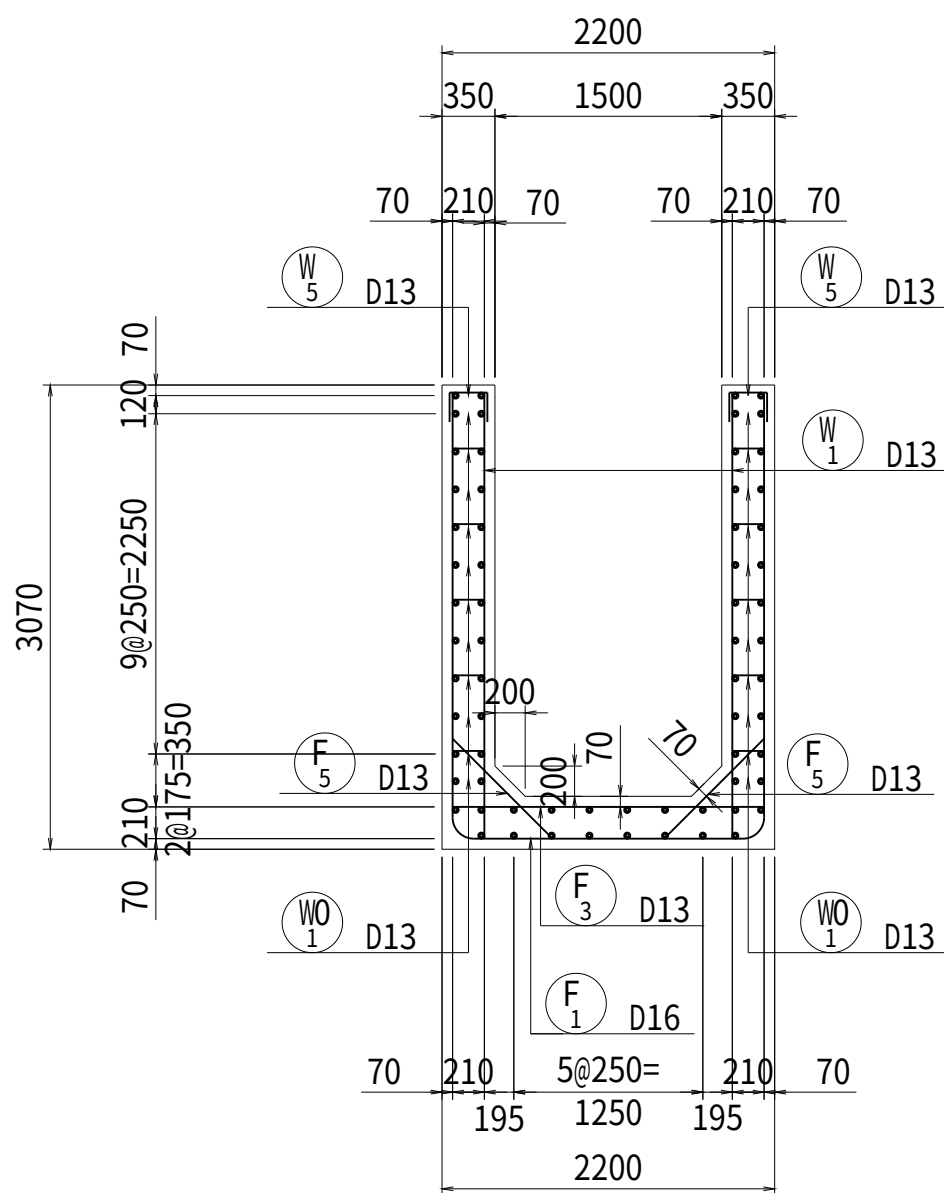
工 事 名	茨城中部農地整備事業		
図 面 名	沼前馬剱拓平田地海老沢3区區画整理その1工事		
作成年月	馬割用水機場 導水路構造図(1/3)		
縮 尺	S=1:50	図面番号	32 - 1/3
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

馬割用水機場 導水路構造図(2/3)

配筋図(1)

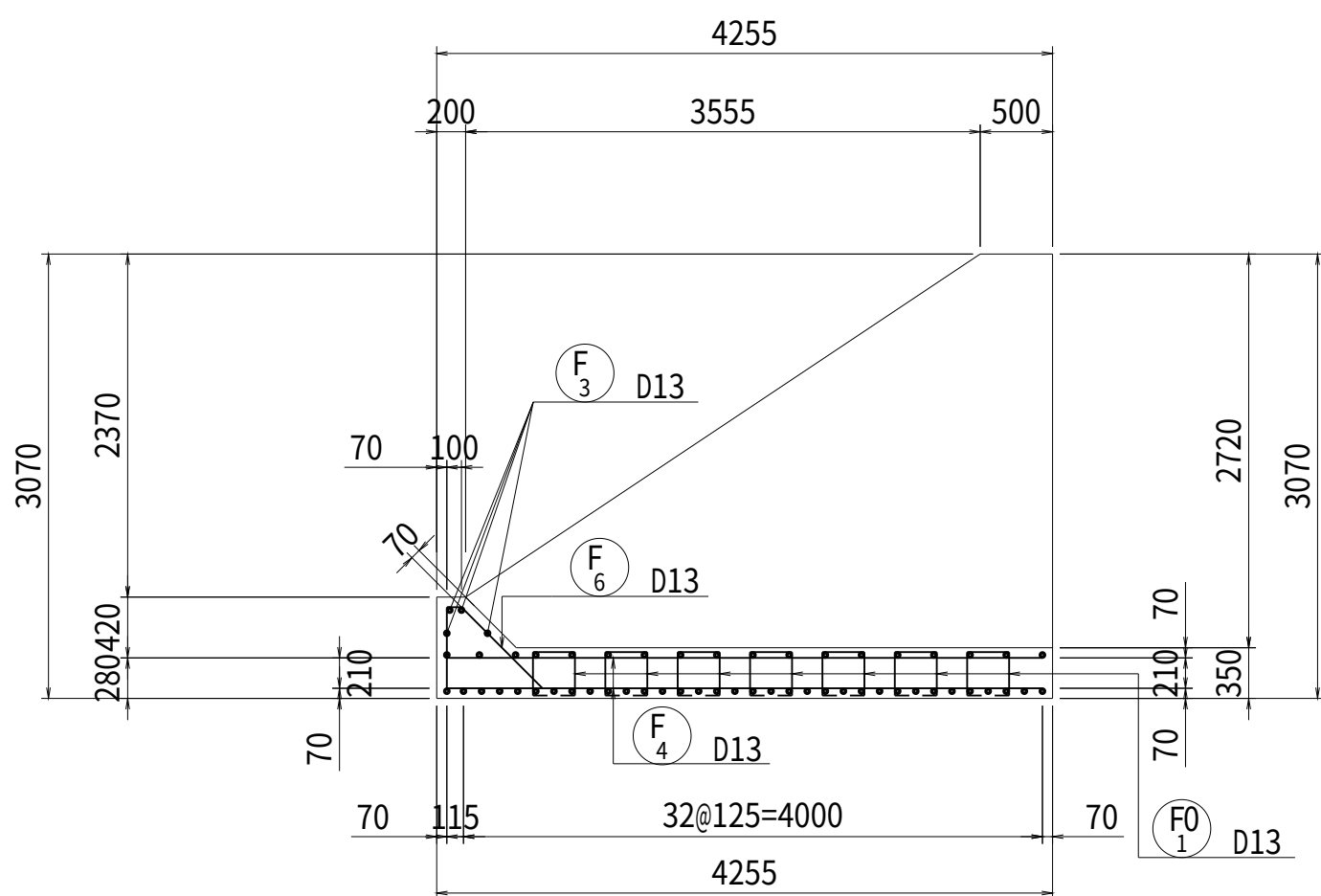
1 - 1

断面図 S=1:50



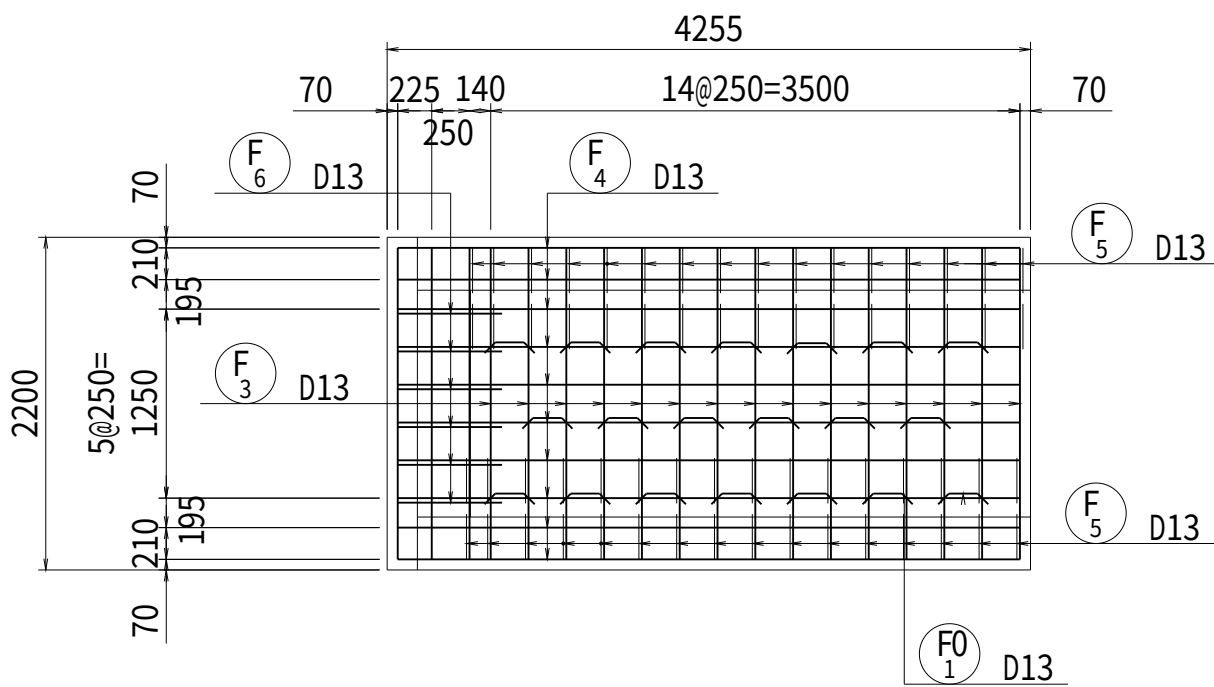
2 - 2

縦断面図 S=1:50



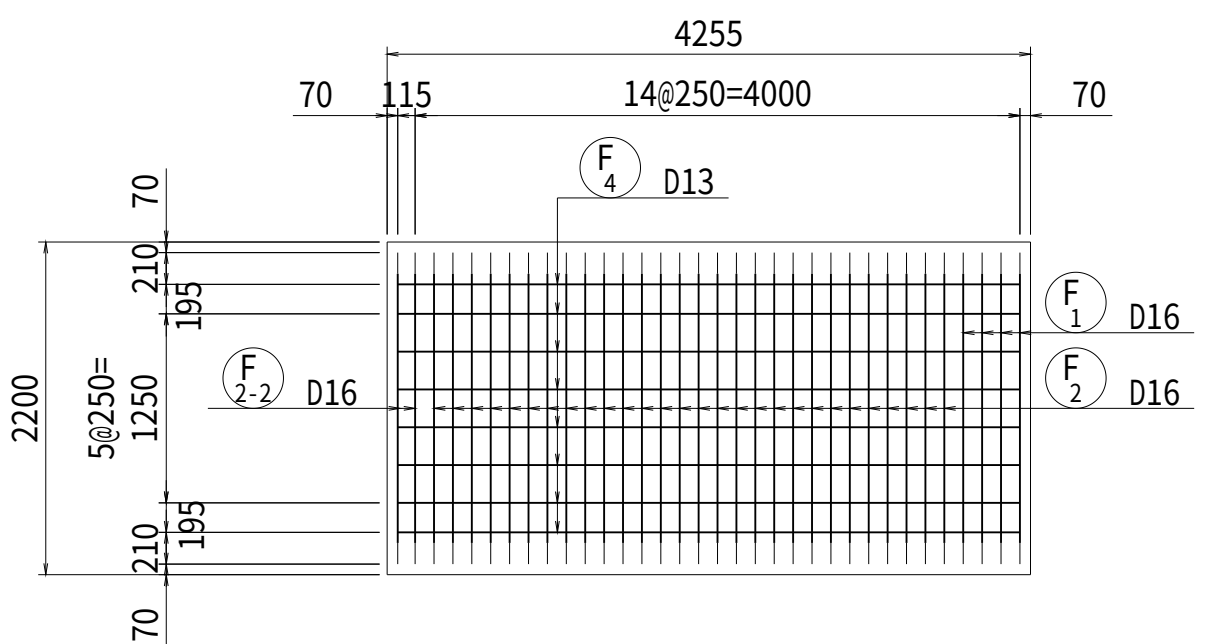
3 - 3

底板上面 S=1:50



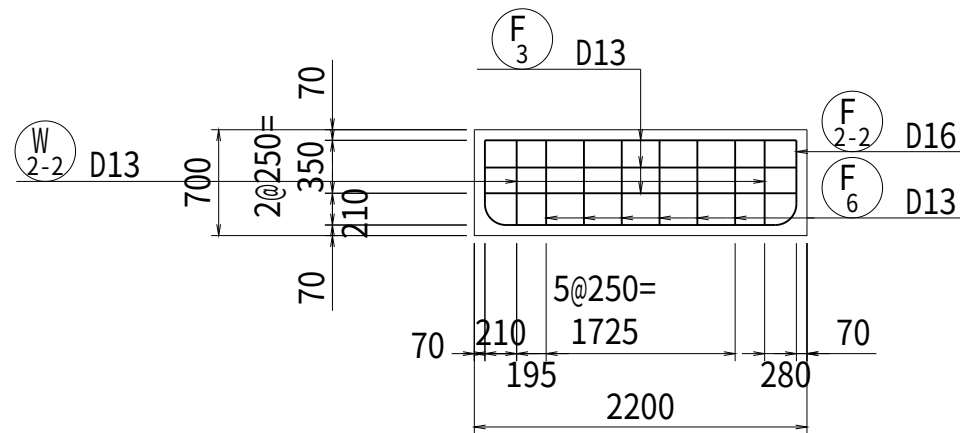
4 - 4

底板下面 S=1:50



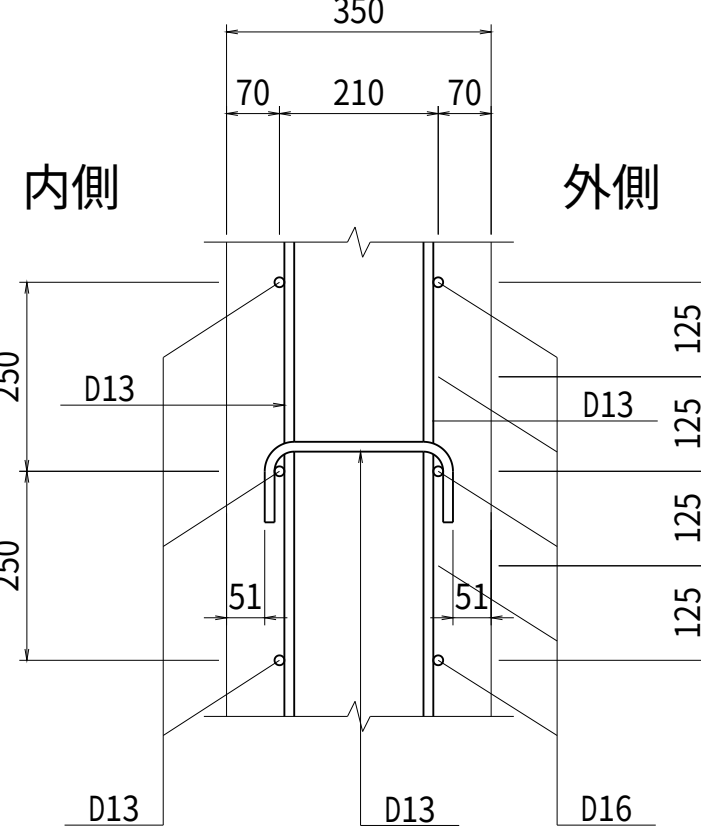
5 - 5

断面図 S=1:50

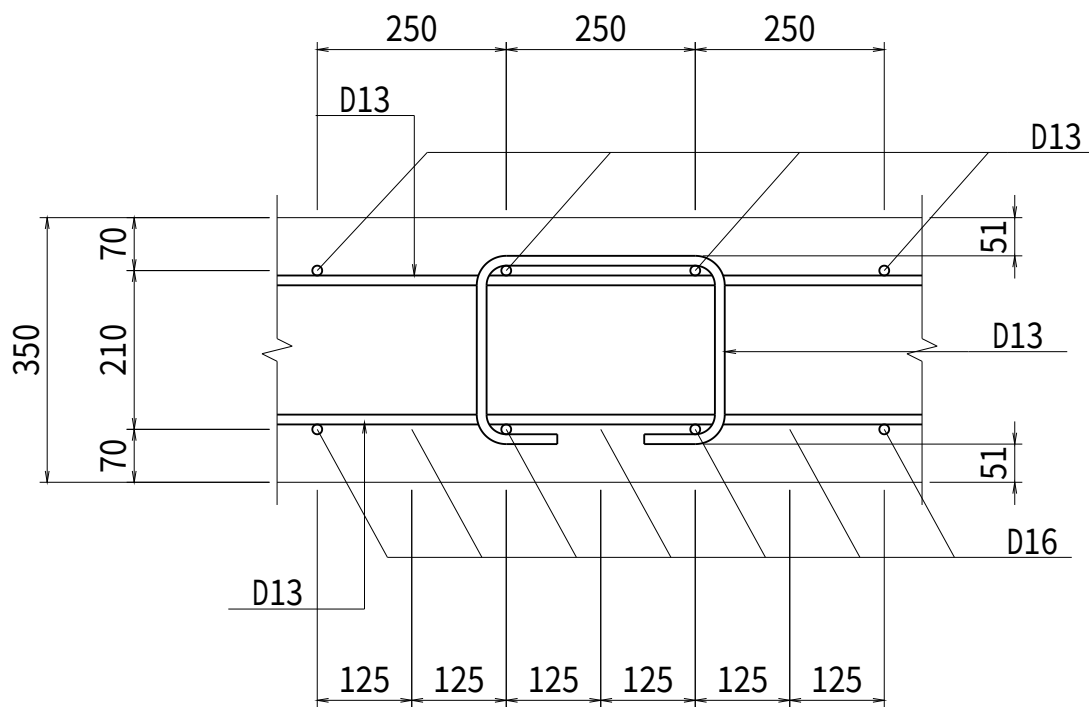


組立図 S=1:10

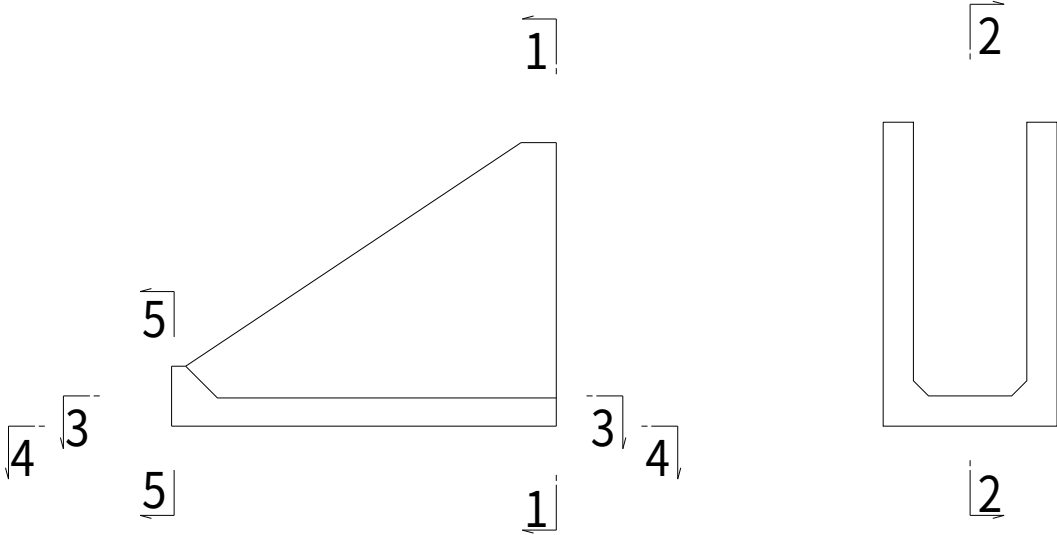
側壁部(平面)



底版部



位置図

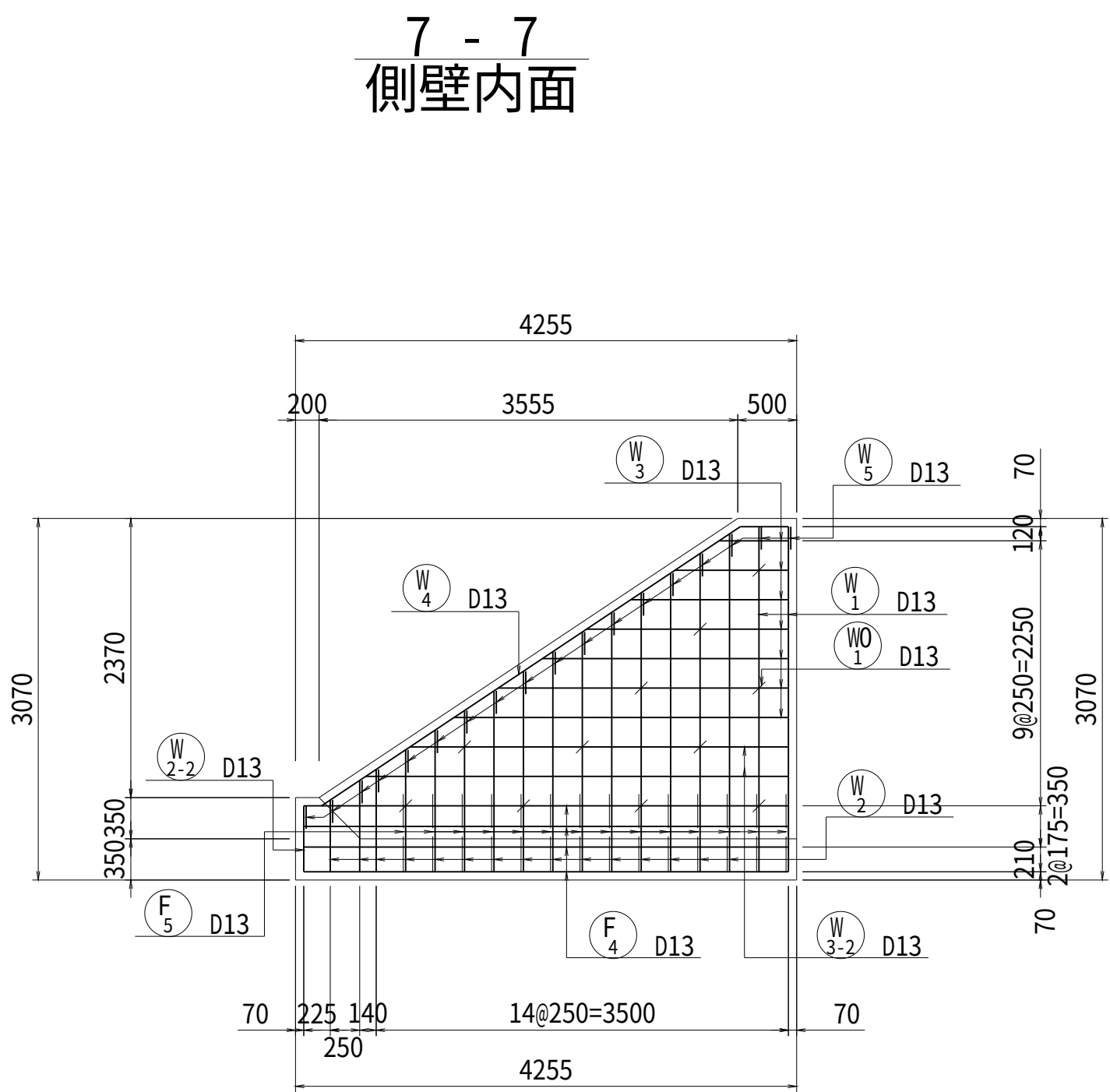
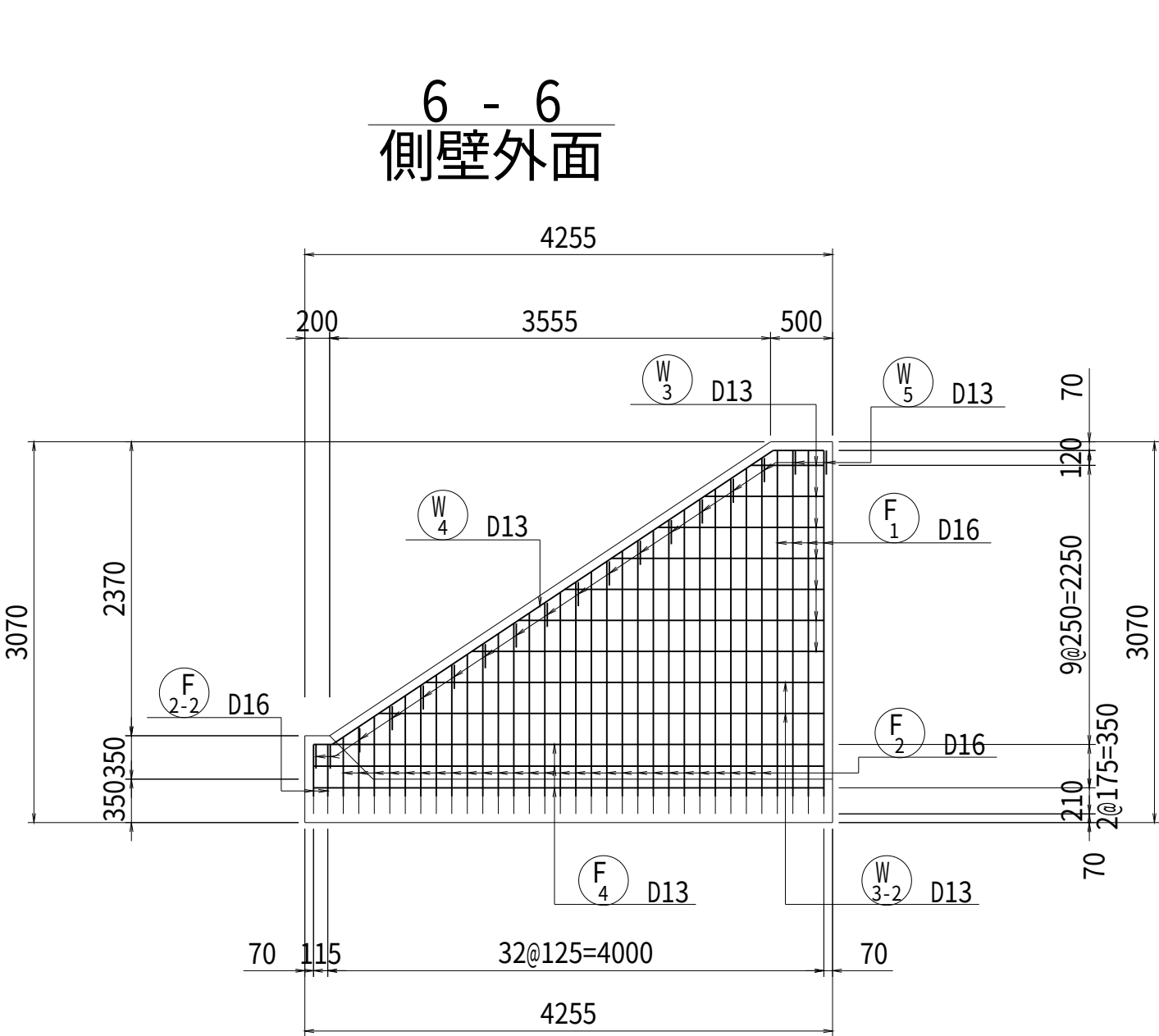


工事名	茨城中部農地整備事業		
図面名	沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
作成年月	馬割用水機場 導水路構造図(2/3)		
縮尺	図示	図面番号	32 - 2/3
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

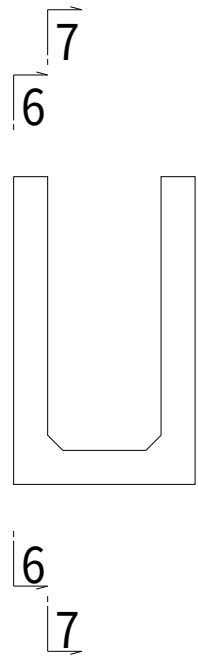
馬割用水機場 導水路構造図(3/3)

配筋図(2)

S=1:50



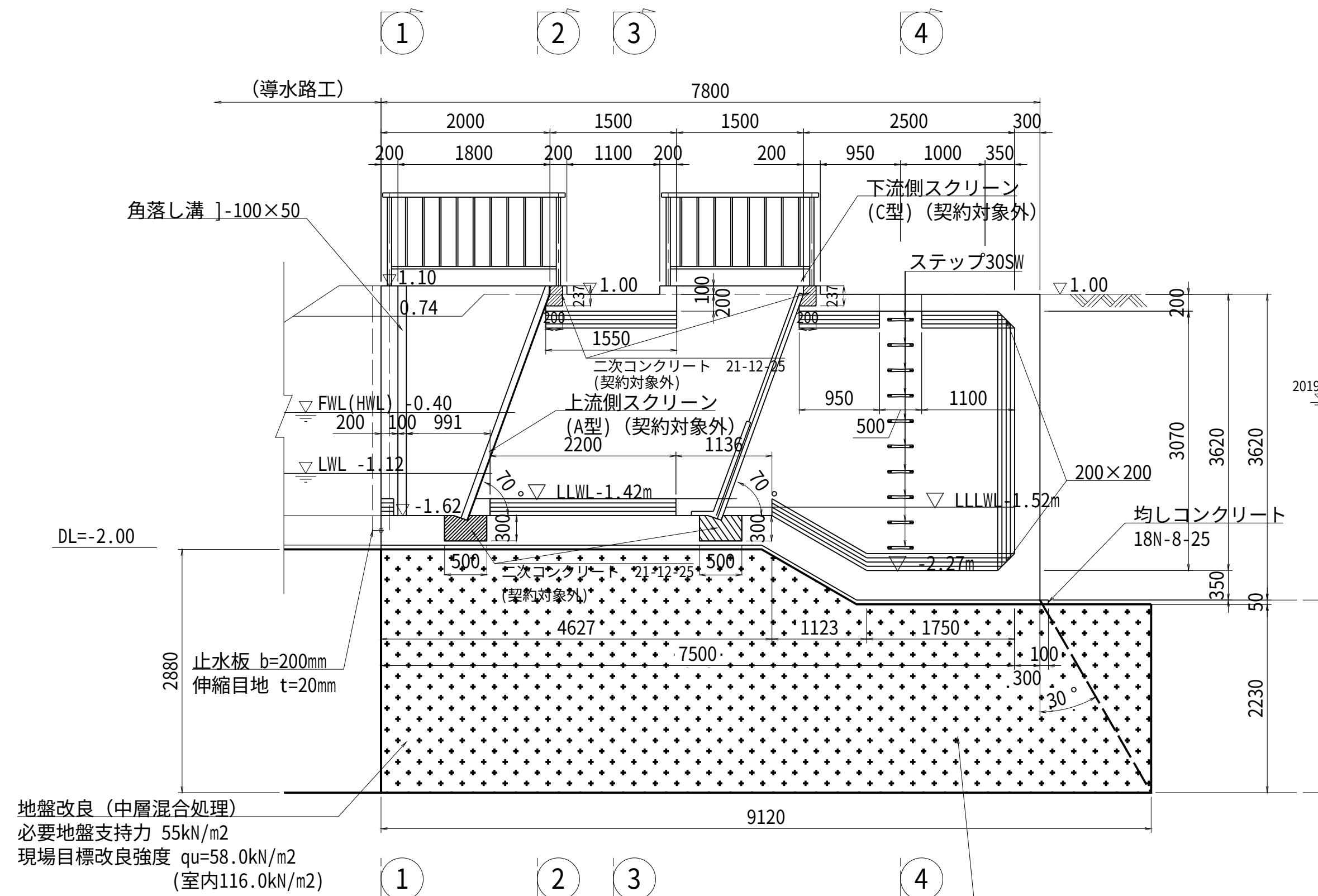
位置図



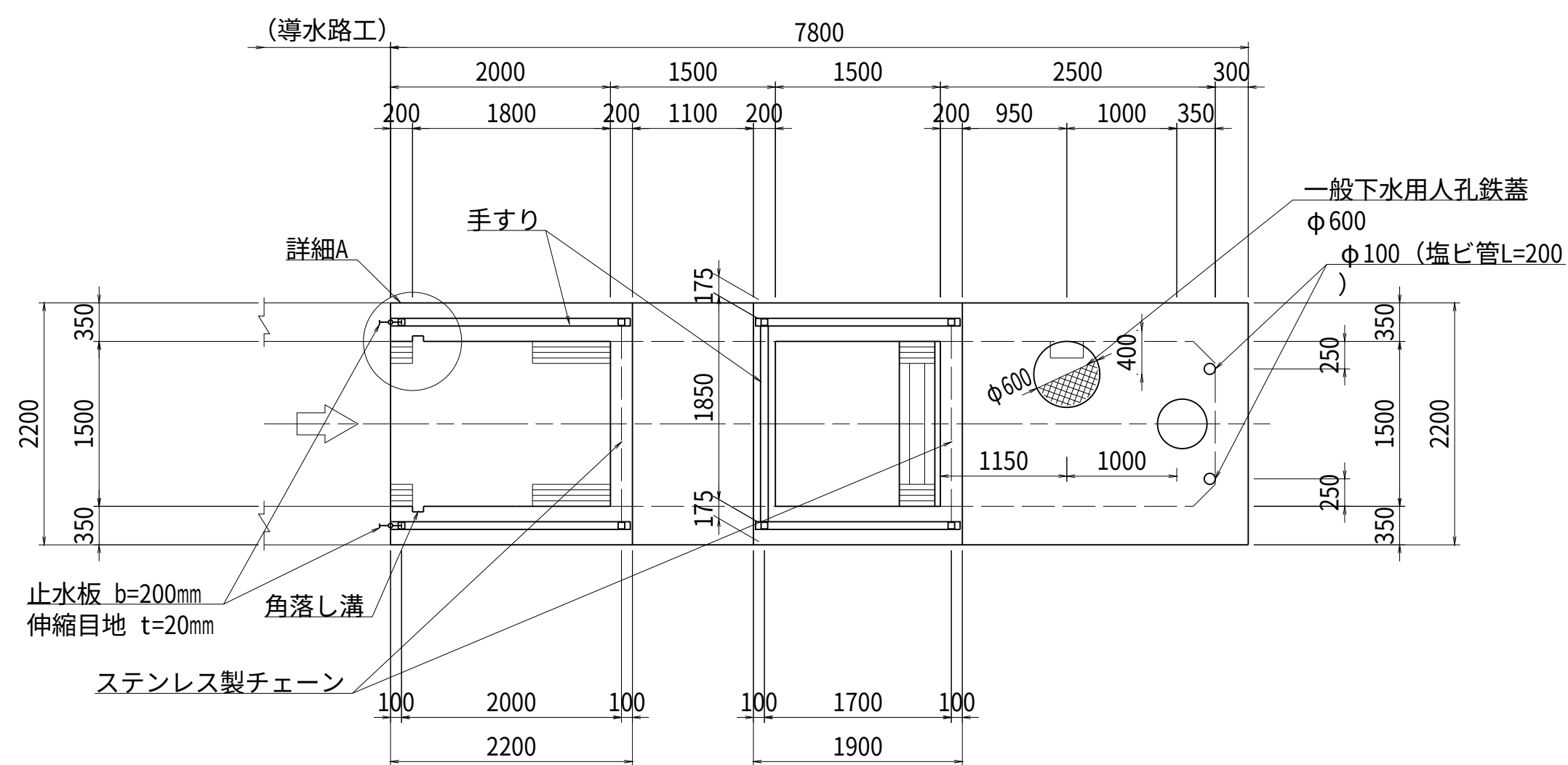
工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	馬割用水機場 導水路構造図(3/3)		
作成年月			
縮 尺	S=1:50	図面番号	32 - 3/3
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

馬割用水機場 吸水槽構造図(1/3)
構造図 S=1:50

縦断面図

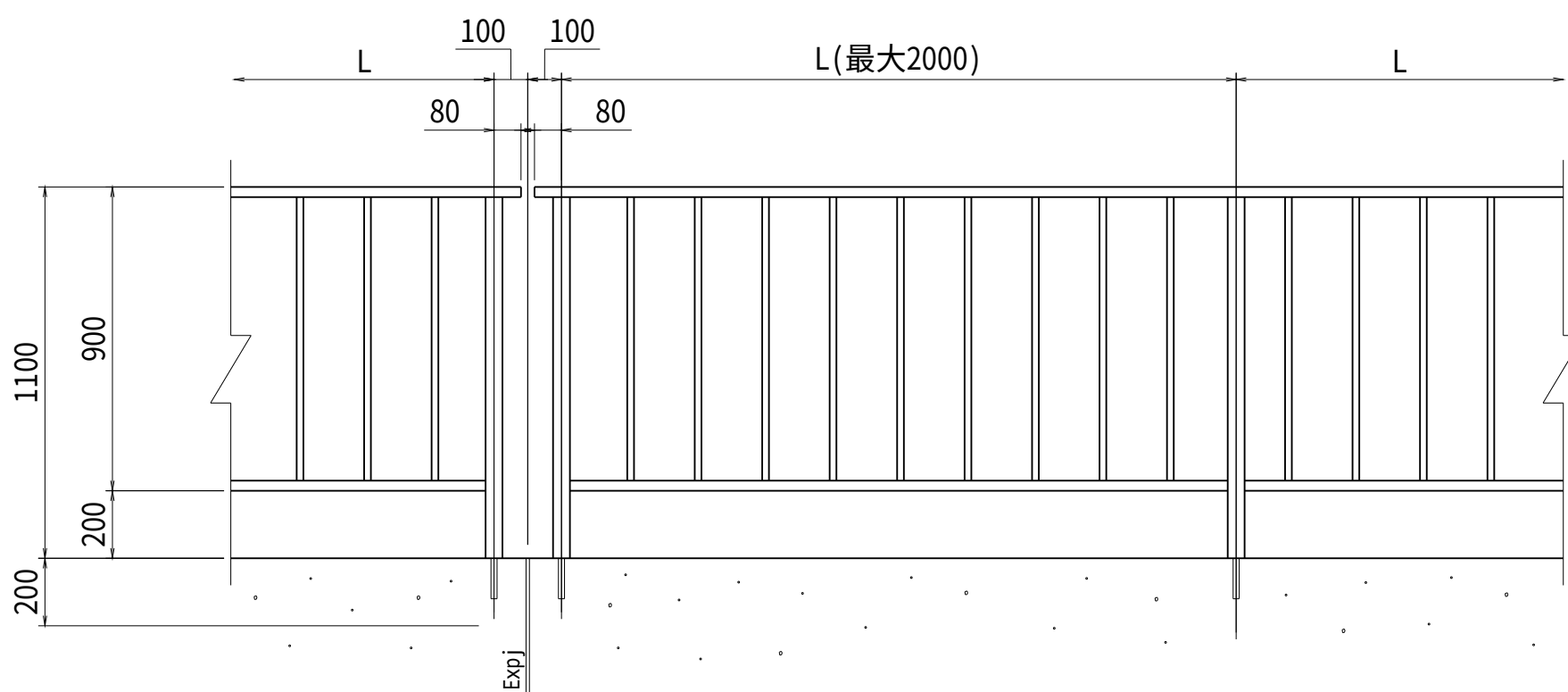


平面図



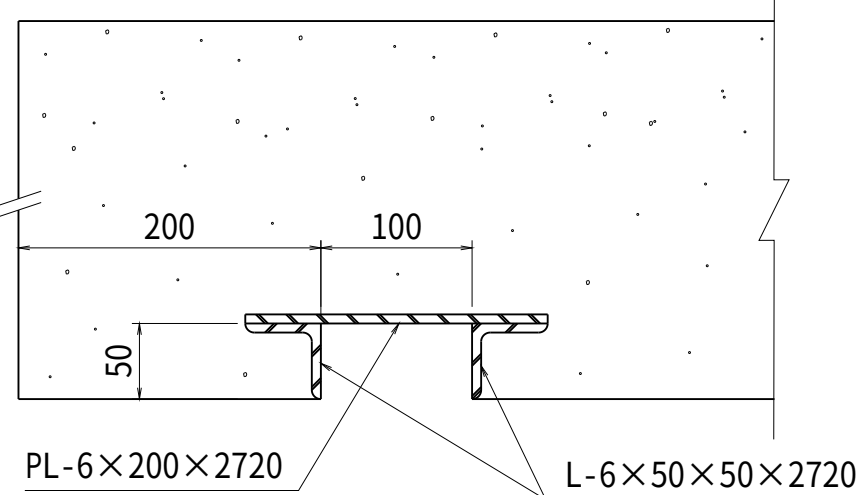
手すり標準寸法図

(アルミ製アンカータイプ) S=1:20

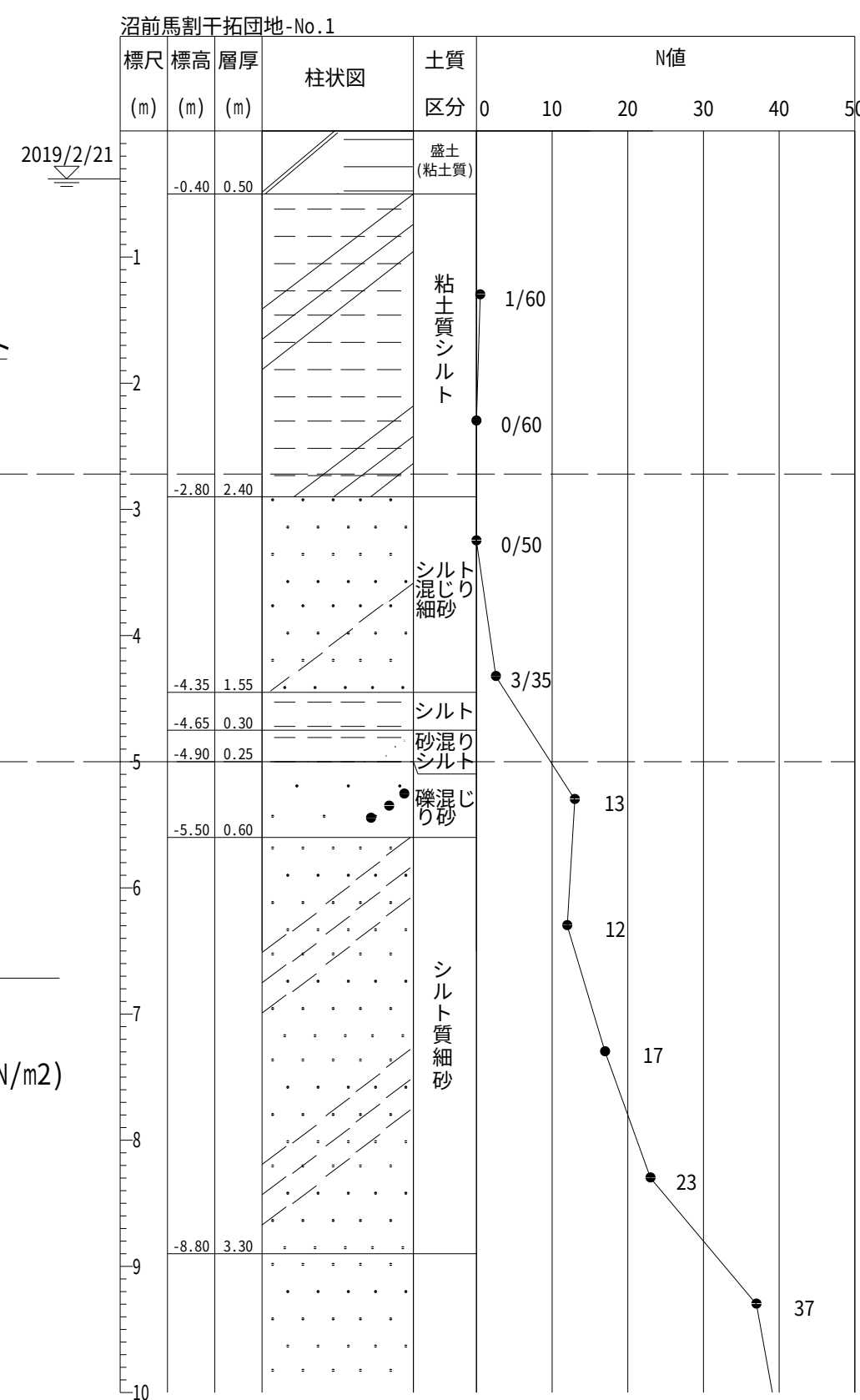


詳細 A

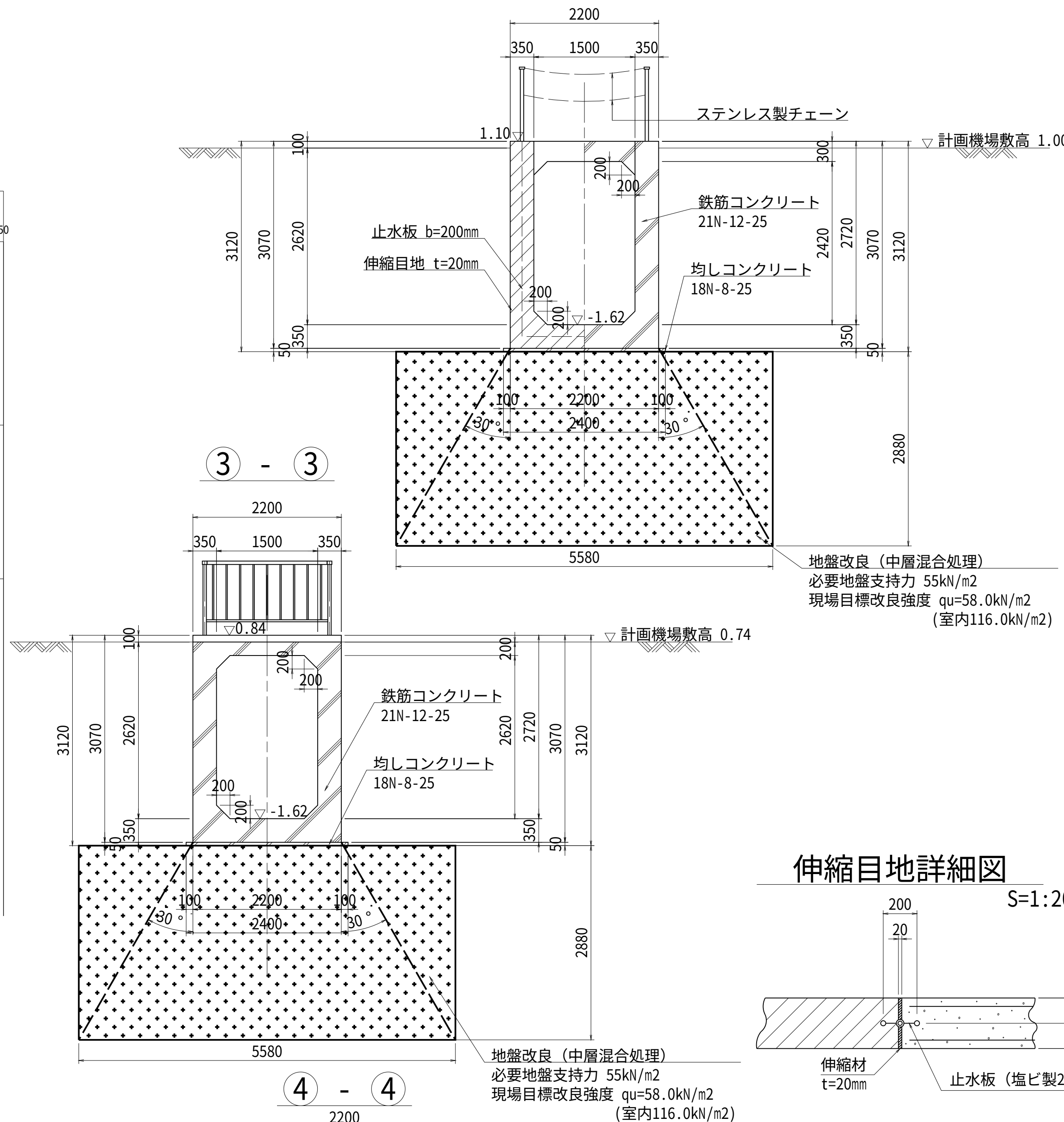
S=1:5



ボーリング柱状図

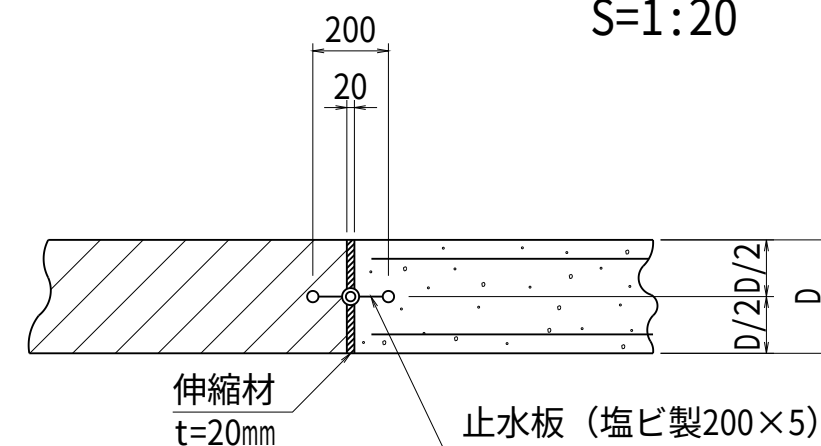


① - ① ② - ②

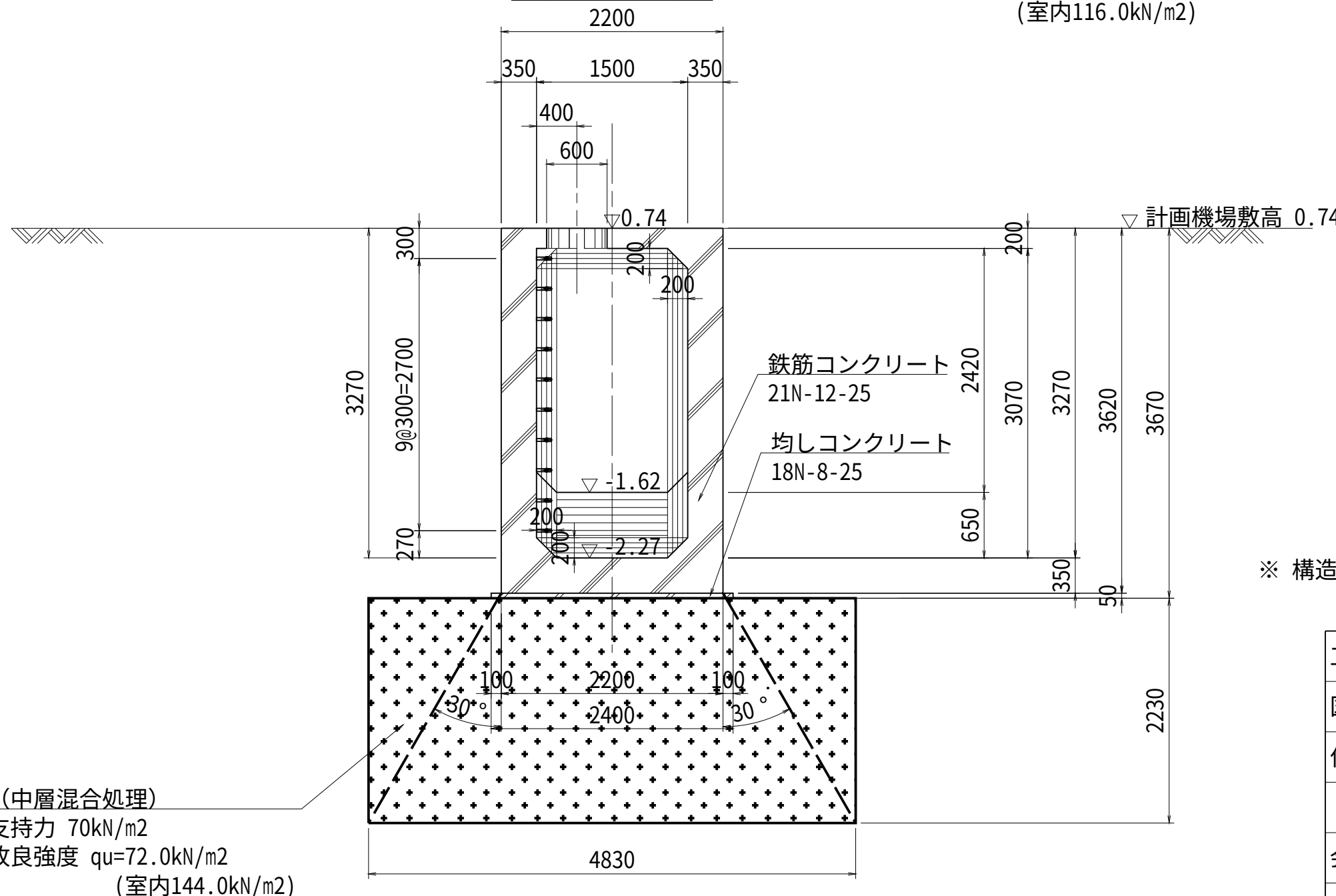


伸縮目地詳細図

S=1:20



④ - ④



※ 構造物基礎底面における必要地盤支持力 65kN/m2

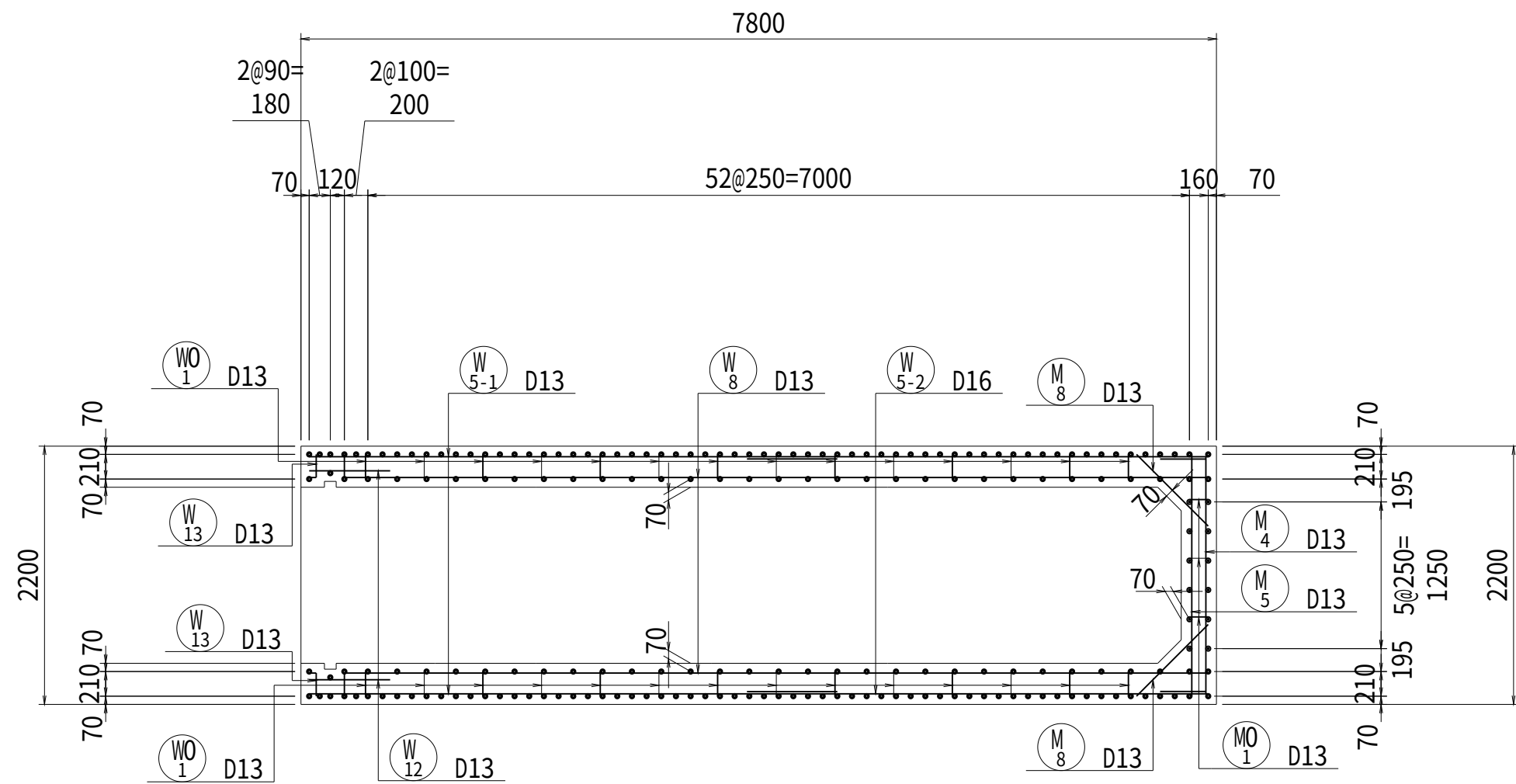
工事名	茨城中部農地整備事業		
図面名	沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
作成年月	馬割用水機場 吸水槽構造図(1/3)		
縮尺	図示	図面番号	33 - 1/3
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

馬割用水機場 吸水槽構造図(2/3)

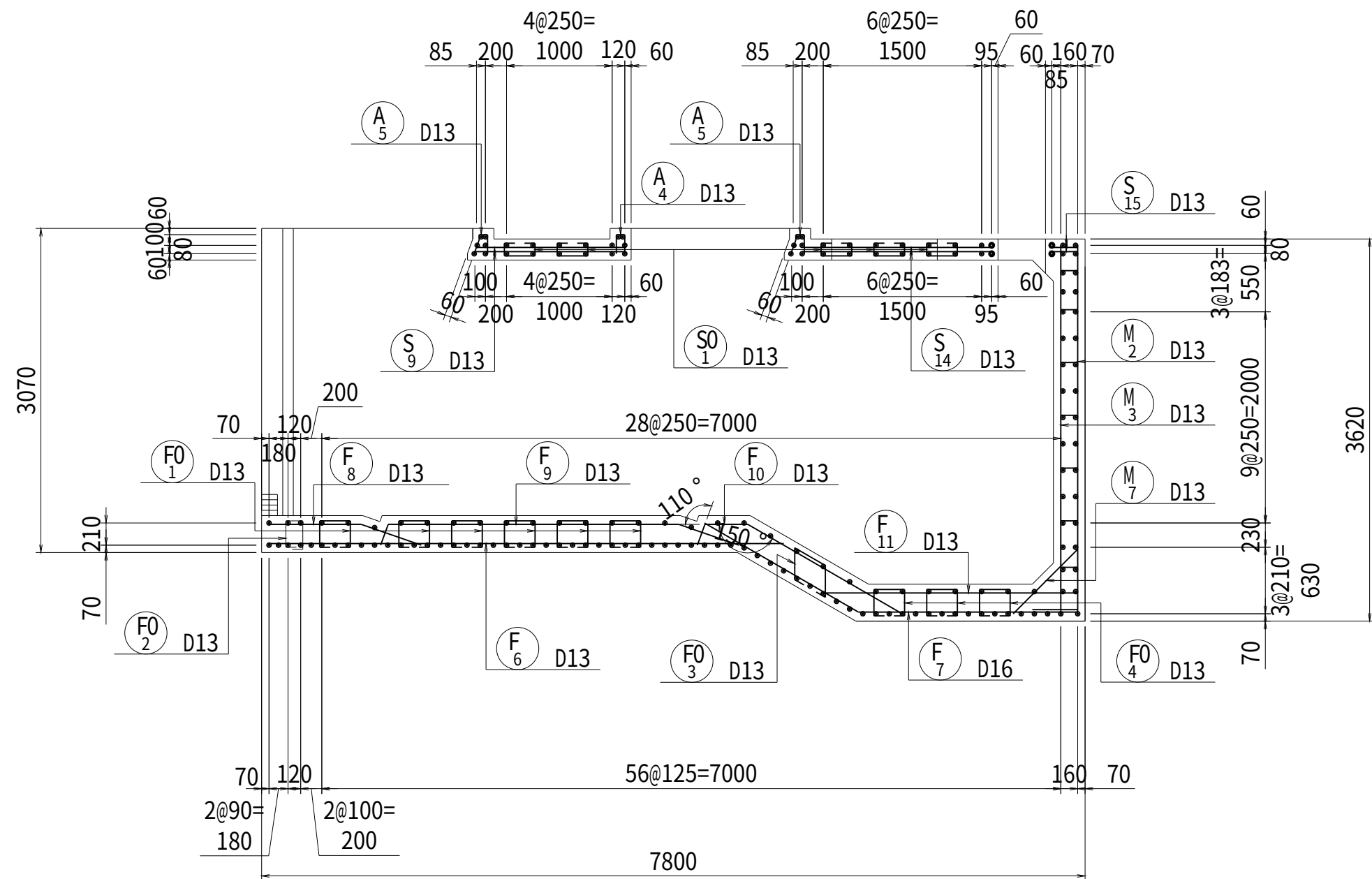
配筋図(1)

S=1:50

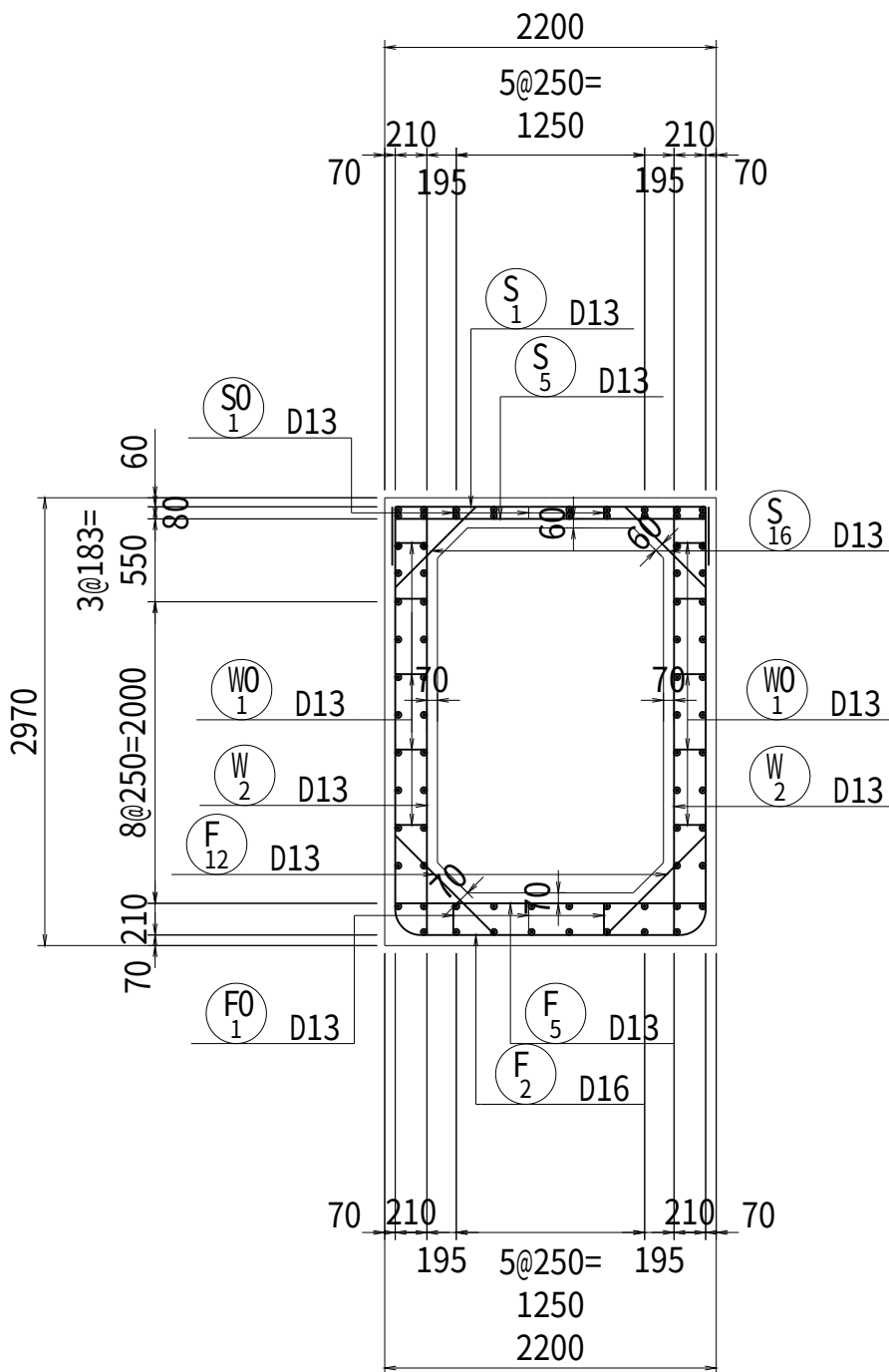
1 - 1
平断面図



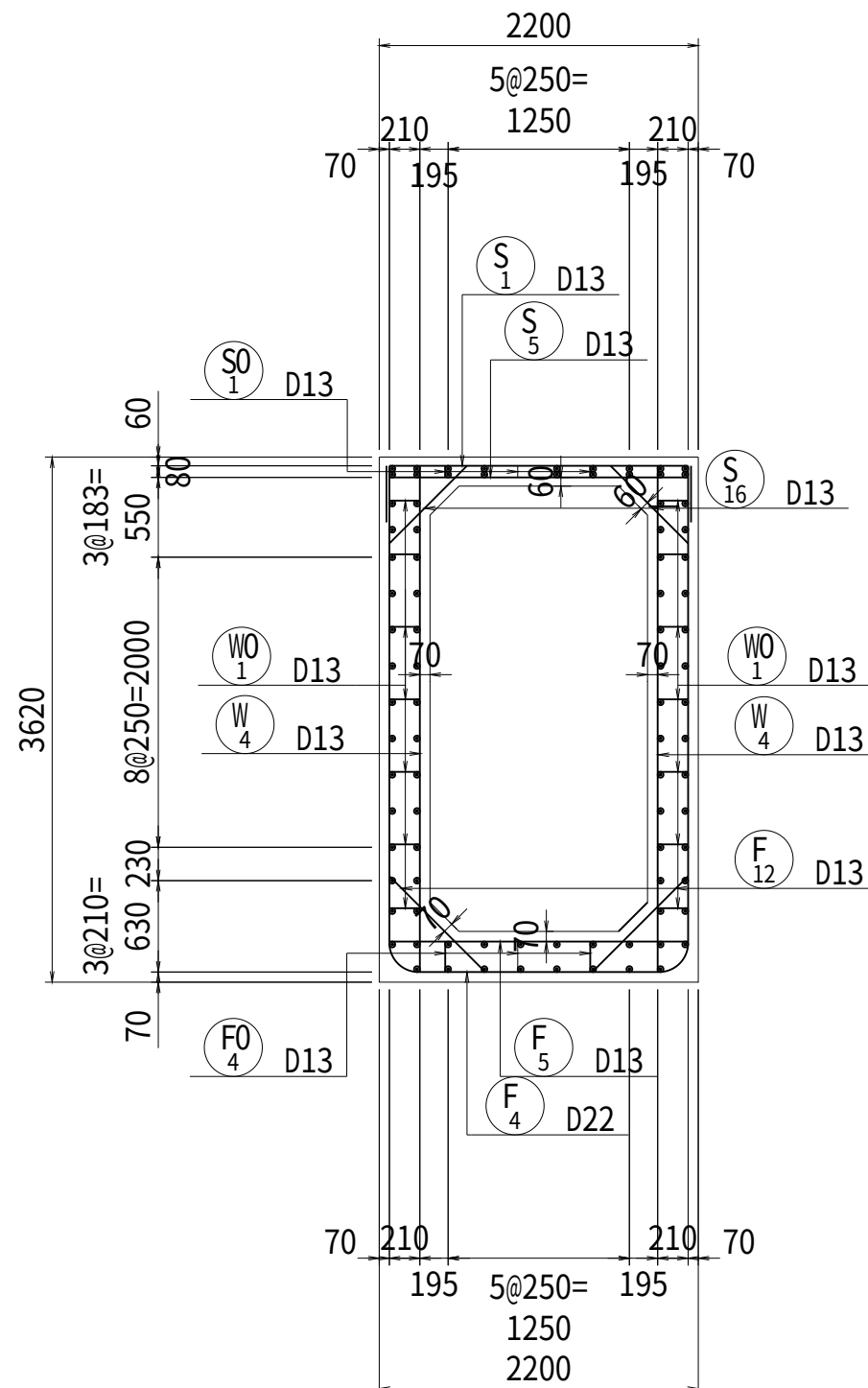
2 - 2
断面図



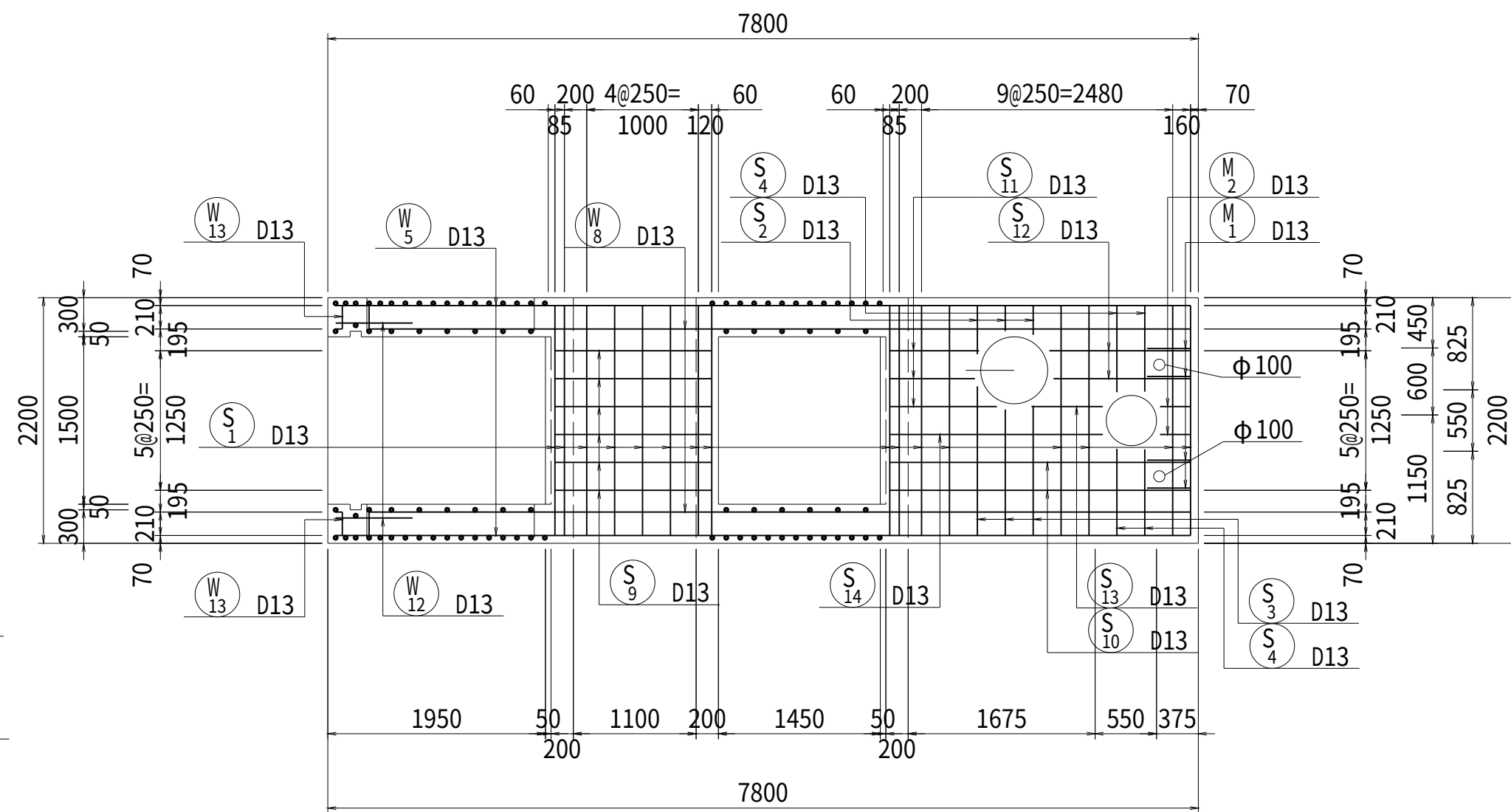
3 - 3
断面図



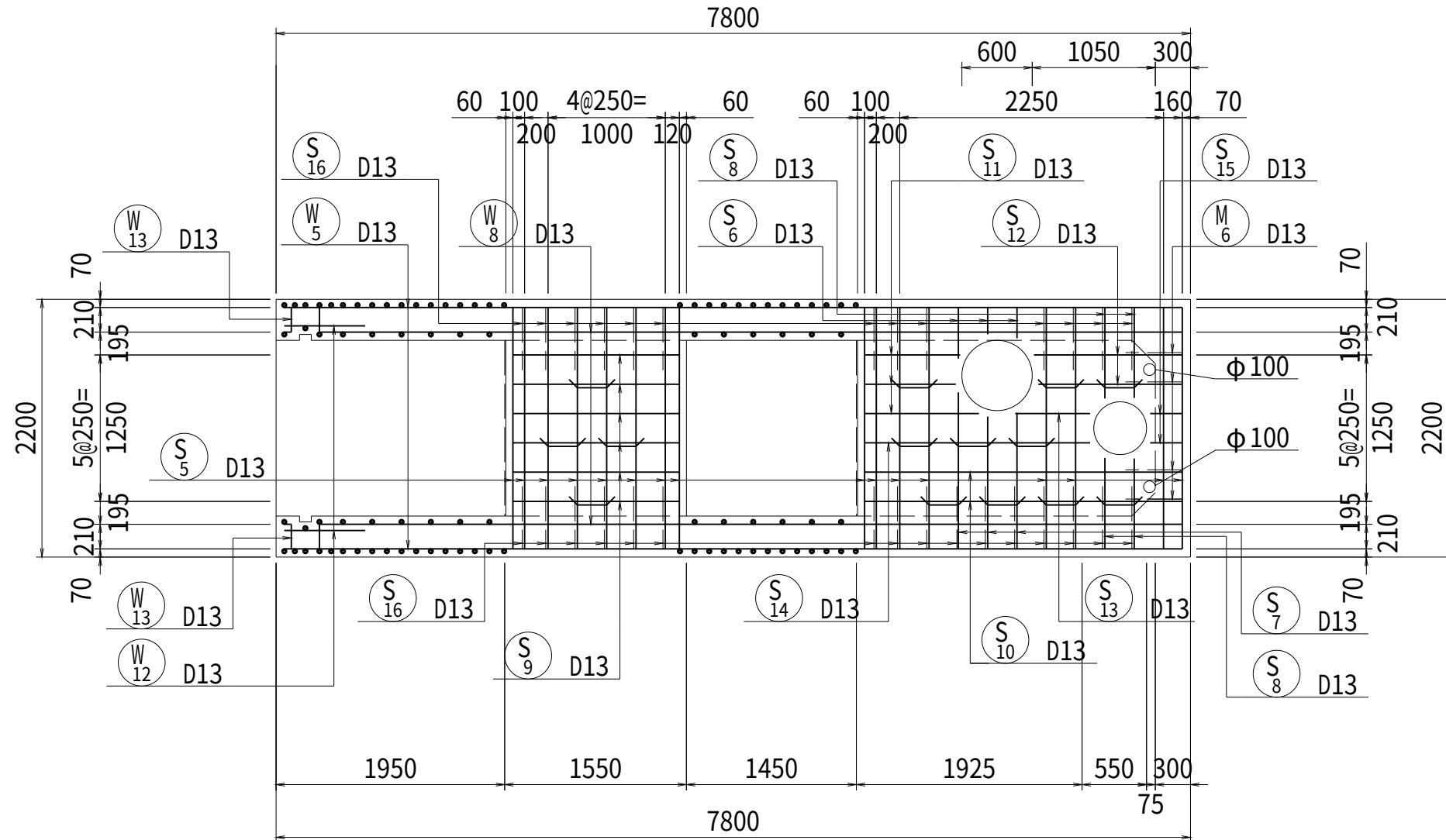
4 - 4
断面図



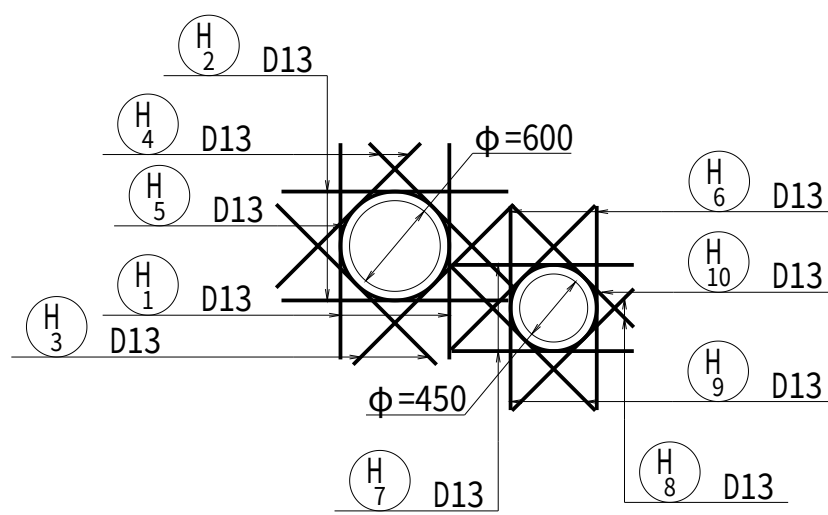
5 - 5
頂版上面



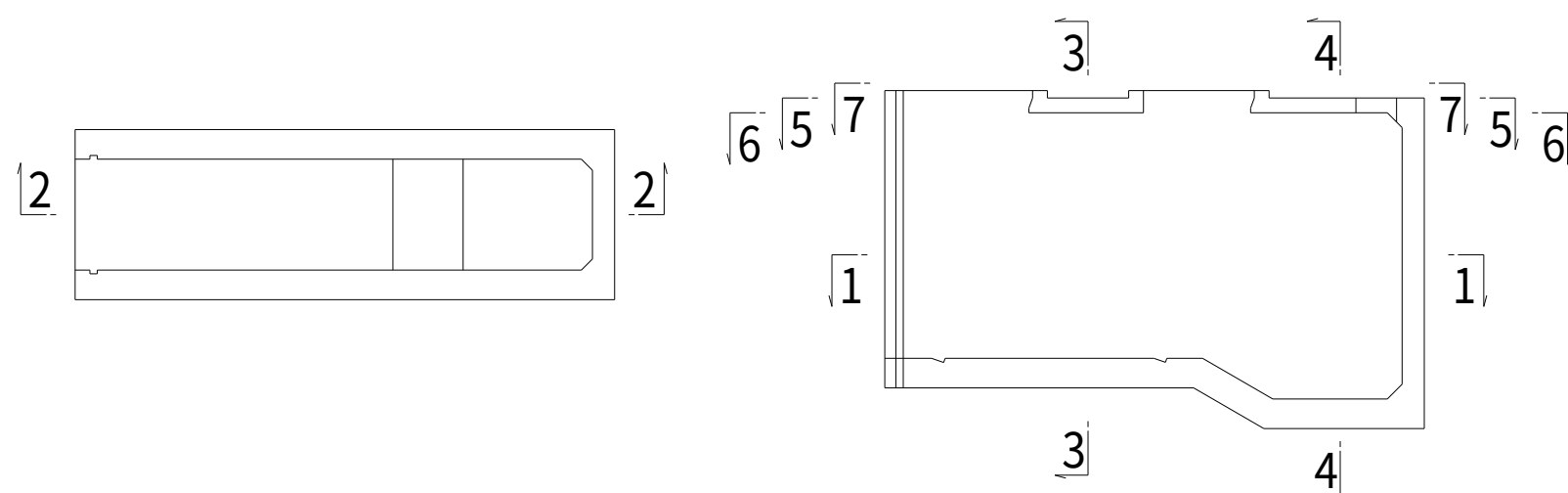
6 - 6
頂版下面



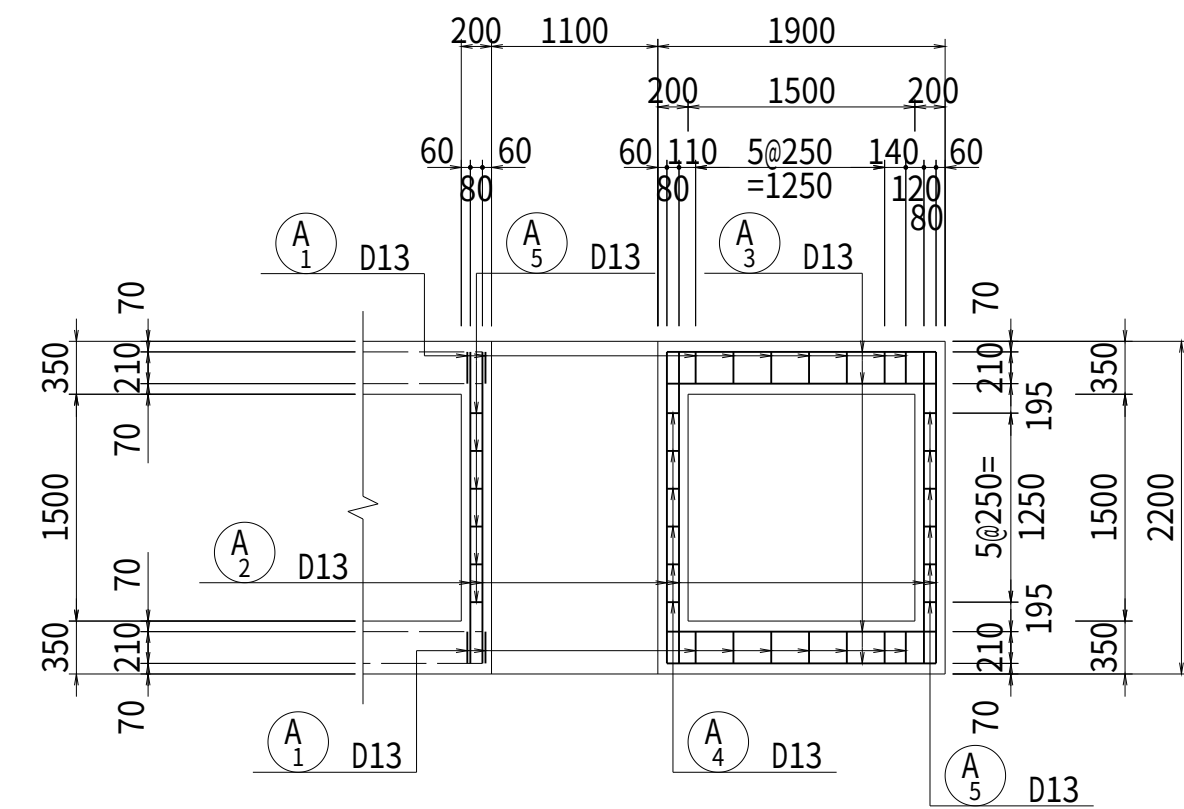
開口部補強鉄筋
(5-5,6-6)



位置図



7 - 7
頂版立上り部



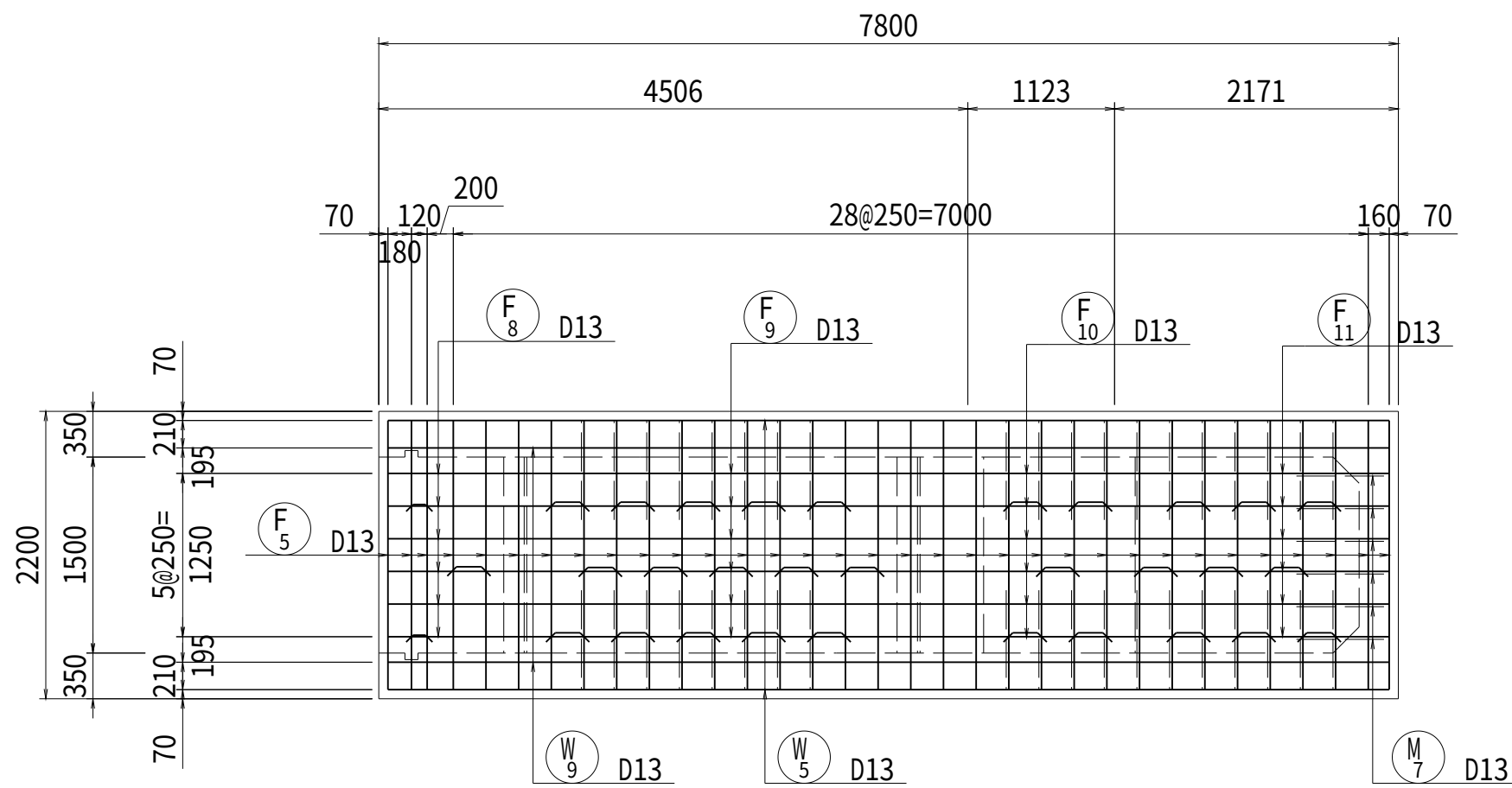
工事名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図面名	馬割用水機場 吸水槽構造図(2/3)		
作成年月			
縮尺	S=1:50	図面番号	33 - 2/3
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

馬割用水機場 吸水槽構造図(3/3)

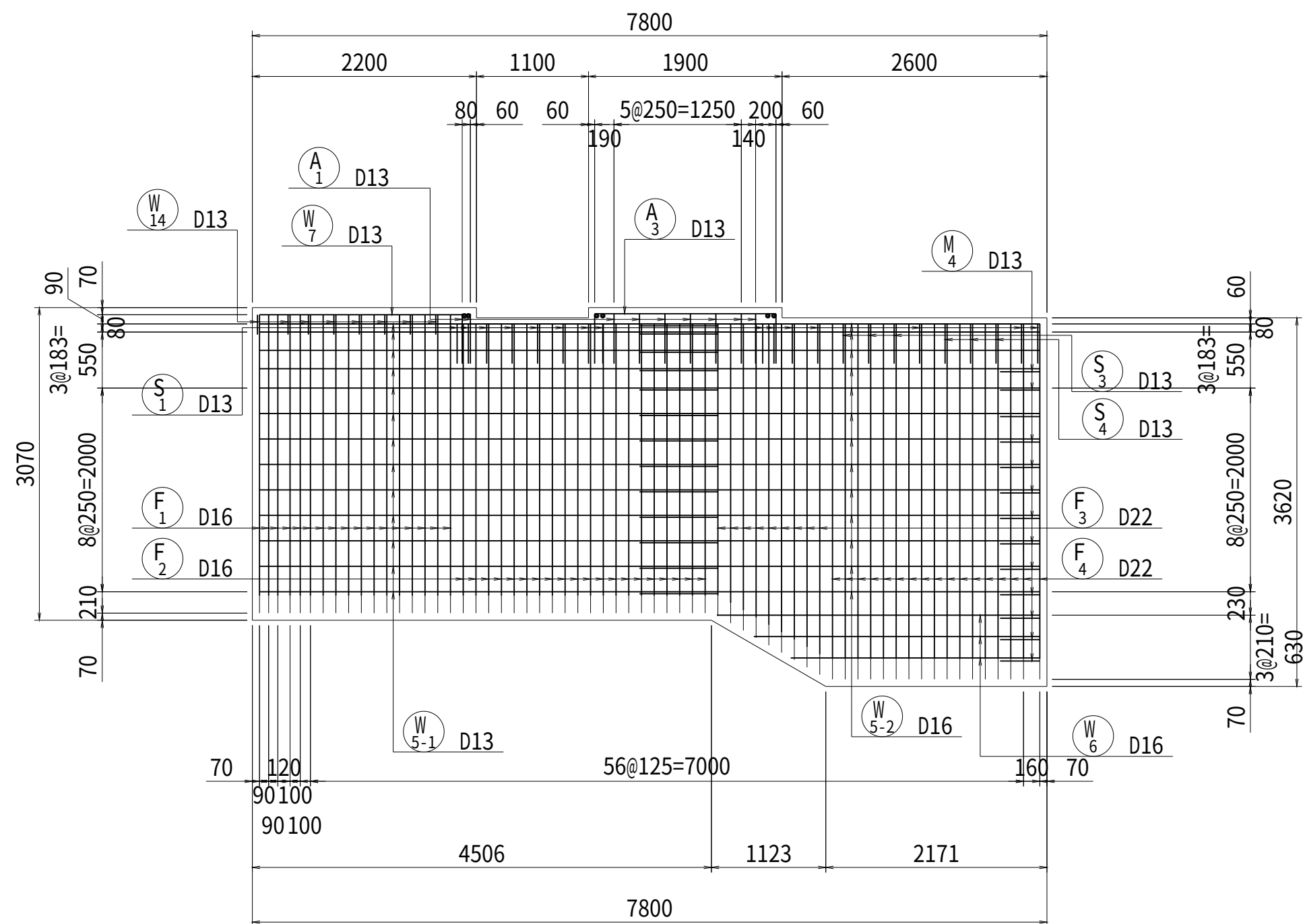
配筋図(2)

S=1:50

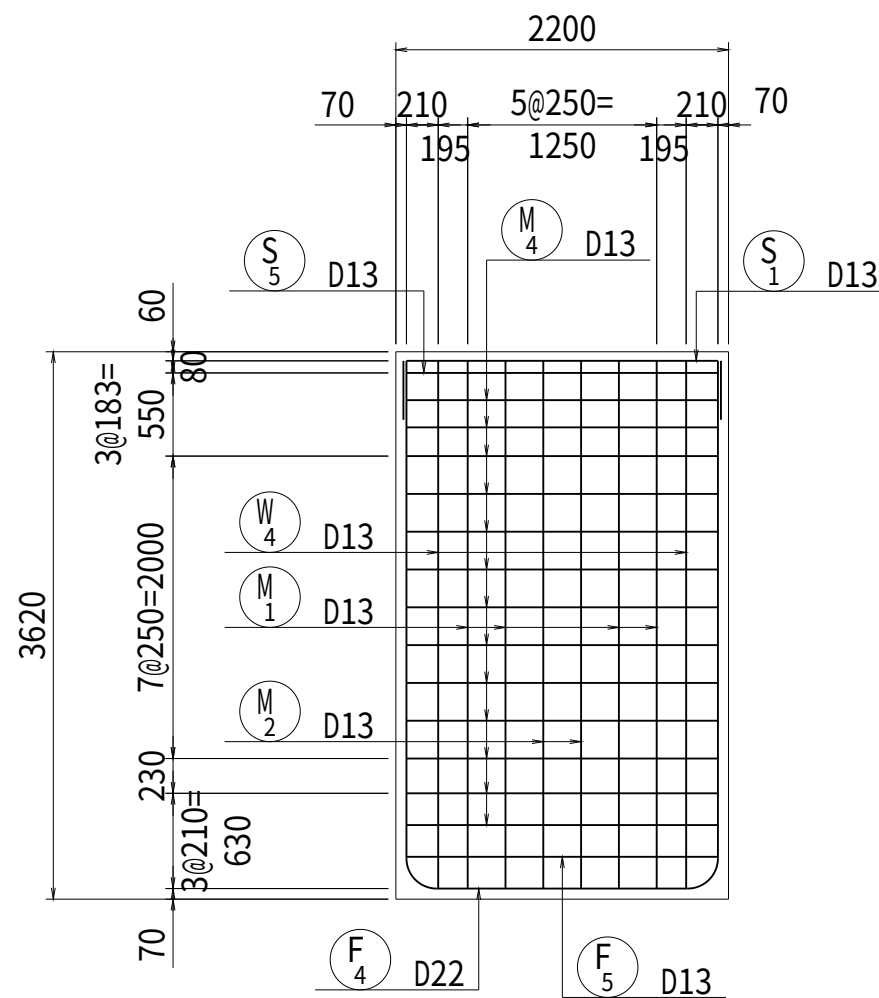
8 - 8
底板上面



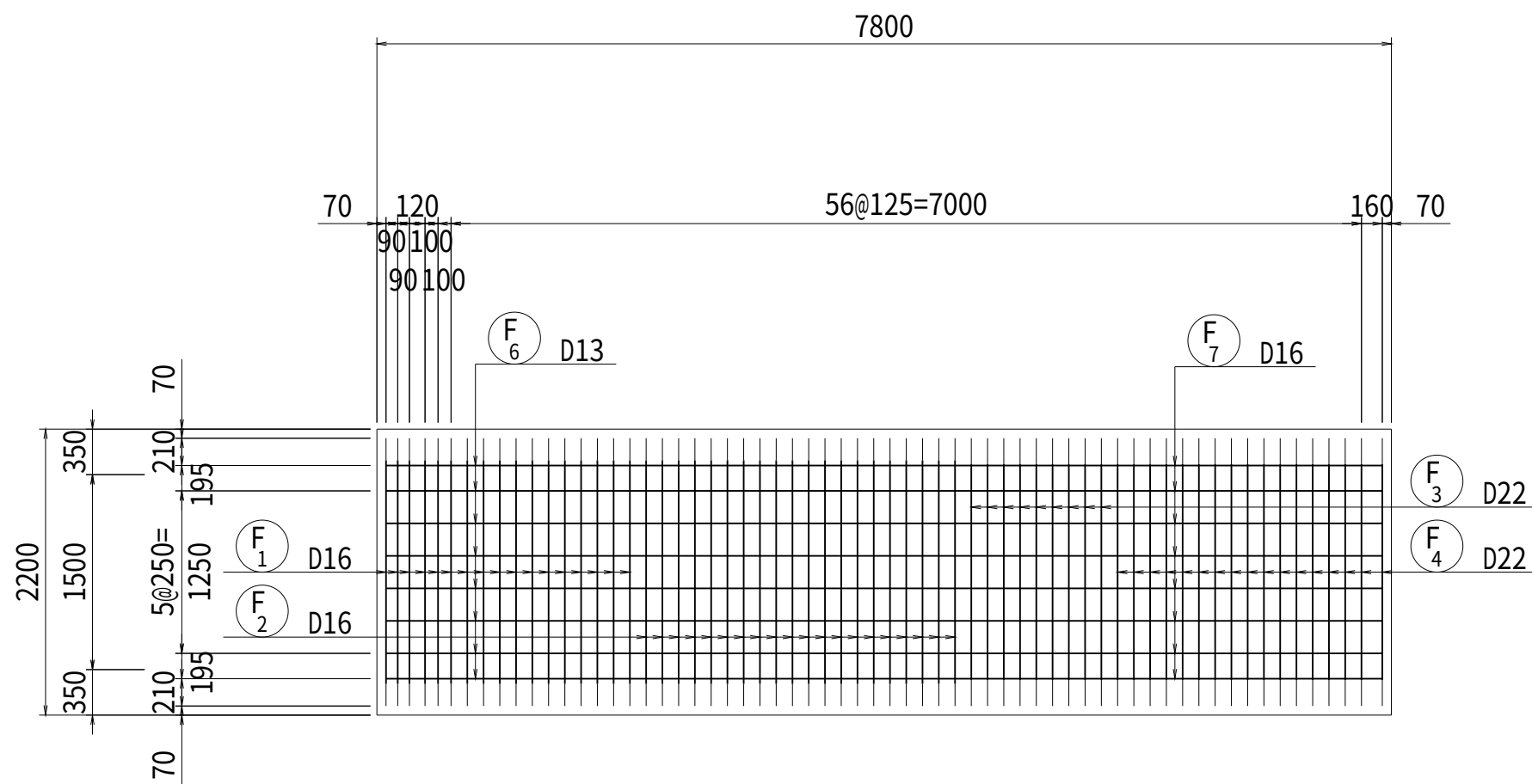
10 - 10
側壁外面



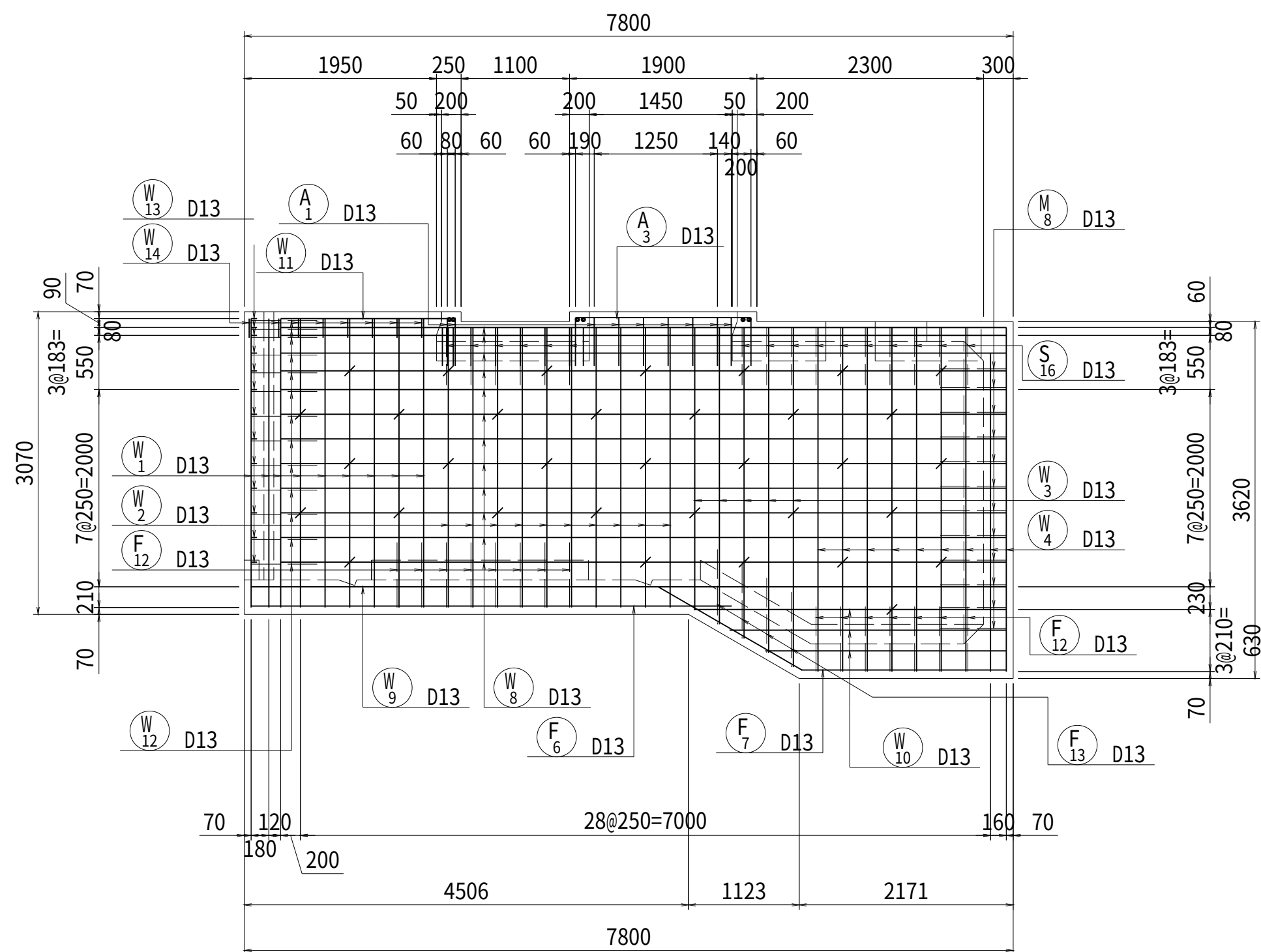
12 - 12
妻壁外面



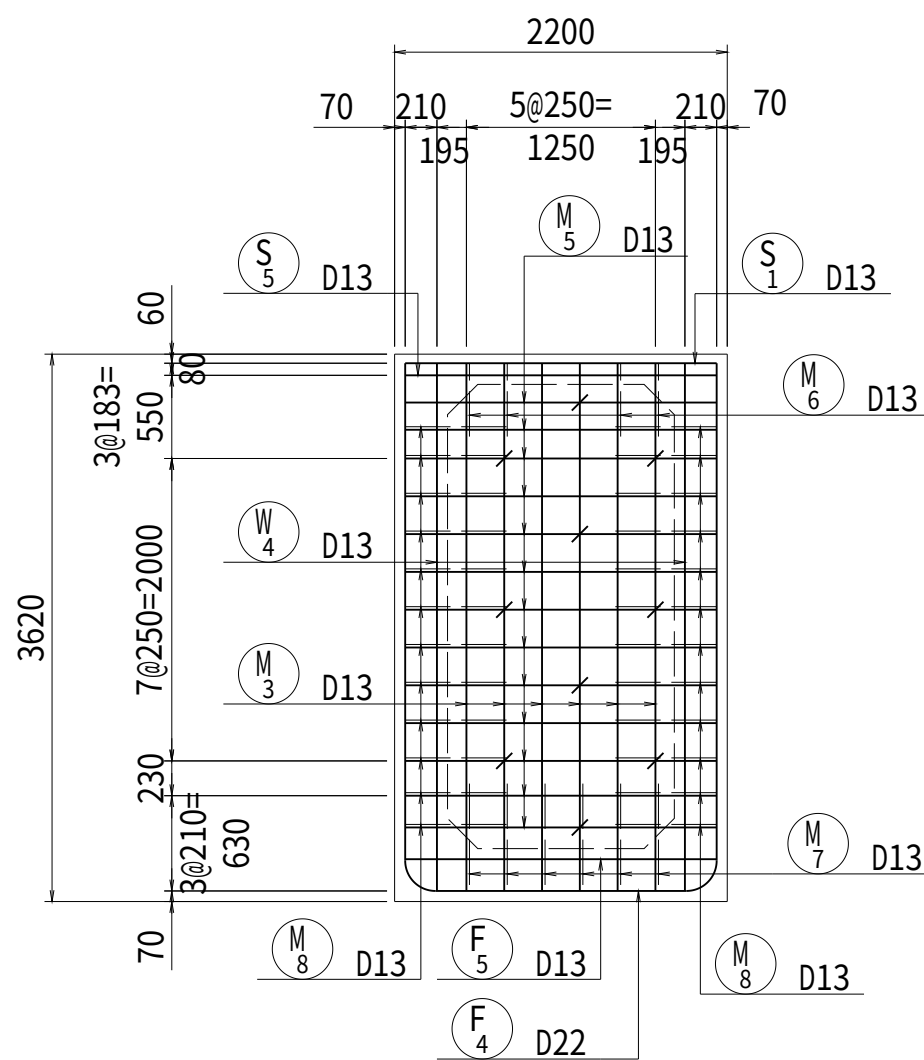
9 - 9
底板下面



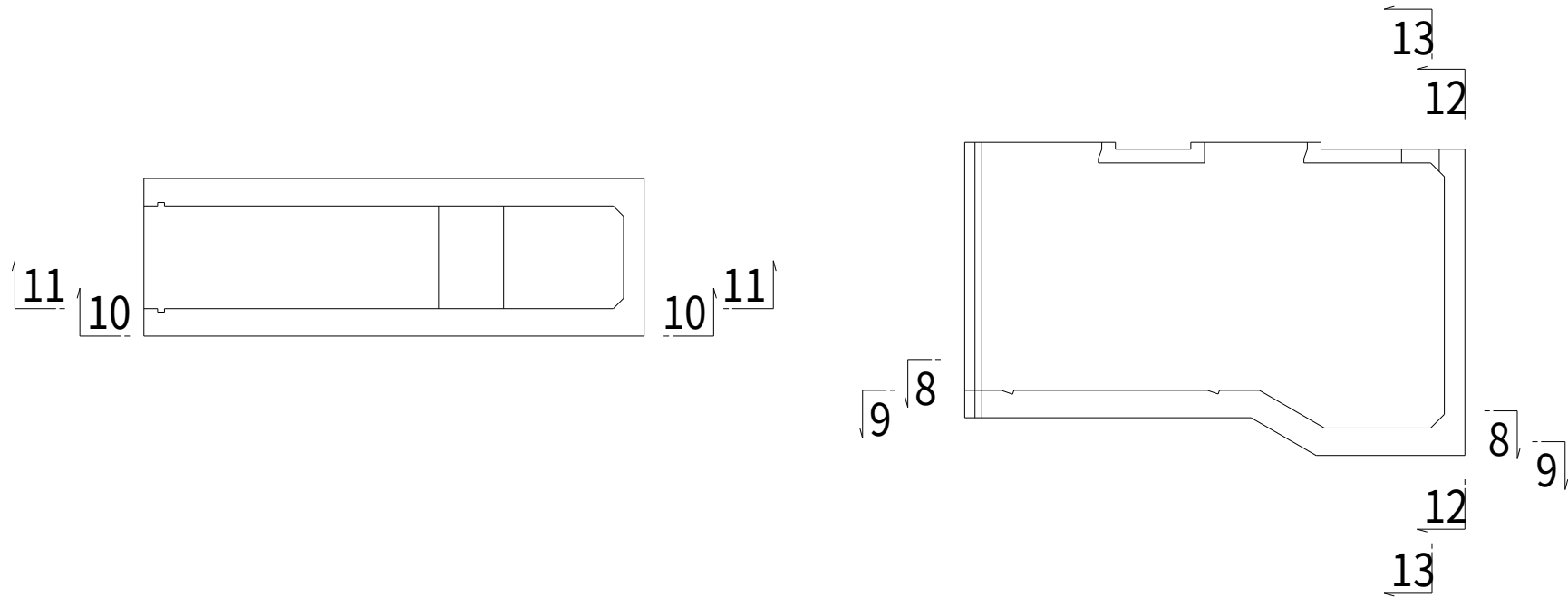
11 - 11
側壁内面



13 - 13
妻壁内面



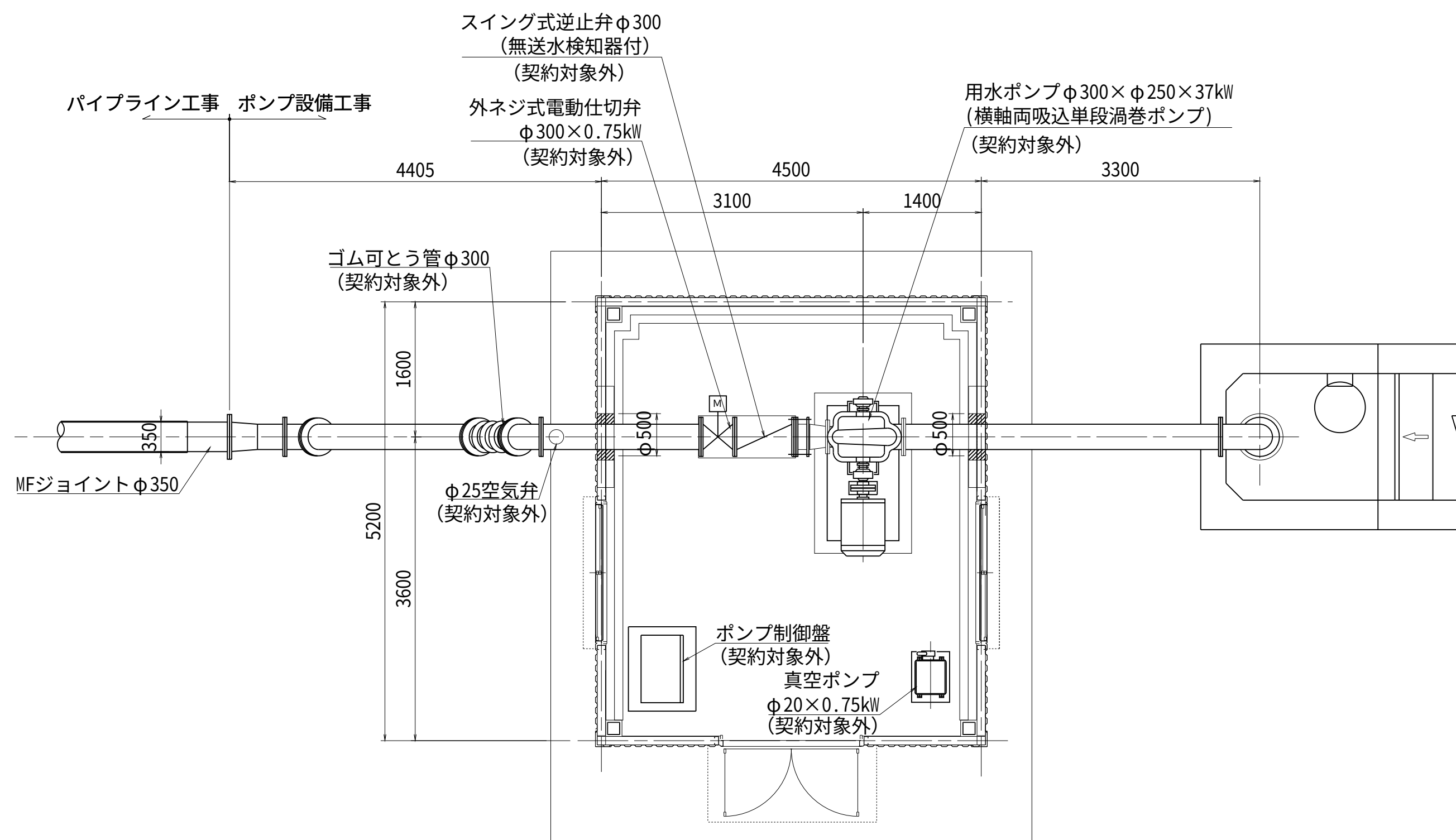
位置図



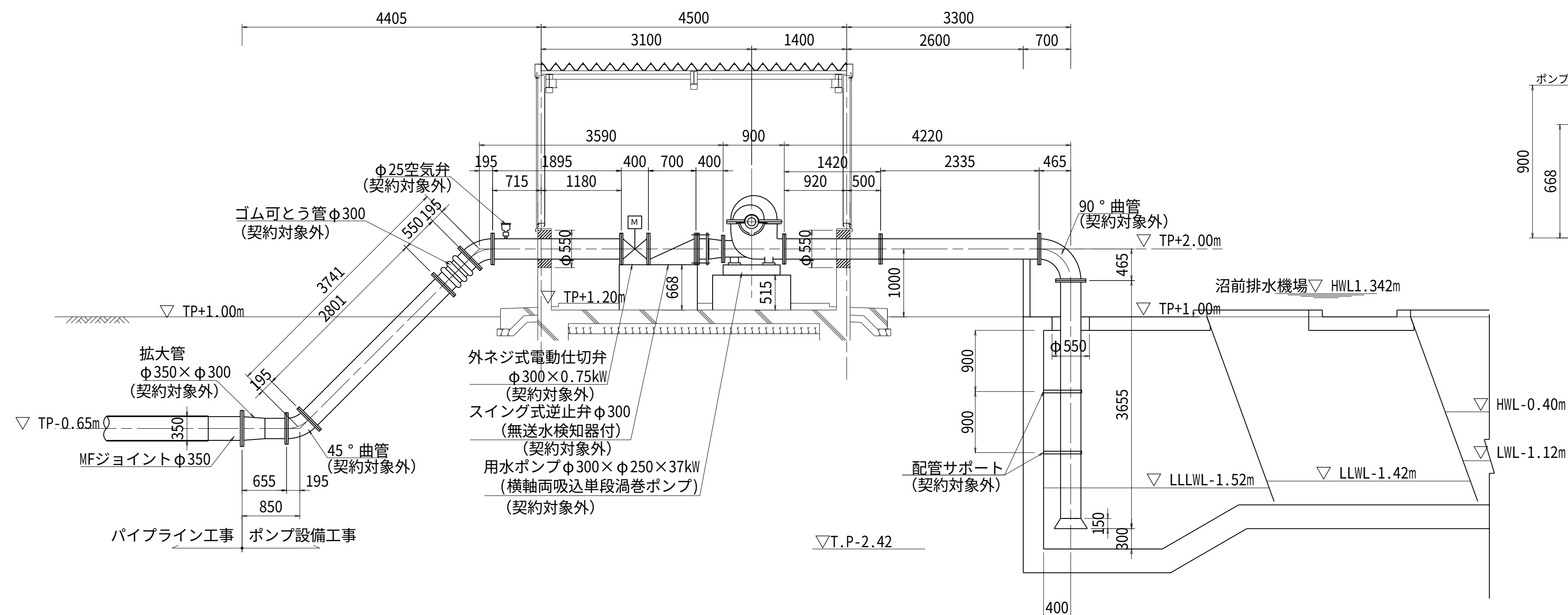
工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	馬割用水機場 吸水槽構造図(3/3)		
作成年月			
縮 尺	S=1:50	図面番号	33 - 3/3
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

沼前第1用水機場 配置図

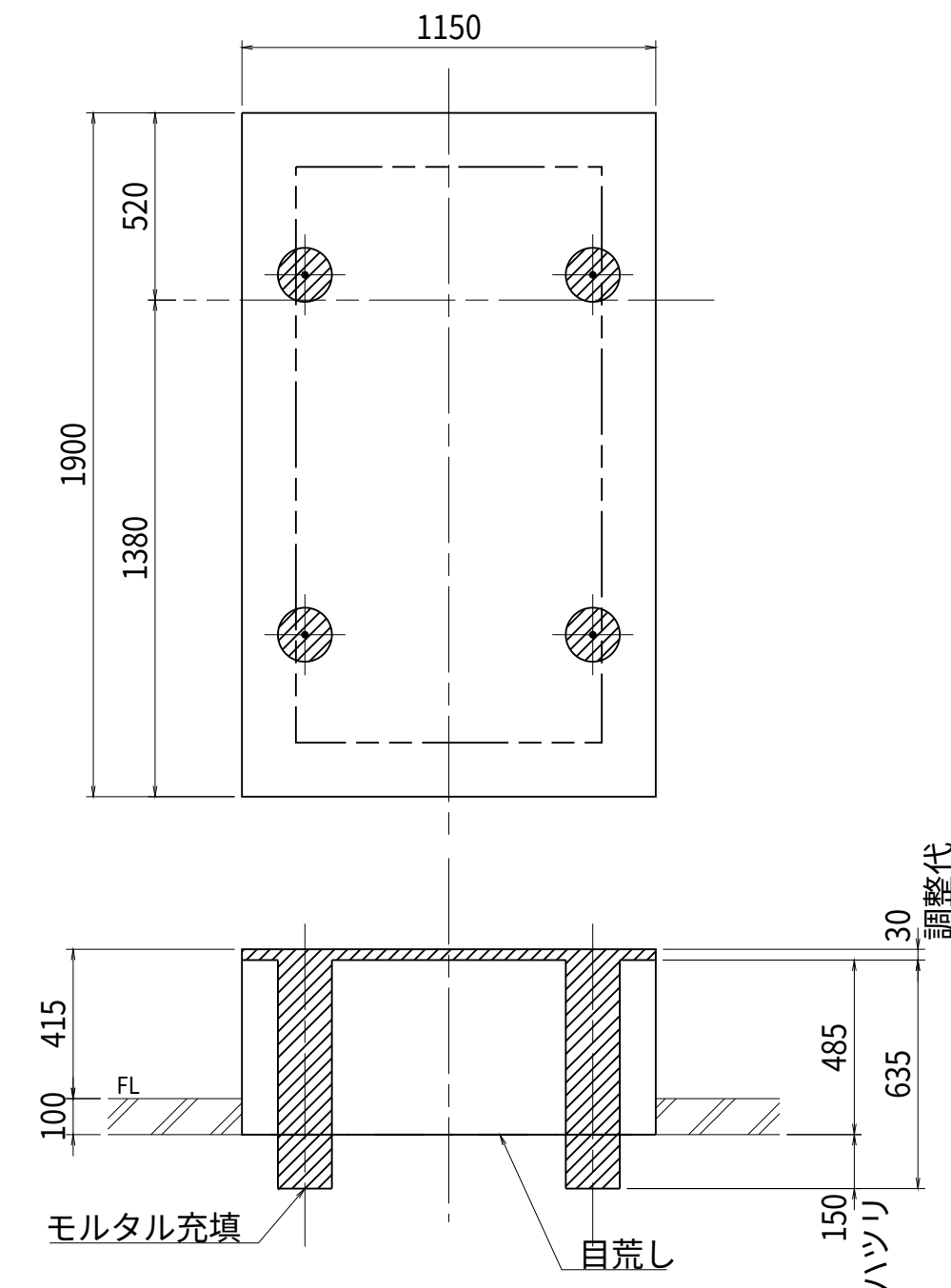
平面图
S=1:50



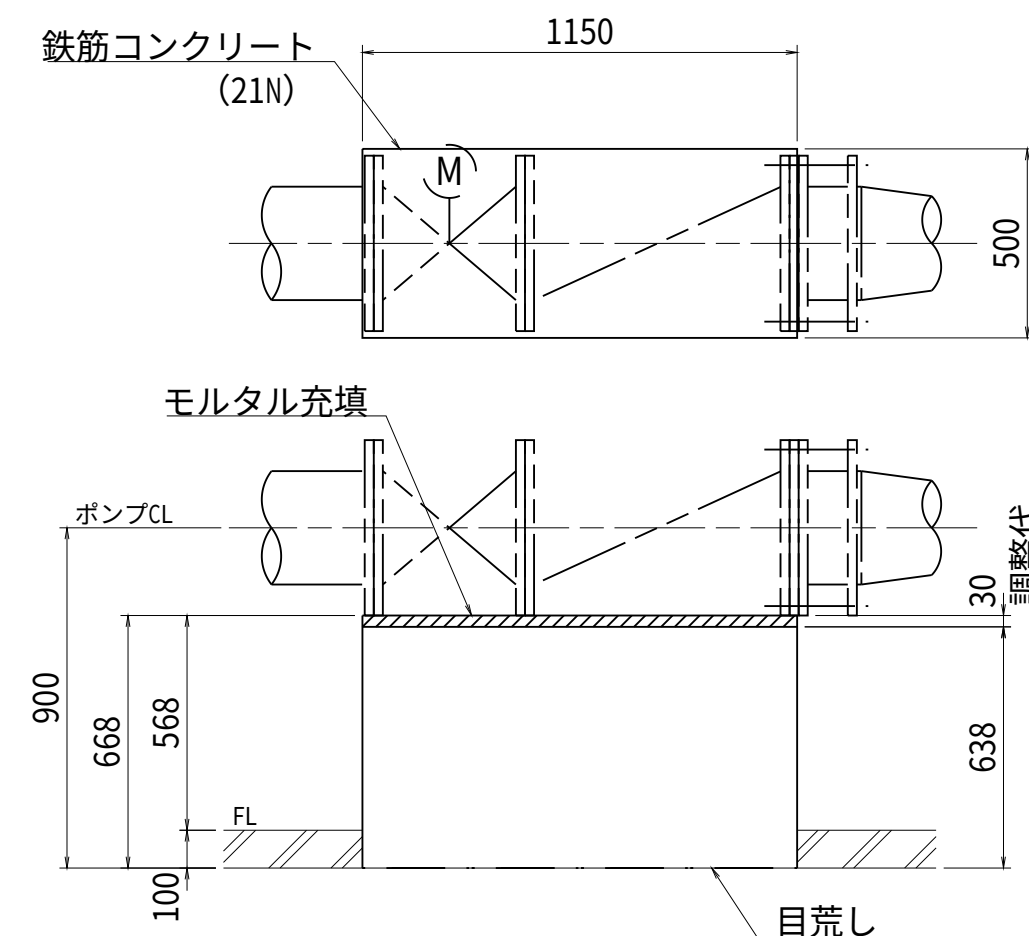
A-A
S=1:50



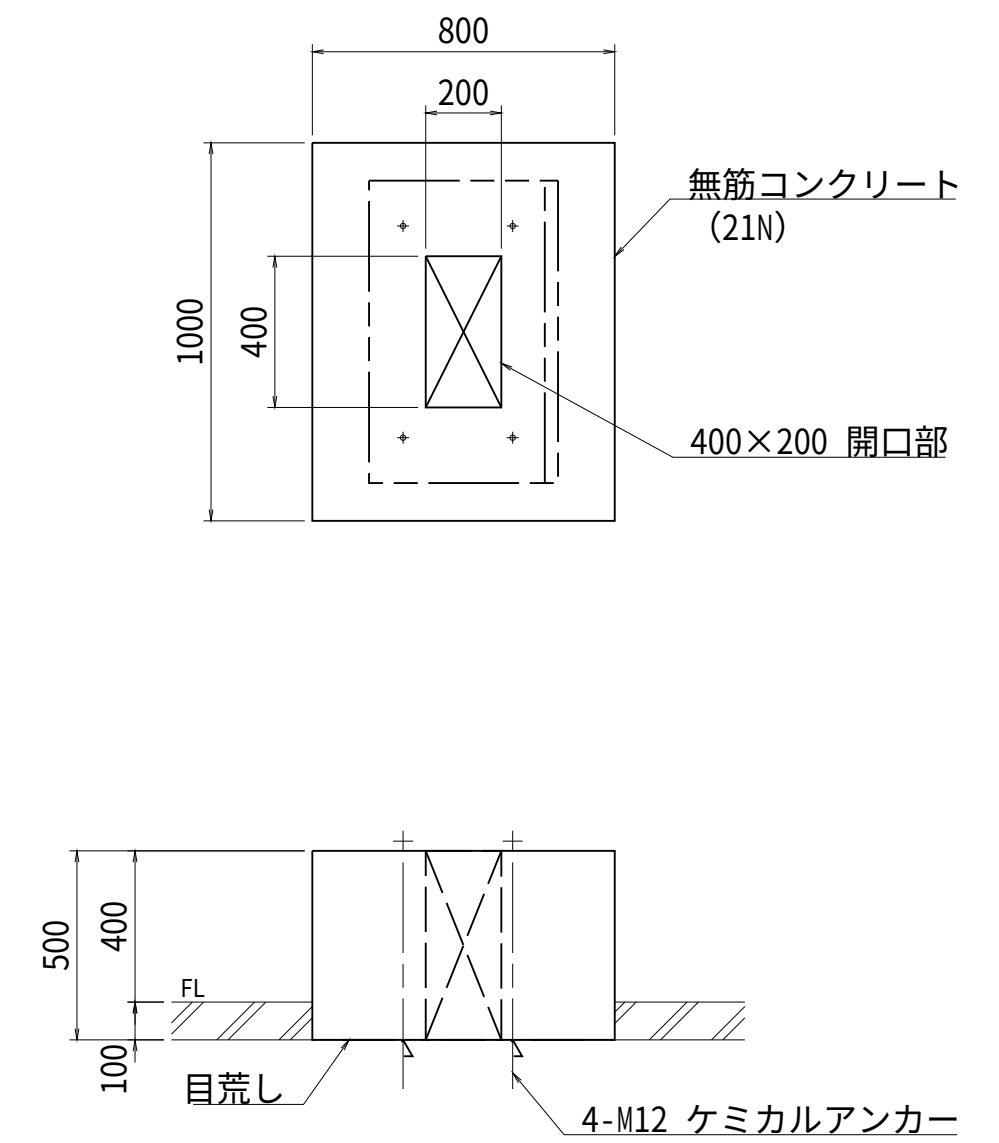
用水ポンプ基礎詳細図
(契約対象外) S=1:20



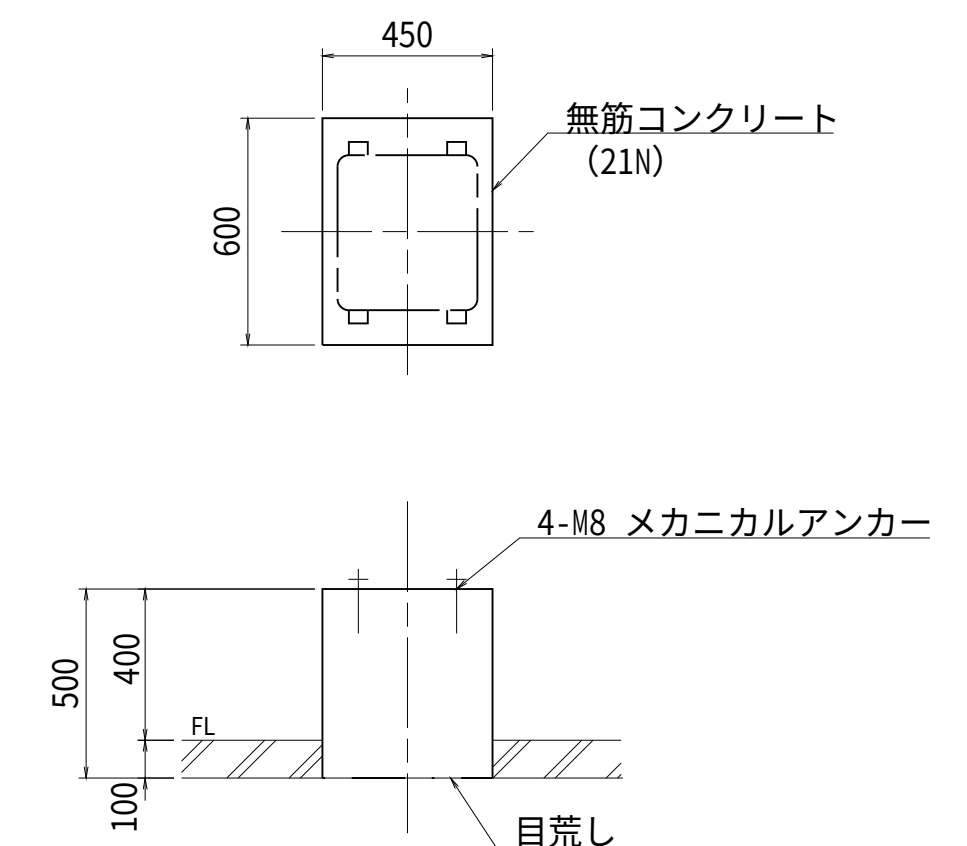
φ 300弁類基礎詳細図
(契約対象外) S=1:20



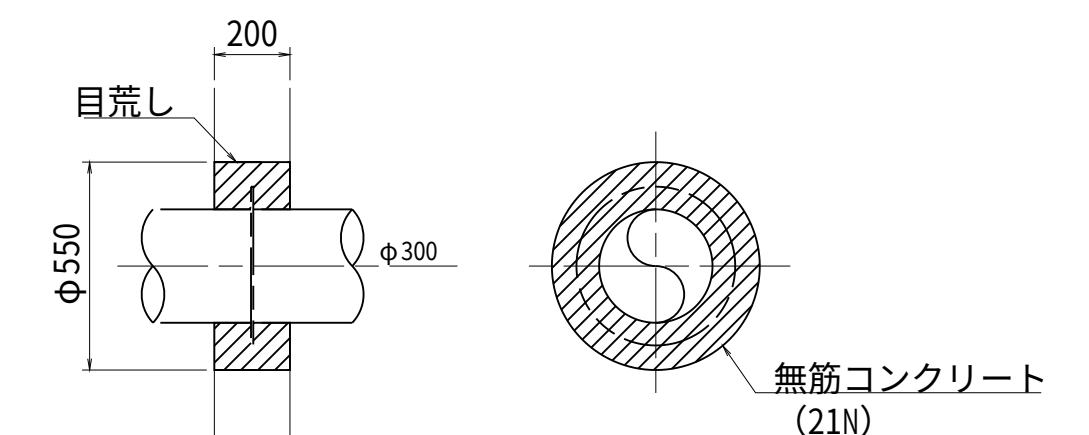
ポンプ制御盤基礎詳細図
(契約対象外) S=1:20



真空ポンプ基礎詳細図
(契約対象外) S=1:20



吐出管壁貫通部詳細図
(2ヶ所) (契約対象外) S=1:20



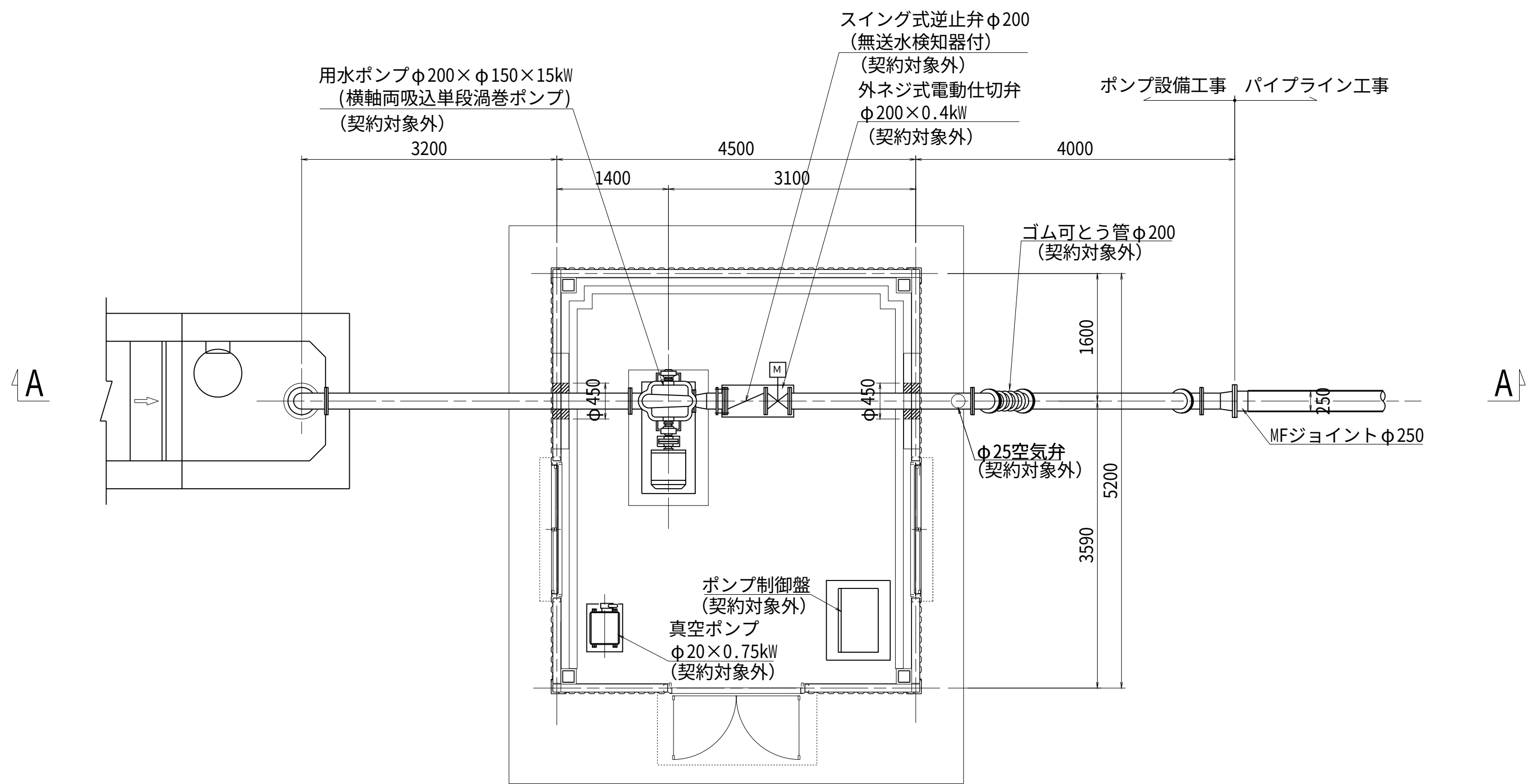
※本図は計画図であり、施工は承認図により行うものとする。

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬剣干拓団地海老沢Ⅰ区Ⅱ区画整理そのⅠ工事		
図 面 名	沼前第1用水機場 配置図		
作成年月			
縮 尺	図示	図面番号	34-1/2
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

馬割用水機場 配置図

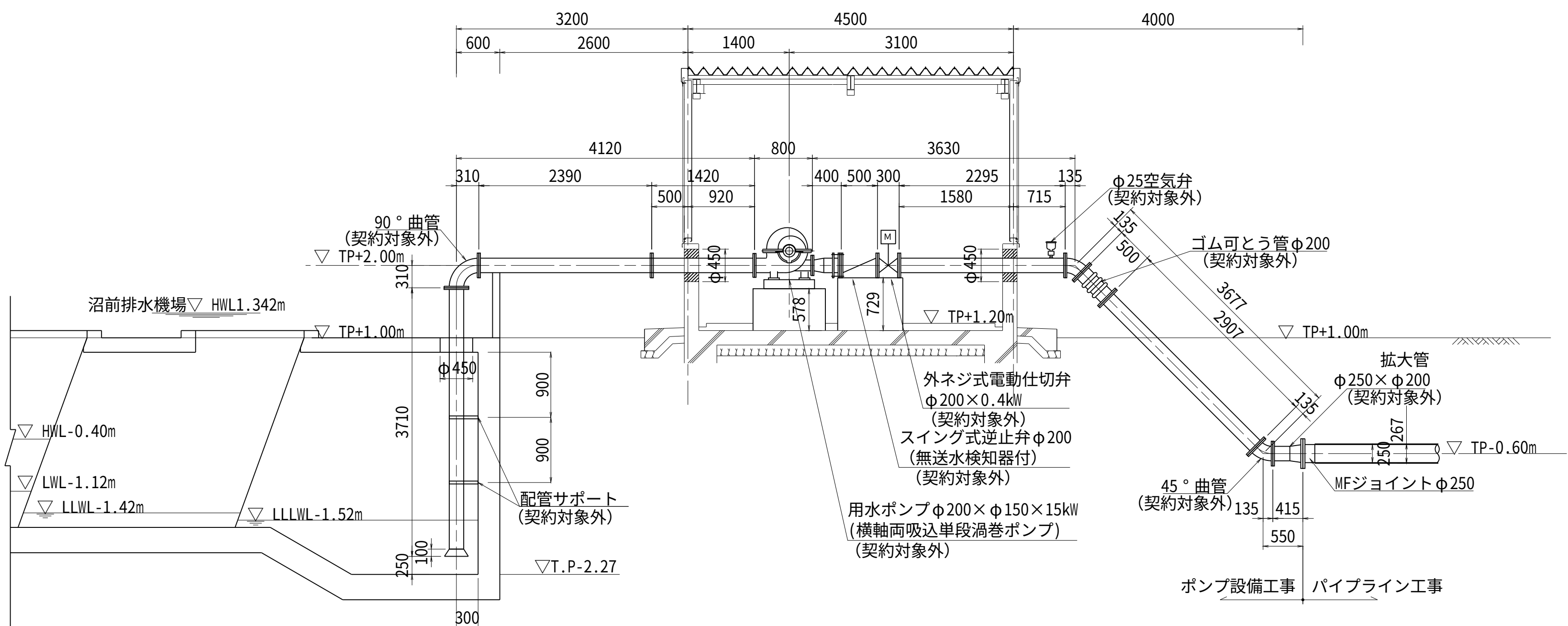
平面図

S=1:50



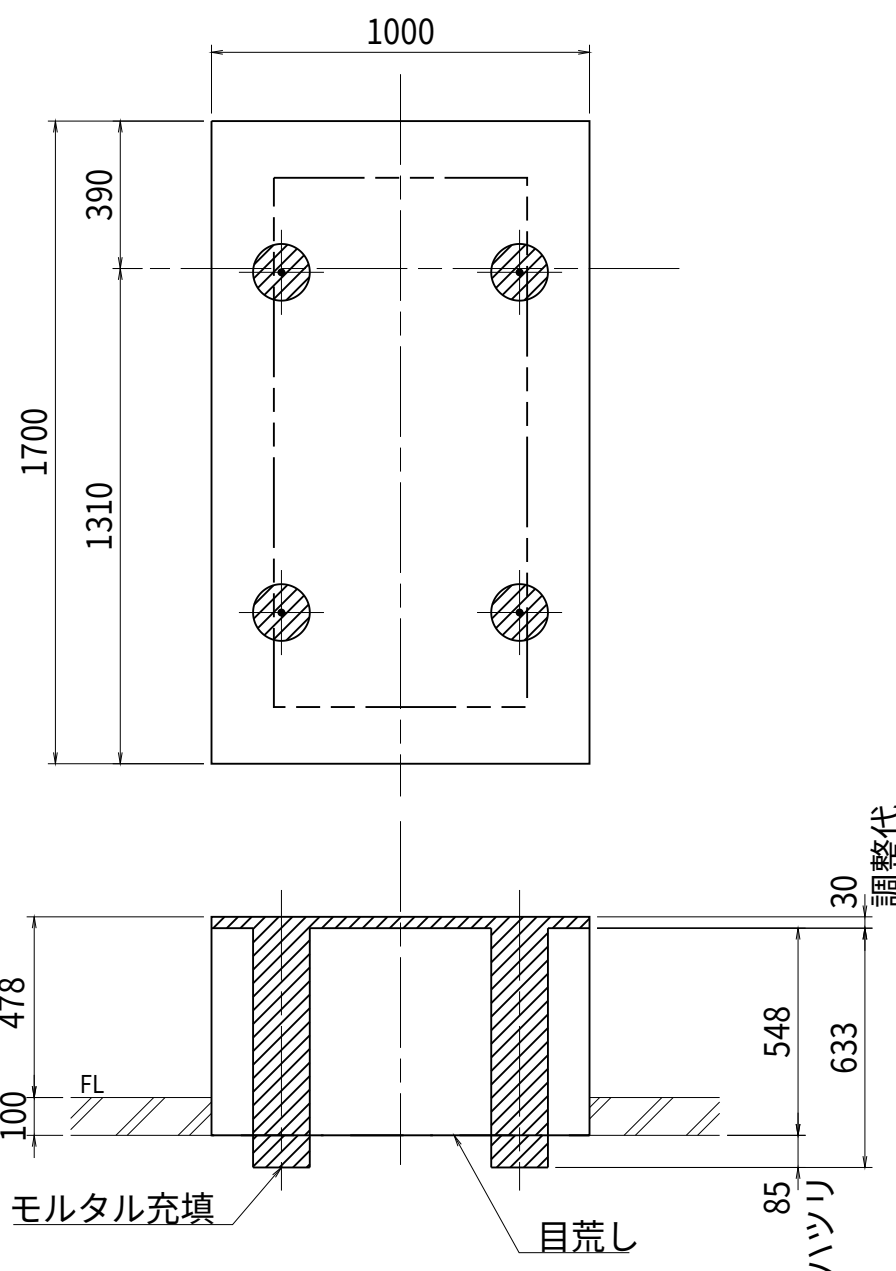
A-A

S=1:50



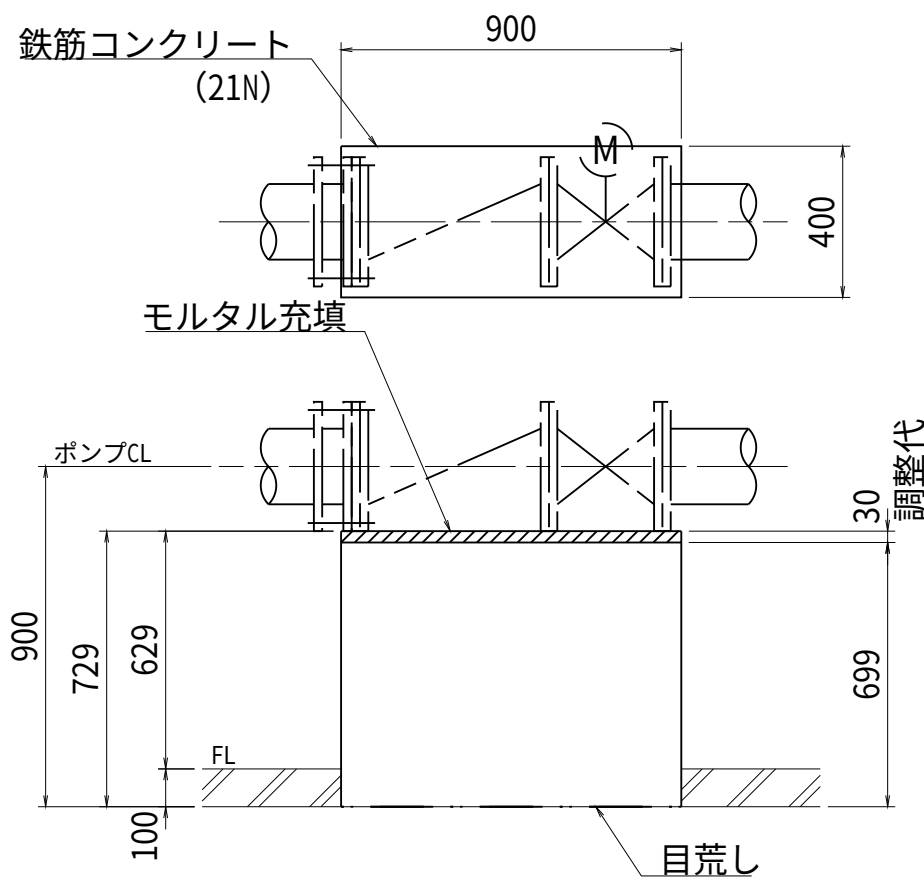
用水ポンプ基礎詳細図

(契約対象外) S=1:20



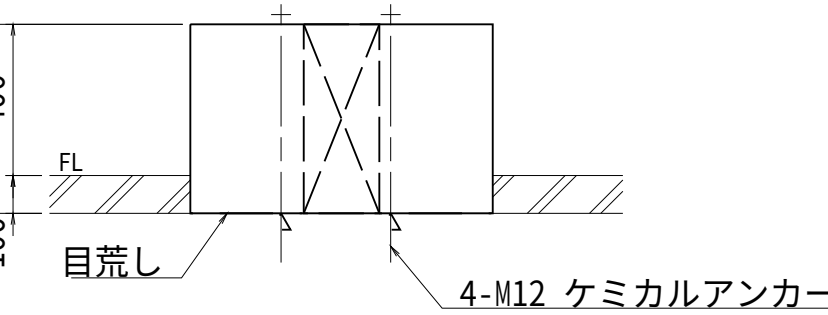
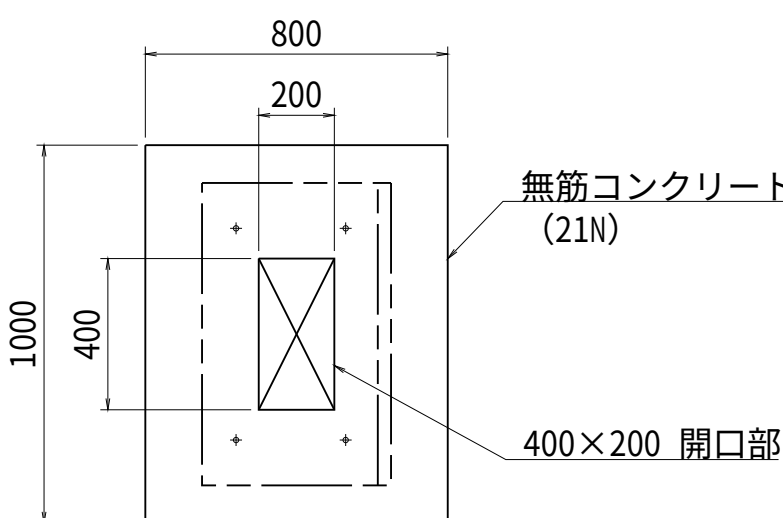
φ200弁類基礎詳細図

(契約対象外) S=1:20



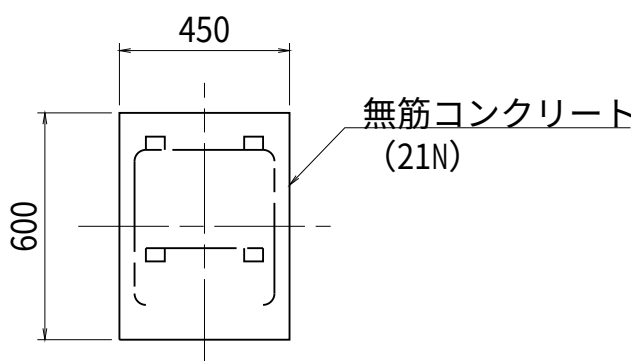
ポンプ制御盤基礎詳細図

(契約対象外) S=1:20



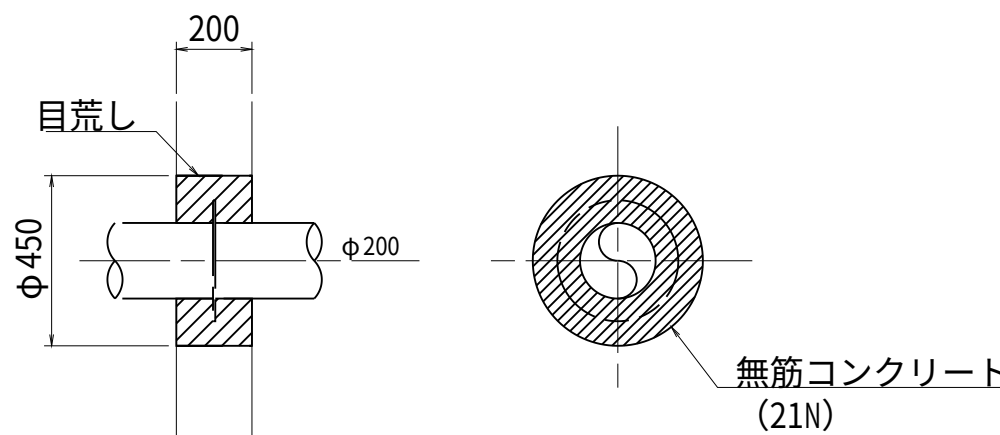
真空ポンプ基礎詳細図

(契約対象外) S=1:20



吐出管壁貫通部詳細図

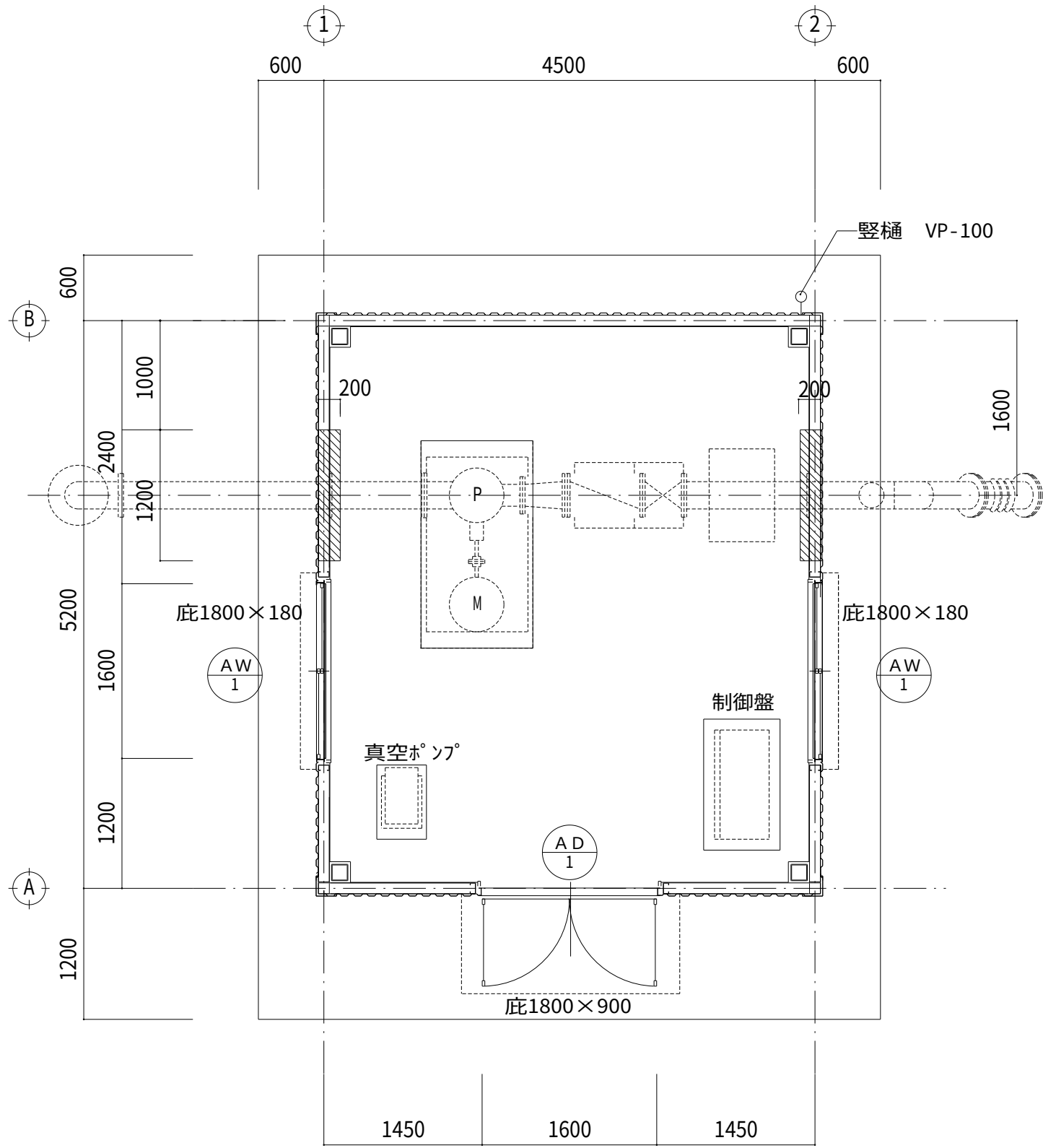
(2ヶ所) (契約対象外) S=1:20



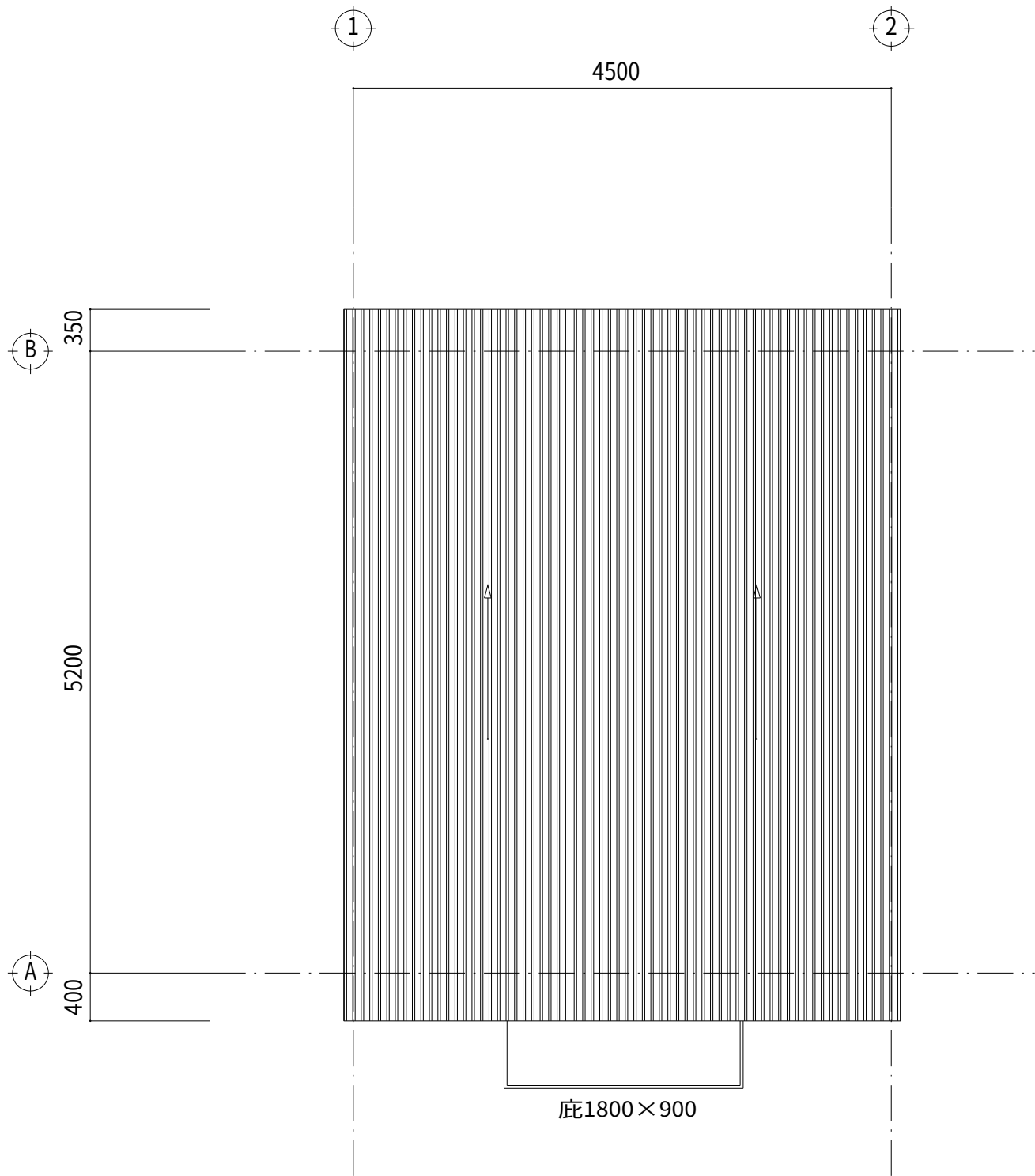
※本図は計画図であり、施工は承認図により行うものとする。

工事名	茨城中部農地整備事業		
図面名	沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図面名	馬割用水機場 配置図		
作成年月			
縮尺	図示	図面番号	34 - 2/2
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

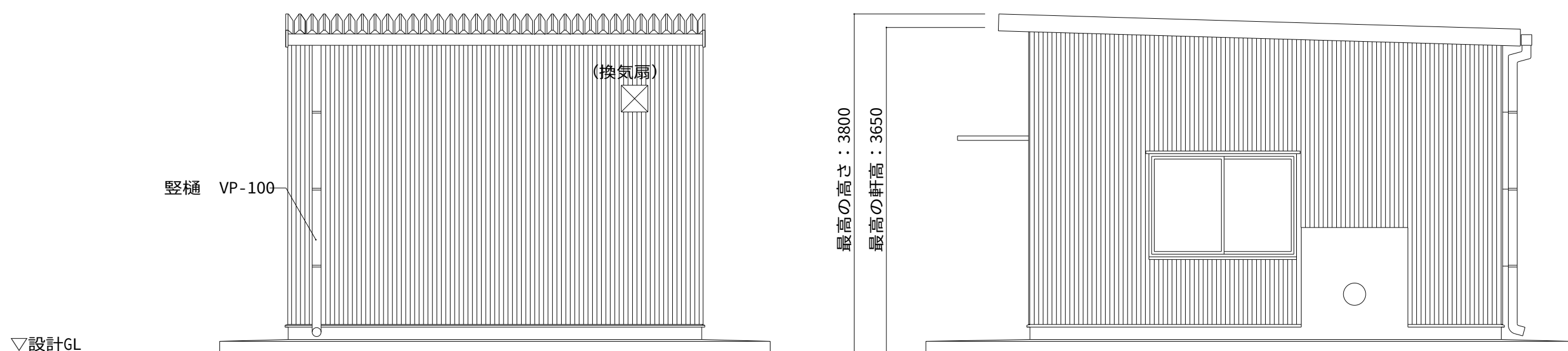
仕 上 表						
外 部 仕 上						
屋 根	ルーフデッキ（ガルバリウム銅板厚0.6：断熱材裏打ち型）：山高85、タイトフレーム、軒先面戸、ケラバ包み					
樋	軒樋：塩ビ角樋 120×120（金物共） 縦樋：VP-100（金物共）					
外 壁	角波鉄板厚0.4（ガルバリウム銅板）、水切り（防虫網付）、照明器具取付部：下地合板厚12（ポンプ設備用パトライト及び投光器設置予定箇所を含む）、配管貫通部腰壁：コンクリート打放し					
幅 木	コンクリート直金こて					
犬 走 り	コンクリート直金こて Vカット目地切					
シーリング	変成シリコン系 MS-2					
内 部 仕 上	床	基礎立上り	腰 ・ 壁	天 井	天 井 高	備 考
用水機場	コンクリート木こて+増打ちコンクリート（施設機械工事）	直金こて	有孔ケイカル板 厚5 目透かしEP塗	屋根折板あらわし 見え掛り鉄部（梁・ブレース） SOP塗		壁 グラスウール厚100（24kg/m3）充填



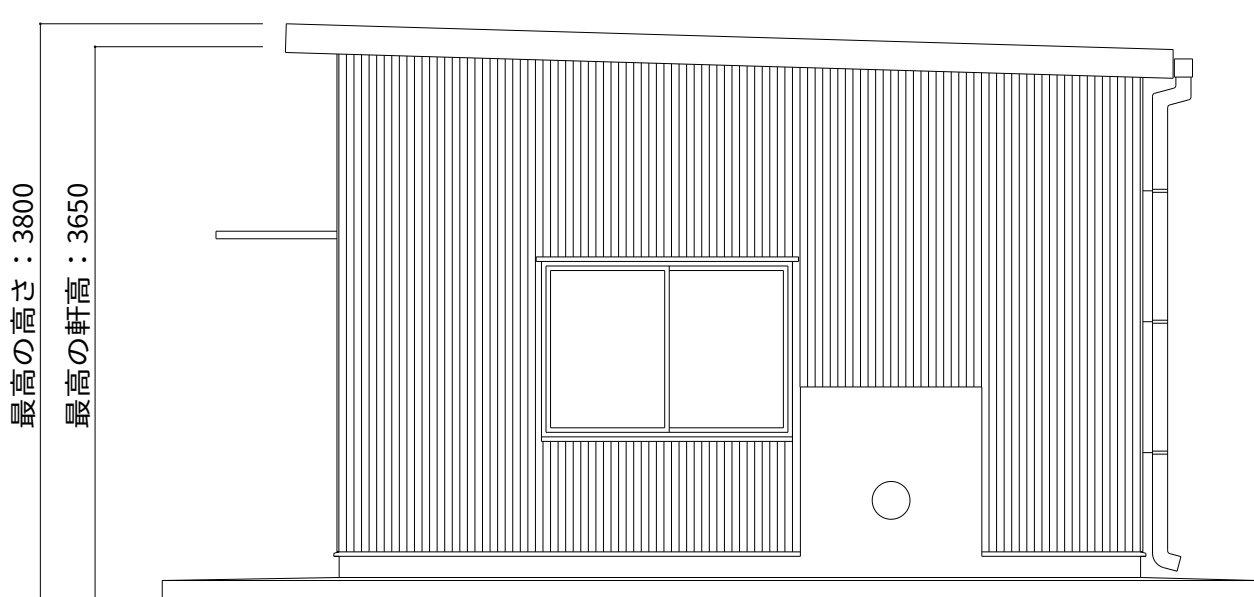
平 面 図 S=1:50



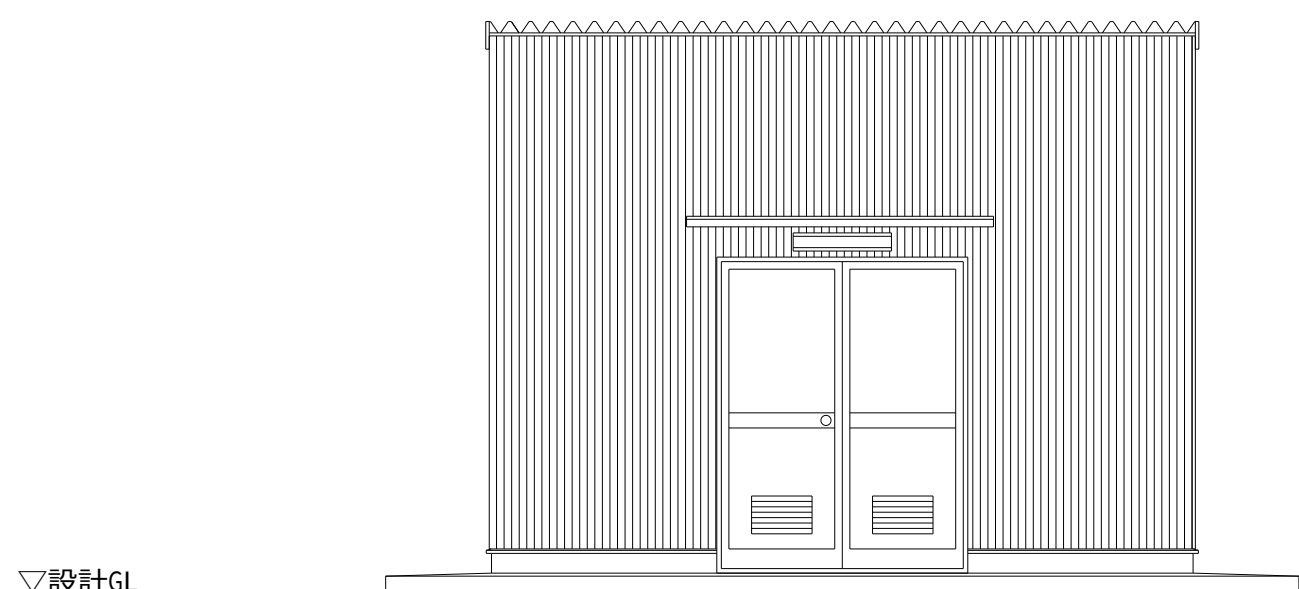
屋 根 伏 図 S=1:50



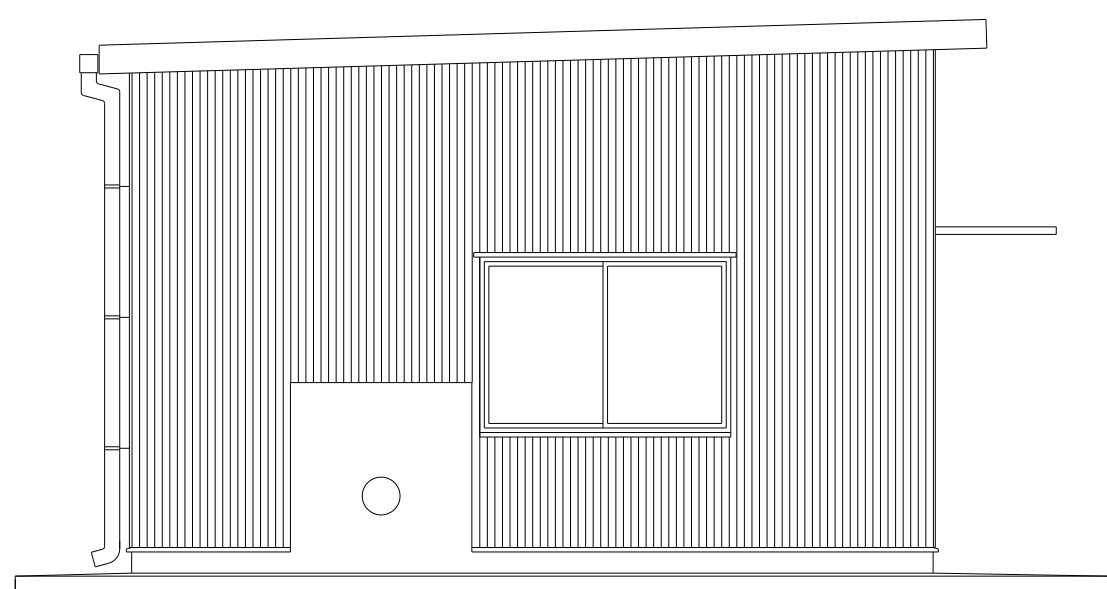
北 立 面 図 S=1:50



東 立 面 図 S=1:50

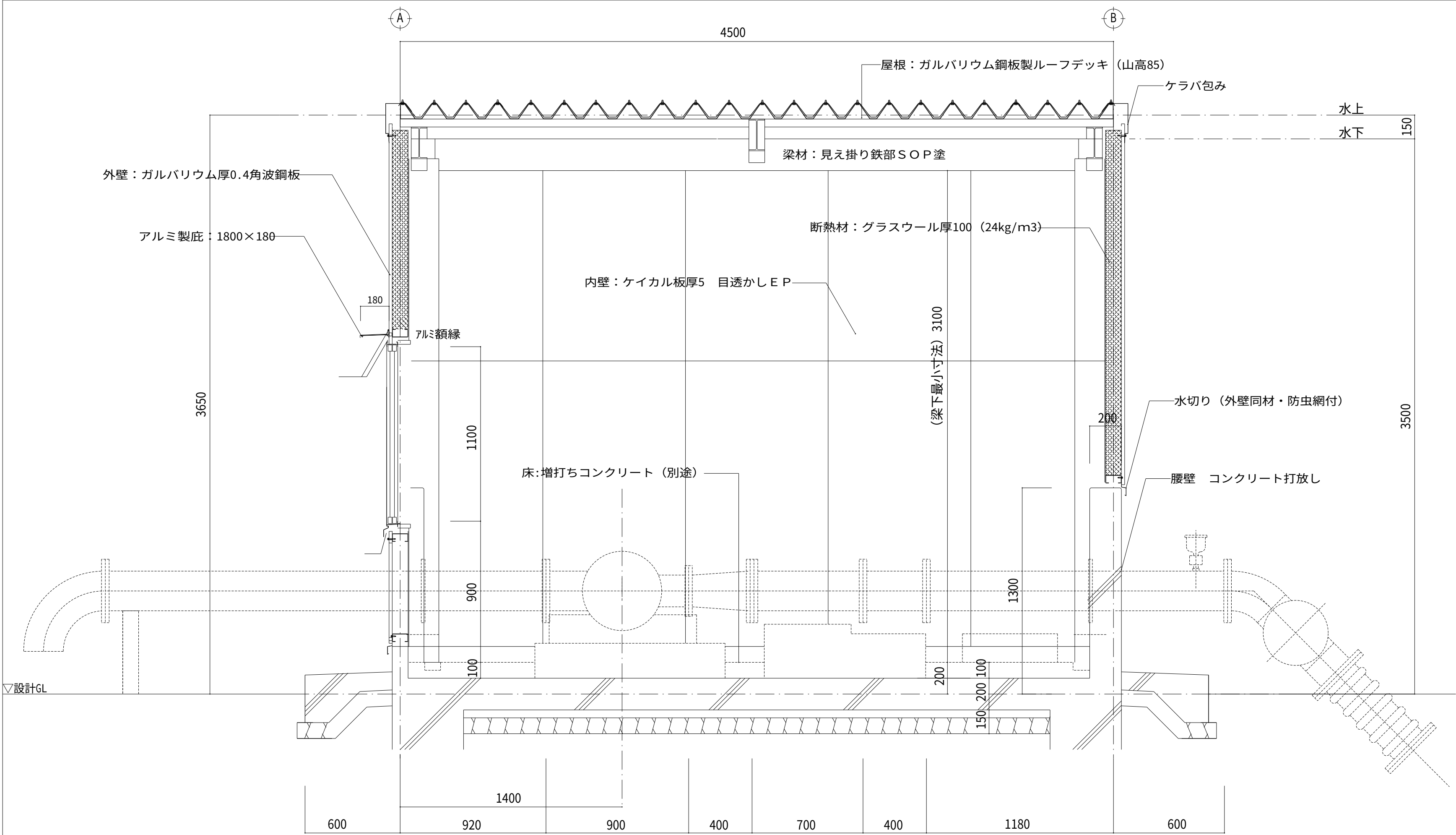


南 立 面 図 S=1:50

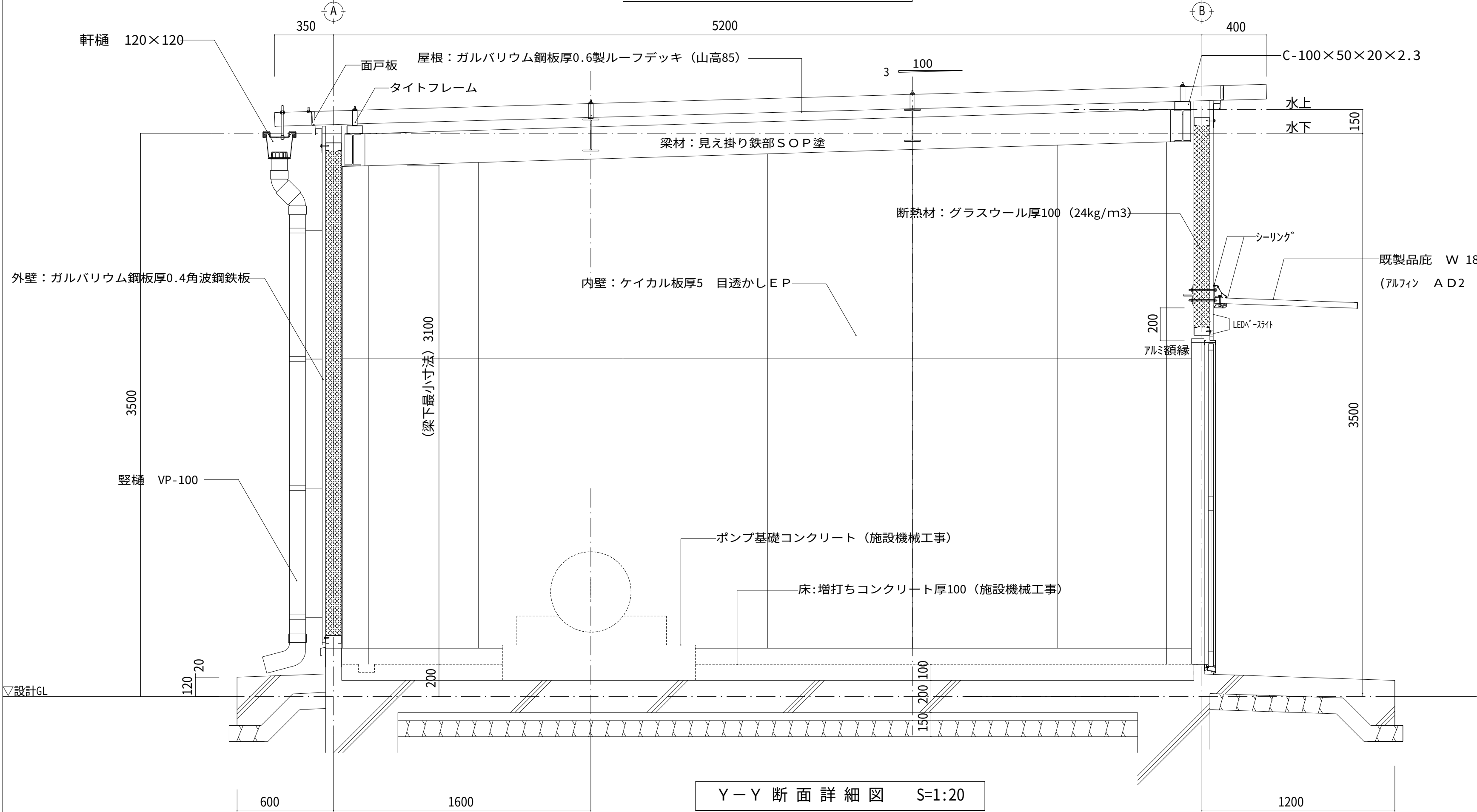


西 立 面 図 S=1:50

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	仕上表 ・ 平面図 ・ 立面図		
作成年月			
縮 尺	S=1:50	図面番号	35
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

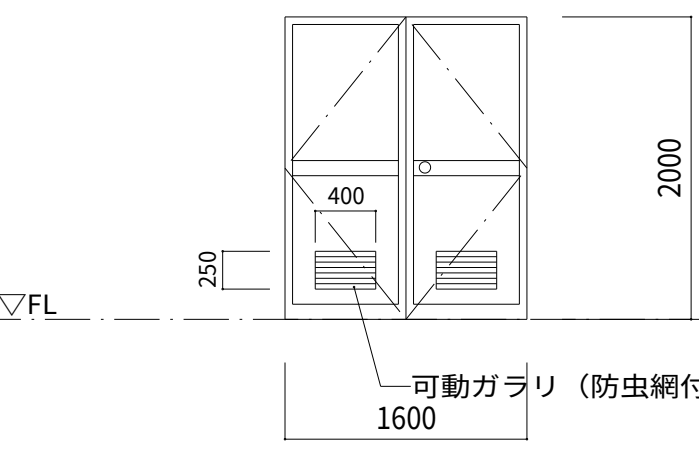
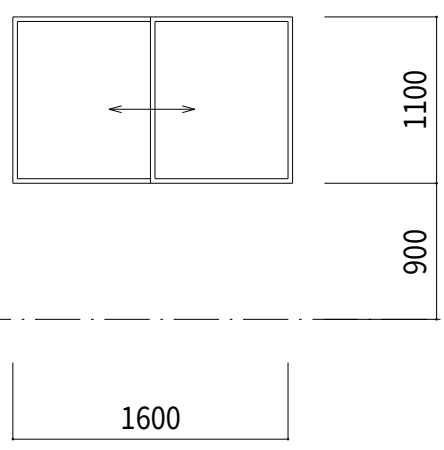


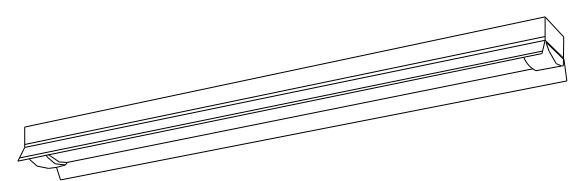
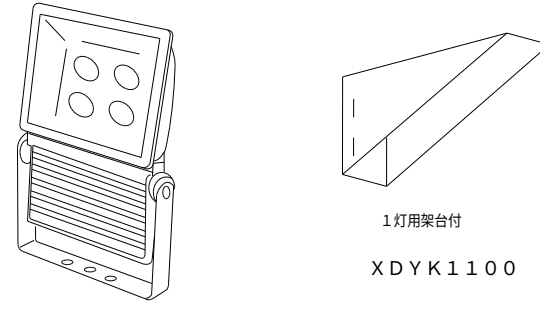
X-X 断面詳細図 S=1:20

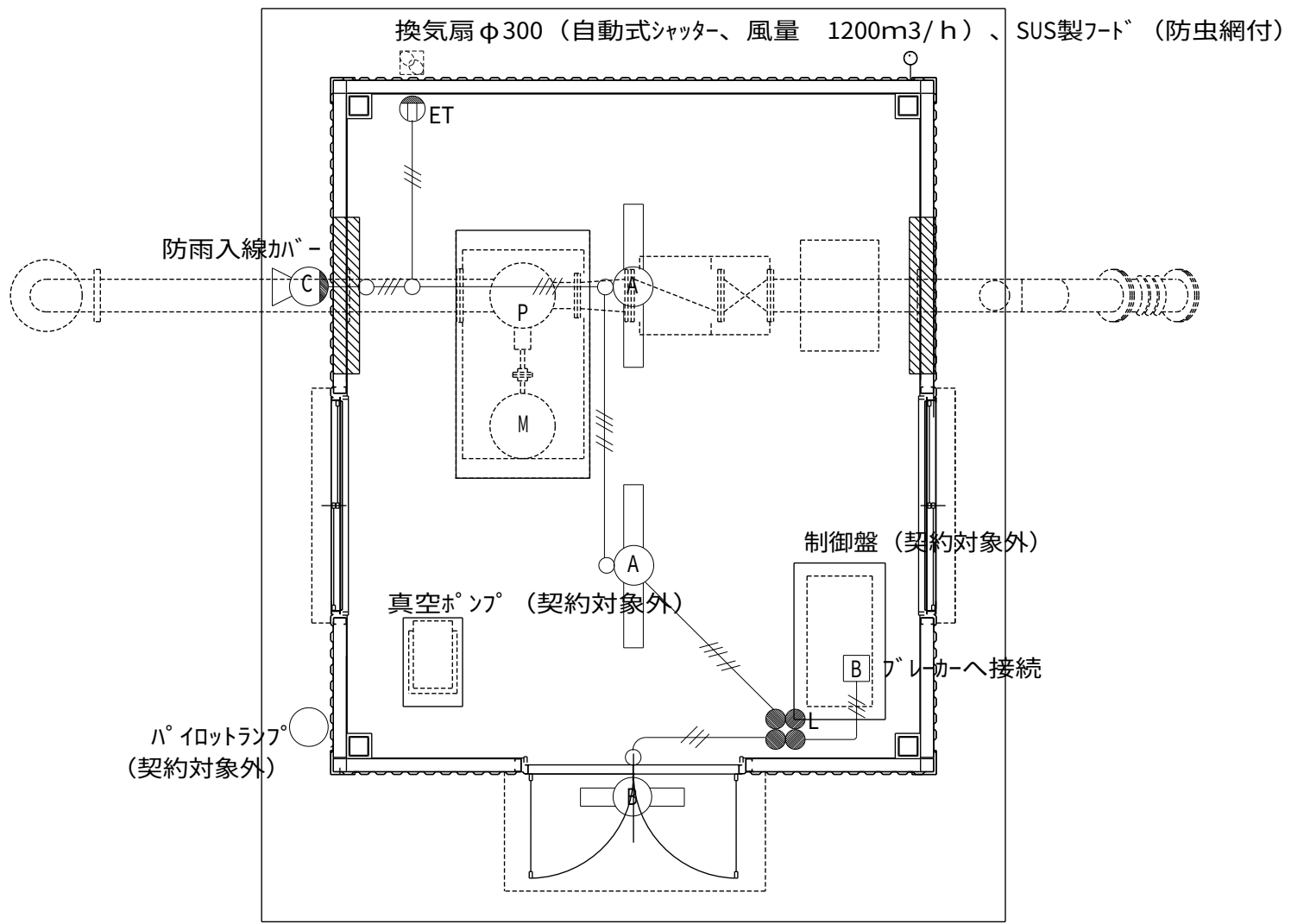


Y-Y 断面詳細図 S=1:20

建 具 表 S=1:50

	AD-1	AW-1
姿 図	既製品底 W 1800×D 900 (7mmフィン AD2 同等品) 	
型 式	両開き框ドア (半外付け) 見込み70	引違いサッシ (半外付け) 見込み70
室名・数量	用水機場 1ヶ所	用水機場 2ヶ所
材 種	アルミ (シルバー)	アルミ (シルバー)
ガ ラ ス	上段: 網入型板 厚6.8 下段: アルミパネル厚3.0	網入型板 厚6.8
金 物	本締錠 (シ+空)、DC (S付)、アルミ額縁 (見込み80) SUS下枠、附属金物一式	網戸、アルミ額縁 (見込み80) アルミ製底 W 1800×D 180、附属金物一式

A	LEDベースライト 笠付 防湿形	B	LDL20W×1 ウォールライト 防湿・防雨形	C	LEDスポットライト 400形
	器具光束3200lm、消費電力20.6W		器具光束780lm、消費電力12.0W		器具光束11800lm、消費電力105W
直付XLW432KENZLE9 (同等品) 		NNFW21825LE9 (同等品) 		NYS35235加工LF2 (同等品) 	
一般タイプ、3200lmタイプ、消費電力: 20.6W 定格出力型、電圧100~242V 本体: 亜鉛鋼板 (クロムフリー・高反射白色粉体塗装) 防湿型・防雨型ライトバー: ポリカーボネート (乳白) 光源寿命: 40000時間 昼白色 (5000K) Ra83、IP23防湿型		ボルトフリー (100~242V) 壁面 (縦向き・横向き) 取付専用 カバー: クリアアクリル (乳白) 光源寿命40000時間 適合ランプ: 直管LEDランプ、素材: ガラス		LEDスポットライト 水銀灯400形相当 昼白色、5000K、Ra70 広角タイプ配光、光源寿命6万時間 (光束維持率85%)	



電気設備図 S=1:50

- L 100mm×15mm×15mm 1P-4A
- //// E1-E1.6×3(E19): 1本7-1
- //// E1-E1.6×5(E25): 1本7-1

工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	断面詳細図・建具表・電気設備図		
作成年月			
縮 尺	図示	図面番号	36
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版による
[設計注意事項]等は、特記による。

1. 加工及び組立

鉄筋の表示							
丸鋼	9φ	13φ	16φ	19φ	22φ	25φ	28φ
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29
表示	○	×	◇	○	○	◎	⊗

1-0 一般事項

- 鉄筋は、設計図面に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工して組み立てる。
- 異形鉄筋の径(「d」)を示すは、呼び名に用いた数値とする。
- 有害な曲がり又は損傷等のある鉄筋は、使用しない。
- コイル状の鉄筋は、直線状態にしてから使用する。この際、鉄筋に損傷を与えない。
- 鉄筋には、点付け溶接を行なわない。また、アークスライクを記することはならない。
- 鉄筋の切断は、シーカーター等によって行う。
- 鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要径を径 0.8mm以上の鉄線で結束し、適切な位置にスぺーサー、吊金物等を使用して堅固に組み立てる。なお、スぺーサーは、所定の位置に鉄筋を保持するとともに、作業荷重等に耐えられるものとする。
- また、鋼製のスぺーサーは、型枠に接する部分に防護処理を行ったものとする。
- 鉄筋の継手は重ね継手、ガス圧継手、機械式継手又は溶接継手とし、適用は特記による。
- 9)10以下の縦横鉄筋の溶接は、重ねアーク溶接とし、溶接技能者は、鉄骨工事の溶接溶接(技能資格者)に準じ、工事に精通した技能を有する者とする。
- 10)縦横配筋、スイッチ等の設置により、設計図面に定める配筋ができない場合は、監督職員と協議する。

1-1 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ 角度	折曲げ図	折曲げ内法直徑(D)		
		SD295A,SD295B,SD345	SD390	
		D16以下	D19~D38	D19~D38
180°		4d以上		
135°			3d以上	4d以上
90°				5d以上
135° 及び 90° (幅止め筋)		4d以上		

(注)1.片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
2.90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

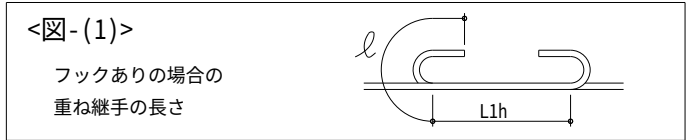
1-2 鉄筋の継手及び定着

1-2-1 鉄筋の継手

- 鉄筋の継手位置は、特記による。(特記なき限り本仕様書各項目による。)
- 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径とする。
- 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。(特記なき限り本仕様書各項目による。)
- 特記がなければ、耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40d(軽重コンクリートの場合は50d)又は<表-2>の重ね継手の長さのうちいずれか大きい値とする。
- (1)(3)(4)以外の鉄筋の重ね継手の長さは表-2による。

鉄筋の種類	コンクリートの設計 基準強度 $F_c(N/mm^2)$	L1		L1h
		(フックなし)		(フックあり)
SD295B	18	18	45d	35d
	21	21	40d	30d
	24, 27	24, 27	35d	25d
	30, 33, 36	30, 33, 36	35d	25d
SD345	18	18	50d	35d
	21	21	45d	30d
	24, 27	24, 27	40d	30d
	30, 33, 36	30, 33, 36	35d	25d
SD390	21	21	50d	35d
	24, 27	24, 27	45d	35d
	30, 33, 36	30, 33, 36	40d	30d

(注)1.L1,L1h:重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2.L1hは、図-(1)に示すようにフック部分 ℓ を含まない。
3.軽重コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



1-2-2 隣り合う継手の位置

重ね継手	フックあり の場合	(壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く)	
		L1h	L1h
圧接継手	フックなし の場合		
		$a=0.5L1h$	$a\geq0.5L1h$
機械式継手	フックなし の場合		
		$a=0.5L1$	$a\geq0.5L1$
圧接継手	フックあり の場合		
		$a\geq400mm$	$a\geq400mm$
機械式継手	フックあり の場合		
		$a\geq400mm$ 、かつ、 $a\geq(b+40)mm$	$a\geq400mm$ 、かつ、 $a\geq(b+40)mm$

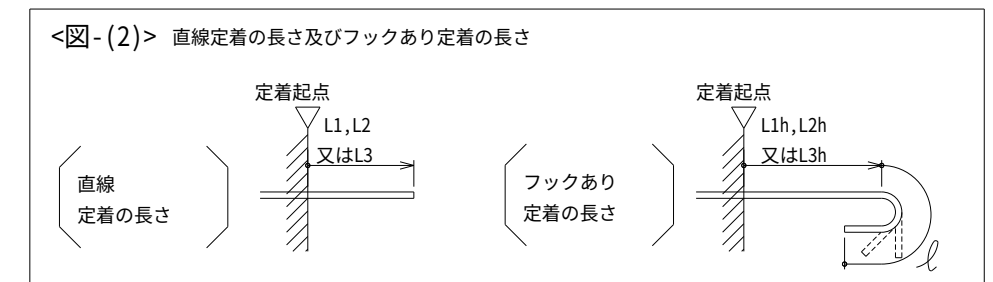
1-2-3 鉄筋の定着

- 鉄筋の定着の長さは特記による。特記がなければ、<表-4>による。
- 大梁の主筋の柱への定着長さは下記による。

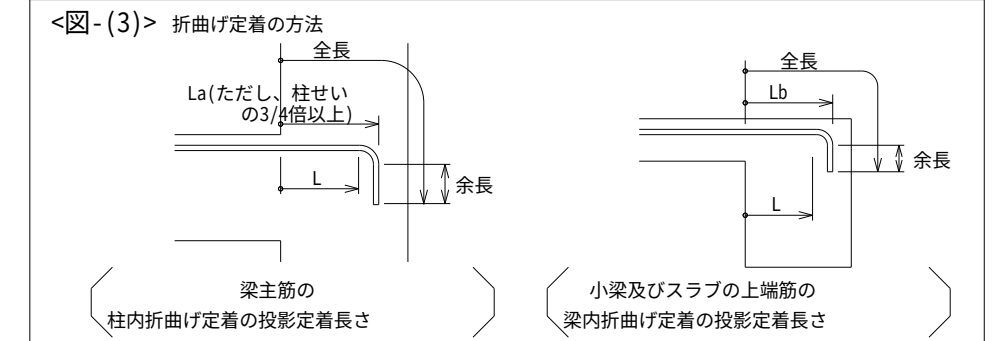
鉄筋の 種類	コンクリートの 設計基準強度 $F_c(N/mm^2)$	直線定着の長さ		フックあり定着の長さ	
		L1	L2	L1h	L2h
SD295A SD295B	18	45d	40d	35d	30d
	21	40d	35d	30d	25d
	24, 27	35d	30d	25d	20d
	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d
SD345	18	50d	40d	35d	30d
	21	45d	35d	30d	25d
	24, 27	40d	35d	30d	25d
	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d
SD390	21	50d	40d	35d	30d
	24, 27	45d	40d	35d	30d
	30, 33, 36	40d	35d	30d	25d

(注)1.L1,L1h:2.以外直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2.L2,L2h:割断破壊のおそれない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3.L3 : 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。

- ただし、基礎耐力スラブ及び、これを受ける小梁を除く。
- L3h : 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
- フックあり定着の場合は、図-(2)に示すようにフック部分 ℓ を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
- 軽重コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



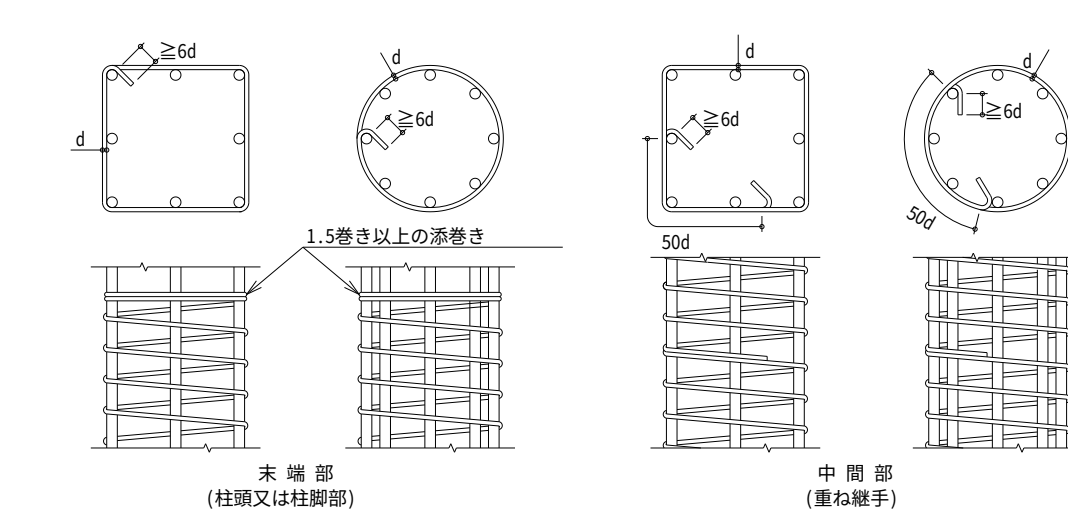
- (3)仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さLは<表-4>のフックあり定着の長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法は、特記による。特記がなければ、<図-(3)>により、下記をすべて満足するものとする。
 - 全長は、<表-4>の直線定着長さ以上とする。
 - 余長は4d以上とする。
 - 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLa及びLbは、<表-5>に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの3/4倍以上とする。



鉄筋の種類	コンクリートの設計 基準強度 $F_c(N/mm^2)$	La		Lb
		20d		15d
SD295A SD295B	18	20d	15d	15d
	21	15d	15d	15d
	24, 27	15d	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d	15d
SD345	18	20d	20d	20d
	21	20d	20d	20d
	24, 27	20d	15d	15d
	30, 33, 36	15d	15d	15d
SD390	21	20d	20d	20d
	24, 27	20d	20d	20d
	30, 33, 36	20d	20d	15d

(注)1.La : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む。)
2.Lb : 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ(片持小梁及び片持スラブを除く。)
3.軽重コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

1-2-4 スパイル筋の継手及び定着



1-3 鉄筋(溶接鋼を含む)のかぶり厚さ(mm)

- 鉄筋及び溶接鋼の最小かぶり厚さは、特記による。特記がなければ、下表による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。
- 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
- 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- 採用かぶり厚さは、◎設計かぶり厚さ ◎最小かぶり厚さ ◎特記かぶり厚さとする。

構造部分の種類	設計	最小		特記
		かぶり厚さ	かぶり厚さ	かぶり厚さ
スラブ、耐力壁 以外の壁	仕上げあり	30	20	
	仕上げなし	40	30	
	仕上あり	40	30	
	仕上なし	40	30	
柱、梁、耐力壁	仕上あり	40	30	
	仕上なし	40	30	
	仕上あり	40	30	
	仕上なし	50	40	
擁壁、耐力スラブ		50	40	
	柱、梁、スラブ、壁	50	40	
	基礎、擁壁、耐力スラブ	70	60	
	煙突等高温を受ける部分	70	60	

- (注)1.この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、適用しない。また、塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所には適用しない。
2.「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上塗材、塗装等)のものを除く。
3.スラブ、梁、基礎及び擁壁で、コンクリートに接する部分のかぶり厚さには、鉄コンクリートの厚さを含まない。
4.杭基礎の場合の下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

1-4 鉄筋の間隔

- 鉄筋相互のあきは右図により、次の値のうち最大のもの以上とする。
ただし、機械式継手及び溶接継手の場合のあきは、特記による。
- 粗骨材の最大寸法の1.25倍
 - 25mm
 - 隣り合う鉄筋の平均径「d」の1.5倍

1-5 鉄筋のフック

- 下記の(1)~(5)に示す異形鉄筋の末端部には、フックをつける
- 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上隅の柱頭にある場合(基礎梁を除く)
 - 梁の出隅及び下端の隅隅にある梁主筋の重ね継手(基礎梁を除く)
 - 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む)
 - 杭基礎のベース筋
 - 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

1-6 鉄筋の保護

- 鉄筋の組立後、スラブ、梁等には、歩み板を置き渡す等の措置を講じ、直接鉄筋の上を歩かないようにする。
- コンクリート打込みによる、鉄筋の乱れを可能な限り少なくするとともに、かぶり厚さ、鉄筋の位置及び間隔の保持に努める。

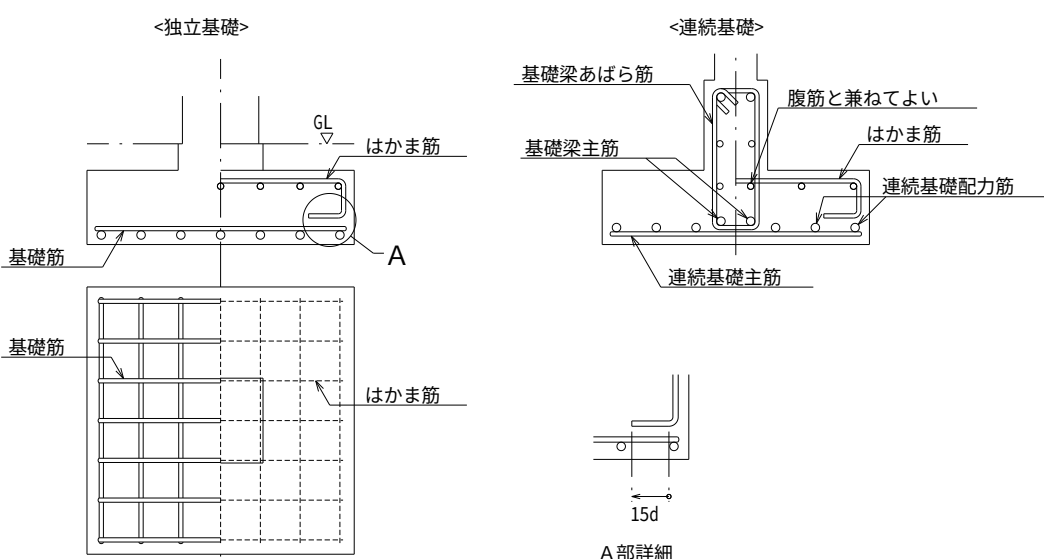
2. 基礎

2-1 杭基礎

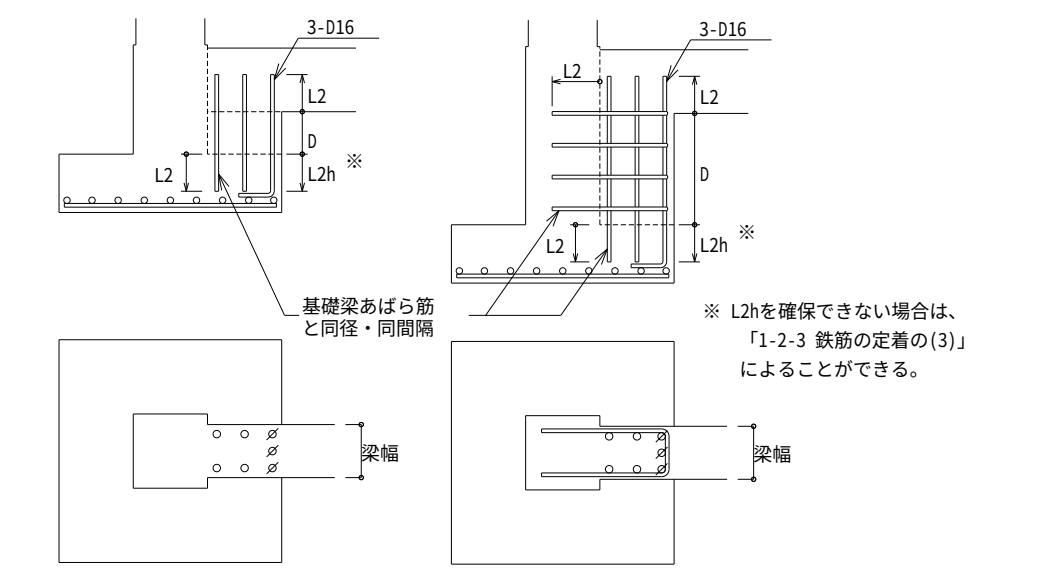
- 杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法は、特記による。(下図は基礎筋の定着長さ)



2-1-2 直接基礎



2-2 基礎接合部の補強配筋



2-3 現場打杭

特記による。

3. 基礎梁

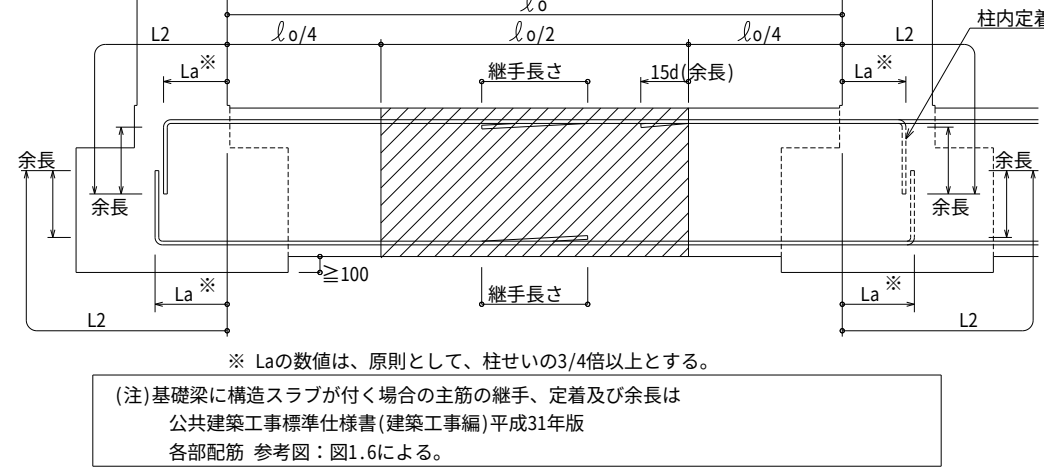
3-1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

3-1-1 一般事項

- 梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、右図による。
- 梁主筋を柱内に定着する場合は、下記による。
 - 上端筋：曲げ降ろす。
 - 下端筋：原則として曲げ上げる。

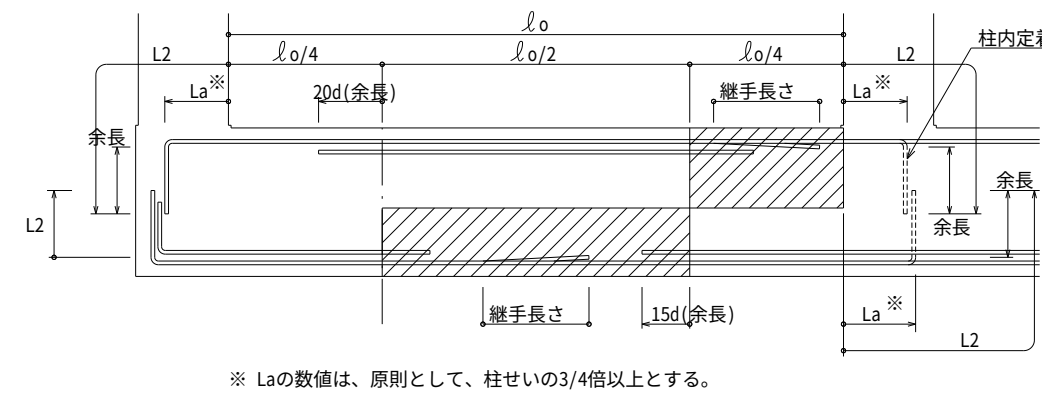
3-1-2 継手、定着及び余長

- (1)独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合



※ Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
(注)基礎梁に構造スラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長は、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)平成31年版各部配筋 参考図：図1.6cによる。

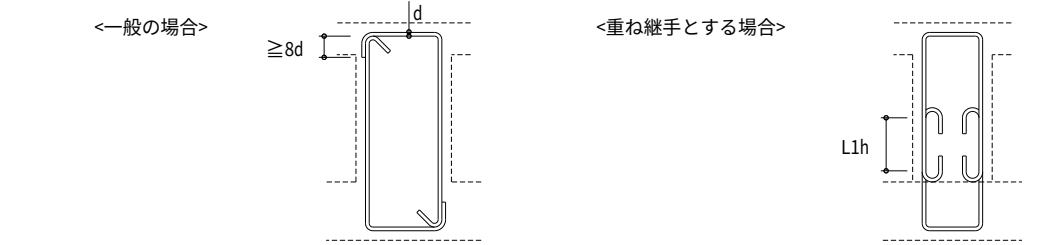
(2)連続基礎及びべた基礎、独立基礎で耐力スラブ付きの場合



※ Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

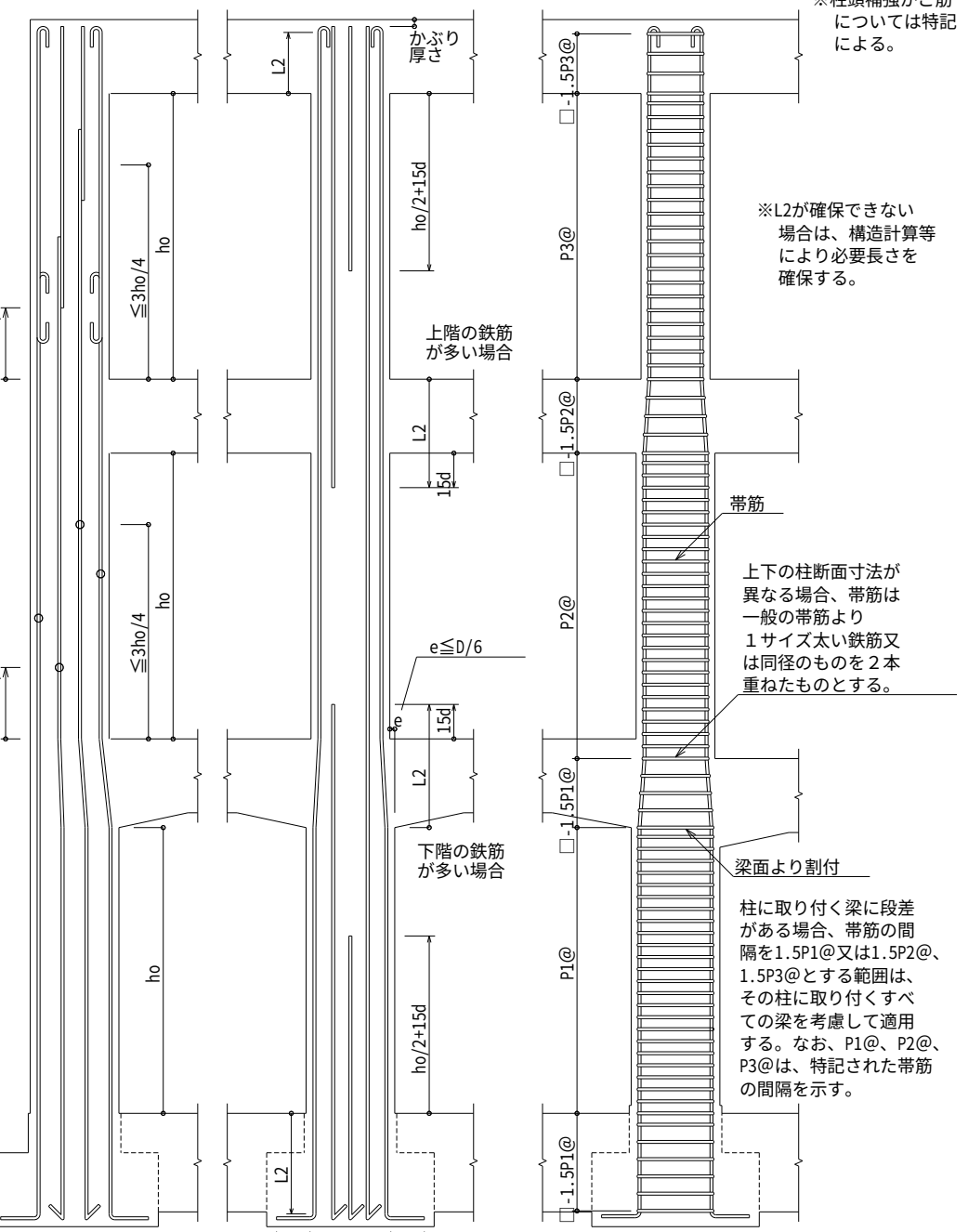
3-2 基礎梁のあばら筋

- あばら筋の径及び間隔は、特記による。
- あばら筋組立の形及びフックの位置は、「S-3-1 あばら筋組立の形及びフックの位置」による。ただし、梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は「図1」によることができる。
- 幅筋及び幅止め筋は、特記による。
- あばら筋の割付けは、「S-3-2 あばら筋の割付け」による。



4. 柱

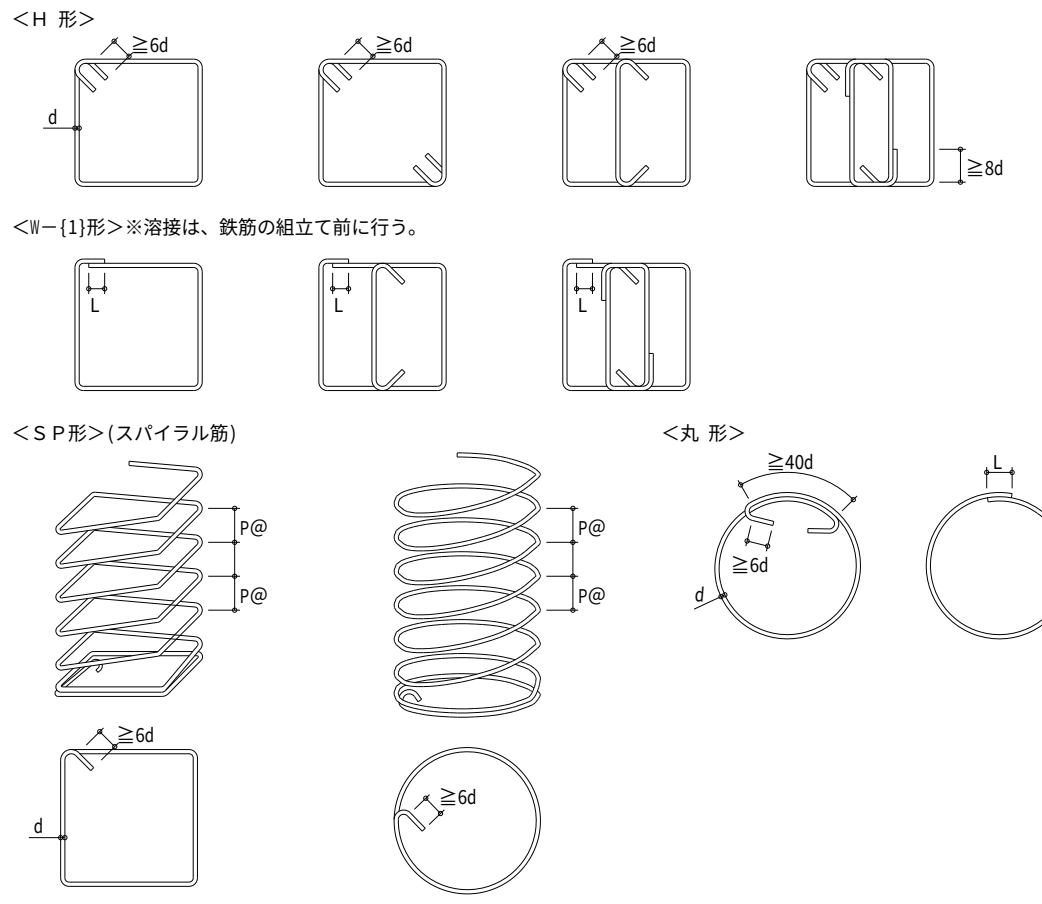
4-1 柱主筋の継手、定着、余長及び帯筋の割付け



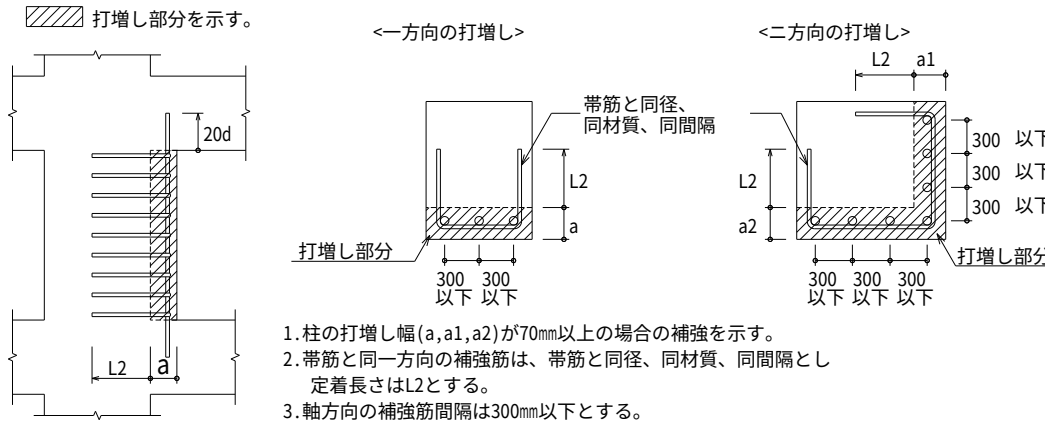
- <継手>
1.柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上隅の柱頭にある場合には、フックをつける。
2.隣り合う継手の位置は、「1-2-2 隣り合う継手の位置の<表-3>」による。

4-2 帯筋組立の形

- 帯筋組立の形は右図により、適用は特記による。特記がなければ、次による。
- H形を標準とする。
 - フック及び継手の位置は、交互とする。
 - 溶接溶合は、両面フラシ溶接の場合は5d以上、片面フラシ溶接の場合は10d以上とする。
 - S P形において、柱頭及び柱筋の端部は1.5倍以上の添寄せを行う。
 - H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W-1)形とする。

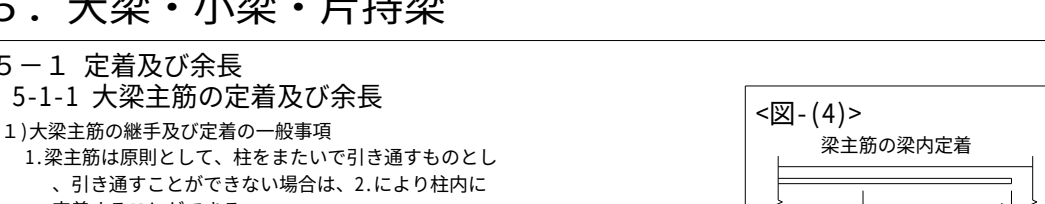


4-3 柱の打増し補強配筋



- 柱の打増し補 (a,a1,a2)が70mm以上の場合の補強を示す。
- 帯筋と同一方向の補強筋は、帯筋と同径、同材質、同間隔とし、定着長さはL2とする。
- 軸方向の補強筋間隔は300mm以下とする。

4-4 寄せ筋の保持

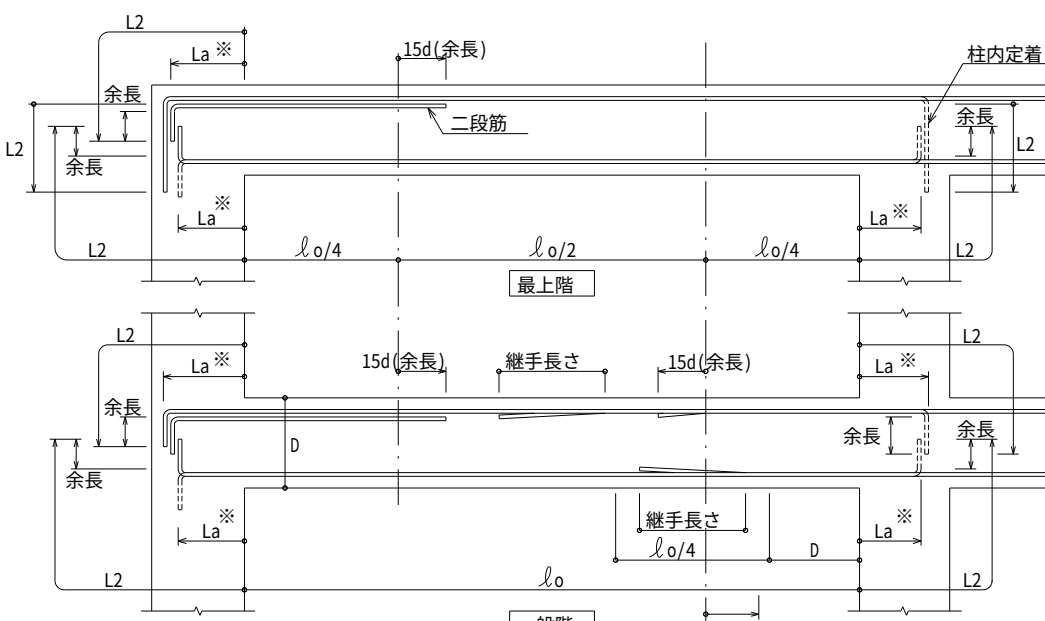


5. 大梁・小梁・片持梁

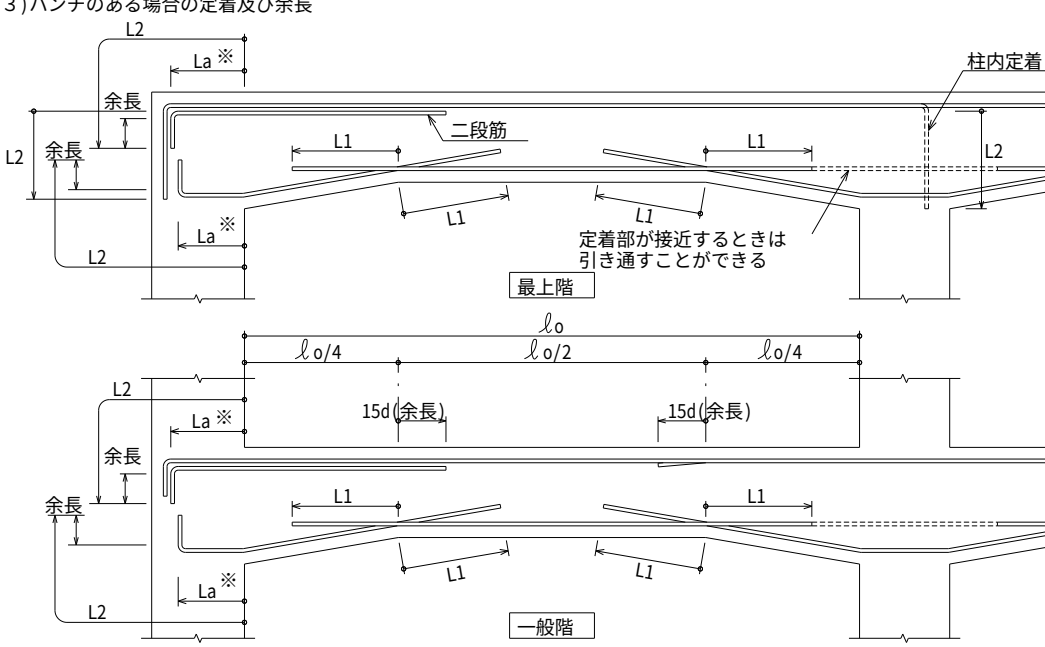
5-1 定着及び余長

5-1-1 大梁主筋の定着及び余長

- 大梁主筋の継手及び定着の一般事項
- 1.梁主筋は原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、2.により柱内に定着することができる。
 - ただし、やむを得ず梁内に定着する場合、<図-(4)>による。
- 2.梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は、下記による。
 - なお、定着の方法は、「1-2-3 鉄筋の定着の(3)」による。
- 3.溶接溶合は、両面フラシ溶接の場合は5d以上、片面フラシ溶接の場合は10d以上とする。
- 4.幅筋及び幅止め筋は、特記による。



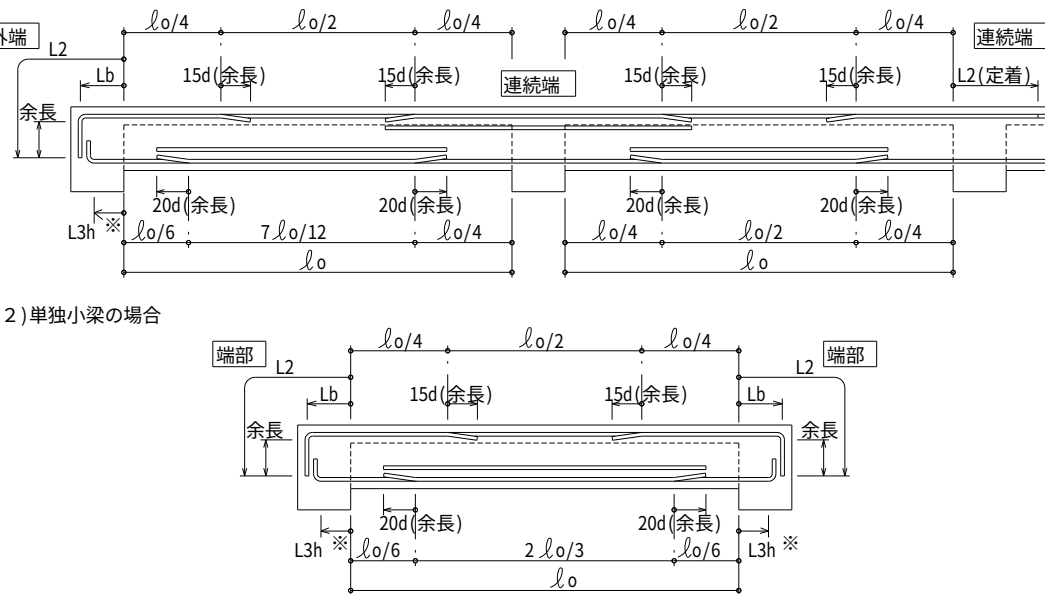
- 継手中心位置は次による。
 - 上端筋：中央 $\ell_o/2$ 以内
 - 下端筋：柱筋より梁せい(D)以上とし、 $\ell_o/4$ を加えた範囲以内
- 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の隅隅にある場合(基礎梁を除く)の鉄筋には、フックをつける。
- 3.縦筋は、柱内定着の場合を示す。
 - ※ Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。
- (3)ハンチのある場合の定着及び余長



- 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の隅隅にある場合(基礎梁を除く)の鉄筋には、フックをつける。
- 2.梁内定着の隅隅下端筋が接近するときは、.....のように引き通すことができる。
- 3.縦筋は、柱内定着の場合を示す。
 - ※ Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

5-1-2 小梁主筋の定着及び余長

(1)連続小梁の場合



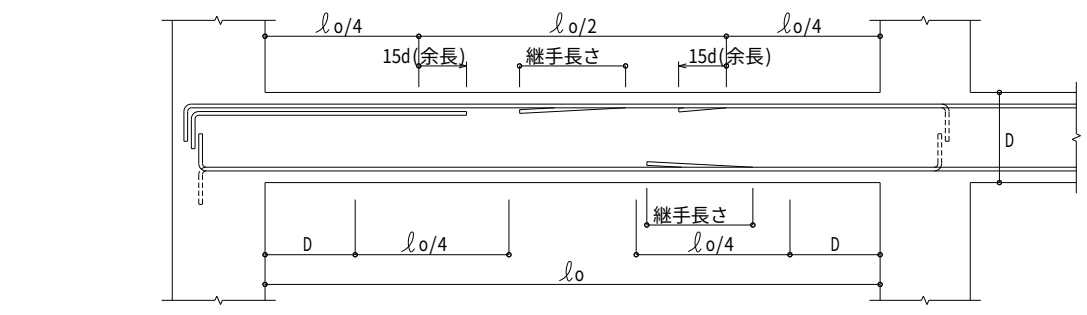
- 1.梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
 - ※ L3hを確保できない場合は、「1-2-3 鉄筋の定着の(3)」によることができる。

工事名	茨城中部農地整備事業
図面名	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)
作成年月	
縮尺	Non scale
図面番号	38 - 1/2
会社名	
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

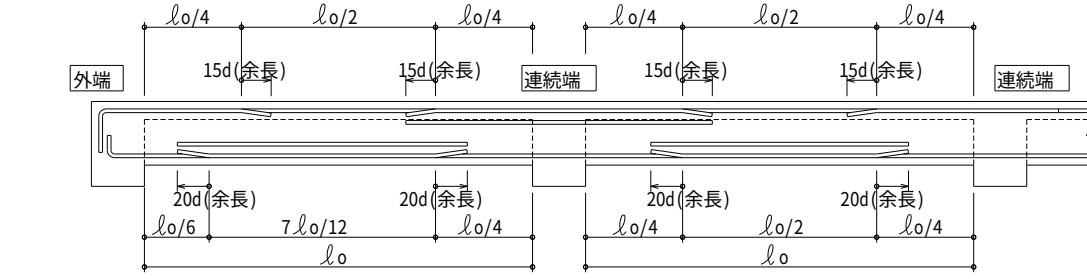
5-2 継手

5-2-1 大梁主筋の継手



1. 継手中心位置は次のによる。
上端筋：中央 $l_o/2$ 以内
下端筋：柱面より梁せい(D)以上離し、 $l_o/4$ を加えた範囲以内
2. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の間端にある場合(基礎梁を除く)の鉄筋には、フックを付ける。

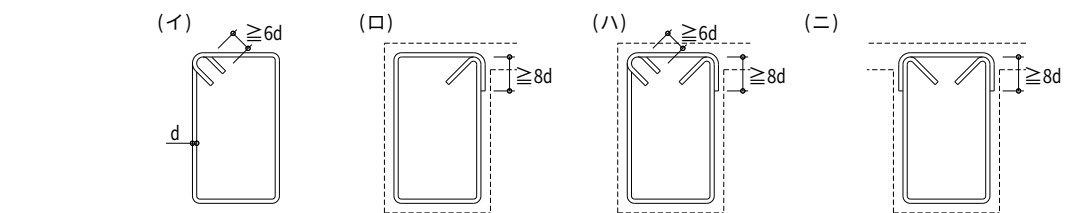
5-2-2 小梁主筋の継手



5-3 あばら筋の組立の形及び割付け等

5-3-1 あばら筋組立の形及びフックの位置

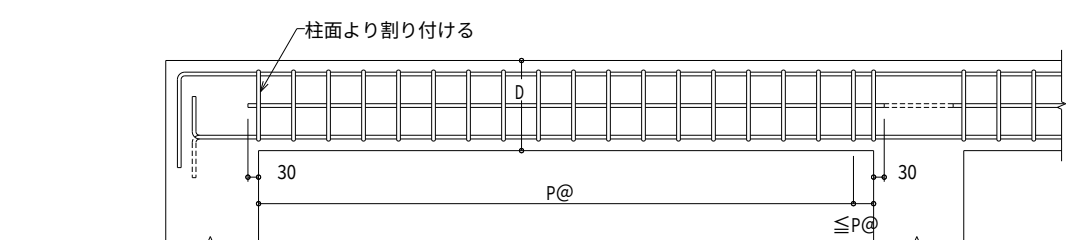
- (1) (イ)形を標準とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
(2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は、床版の付く側を90°折曲げとする。



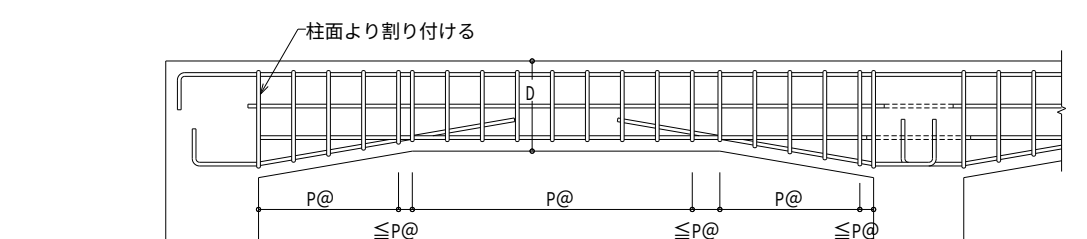
5-3-2 あばら筋の割付

- (1) あばら筋の種類、径及び間隔は、特記による。
(2) あばら筋は、柱面の位置から割付ける。
(3) 図中の P@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

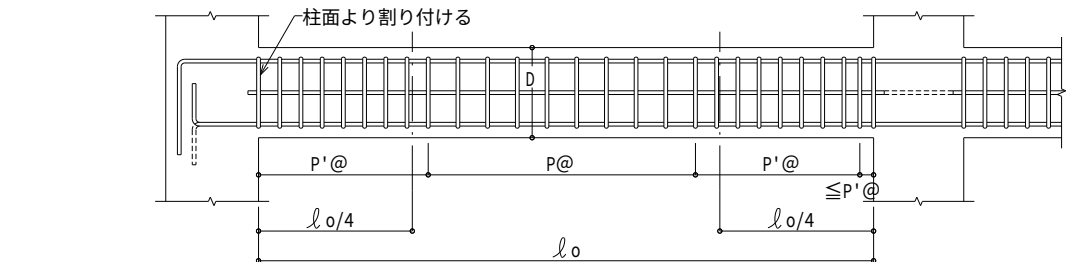
<間隔が一樣で、ハンチのない場合>



<間隔が一樣で、ハンチのある場合>

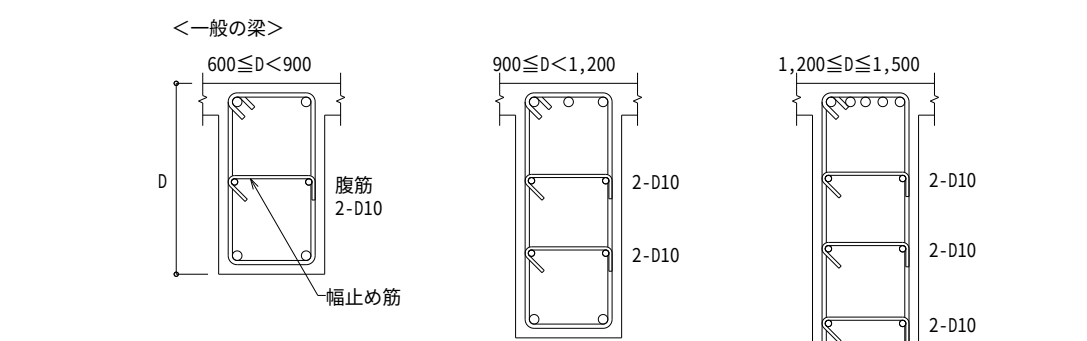


<梁の端部で間隔の異なる場合>



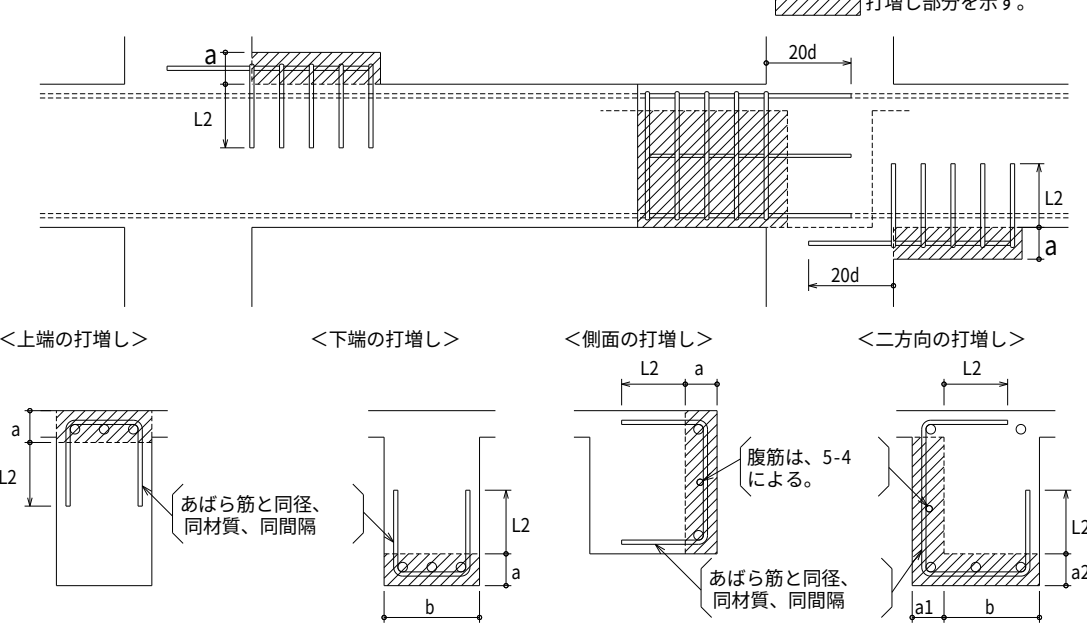
5-4 腹筋及び幅止め筋

- (1) 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
(2) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。
(3) 腹筋を計算上考慮している場合の継手長さ及び定着は、別途定めること。



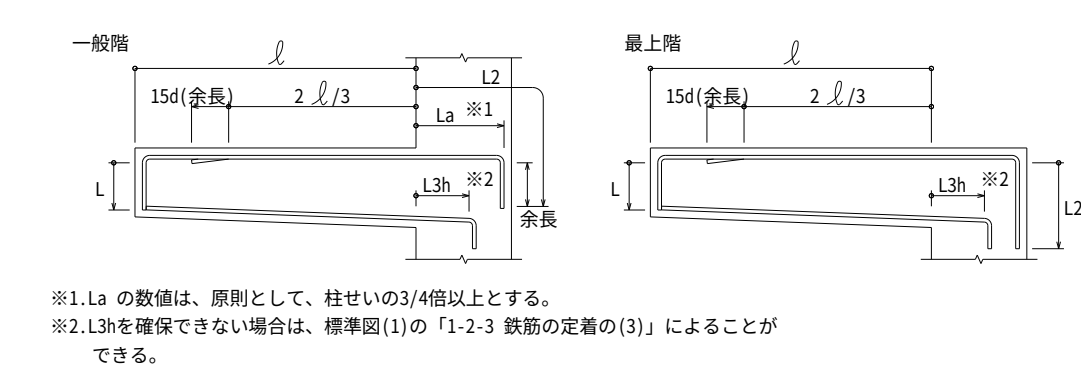
5-5 梁の打増し補強

- (1) 梁の打増し補強配筋は下図により、打増し幅が70mm以上の場合の補強を示す。
(2) あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同径、同材質、同間隔とし、定着長さはL2とする。



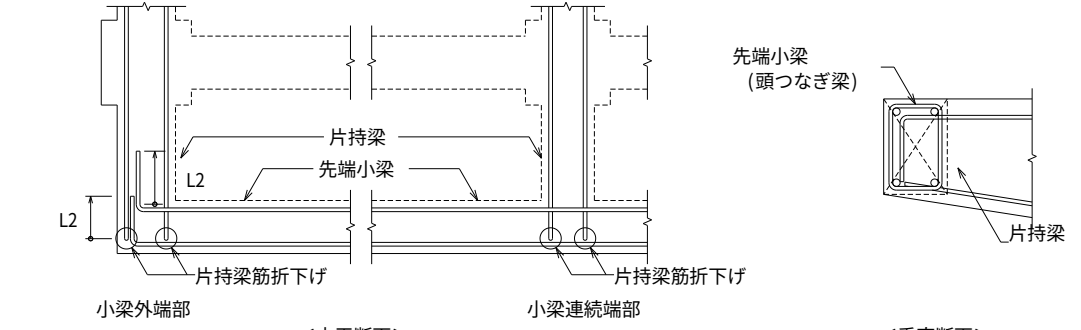
5-6 片持梁主筋の定着及び余長

<先端に小梁のない場合>



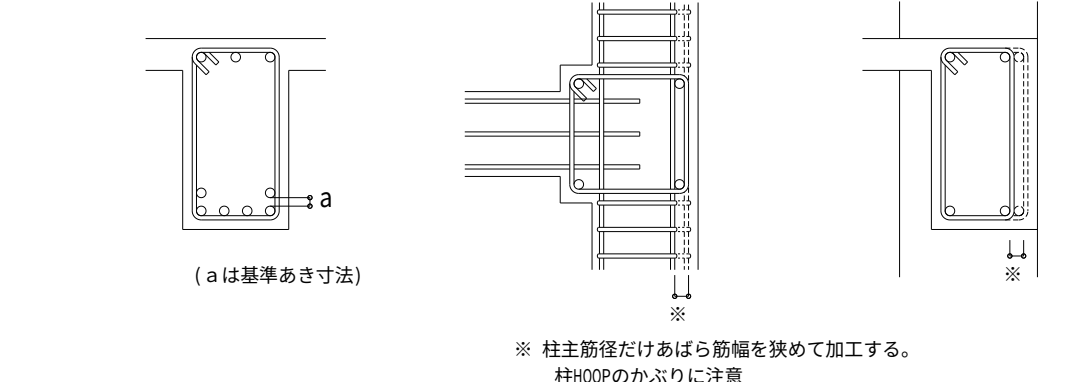
※1. Laの数値は、原則として、柱せいDの3/4以上とする。
※2. L3hを確保できない場合は、標準図(1)の「1-2-3 鉄筋の定着の(3)」によることができる。

<先端に小梁がある場合>



1. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
2. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

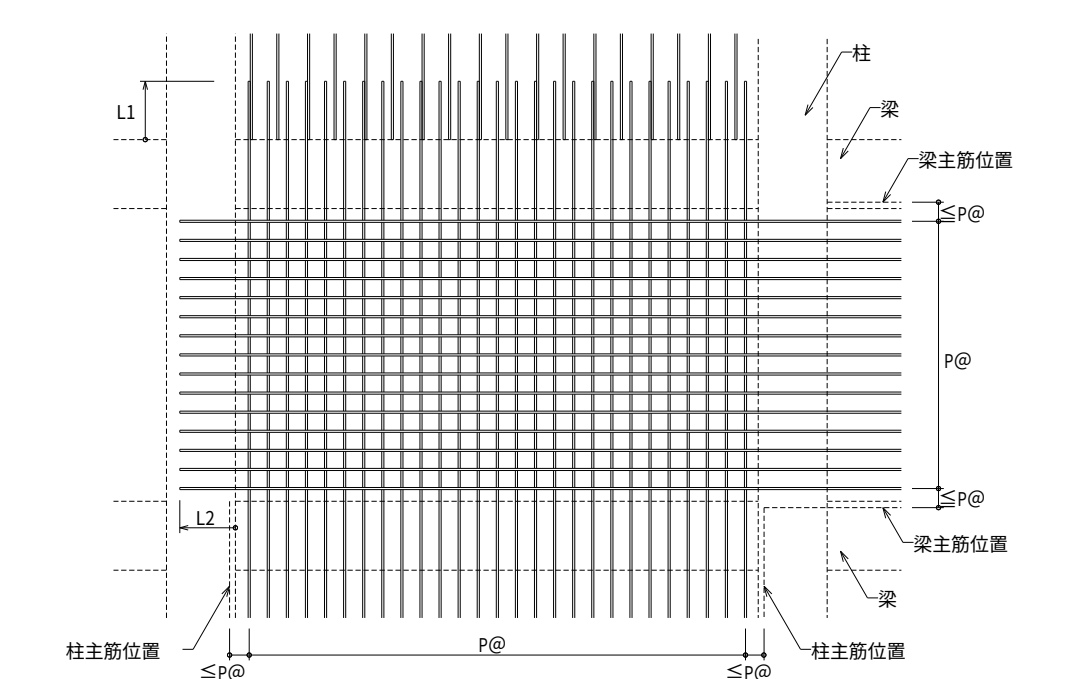
5-7 二段筋、その他



6. 壁

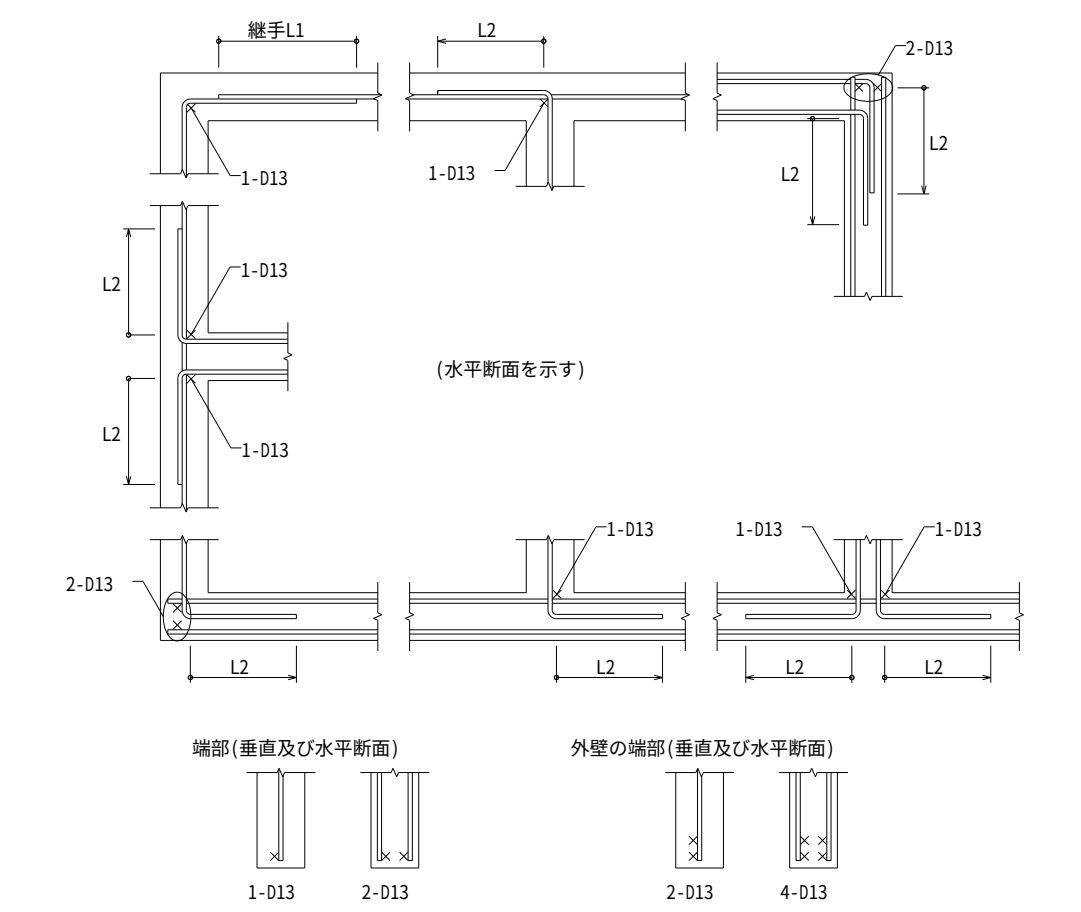
6-1 一般事項

- (1) 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。
(2) 壁配筋の重ね継手はL1、定着長さはL2とする。
(3) 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。
(4) 原則として、柱及び梁内に、壁筋の継手を設けてはいいない。

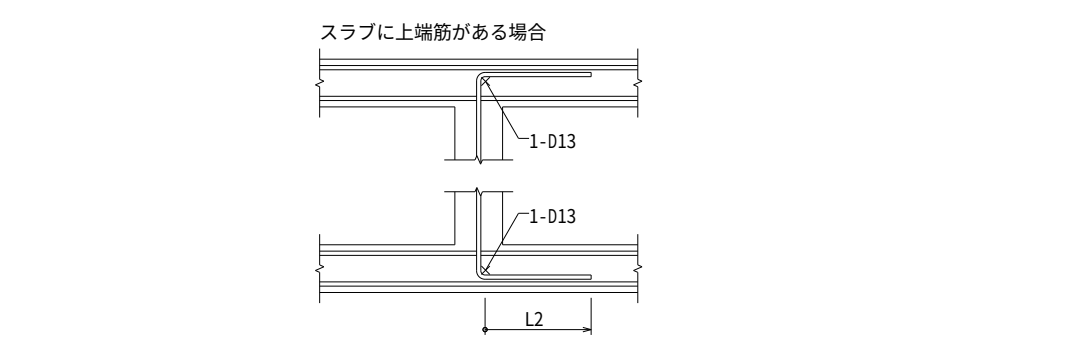


6-2 壁の交差部及び端部の配筋

交差部(水平断面)



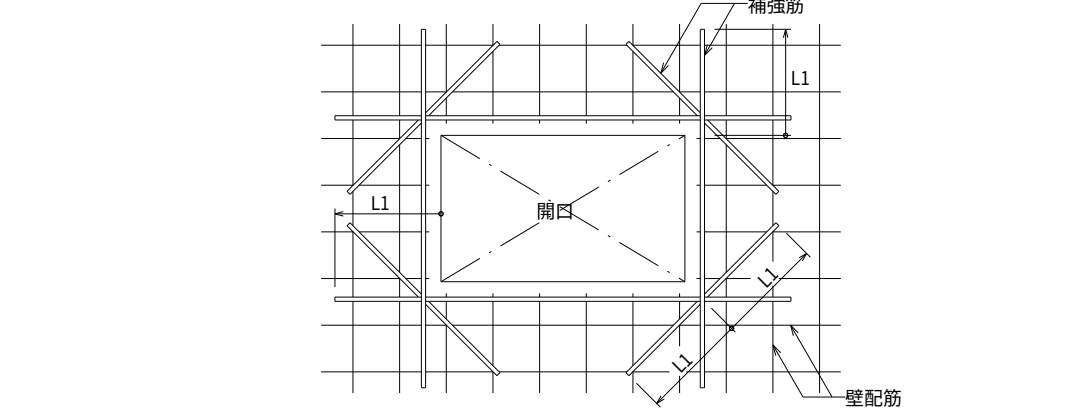
スラブへの定着(非耐力壁とスラブが取り合う場合)



6-3 壁の補強

6-3-1 壁開口部の補強

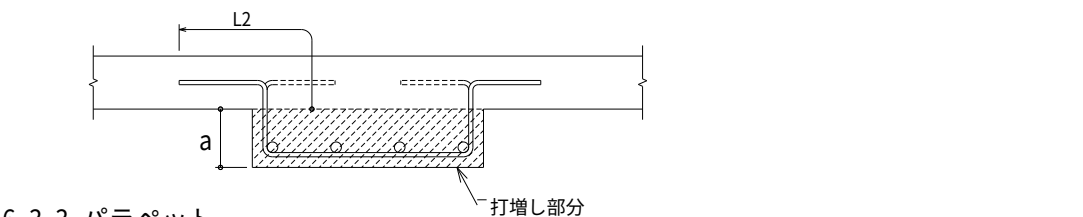
- (1) 壁開口部の補強筋は設計図書による。
(2) 壁開口部補強筋の定着長さは、下図による。



- (3) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を壁やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

6-3-2 その他

- (1) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。
(2) 壁の打増し補強配筋は下図により、打増し厚さが50mm以上の場合の補強を示す。



6-3-3 バラベツト

バラベツトの配筋は設計図書による。

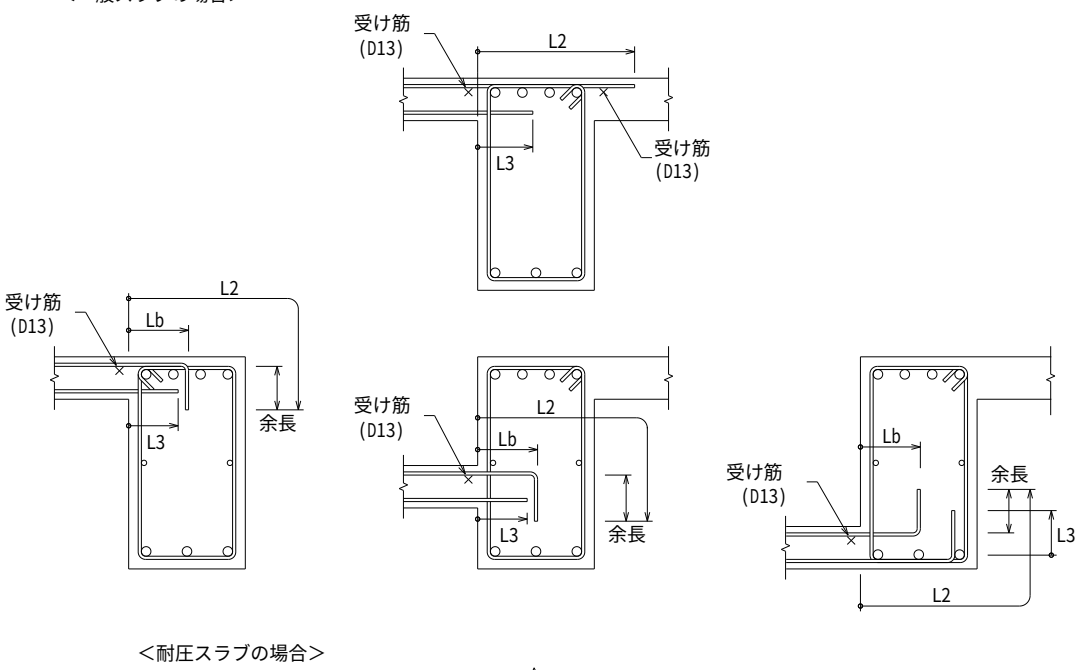
7. スラブ

7-1 スラブの配筋

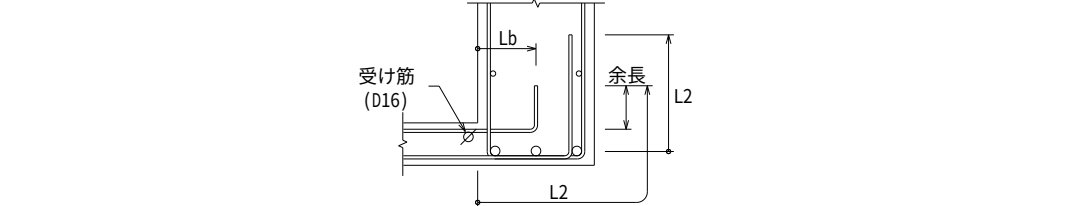
- (1) スラブの配筋種類、スラブ厚さ(mm)及び鉄筋の種類は、特記による。
(2) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
(3) 鉄筋の重ね継手長さは、L1とする。

7-2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋

<一般スラブの場合>



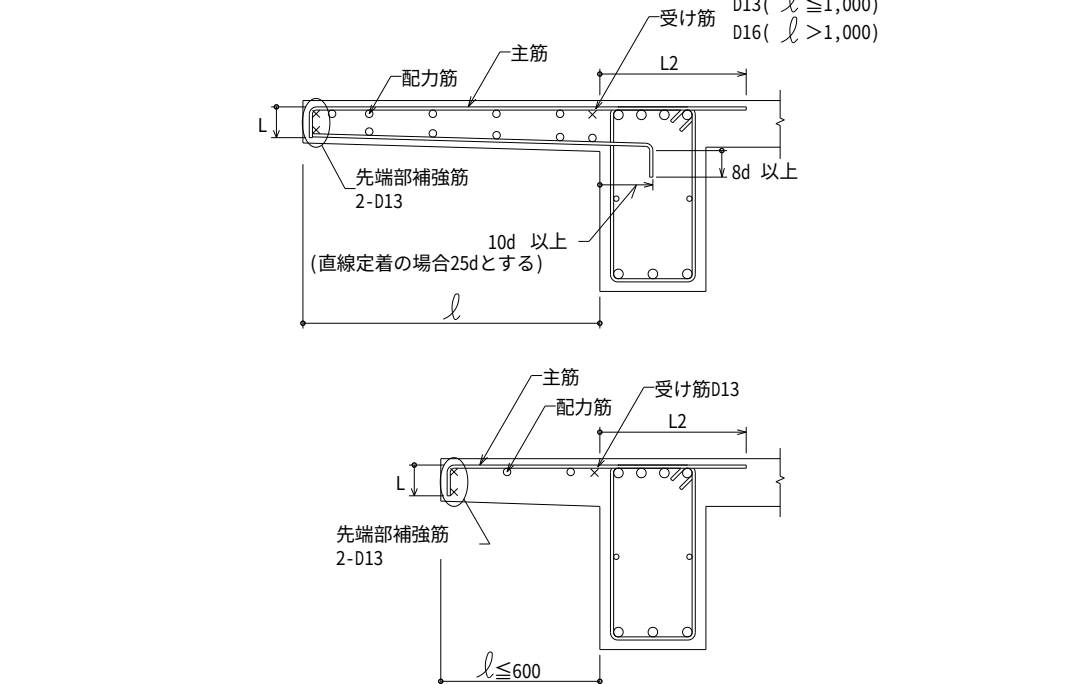
<耐圧スラブの場合>



7-3 片持スラブ

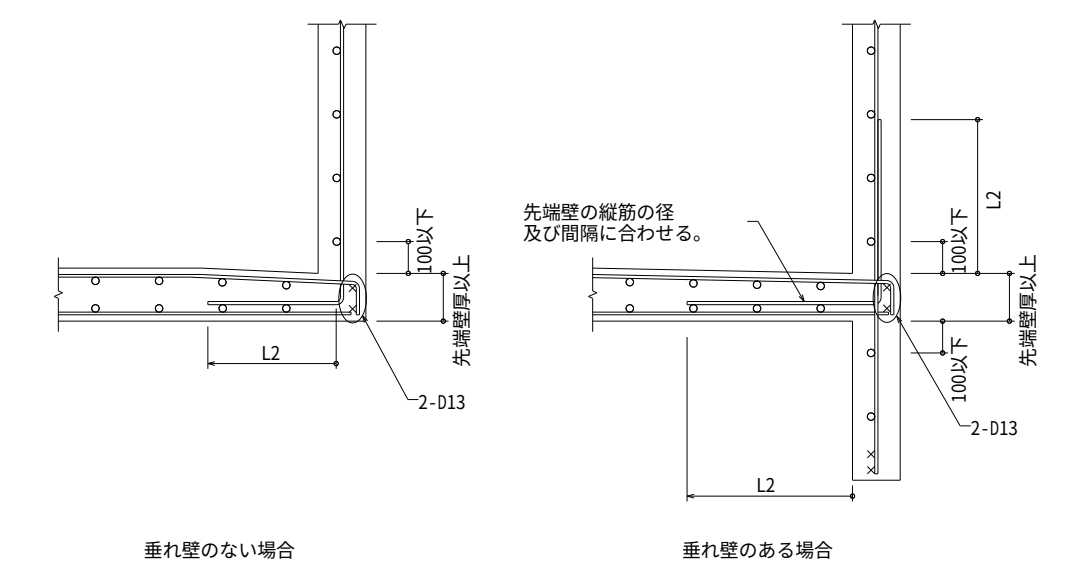
7-3-1 片持スラブの配筋

片持スラブの配筋は、下図による。



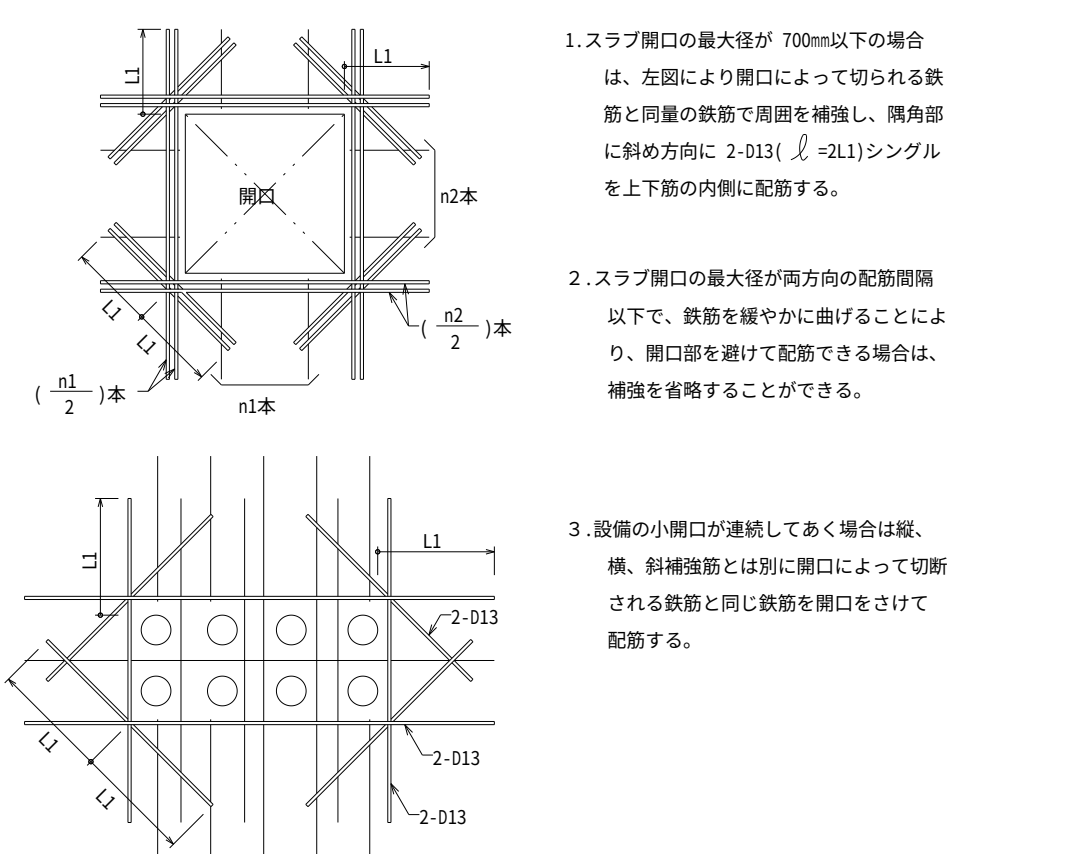
1. 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。
2. スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。
3. 形状に応じて特記による。

7-3-2 片持ちスラブ先端に壁が付く場合の配筋



7-4 スラブ開口部の補強

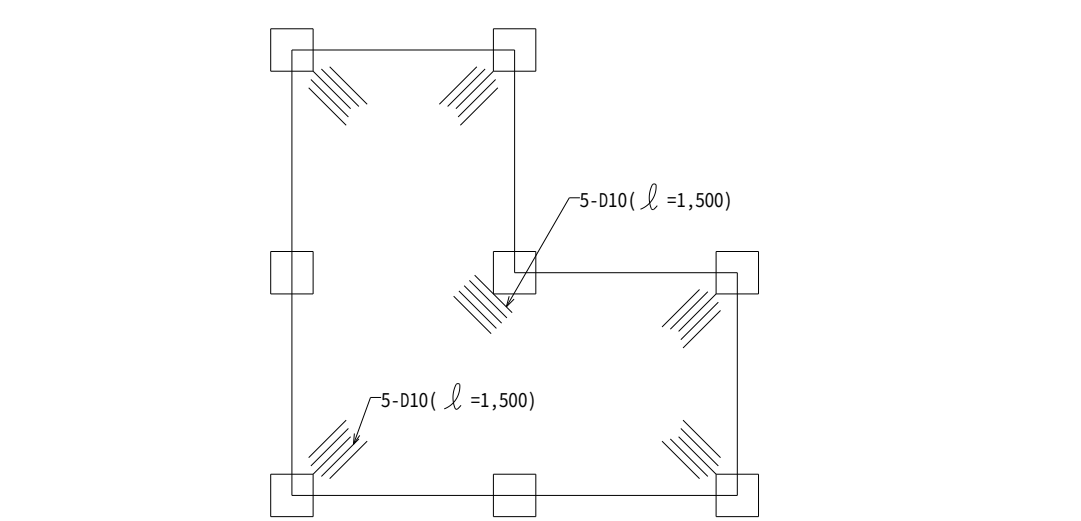
スラブ開口部の補強は、特記による。特記がなければ下記による。



7-5 出隅部及び入隅部の補強

7-5-1 屋根スラブの出隅及び入隅部分

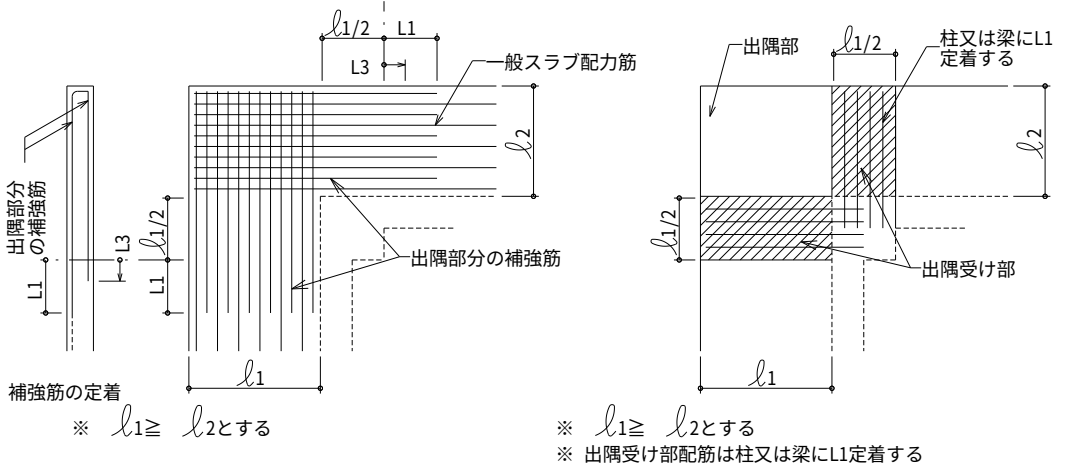
下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



7-5-2 片持ちスラブの出隅部

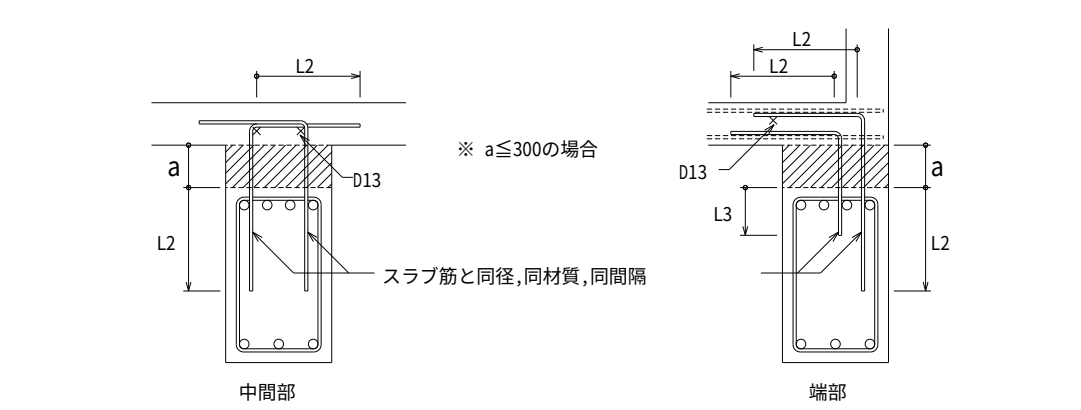
- (1) 補強の配筋は、特記による。配筋方法は、下図による。
(2) 出隅受け部(下図の斜線部分)の補強筋は、特記による。

<出隅部分補強配筋>

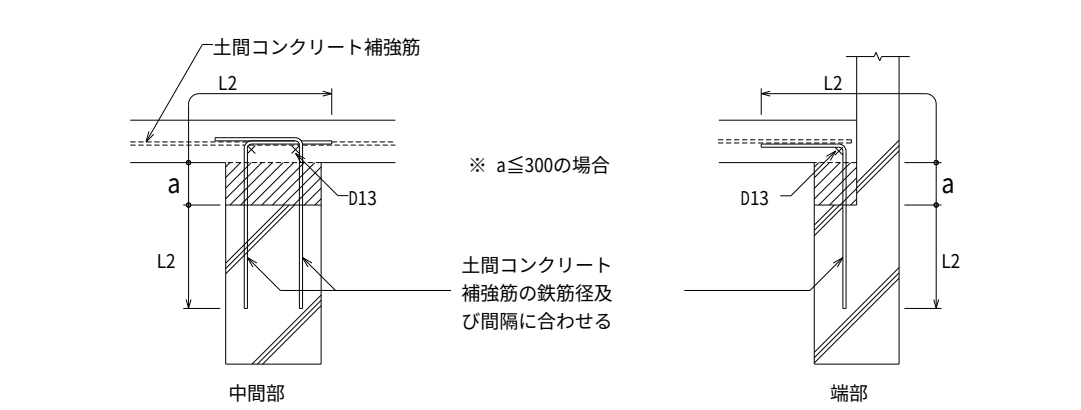


7-6 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしなくて、打継ぎを設ける場合の補強を示す。

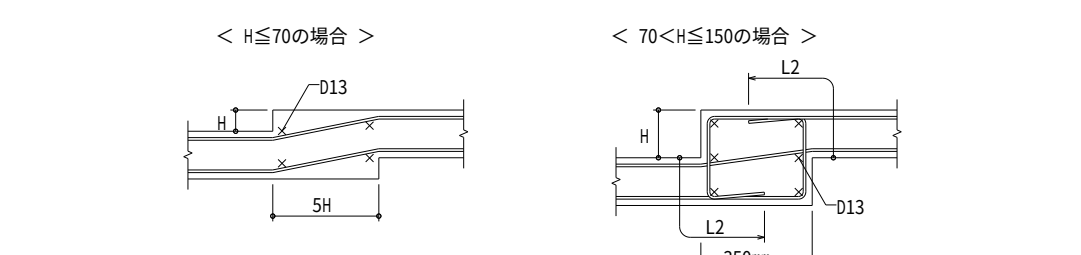


7-7 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋



7-8 段差のあるスラブの補強

- (1) 150mm以下の段差のあるスラブの補強は、下図による。



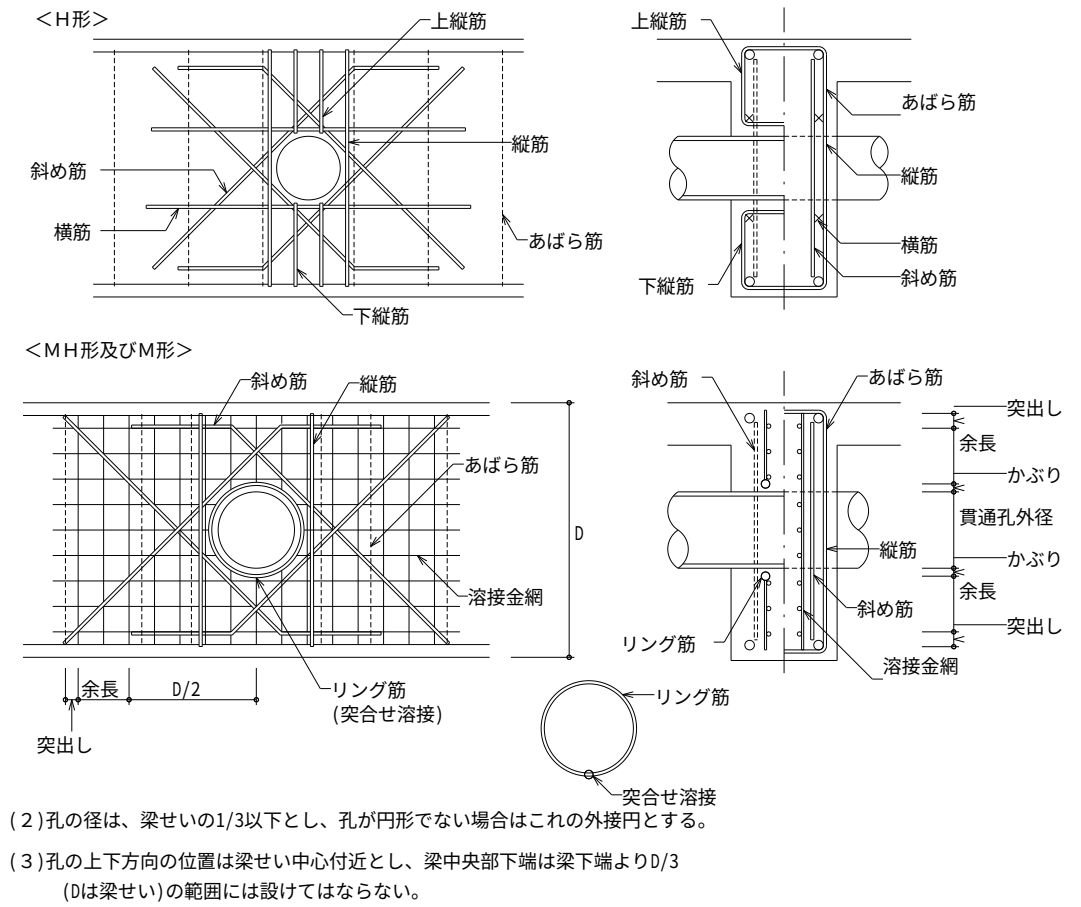
7-9 階段の配筋

階段の配筋は設計図書による。

8. 梁貫通孔の配筋

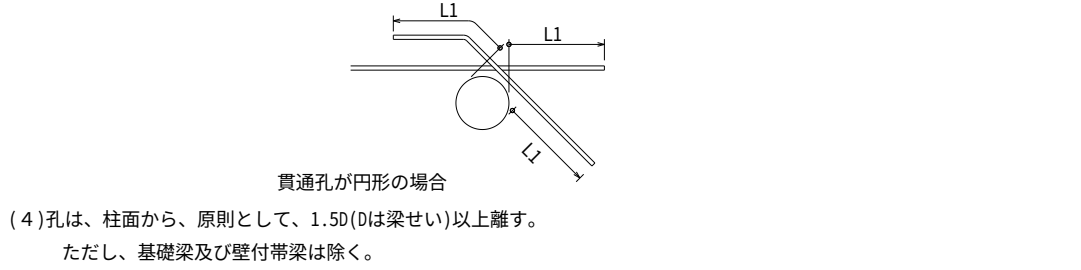
8-1 梁貫通孔の補強

- (1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。



- (2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
(3) 孔の上下方向の位置は梁せいD/2以下とし、梁中央部は梁下端よりD/3 (Dは梁せい)の範囲には設けてはならない。

<補強筋の定着長さ>



- (4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D(Dは梁せい)以上離す。
ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
(5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
(6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
(7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、(3)の図による。
(8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を壁やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
(9) 溶接金網の余長は1根子以上とし、突出しは10mm以上とする。
(10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は溶接金網に4箇所以上溶接する。
(11) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
(12) 大臣認定による既製品を使用する場合は、適用条件はすべて認定内容による。
(13) 梁貫通孔の補強形式は下図により、配筋種別は特記による。

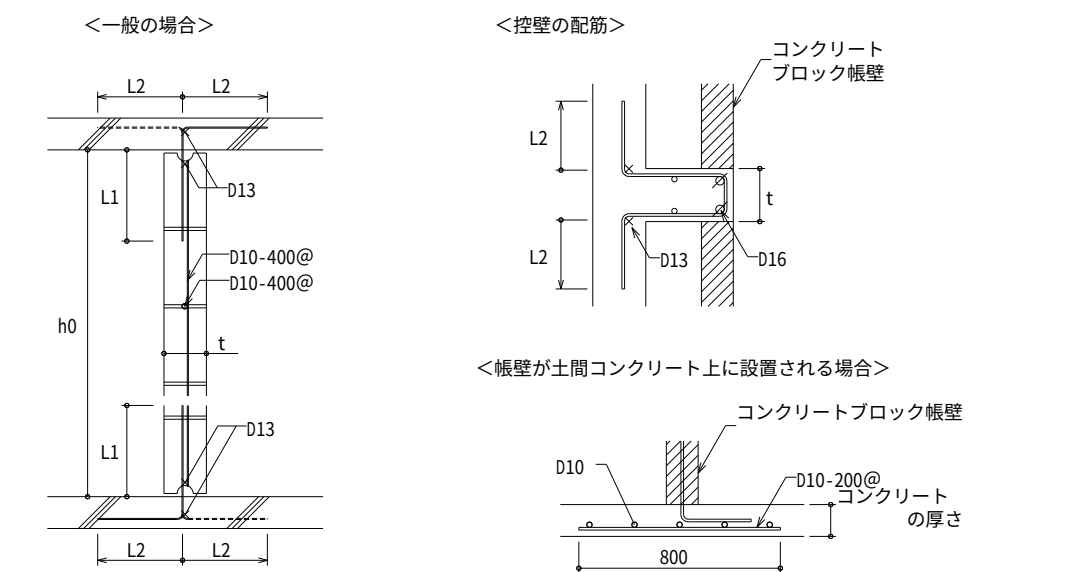
配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H 1	なし	なし	なし	なし	
H 2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H 3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 5	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H 7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH 1	2-2-D13	なし	なし	
MH 2	2-2-D13	2-2-D13	なし	
MH 3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH 4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH 5	4-2-D16	2-2-D13	2-6φ-100@	
MH 6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100@	
MH 7	4-2-D19	4-2-D13	2-6φ-100@	

国土交通省大臣官房官庁庁舎部 監修 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)平成31年版 参照				
(注) は、一般部分のあばら筋を示す。				

9. コンクリートブロック帳壁との取合い

- (1) ブロック壁の配筋は、設計図による。
(2) h0≦25 tかつ3500以下とする。但し直交方向25t以内には、壁又は柱がある場合は除く。
(3) hはコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し、200≦h≦400。
(4) 目地塗面の全部にモルタルが行きわたるように組積し、鉄筋を入れた空洞部及び縦目地に接する空洞部は、モルタル又はコンクリートとすること。
(5) コンクリートブロックの空洞部内で継いでいいない。但し、溶接接合その他これと同等以上の強度を有する接合方法による場合においては、この限りでない。



工事名	茨城中部震地整備事業 沼前馬到干拓団地老沢工区区画整理その1工事		
図面名	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)		
作成年月			
縮尺	Non scale	図面番号	38 - 2/2
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部震地整備事業所		

鉄骨構造標準図(2)

※1〜4は適用外により割愛した。

5. 継手・ブレース・その他

5-1 高力ボルトピッチ(P), ボルト孔径・最小縁端距離 (mm)							
呼び	ボルト 孔 径	最小縁端距離(e)				ピッチ(P)	
		(1)	(2)	(3)	(2) (3) の標準	最小	標準
M16	18.0	40	28	22	40	40	60
M20	22.0	50	34	26	40	50	60
M22	24.0	55	38	28	40	55	60
M24	26.0	60	44	32	45	60	70

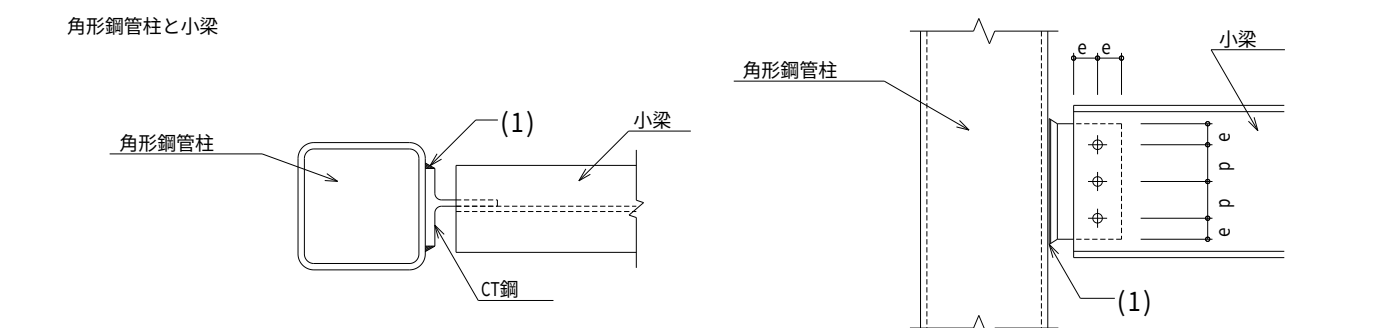
(注) (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
(2) セン新線・手動ガス切断線の場合の縁端距離
(3) 圧延線・自動ガス切断線・のこ引き線・機械仕上線の縁端距離

5-2 ピン接合 (SCSS-H97による)

※1. 詳細は設計図による
※2. 構構剛材として有効な接合部とする場合の詳細は設計図による

接合形式Dは、SCSS-H97による		
接合形式A	接合形式B	接合形式C
小梁せい	小梁せい	小梁せい
—	≤500	≤500
ウェブボルト列数	ウェブボルト列数	ウェブボルト列数
1列、2列(大梁幅による)	≤2列	≤2列
大梁フランジ幅	大梁フランジ幅	大梁フランジ幅
200≤	—	—
ガセット厚	ガセット厚	ガセット厚
≥小梁ウェブ厚、≥6mm	小梁ウェブ厚の1サイズUP	小梁ウェブ厚の1サイズUP

共通事項：大梁せい≥小梁せい
ウェブ第一ボルトと大梁フランジ内側との距離≥50mm
ウェブ第一ボルトと小梁フランジ内側との距離≥40mm・小梁フィレット半径
大梁側ウェブボルトと大梁ウェブ心の距離≥50mm (接合形式A、D)
大梁フランジと小梁端の間隔=10mm
ガセット厚、添板厚 (接合形式A) ≥6mm
ウェブボルトの配置は、最小ボルト本数を2本、せい方向ピッチを60、90、120mmの3種類とし、小梁のせい方向の中心振り分けとする。



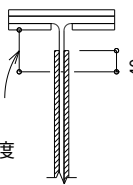
5-3 剛接合継手 (SCSS-H97による)

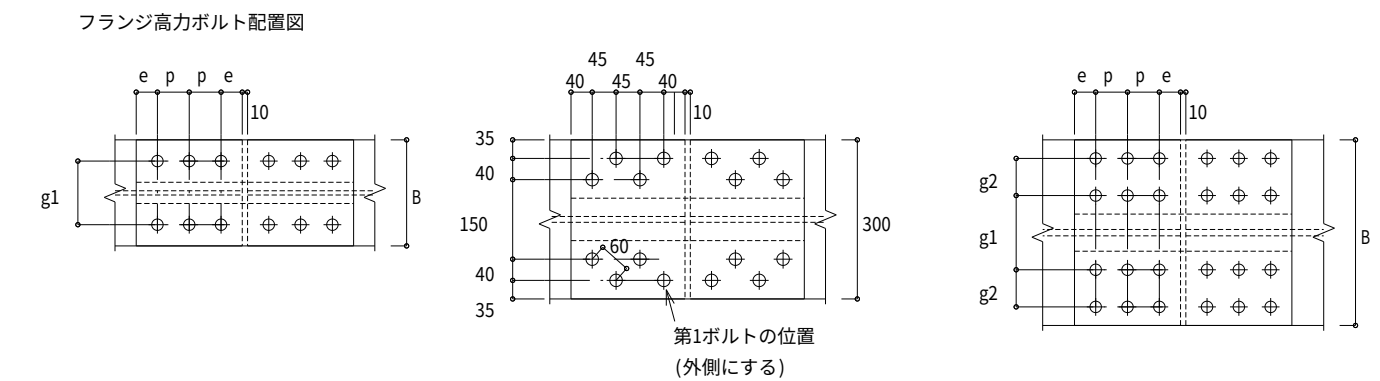
※詳細は設計図による

(注)端部をBHとする場合の部材は設計図による

H形鋼フランジ：ディティールの共通事項

(mm)

フランジ幅	フランジゲージ		フランジ添板幅		ウェブ添板	備 考
	B	g1g2	外側	内側		
100	56	—	100	—	 最小60 程度	
125	75	—	125	—		
150	90	—	150	60		
175	105	—	175	70		
200	120	—	200	80		
250	150	—	250	100		※フランジの高力 ボルトは千鳥打ち
300 ※	150	40	300	110		
350	140	70	350	140		
400	140	90	400	170		

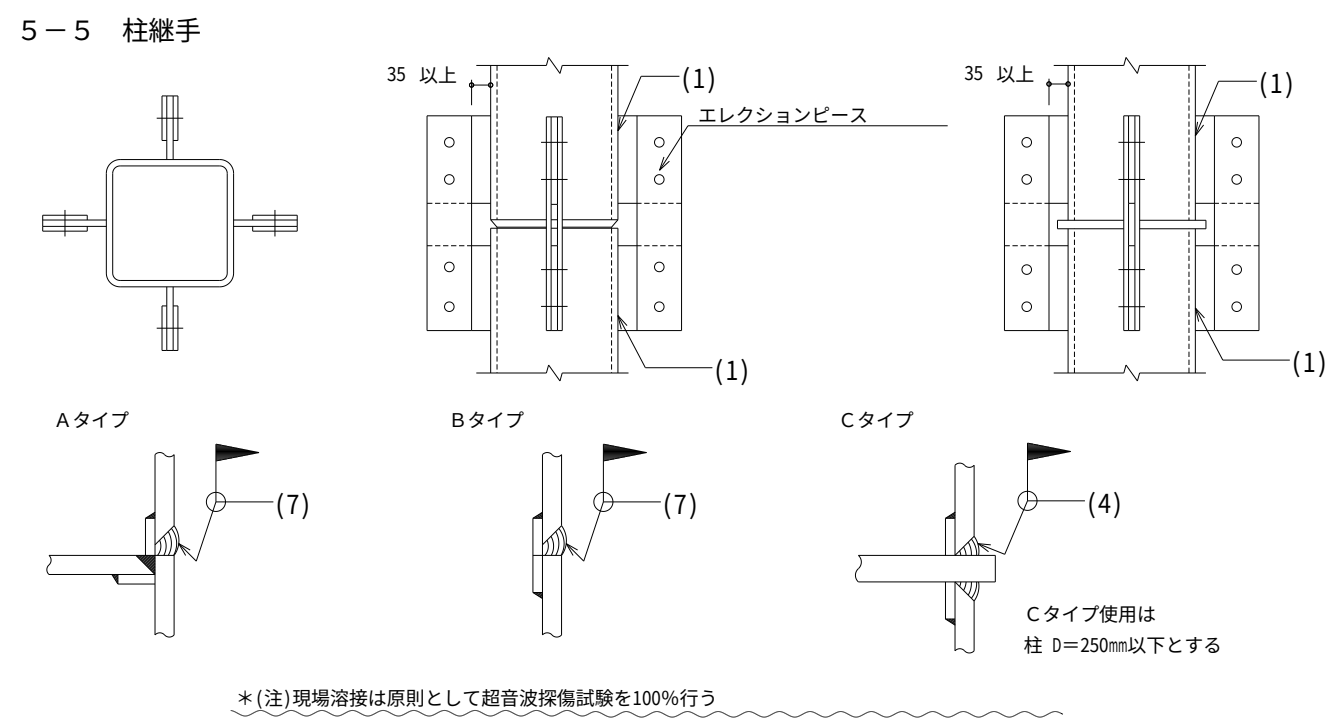
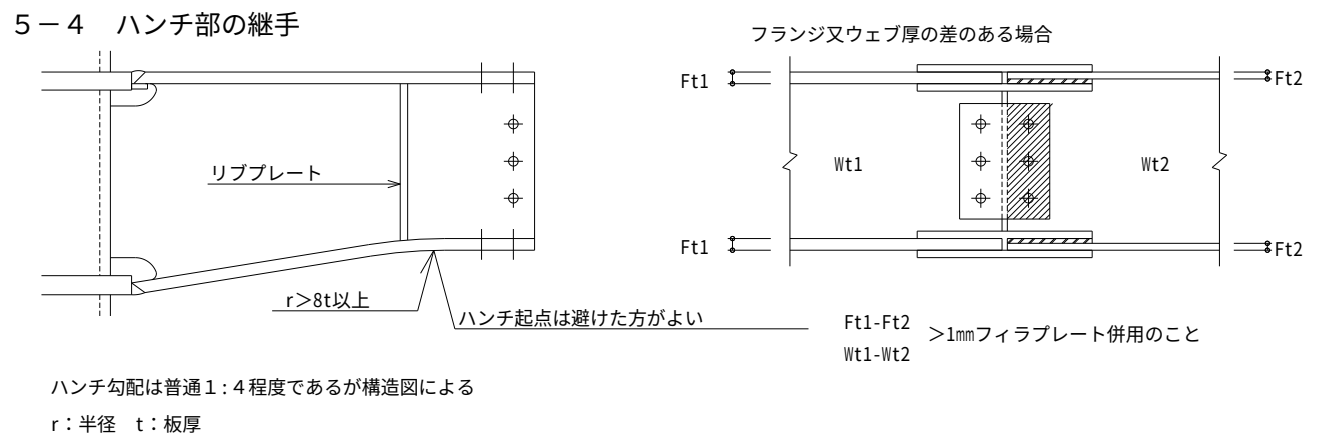


ウェーブ高力ボルト配置 (mm)			
パターン	Cピッチ	列数	Lピッチ
A	Pc=60	1列	—
B	Pc=60	2列以上	PL=60
C	Pc=90	1列	—
D	Pc=90	2列以上	PL=60
E	Pc=120	1列	—
F	Pc=120	2列以上	PL=60

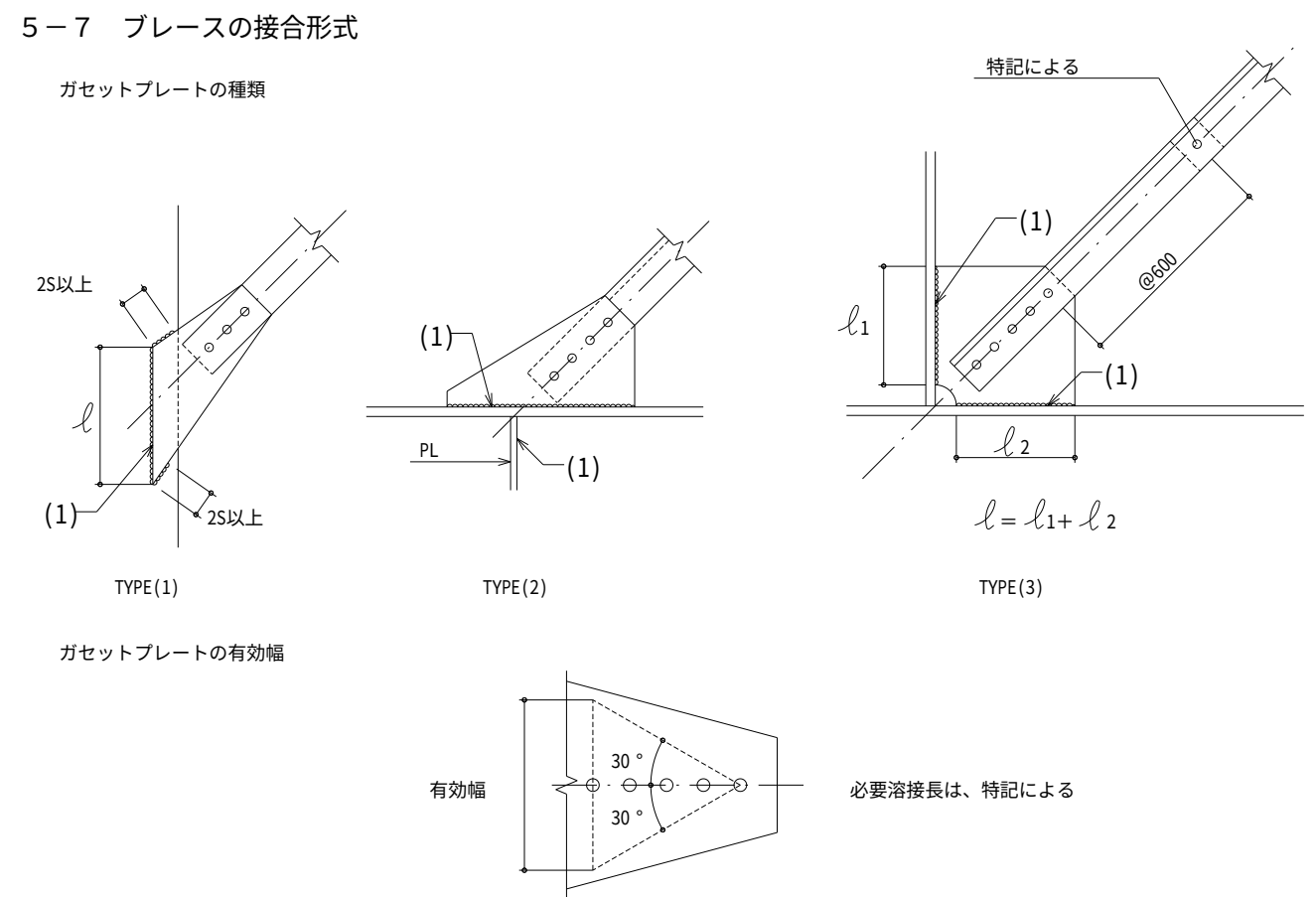
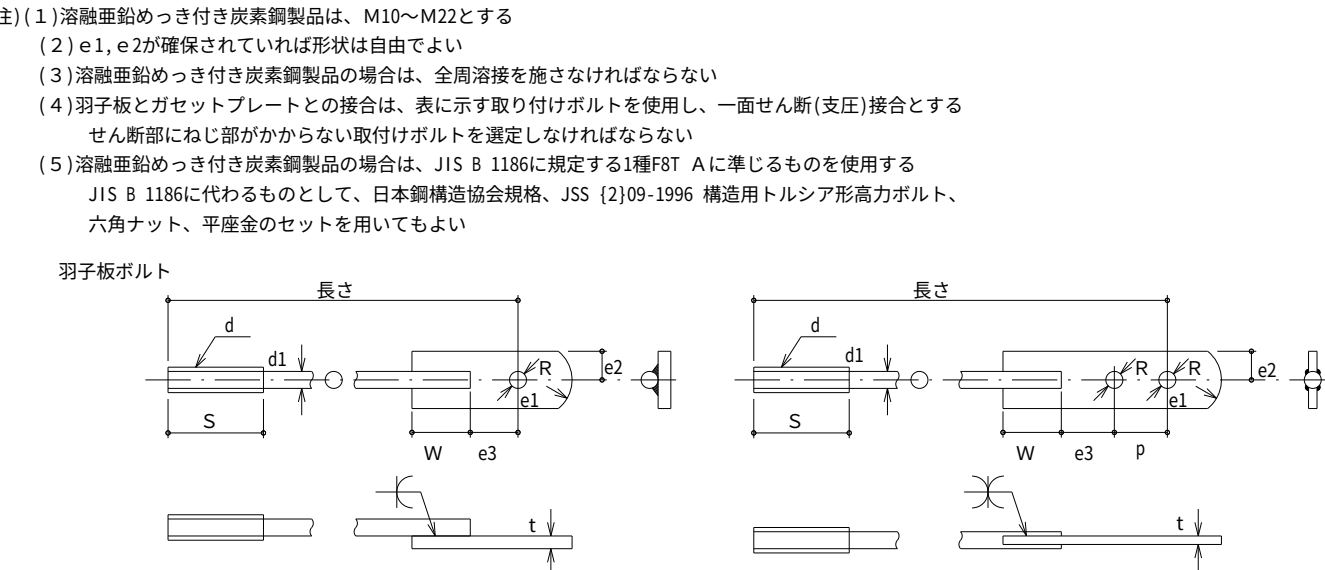
部材長方向のボルトピッチ：PL (Lピッチ)
部材せい方向のボルトピッチ：Pc (Cピッチ)

A・C・Eパターン B・D・Fパターン

・ボルト本数の偶数奇数によらず、ウェブ心から上下均等に振分けとする
・部材せいの小さい場合(部材せい300以下)で、ウェブの第1ボルトとフランジの内側添板との距離が60mm程度確保できない場合は、ウェブとフランジのボルトを半ピッチずらす。
ボルトの配置は、設計図による



5-6 ターンバックルブレース (JIS規格品とする…JIS A 5540・5541)									
羽子板ボルト (mm)									
ねじの呼び (d)	M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24		
軸径d1	最大	10.83	12.66	14.66	16.33	18.33	20.33	22.00	
	最小	10.59	12.41	14.41	16.07	18.07	20.07	21.69	
調整ねじの長さ 許容差 +1.25, -0.8	S	100	115	125	140	150	165	175	
取付ボルト穴径 許容差 0, -0.5	R	17	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5	
穴ピッチ	P							60	
端あき 許容差 +5, 0	e1 (注) (2)	40	40	45	50	50	55	50	
へりあき 許容差 +10, 0	e2 (注) (2)	28	28	28	34	34	38	38	
切板製	板厚 t	6	6	6	9	9	9	9	
平鋼製	へりあき (注) (2) 許容差 +10, 0	e2	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5	
板厚 t	t	6	6	6	9	9	9	9	
ボルト端から取付ボルト 穴のあき(最小)	e3	52	52	59	66	66	73	70	
溶接長さ 許容差 +10, 0	W	40	50	55	60	75	85	85	
(注) (4) 取付ボルト	ねじの呼び	M16	M16	M16	M20	M20	M22	M20	
	本数	1	1	1	1	1	1	2	
	種類	JIS B 1186に規定する2種高力ボルトF10T JIS B 1180に規定する呼び径六角ボルトの機械的性質10.9							



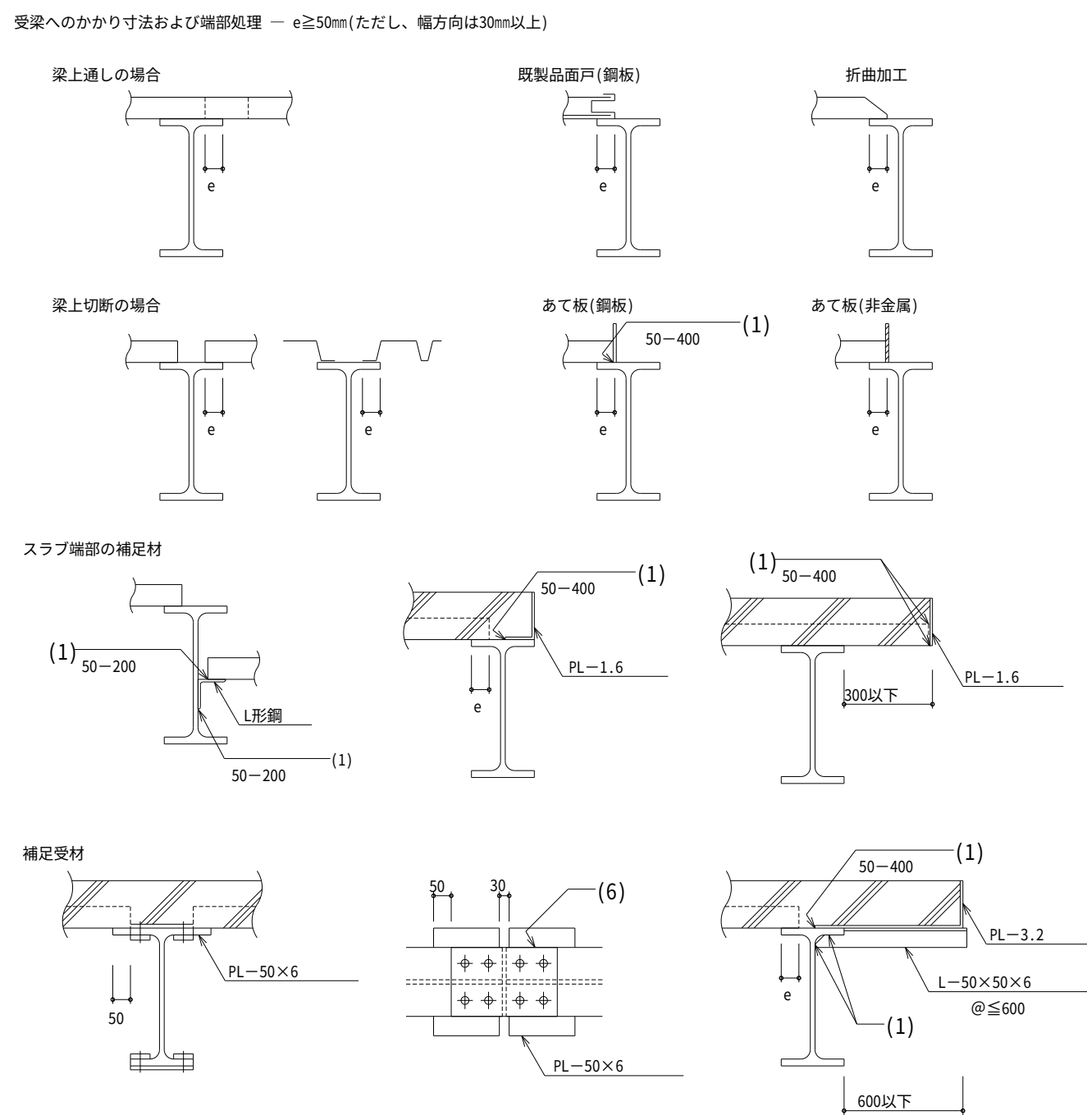
5-8 ALC板取付要領

◎縦型標準構法 : ◎層板標準構法 :
◎横型標準構法 : ◎床標準構法 :

5-9 デッキプレート

アークスポット溶接16φ各溝毎1ヶ所もしくは ◎200とする。
※床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは、構造図及びメーカーの標準仕様書参照

受梁へのかり寸法および端部処理 → e≥50mm (ただし、幅方向は30mm以上)

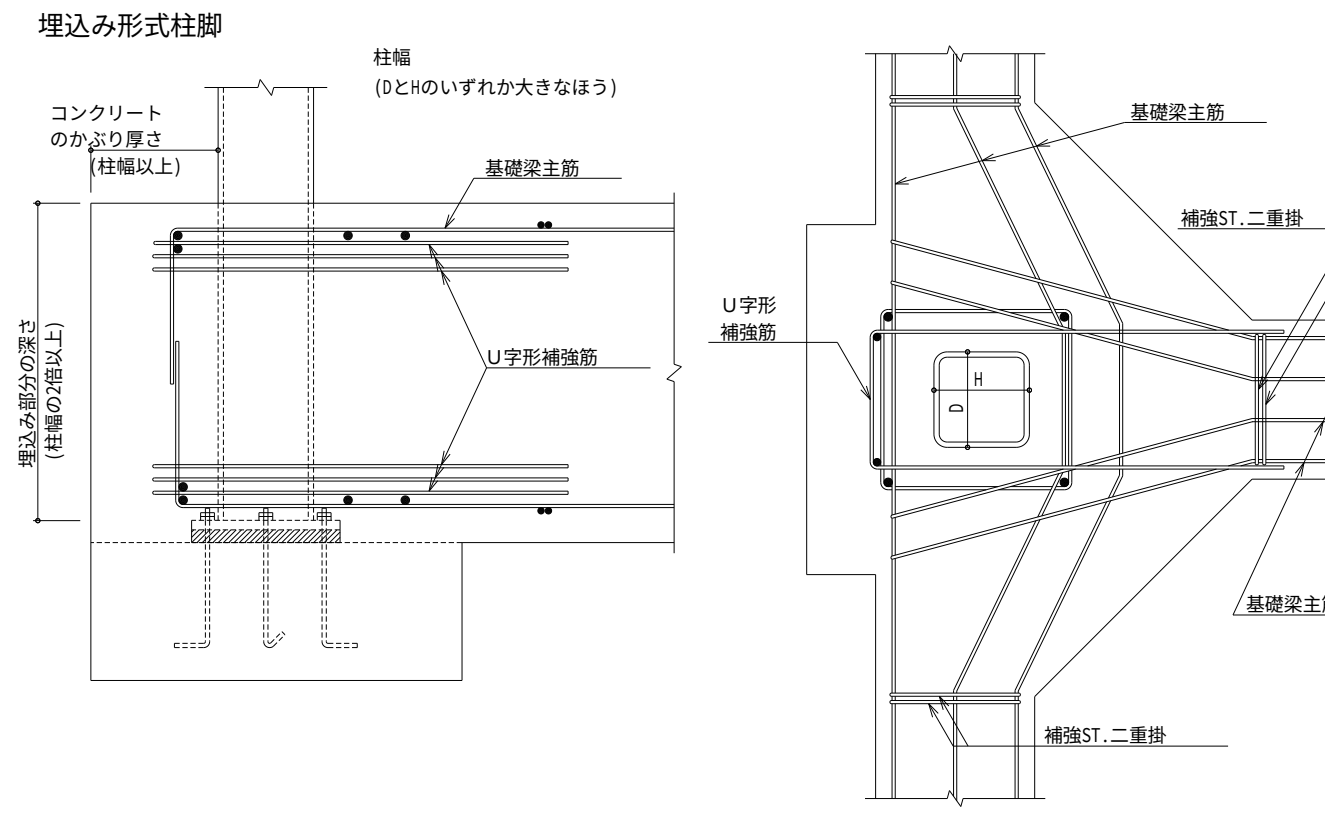
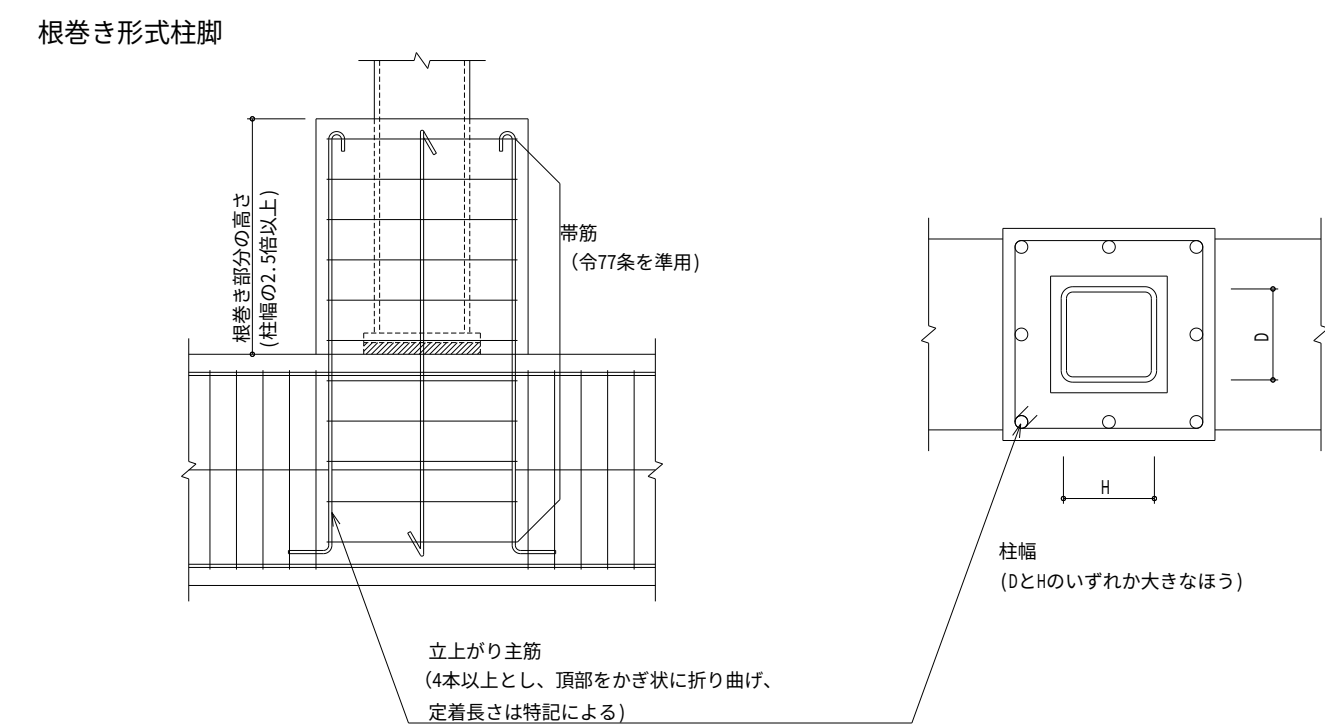
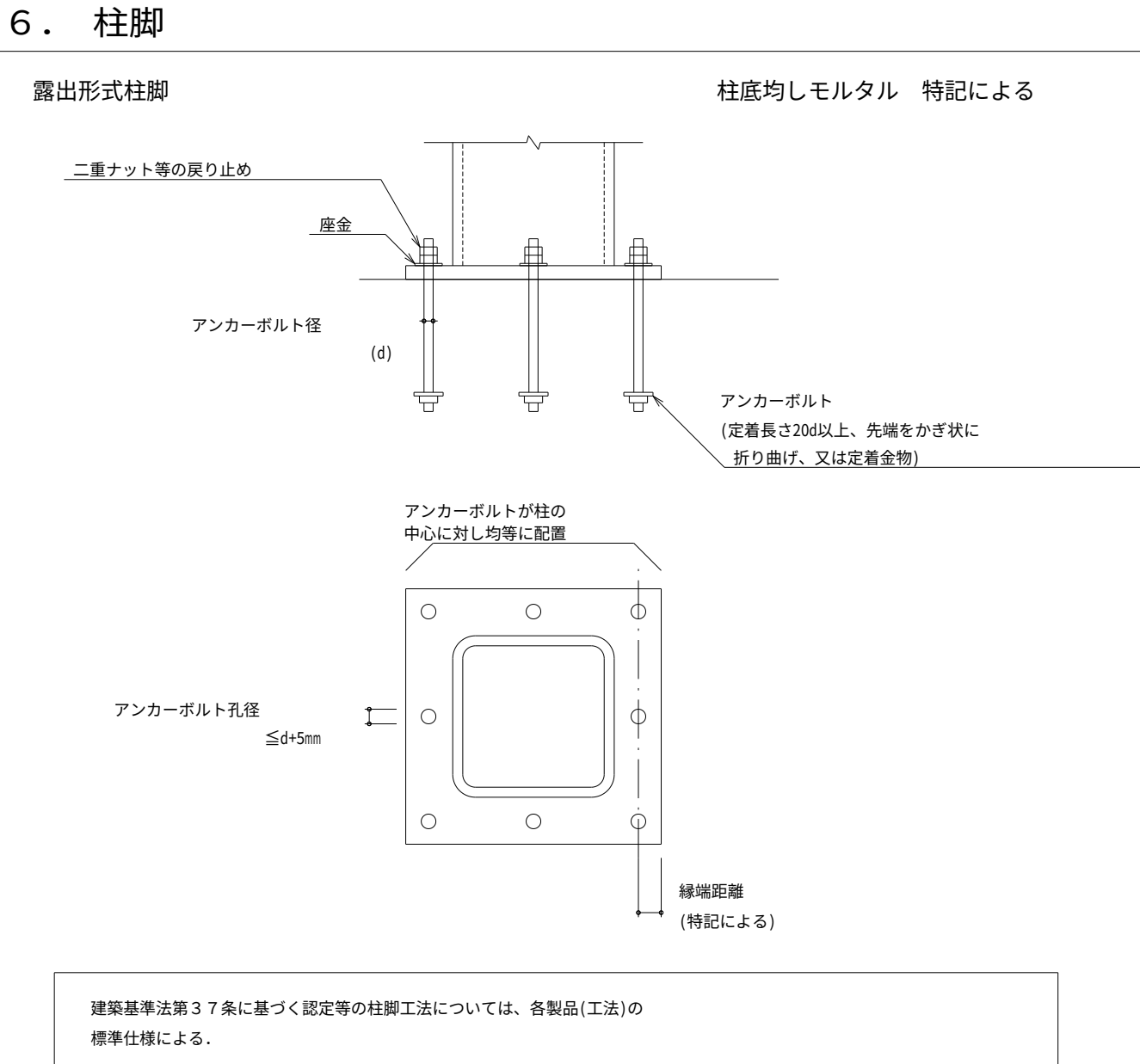
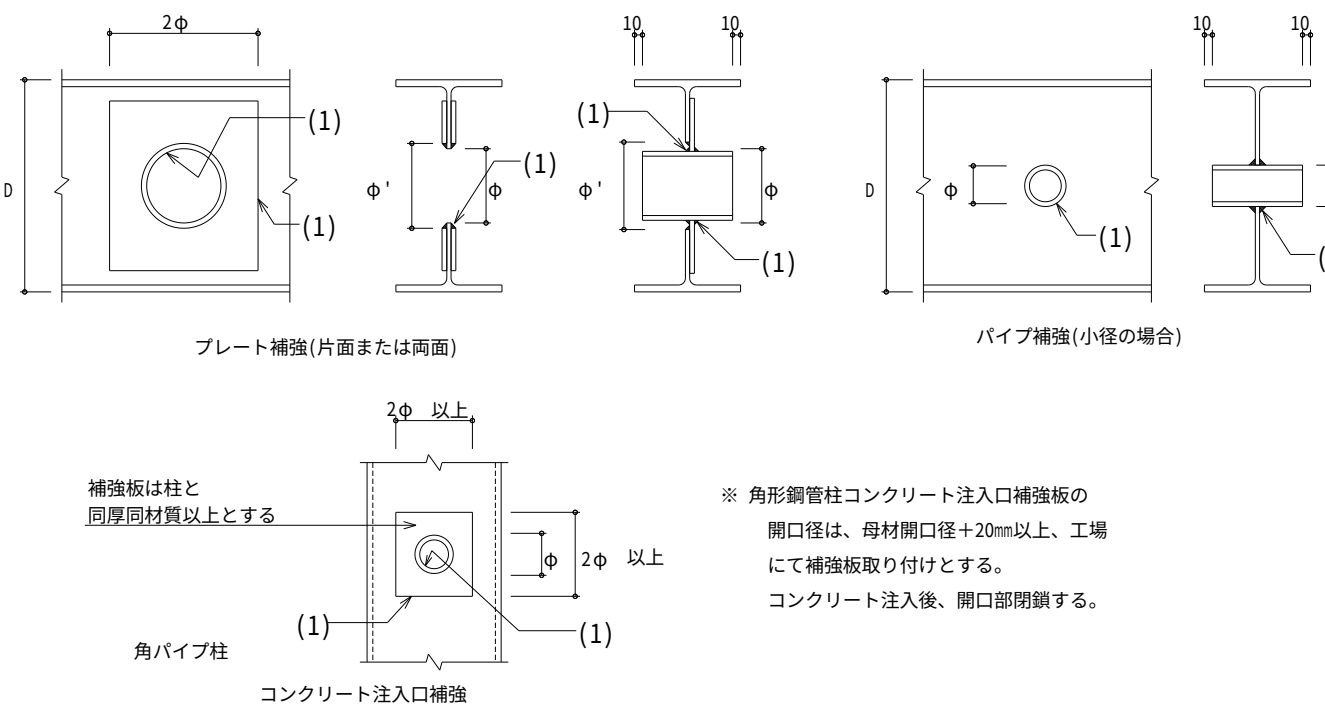


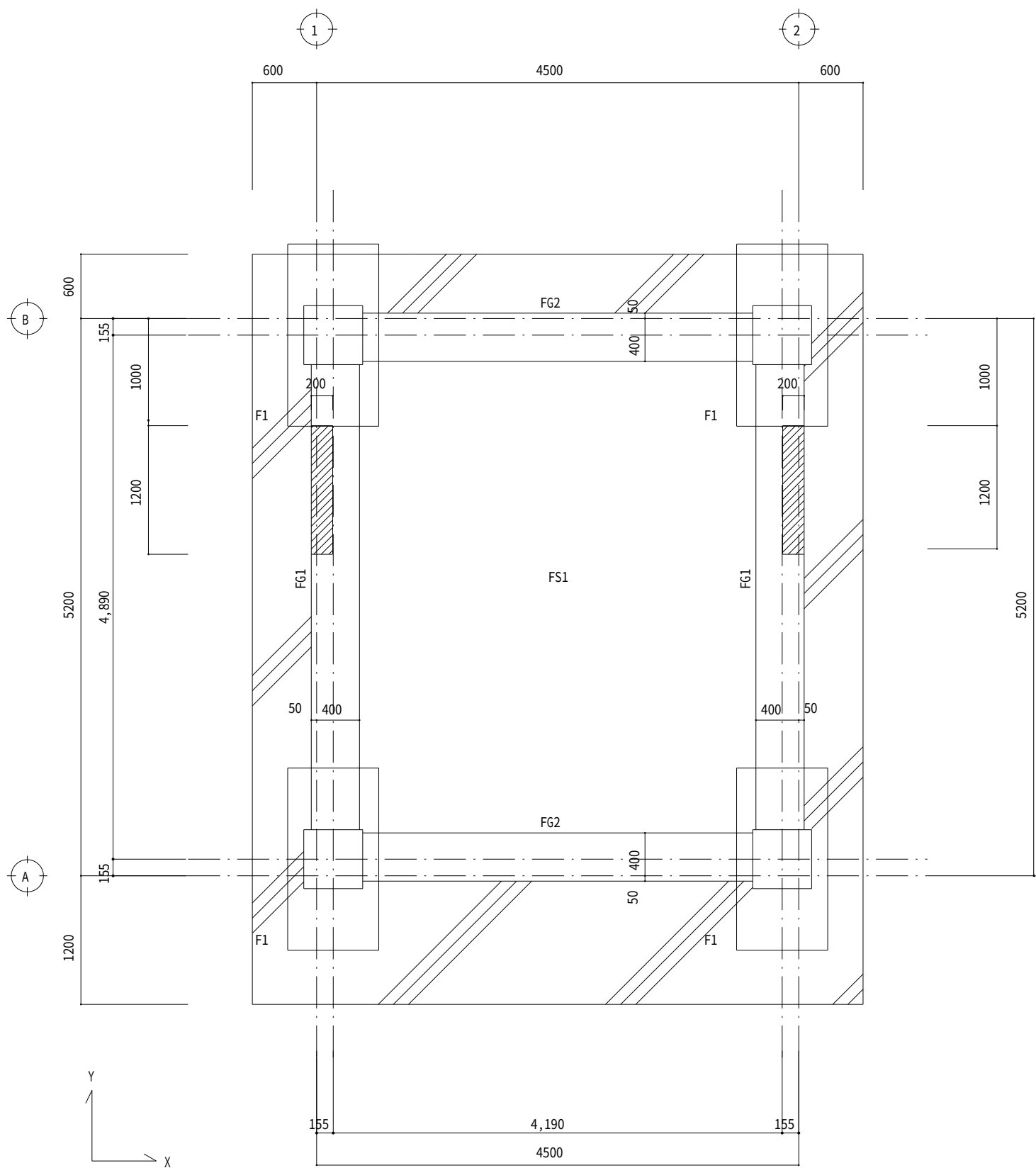
5-10 頭付きスタッド(JIS B 1198)									
スタッド材の標準形状・寸法									
呼び名	軸径 (d)		頭部直径 (D)		頭部厚 (T)		首下の丸み (r)		単位 (mm)
	基準寸法	許容差	基準寸法	許容差	基準寸法	許容差	基準寸法	許容差	
10	10		19		7		1.5		溶接後の長さ (l)
13	13	±0.3	25		8		1.5		
16	16		29	±0.3	8	-0.5	2.5		±1.0
19	19		32		10	±1.0	2.5		
22	22	±0.4	35		10		3.0		80, 100, 130, 150
25	25		41		12		3.0		

※ スタッド溶接は、アークスタッド溶接の直接溶接とし、下向き姿勢で行い、「スタッド溶接工技術検定試験」に合格した有資格者の施工とする。

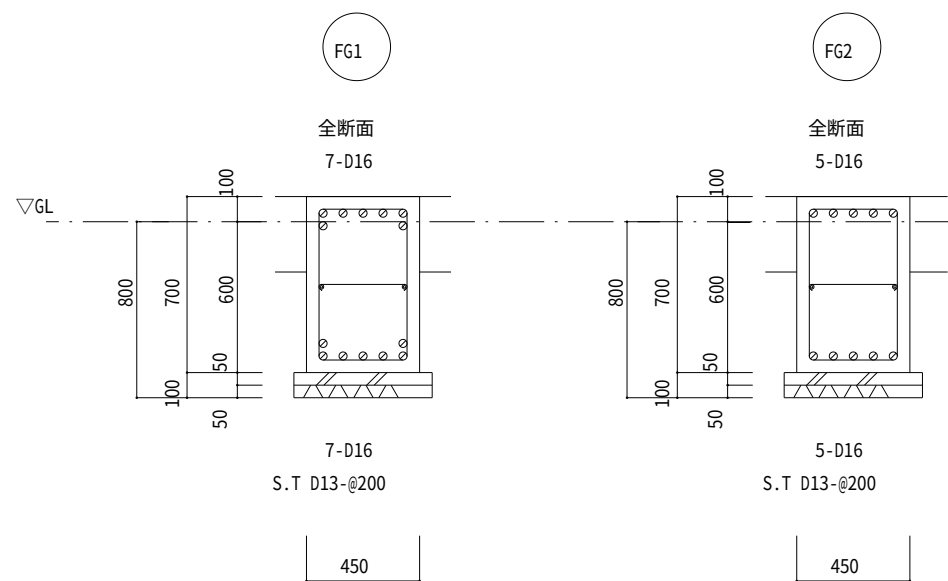
5-11 貫通補強

・計算で確認された場合は図示の位置、寸法及び補強方法によらずよい。
・梁端部(内法スパンの $l/6$ の1/10以内かつ、2D以内)は避ける。
・ $\phi \leq 0.4D$
・ ϕ は補強板の穴径を示す。

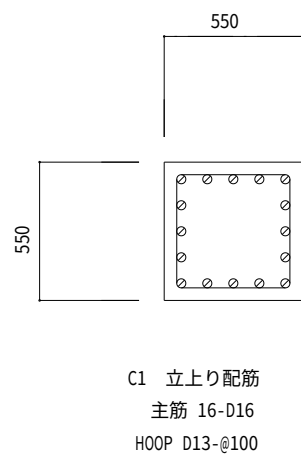




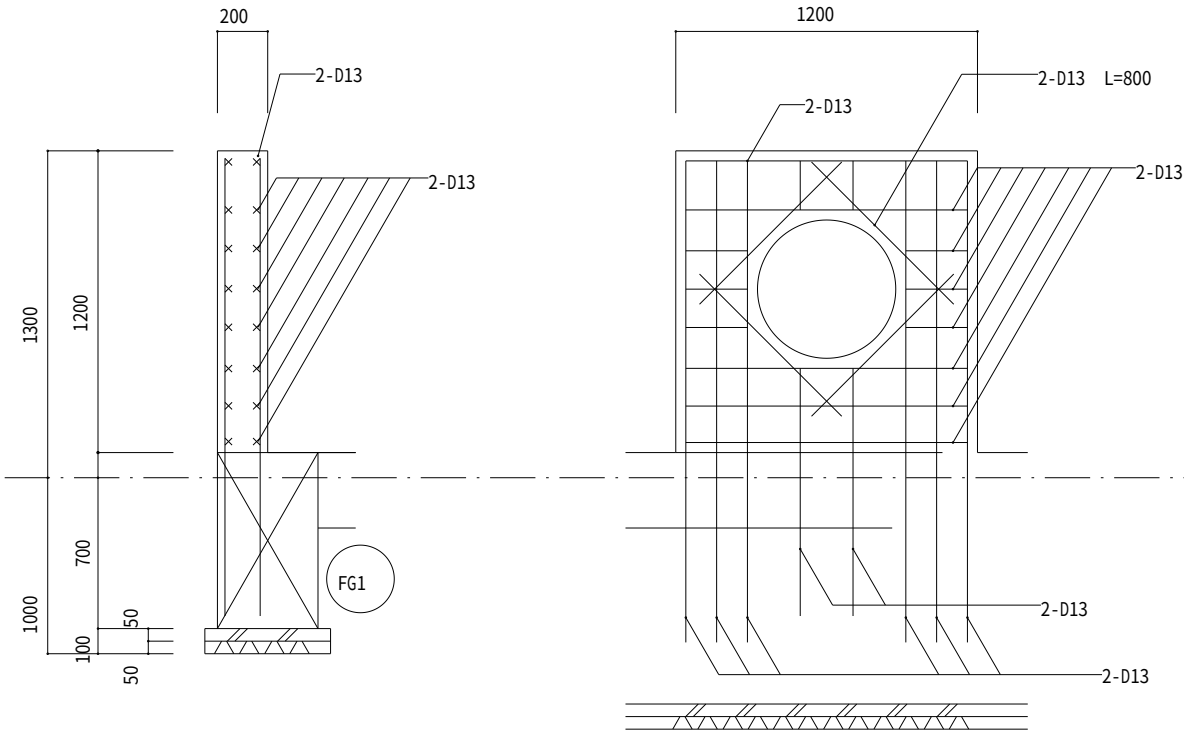
基礎梁伏図 S=1:50



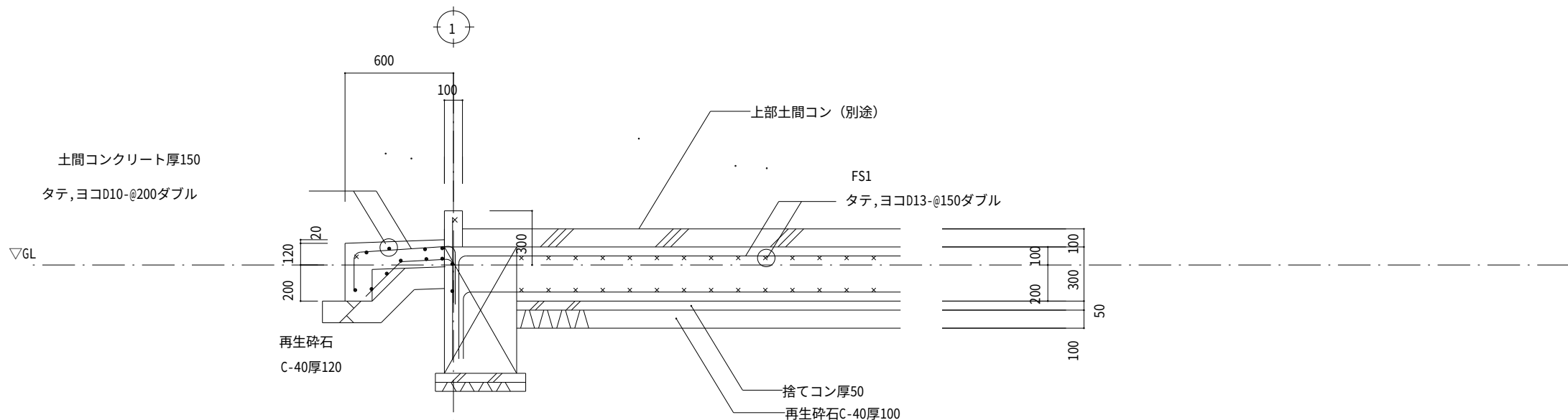
基礎梁配筋図 S=1:30



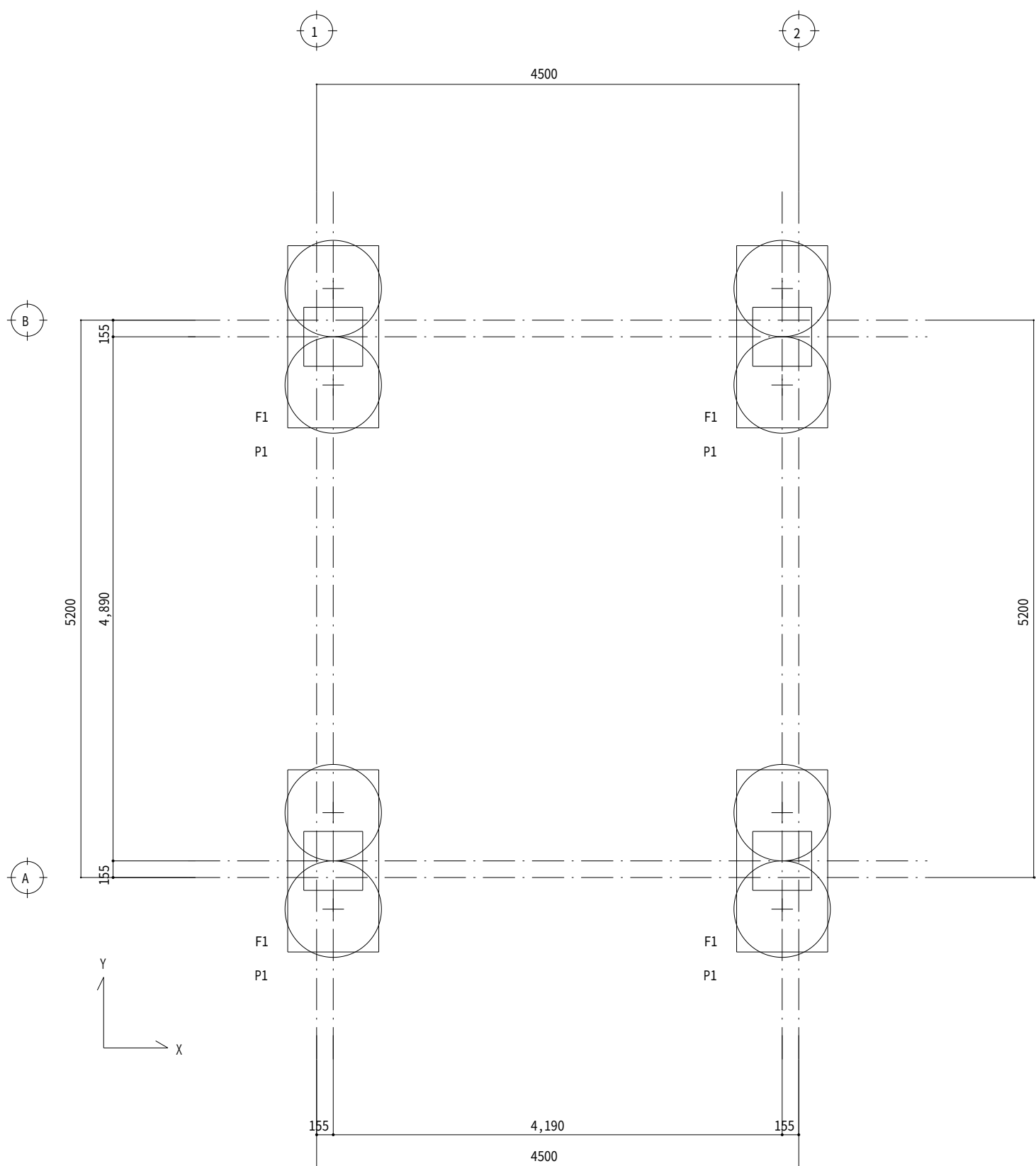
柱型配筋図 S=1:30



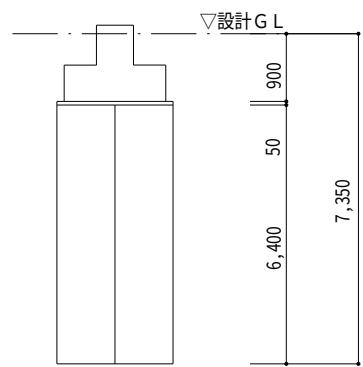
腰壁配筋図 S=1:30



土間配筋図 S=1:30



セメントコラム伏図 S=1:50



設計GL = FH+1.10m = GH+1.00m

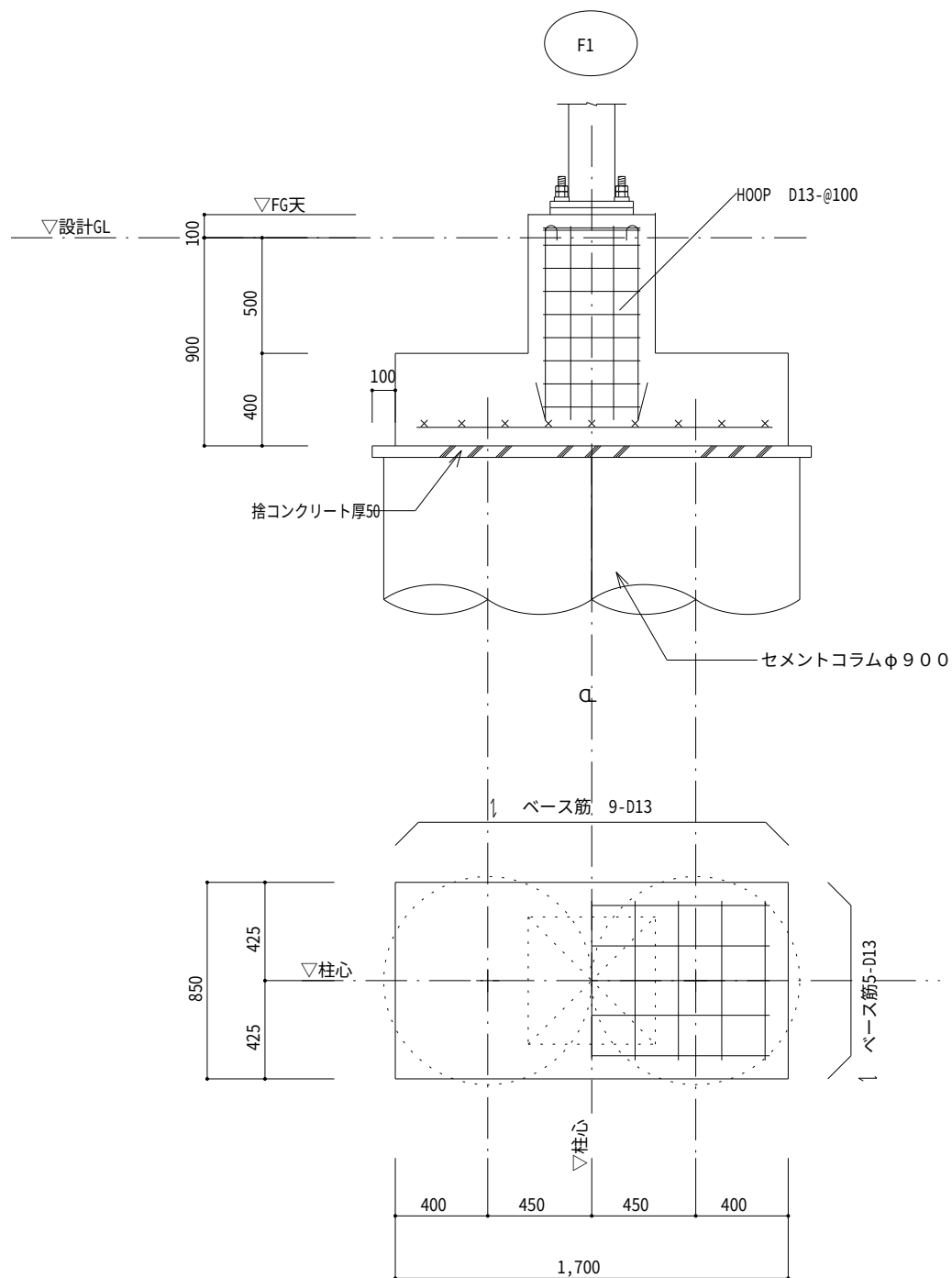
凡例

・深層混合改良工法 (審査証明取得工法)
SSコラム工法同等工法

P1 セメントコラム φ900 L=6,400 計 8本

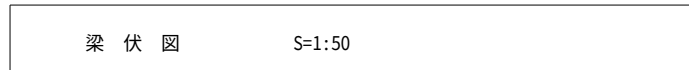
基礎ベース底はGL-900とする

・本工事に先立ち、施工計画書を提出し監督員の承認を得るものとする。
・一軸圧縮試験等の確認は、柱状改良特記仕様書によること
・固化工法強度 300kg/m²以上
・セメント系固化工材は、六価クロム溶出量低減型固化工材とする。
・基礎ベース底にて 長期地耐力 150kN/m²以上
・試験等により支持地盤に傾斜がある場合は、監督員との協議により、セメントコラム長を調整すること。
(ソイルセメントコラム設計基準強度 FC=600KN/m²2DL)

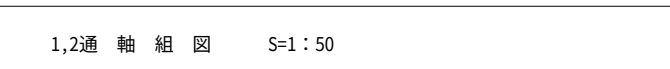
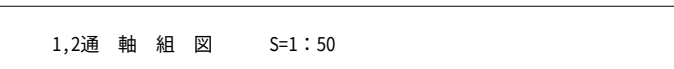
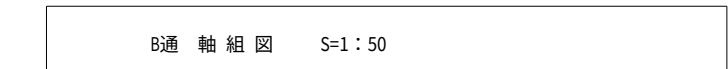


基礎配筋図 S=1:30

工事名	茨城中部農地整備事業		
図面名	沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
作成年月	基礎梁伏図(柱状基礎)		
縮尺	図示	図面番号	41
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

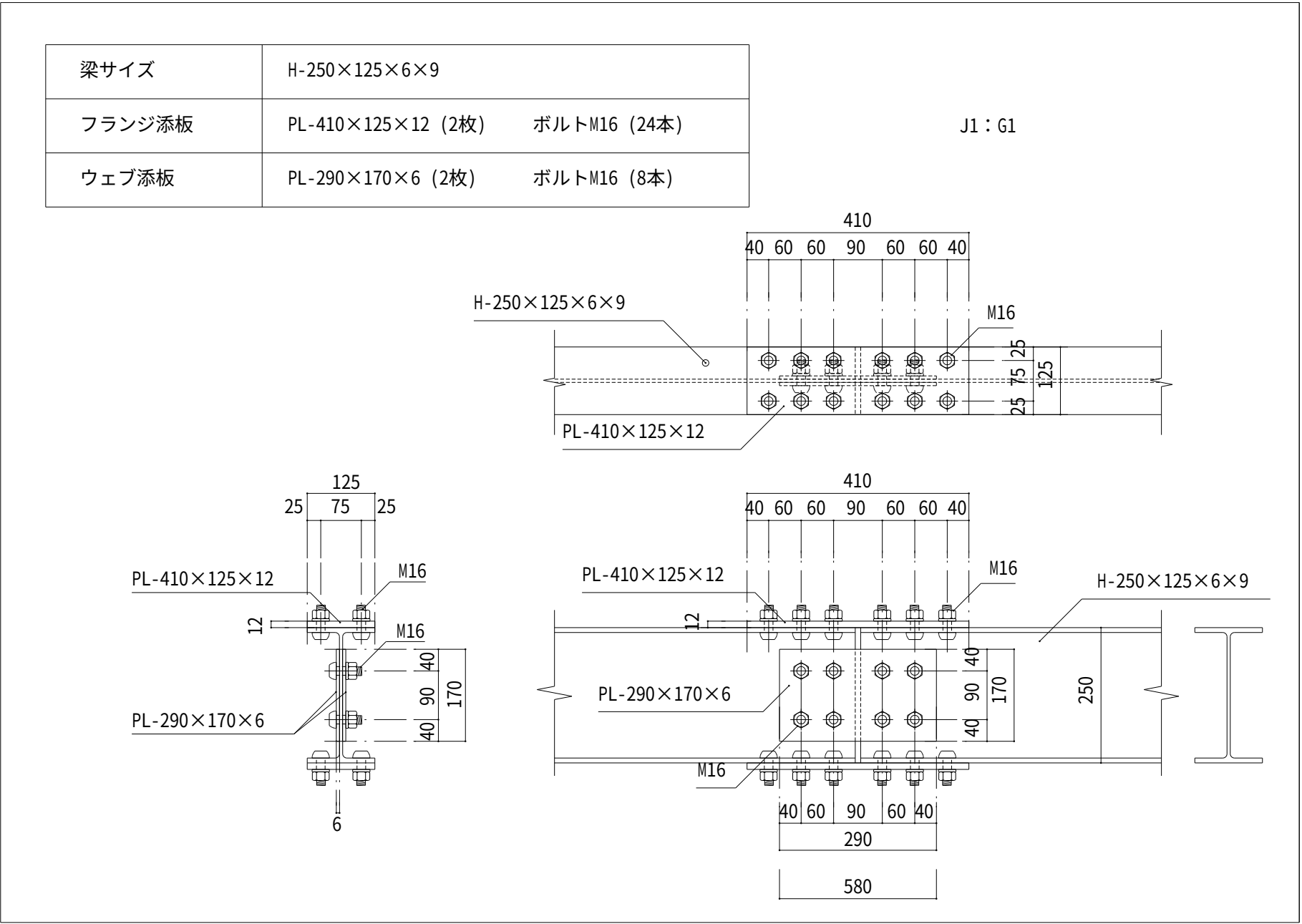


A通 軸 組 圖 S=1:50

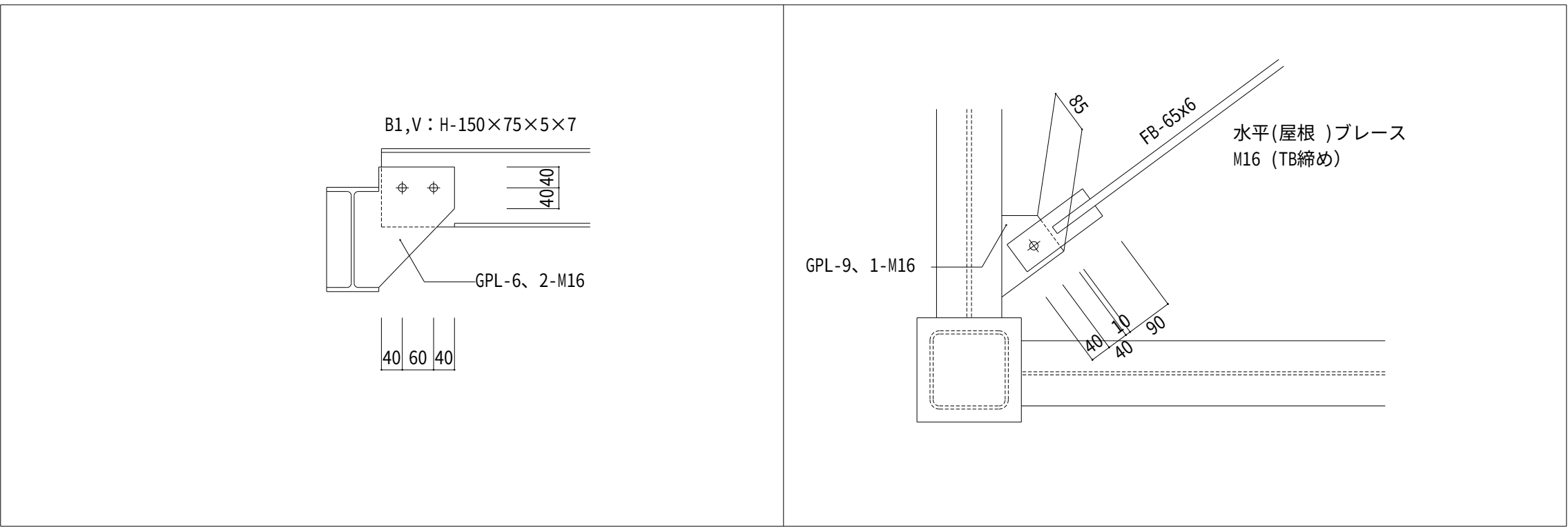


工 事 名	茨城中部農地整備事業		
図 面 名	沼前馬割干拓地地海老沢工区區面整理その１工事		
作成年月			
縮 尺	S=1:50	図面番号	42
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		

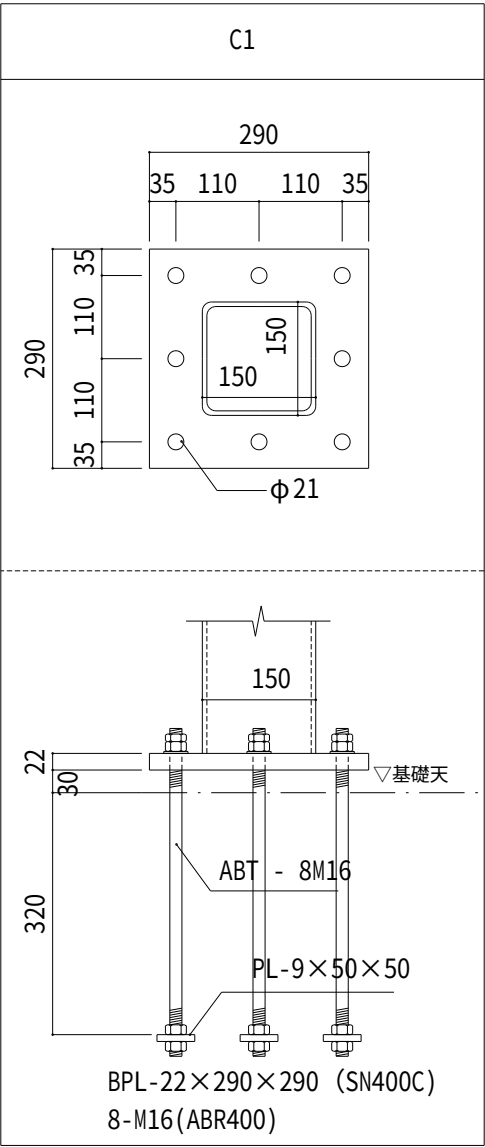
大梁継手リスト S=1:10



小梁継手リスト S=1:10



柱脚リスト S=1:10



■寸法表(特記なき単位はmmとする)

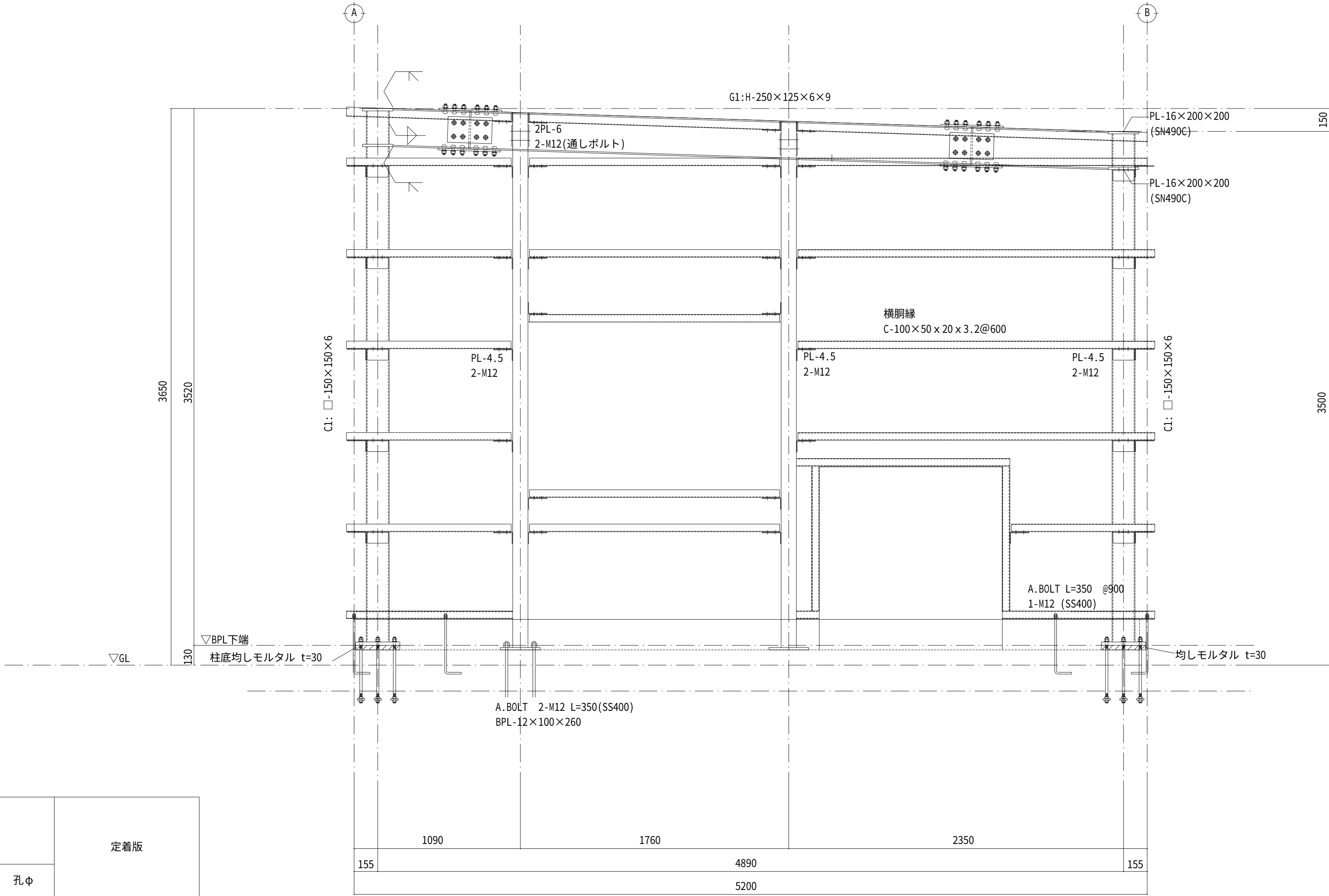
柱記号	最大柱部材サイズ	アンカーボルト			ベースプレート			定着版
		呼径	本数	定着長	幅	厚さ	孔φ	
C1	□- 150 x 150 x 6	16	8	320	290	22	21	PL-9x50x50

■告示第1456号に対する確認

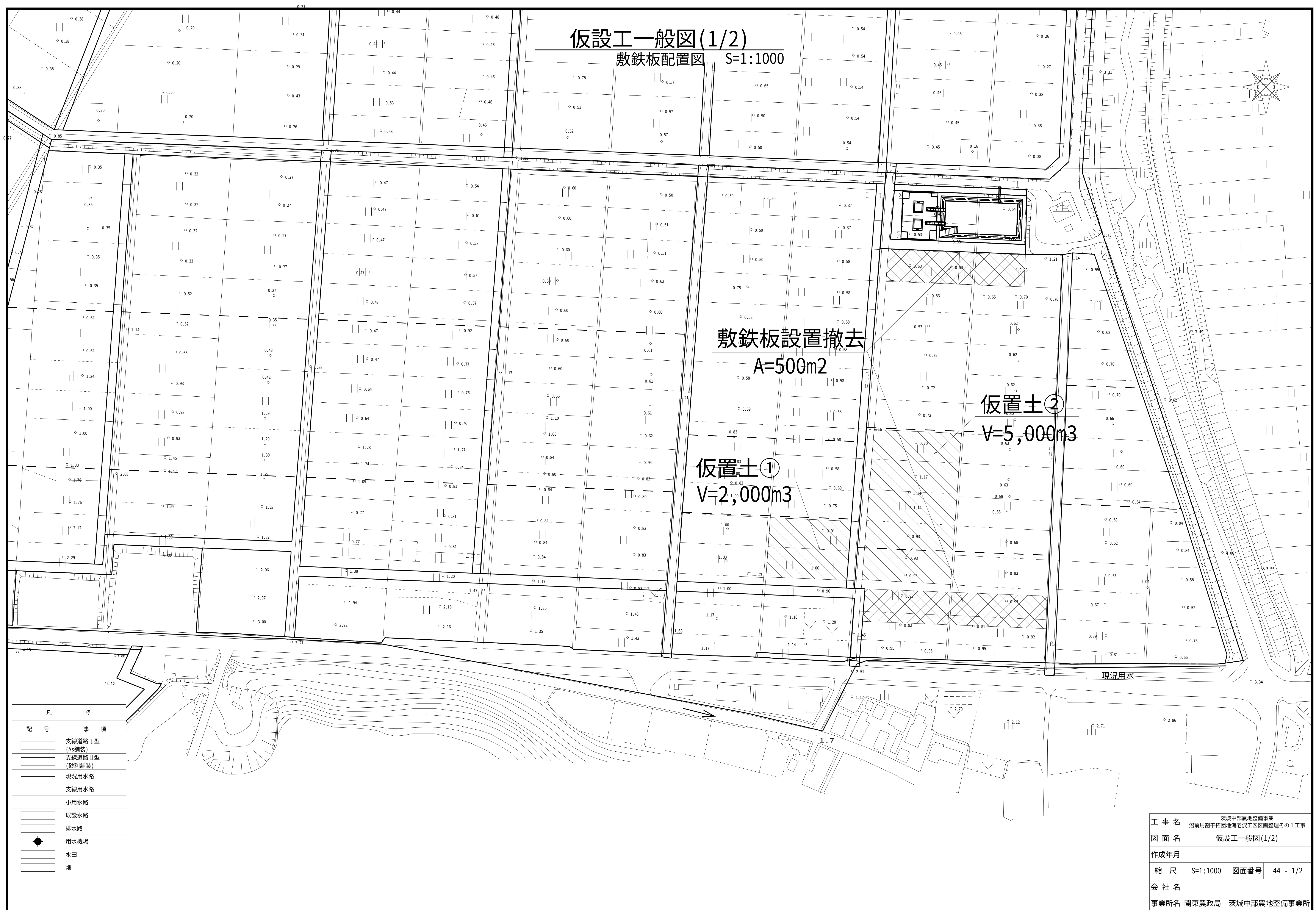
※一号二の確認 柱の最下端の断面積に対するアンカーボルトの全断面積の割合が20%以上であること								※一号ホの確認 鉄骨柱のベースプレートの厚さを アンカーボルトの径の1.2倍以上と したものであること	
柱の断面積 (cm ²)		アンカーボルト断面積 (cm ²)						アンカーボルト 1.3倍	判定
※全断面積	20%断面積	ABR断面積	総断面積	判定	ABM,一般 ※断面積	総断面積	判定		
33.63	6.73	1.567	12.54	OK	1.570	12.56	OK	20.8	OK

- ※一号イの確認 アンカーボルトが、当該柱の中心に対して均等に配置されている事
- ※一号ロの確認 アンカーボルトに座金を用い、ナット部分の溶接、ナットの二重使用その他これと同等以上の効力を有する戻り止めを施したものであること
- ※一号ハの確認 アンカーボルトの基礎に対する定着長さがアンカーボルトの径の20倍以上であり、かつ、その先端をかき状に折曲げるか定着金物を設けたものであること
ただし、アンカーボルトの付着力を考慮してアンカーボルトの抜け出し及びコンクリートの破壊が生じないと確かめられた場合においてはこの限りではない
- ※一号ヘの確認 アンカーボルトの孔の径を当該アンカーボルトの径に5mm加えた数値以下の数値とし、かつ縁端距離を規定の数値以上の数値としたもの

アンカーボルトの径 (単位ミリメートル)	縁端距離 (単位ミリメートル)	
	せん断又は自動ガスせん断線	圧延線、自動ガス切断線、 のこ引き線、又は機械仕上線等
12を超え16以下の場合	2.8	2.2



工事名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図面名	部材、継手リスト・鉄骨構造詳細図		
作成年月			
縮尺	図示	図面番号	43
会社名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		



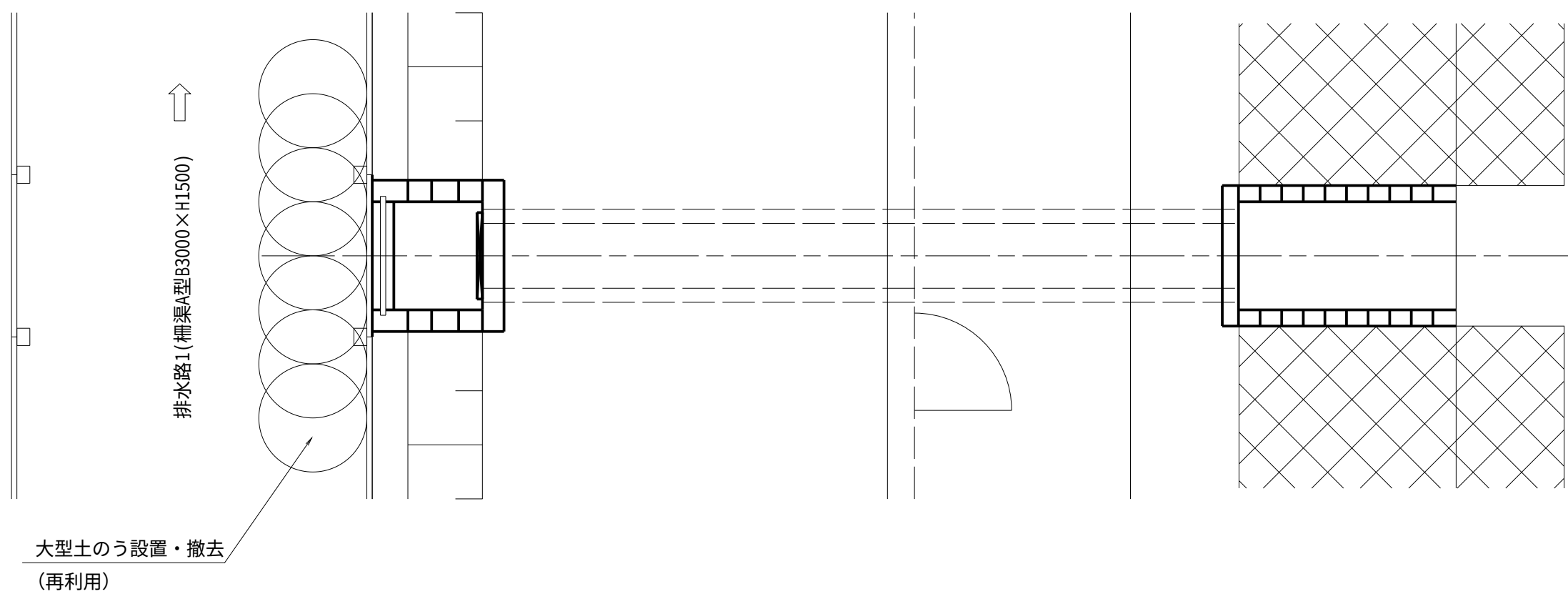
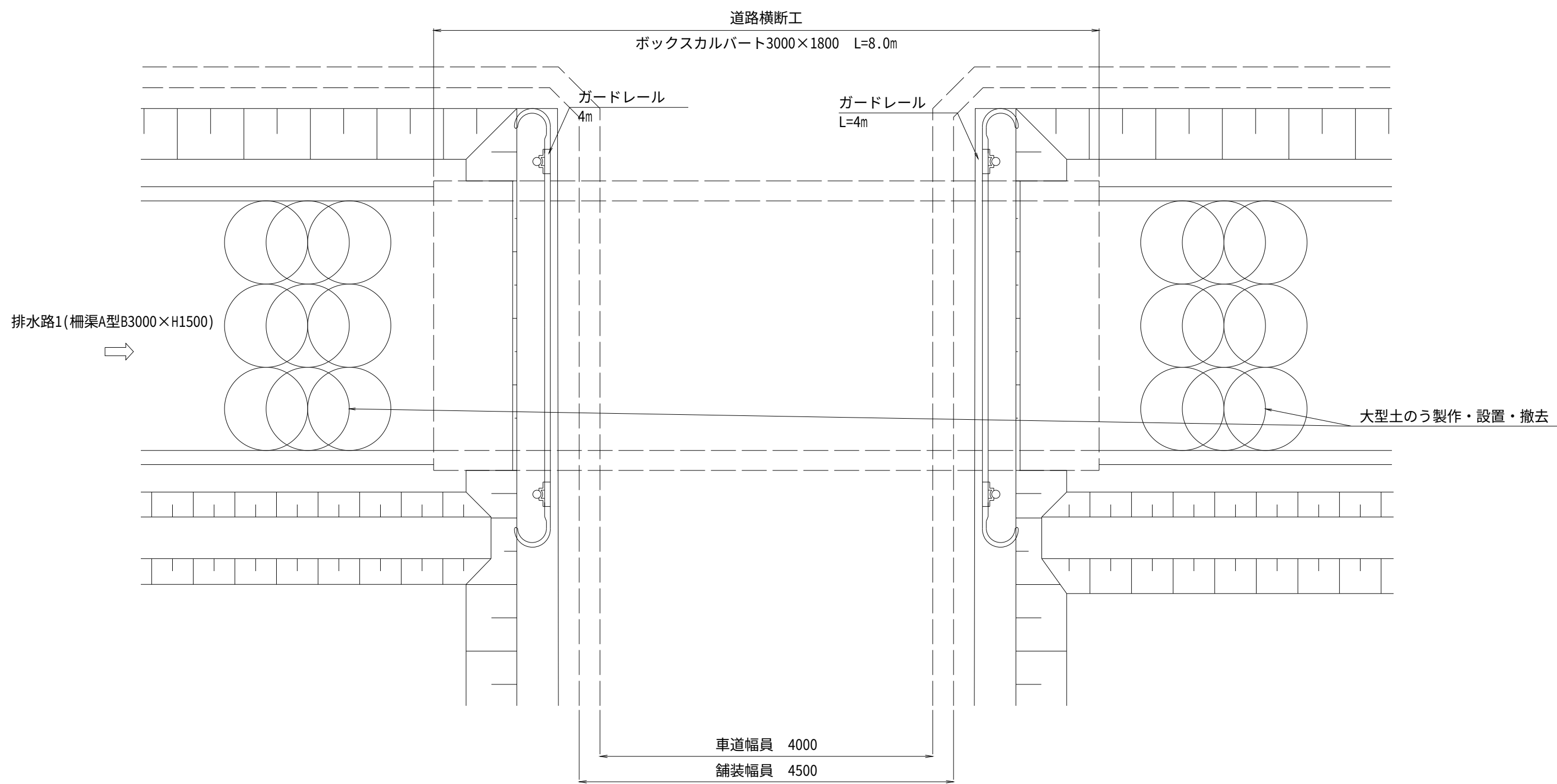
仮設工 一般図(2/2)

仮締切詳細図

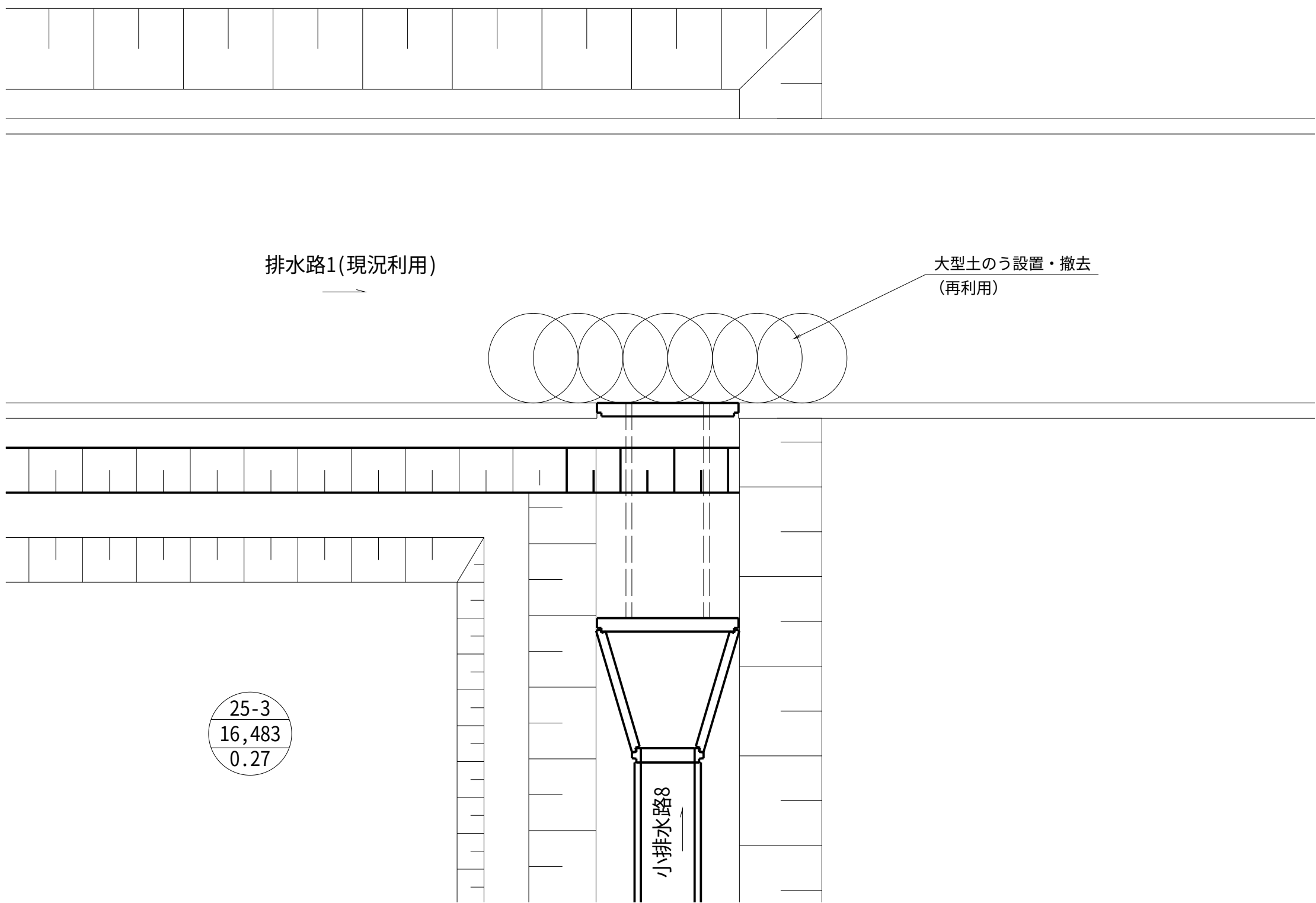
S=1:50

沼前第1調整池分水工・取付水路工

支道14号既設水路横断工



小排8号取付工



工 事 名	茨城中部農地整備事業 沼前馬割干拓団地海老沢工区区画整理その1工事		
図 面 名	仮設工一般図 (2/2)		
作成年月			
縮 尺	S=1:50	図面番号	44 - 2/2
会 社 名			
事業所名	関東農政局 茨城中部農地整備事業所		